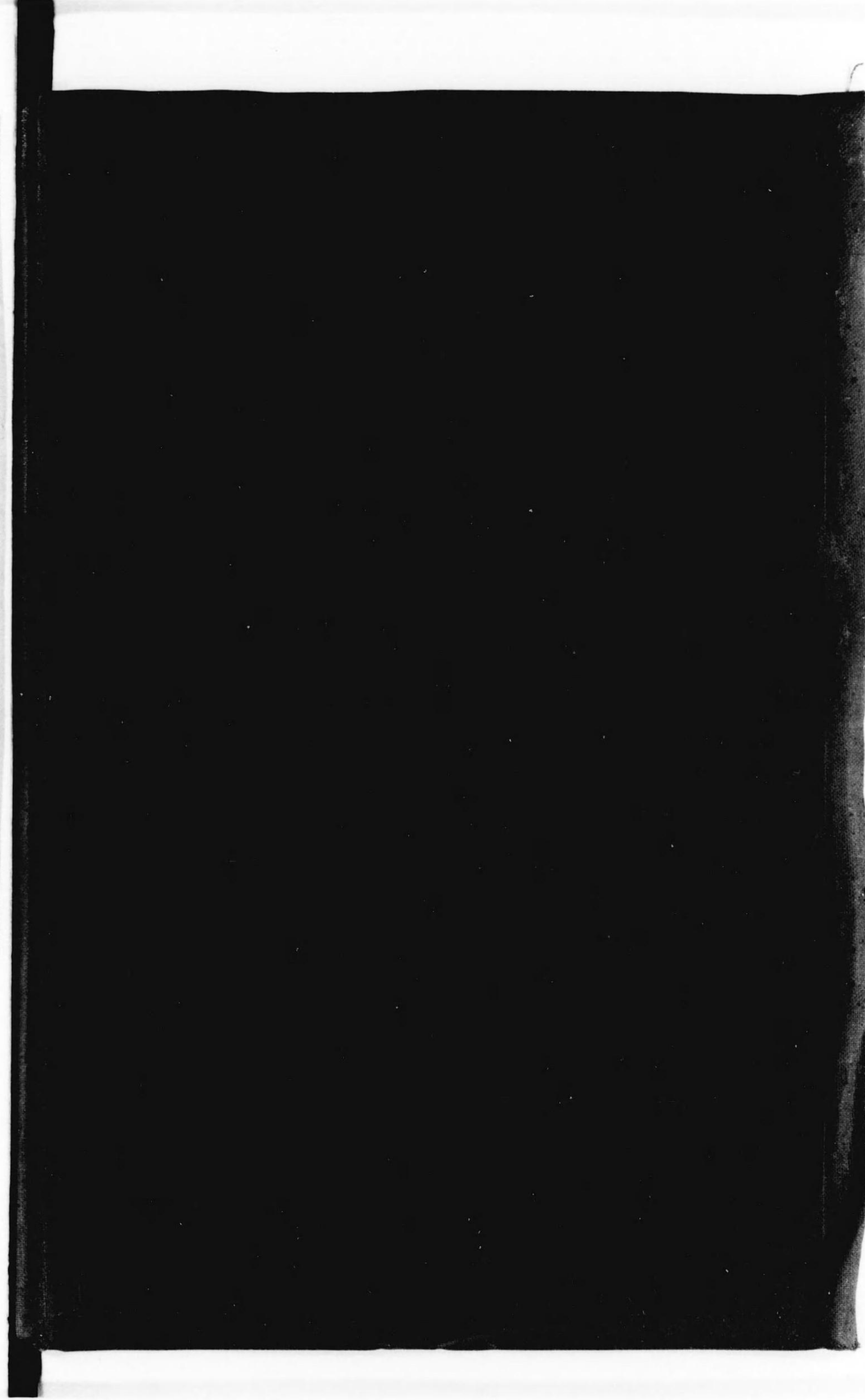
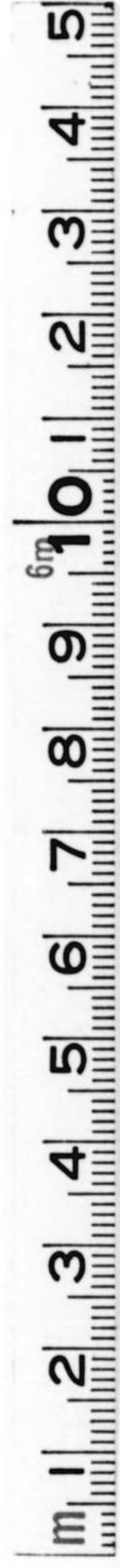




始



特 234  
237



小泉秀夫著

(昭和十五年度)



# 新編 藥用植物學 下卷 目次

序文	1
第二綱 雙子葉植物綱	895
第一亞綱 離瓣花植物亞綱	898
○ 離瓣花植物亞綱ノ24目ノ檢索表	898
第一目 輪生目	902
(I) もくまわら (木麻黃) 科	902
第二目 胡椒目	904
特 徵	904
○ 胡椒目3科ノ檢索表	904
(I) どくだみ (十葉三白草) 科	905
(II) こせう (胡椒) 科	906
(III) ちやらん (金粟蘭草珊瑚) 科	911
第三目 楊柳目	912
(I) やなぎ (楊柳) 科	912
第四目 やまもも (楊梅) 目	914
(I) やまもも (楊梅) 科	915
第五目 くるみ (胡桃) 目	916
(I) くるみ (胡桃) 科	917
第六目 ぶな (楠) 目	921
特 徵	921

(2)

(I) かんば (樟木) 科	922
(II) ぶな (栲) 科	927
第七目 蕁麻目	933
特徴	933
(I) にれ (榆) 科	934
(II) くは (桑) 科	937
(III) いらくさ (蕁麻) 科	948
第八目 白檀 (檀香) 目	952
特徴	952
(I) びやくだん (白檀, 檀香) 科	953
(II) やどりぎ (槲寄生) 科	955
(III) つちとりもち (蛇菰) 科	957
第九目 うまのすいぐさ (馬兜鈴) 目	958
特徴	958
(I) うまのすいぐさ (馬兜鈴) 科	959
第十目 藜目	965
(I) たで (藜) 科	965
第十一目 中心子 (藜) 目	982
特徴	982
(I) あかざ (藜) 科	983
(II) うゆ (莧) 科	988
(III) おしろいばな (紫茉莉) 科	993
(IV) やまごぼう (商陸) 科	994

(3)

(V) つるな (藤杏) 科	997
(VI) すべりひゆ (馬齒莧) 科	999
(VII) せきちく (石竹) 科	1002
第十二目 毛茛目	1008
特徴	1008
(I) ひつじぐさ (睡蓮) 科	1009
(II) やまぐるま (山車雲葉) 科	1014
(III) きんぼうげ (毛茛) 科	1016
(IV) あけび (木通) 科	1042
(V) めざ (目木) 科	1045
(VI) つづらふぢ (防己) 科	1046
(VII) もくれん (木蘭) 科	1063
(VIII) にくづく (肉豆蔻) 科	1072
(IX) くす (樟) 科	1074
第十三目 けし (罌粟) 目	1086
特徴	1086
(I) けし (罌粟) 科	1087
(II) ふうてうさう (白花菜) 科	1109
(III) あぶらな (十字花) 科	1111
第十四目 <sup>ハシマツ</sup> 瓶草目	1129
(I) いしもちさう (萊薺菜) 科	1129
第十五目 薔薇目	1131
特徴	1131

(4)

(I) ベンケいさう (景天) 科	1133
(II) ゆきのした (虎耳) 科	1135
(III) とべら (海桐) 科	1145
(IV) まんさく (金縷梅) 科	1146
(V) ばら (薔薇) 科	1149
(VI) まめ (莢) 科	1195
第十六目 稗半兒目	1252
特徴	1252
(I) ふうろさう (稗半兒) 科	1254
(II) かたばみ (酢漿草) 科	1258
(III) のうせんはるん (金蓮花) 科	1259
(IV) あま (亞麻) 科	1260
(V) こか (古柯) 科	1262
(VI) はまひし (蕨藜) 科	1266
(VII) へんるうだ (芸菘) 科	1268
(VIII) にかき (苧木) 科	1295
(IX) かんらん (橄欖) 科	1299
(X) せんだん (棟) 科	1302
(XI) ひめはぎ (遠志) 科	1305
(XII) たかとうだい (大戟) 科	1309
第十七目 <sup>△クロジ</sup> 無患子目	1328
特徴	1328
(I) つげ (黃楊) 科	1329

(5)

(II) がんかうらん (岩西蘭) 科	1330
(III) どくうつぎ (毒空木) 科	1331
(IV) うろし (漆) 科	1334
(V) そよご (冬青) 科	1343
(VI) にしきぎ (衛矛) 科	1347
(VII) かへで (槭樹) 科	1351
(VIII) とちのき (七葉樹) 科	1354
(IX) むくろじ (無患子) 科	1356
(X) ほうせんくわ (鳳仙花) 科	1360
第十八目 <sup>クワノエドキ</sup> 鼠李目	1362
特徴	1362
(I) くわうめもどき (鼠李) 科	1362
(II) ぶだう (葡萄) 科	1370
第十九目 <sup>ゼニアフィ</sup> 錦葵目	1376
特徴	1376
(I) しなのさ (田麻) 科	1377
(II) ぜにあみひ (錦葵) 科	1380
(III) きわた <sup>パンダ</sup> (木綿) 科	1391
(IV) あまざり (梧桐) 科	1393
第二十目 側膜胎座目	1397
特徴	1397
(I) さおなし (彌猴桃) 科	1399
(II) つばき (山茶) 科	1402

④	おとぎりさう (弟切草, <sup>ビヨウヤナギ</sup> 金絲桃) 科	1408
⑤	ふたばがさ (龍腦香) 科	1416
⑥	ぎよりう (檉柳) 科	1418
⑦	ベトノキ (紅木) 科	1419
⑧	すみれ (重々菜) 科	1420
⑨	いざり (椅) 科	1423
⑩	きぶし (族節花) 科	1426
⑪	はんくわじゆ (蕃瓜樹, <sup>チキウリノキ (パパイ)</sup> ) 科	1426
⑫	しうかいだう (秋海棠) 科	1429
第廿一目 仙人掌目		1430
(I)	さぼてん (仙人掌) 科	1430
第廿二目 桃金娘目		1433
特徴		1433
(I)	ぢんぢやうげ (瑞香) 科	1435
(II)	ぐみ (胡頹子) 科	1440
(III)	みそはぎ (千屈菜) 科	1442
(IV)	ざくろ (石榴) 科	1445
(V)	さかりばな (玉藻) 科	1448
(VI)	ひるぎ (蛭木) 科	1450
(VII)	しくんし (使君子) 科	1452
(VIII)	てんにんくわ (桃金娘) 科	1454
(IX)	ひし (菱) 科	1462
(X)	あかはな (柳葉菜) 科	1464

第廿三目 繖形花目		1465
特徴		1465
(I)	うこぎ (五加) 科	1466
(II)	せり (芹) 科	1478
(III)	みづさ (水木) 科	1510
第二亜綱 合瓣花植物亜綱		1513
特徴		1513
第一目 <sup>マクナゲ</sup> 石南目		1515
特徴		1515
(I)	りやうぶ (令生) 科	1516
(II)	いちやくさう (鹿蹄草) 科	1516
(III)	しゃくなげ (石南) 科	1519
第二目 櫻草目		1533
特徴		1533
(I)	やぶかうじ (紫金牛) 科	1534
(II)	さくらさう (櫻草) 科	1537
第三目 磯松目		1540
特徴		1540
(I)	いそまつ (磯松) 科	1540
第四目 柿樹目		1542
特徴		1542
(I)	あかてつ (赤鉄) 科	1543
(II)	かきのき (柿樹) 科	1545

(III) はひのき (灰木) 科	1549
(IV) 安ごのき (安息香) 科	1551
第五目 回旋花目	1556
特徴	1556
(I) もくせい (木犀) 科	1557
(II) ふぢうつぎ (馬錢) 科	1569
(III) りんだう (龍膽) 科	1576
(IV) けふちくたう (夾竹桃) 科	1585
(V) ががいも (鼈甲) 科, だうめた (白前) 科	1594
第六目 筒花 (管花) 目	1600
特徴	1600
(I) ひるがほ (旋花) 科	1602
(II) ぶらさき (紫草) 科	1611
(III) くまつづら (馬鞭草) 科	1616
(IV) しそ (紫蘇) 科又 ちどりこさう科	1622
(V) なす (茄) 科	1655
(VI) こまのはぐさ (玄参) 科	1679
(VII) のうぜん-みづら (紫葳) 科	1696
(VIII) ぶま (胡麻) 科	1700
(IX) はまうっぱ (列當科) 科	1702
(X) いはたばこ (苦苣苔) 科	1705
(XI) きつねのみご (唇形) 科	1706
(XII) はへどくさう (蝎毒草) 科	1709

第八目 車前目	1710
特徴	1710
(I) おほばこ科	1710
第九目 茜草目	1714
特徴	1714
(I) あかぬ (茜草) 科	1714
(II) すひかづら (忍冬) 科	1744
(III) おみなへし (敗醬) 科	1750
第十目 葫蘆 (瓜) 目	1756
(I) うり (瓜) 科	1756
第十一目 鐘花目	1773
特徴	1773
(I) ききやう (桔梗) 科	1773
(II) さく (芍) 科	1784



①薬用植物学が薬学ニ関スル方面多クアリト虽モ就中薬用植物即藥物原料ノ採集、採集、鑑定、分類、分布ノ研究及調査、生薬ノ分類、鑑定、試用等其主眼ナルモノナリガ、其他薬用植物ノ薬効及薬理、成分研究等ニ対シテ研究ノ外諸専門家ノ研究ヲ絶ヘズ収録スベキモノデアル。

②明治以来薬学各分科ノ進歩發達ハ誠ニ目覚シク夫々各分科ニ対シテ多クノ良書アリテ日進月歩ノ薬学ノ進運ニ遅レルコトナキヲ信スレドモ、独リ薬用植物学ノ分科ニ於テハ明治、大正以来殆進歩セザル許リカ旧套ヲ固守シテ脱スルコト能ハザルハ遺憾至極ト言フベク、此事實ハ正ニ聖代ノ恨事デナカラウカ。

③此故ニ薬用植物ノ研究ハ不振不徹底トナリ、種類鑑別上能難ニ同スル憚ミヲ生ジ、或ハ研究材料ノ分布不明、蒐集不便、不能トナリ、或ハ暗中摸索、徒勞ニ帰シ、或ハ類似生薬ノ混同、誤認ヨリ重大結果ヲ来シ、或ハ不當誤認ノ発表トナリ後人ヲ迷ハシメ、其波及スル所學界ヲ混乱シ、或ハ不慮ノ妨害トナルハ誠ニ寒心ニ堪ヘナイ、或ハ強テ東洋人ニ有効適切ナル和漢生薬ノ研究ヲ放棄シ、或ハ無関心ナル等ハ皆薬用植物学ガ幼稚テ嚴然タル存在ヲ示サズ且ツ研究不振ヲ根本改善ニ志ス篤志家ノ少イノニ基因スルモノデナカラウカ。

④和漢洋生薬ハ採集上、販賣上、使用上ニ於テ古來不絶ト混



雜アリテ是ハ嚴ニ戒慎ヲ要スルハ勿論ナルガ、研究上ニ於テモ純雜ニ関スル機ミハ藥学界ニ屢々傳フル所デアアル、長金ク藥用植物分類学ノ進歩セザルニ因ルモノデ、朝比奈博士ガ深ク地表分類学ニ突進シ自ラ此難關ヲ突破開拓セラレツツアル如キ或ハ緒方正資氏ガ羊齒類研究ニ精進セラレツツアル如キハ共ニ植物学界ニモ稀ナル事實デアアル、之ハ元ヨリ日本植物分類学不備ノ結果ナルト同時ニ此一面ヲ證スルモノデアアル、希クハ植物学ト共同ニ依リ或ハ相互援助ニ依リ單ニ地表類ニ止ラズ各部門ニ藥用植物学的研究者ノ輩出ヲ見ルノ盛況ヲ希望シ念願シテ止マナイ。

⑤ 吾人ハ藥学ノ各部門各方面ニ對シ藥用植物分類学的知識ガ如何ニ基礎的重要性ヲ有スルカヲ深ク痛感スルモノナルガ、憾クハ藥学者ハ植物学ニ精通スル人少ク、植物学者ハ藥学ニ精通シテ居ラス、此結果ハ進歩セシ現代ニ即セル藥用植物学書ノ出版ヲ見ナイ理由デアアルマイカ、從ツテ上述ノ不便不都合ヲ惹起スル所以デアラウ、此事實ハ藥学教育上並研究上至大ノ缺陷ト稱スルモ不当ノ見解デハアルマイ。抑モ現代ニ即セル最良ノ藥用植物学書ノ著述ニハ現代ノ進歩セル植物学及藥学並ニ医学ニ精通スルヲ要スベキモ此理想ハ言フベクシテ行ハレ難ク或ハ不可能事ナルヤモ知レヌ、何トナレバ學問介業ノ高度化セル現世ニ於テ此三大学科ニ精通スルハ殆不可能デアアルカラデアアル、サレバニヤ明治中期ニ下山博士ノ「藥用植物学」ノ名著アリテ以去年ヲ閱スルコト五十餘

年爾來多少ノ増訂アリシモ未ダニ現代藥学ノ他分科ノ良書ノ饒多ナルニ比直シテ眞ニ遜色ナキ藥用植物学ノ良書ノ出版ヲ見ナイ。昭和ノ今日世間並識者ハ勿論各藥学専門学校ハ凡テ本分科良書ノ出版ヲ切望スレドモ未ダ此懇望ヲ充ス良書ノ出版ナキハ誠ニ藥学界ノ一大缺陷ト云フベキデアラウ。

⑥ 由來藥用植物学ハ國家試験学科タルニ係ラズ未ダ一回ダモ國家試験ヲ課セザル理由ハ其課スル必要ナキニ非ルハ言フ迄モナイ、ソレハ今以テ現代ニ即セル良教科書ノ皆無ナルハ重大理由ノ一タルベク、尙本学科ヲ試験シ得ル便宜無キニ由ルモノデアラウ、即此事情ハ前述ノ消息ニ依テ知ルコトが出来ヤウ。故ニ此問題ハ完全ナル藥用植物学教科書ノ出現ト藥用植物学ノ大家ノ簇出ニ依テ自ラ解決セラル、ハ自明ノ理デ吾人ハ是ヲ待望シテ止マヌモノデアアル。

⑦ 此憂フベキ現況ヲ此處ニ推移センカ藥学ノ基礎学科タル本草学即現代ノ藥用植物学ハ体系モ内容モ整備充實スルノ機無ク糊塗彌縫ヲ幸トシ有耶無耶ノ中ニ餘喘ヲ保ツニ終ルデアラウ、如此ハ藥学界ノ敢テ採ラザル所タルハ勿論本学科ヲ益進歩飛達セシメ藥学ノ基礎ヲ強固ニシ其応用ヲ大ナラシムル必要痛切ナルモノガアル、即チ本学科ヲ活用シ以テ藥物ノ大部ヲ供給スル植物藥成分ノ研究ハ元ヨリ、植物化学、あるかろいど化学、毒物化学、藥化学、有機製藥学、衛生化学、裁判化学、調劑学、脂油化学、ジイタミン化学等諸般ノ藥学分科研究

上ニ応用セバ利便多カルベク、又實際家ハ臨床上ニ応用シ以テ發明改善ノ道ヲ開クコトガ出來ル、尙材料鑑定ノ正確ヲ期シ不純混雜ヲ避ケ、或ハ材料ノ探索ヲ容易ナラシメ研究上種々ノ示唆ト指導トヲ受ケ、研究遂行上ニモ實際応用上ニモ裨益スル所多大デアラウ。

⑧藥用植物学(本草学)ノ歴史ハ甚古ク其利用ノ道ハ古今上下ヲ通ジ東西共ニ連綿トシテ絶エザル所以ノモノ、ハ一ハ天産物ヲ安易ニ其儘或ハ簡單操作ニ依テ利用シ得ル利便ト、一ハ今日ノ化学藥品ヲ以テシテモ尙是ガ医効ヲ全表シ得ヌ又神秘的藥効ヲ奏スル爲ト、他ニ例令化学藥品又合成品ト虽モ全然人造品ハ無之凡テ植物其他自然物ノ利用ト合成ニ外ナラザルニ因リ是等ノ根本研究ハ結局自然物研究ヲ基礎トスル外ニ道無キニ因ルモノデアアル。而シテ此事實ハ將來モ亦何等変更シ得ルモノデナカラウ、況ンヤ最近ノ進歩セル薬学ハ是等藥用植物ノ成分藥効藥理ノ一致ヲ證明スルニ於テオヤ。

⑨元來藥用植物学(本草学)ハ医藥ノ学デ調藥(劑)・医療ノ道ヲ講ズルハ重要本務デアアル、就中漢方ハ文明ノ理想的医学ト一致スルモノデ、現今最重要視サルハ豫防医学保健医学ヲ漢方ハ古來是ヲ主トシ治病ヲ依トシ健康長壽強壯ヲ以テ最大目的トシテ居タ、サレバ漢方ニハ保健強壯強精藥甚多ク、其處方ハ病ノ何タルヲ問ハズ滋養強壯藥ヲ主トシ对症藥ヲ客トスルヲ法トスル、故ニ診断ノ当否ニ不關患者ニ多少ノ効果

ヲ奏スルハ事實デアアル、況ンヤ診断処方共ニ適確ナラバ内科ニ於テハ吾々東洋人ニ對シ洋医洋藥ニ優ルトハ近來專門医ノ稱フル所デアアル、故ニ教養アル人士デ純洋医ヨリ却テ洋医出身ノ漢方医ヲ信賴スル者ノ増加シツツアルハ漢方再吟味ト共ニ注意スベキ傾向デアアル。即本草学研究ノ必要ヲ益々痛感スル次第デアアル。

⑩現今ノ生薬学ノ如ク藥用植物個別ノ詳細説明モ必要ナルガ是以上ニ必要ナルハ藥用植物ノ系統的類縁的研究記載ニ如クモノハナイ。此方法ハ自然分類系統下ニ全藥用植物ヲ總括統一シ、秩序ト系統ヲ保タンメ、研究ト記憶ト檢索トニ便スル外、理論上純科学的体系(總論及各論ヨリ成立)ヲ成スハ勿論、相互間ニ形態学的・分類学的・化学成分的ノ系統類縁關係アリテ個別的散在的ノモノデハナイ、特ニ輒近植物自然分類系統ニ並行シテ化学成分的系統ノ類縁的ニ嚴存スル事實ヲ確認セルニ於テハ、科学トシテ一層自裁分類ニ從ヒ系統的類縁的排列ニ依ル研究記載ヲ必要トスベク、單ナル便宜上ノ形式的配列又ハ其觀念ハ再考ノ余地アリト思惟スル。恐クハ此後藥用植物学ノ進歩發展ニ伴ヒ、從來ノ藥用植物学ヨリ分離シテ特殊詳細記載学タリシ生薬学ハ既往ニ環元シテ藥用植物学中ニ包含セラレ、以テ藥用植物学ヲ一層充實セシメ、更ニ藥学的タラシムル要アリト信ズル。科学トシテ独立セザル生薬学ハ元ヨリ藥用植物学ヨリノ沿革分離形態タルニ異論ハナイガ、此所作ハ理由ノアルコトデアアル、即一ハ研究上。

利用上並ニ教授上ノ必要ニ基クモノデ他ハ藥用植物學ノ根本研究ヲ後ニシ應用ニ因スルホヲ先ニスル必要ヨリ未タモノデ是ハ日本ノ早急發展ヲ必要トスル飛躍的・破行的時勢ヨリ本亦顛倒行爲ノ然ラシメシ結果デアル此現象ハ独リ本學ニ限ラズ明治以來広ク各種科學ニ見ル所デ文化早急建設上止ムヲ得ナカッタ次第デアル、而シテ其是正ノ必要ノ大ナルハ現今各分科ニ於テ研究方法・体系配列・内容充實等ニ根本的建直シヲ開始シ或ハ進行中ノ學科ノ多クアルハ当然ノ歸結トスフベク、林學・農學等ニ於テモ翻譯模倣ノ弊害時代ハ去リ昭和前後ヨリ以上ノ根本的建直シヲ実行シ好成績ヲ挙げツアル。遲延ナガラ藥用植物學モ亦此時機ニ到達シ其實行ヲ迫ラレツ、アルモノト認ムベキデアラウ。

②藥用植物研究上化學成分研究ノ必要不可缺ナルハ言フ俟タナイガ、上述ノ如ク分類系統ト成分系統トハ完全ニ一致スルモノデ系統的科間又屬間等ニ於ケル其實際ハ本書ノ内容ニ明白デアル、即植物ノ類縁ハ独リ形態的ニ著甚ナルノミナラズ之ト並行シテ化學成分の類縁關係ガアル、是ハ駢テ分類學ノ分類並系統研究ノ有力ナル一新方面ヲ開拓スルニ至ルヤ必感デアル。サレバ植物成分ノ研究並材料(檢體)撰定ハ植物分類學上ヨリ類推シ撰定セバ是有利適切ナルハ論ヲ俟タヌ、又研究材料ノ蒐集ト鑑別・鑑定トハ其道ニ練達堪能ナル分類・分析學者ノ指導援助ヲ受クルハ單ニ捷徑ノミデナク最安全・確實・賢明・正當ノ態度デアルト思惟セラルル。

③植物ヲ藥用トセルハ遠ク未南ノ時代ニ始リ、西洋ニテハ埃及ニ溢蘊シ、希臘・羅馬時代ヲ經テ彼ノ「フルツキーゲル」・「ギルビ」諸氏ノ著書ヲ基準トセル歐米生藥學ノ發達トナツタ。東洋ニテハ支那五千年ノ昔神農ノ時代ニ始リ、梁ノ武帝ノ世ニ神農本草經出デ、漢方醫・漢方藥ノ勃興トナリ、明ノ李時珍ハ本草綱目ヲ著述スルニ及ソデ本草學ハ大成サレタ。日本ハ允恭帝ノ御世ニ漢方傳來シ、徳川時代後半ニ最隆盛ヲ極メ多教本草學書ノ出版ハ元ヨリ所々ニ藥園ノ經營ヲ見シガ維新前後ヨリ洋醫・洋方ノ輸入ト、何事モ西洋崇拜ノ時勢ニ禍サレ漢方及漢方醫學ハ逐次衰微シタノハ遺憾デアッタ。惟フニ漢方中ニハ不老長壽藥多キモ是等ハ現今ノ「ヴィタミン」藥劑及「ホルモン」療法等ト其實質及目的ヲ同フシ、合理的營養・健康長壽法タルニ一致シテ居ル、然ルニ今日藥劑ガ殆單ニ病氣ニ就テノミ考慮セラル、時代ニ於テ漢方ハ既ニ古代ヨリ滋養・強壯・強精藥ヲ一般藥物ノ最上位ニ置キ、醫藥ノ重点ヲ明示セルハ卓見比類ナク東洋醫藥學ニ對シ絶大ノ興味ト敬意ヲ感ズル次第デアル。

④明治・大正ニ亘リ歐米醫藥方能時代ヲ經テ爛熟スルニ及ビ一時其影ヲ没セントセル和漢藥及民間藥ハ昭和ヨリ漸進乃至急進的ニ靈驗着シキヲ確認セラレ、是ガ研究ニ專念スル學者輩出シ實驗ニ學理證明ヲ加ヘ其眞價ヲ知ルニ及ソデ激賞措カズ、口ヲ極メテ醫藥及實生活ニ應用ヲ奨導セラレ、ニ至ツタ、是ハ正シク東洋人ニハ東洋產生藥最良ニシテ和漢方

が日本国民健康ニ合致スルヲ證スルモノト断定シテ憚ラス、故ニ東洋産生薬及和漢方ハ漸ク世界国際間ノ研究問題タルノ機運ニ到達シタノデアアル。以上説キ来ツタ所ニヨツテ東洋ノ薬用植物学即現代の本草学ハ東洋生薬及和漢方ノ研究ト教授トヲ主眼トスベキモノタルニ異論ハナイト信ズル、否此ニ重点ヲ置テ研究ト教授トヲ進ムベキモノト確信スル。

④薬用植物学即進歩セル本草学ハ單ニ藥草藥木ヲ植物学的(分類・分布・形態・生態・生理等)ニ検討スルニ止ラズ、藥学的(生薬・成分等)ニ研究スル外医学的(医治効用即藥効・藥理等)記載ヲ必要トスル、然ルニ本学科ノ著述ハ或ハ植物学ニ偏シ或ハ生薬ニ偏シ或ハ成分ニ偏シ其中庸ヲ得タルモノハナイ、故ニ藥学専門学校ノ教科書トナリ識者ノ参考書トスルニ足ルモノヲ見出し難イノハ確カニ現代日本ノ缺陷デアアル、而テ一面卑俗極ル藥草書ヤ低級俗悪ノ民間藥草療法等ノ諸書ハ學術的ニ無價値ナルハ勿論世ヲ益スルニ足ラナイ。由未名藥学専門学校ノ本学科各教授者が等シク本学良教科書ノ缺乏ヲ訴フルヤ既ニ久シイガ未ダニ良書ノ出版ヲ見ナイ、各教授者互ニ良書ノ出現ヲ待望シテ止マサルニ何人モ発心著述スル人ナキハ遺憾至極デアアル。余モ亦誰カ此重責ヲ果シ吾人ノ待望ヲ充ス人アラソカト空シク期待スルコト數年、今以テ空望ニ終ルハ公憤ニ堪ヘナイ。空望限度ヲ越ユルニ至リ一ハ自家教授ノ必要ニ迫ラレーハ良書出現ノ第一階梯トナリ前驅タラシムル目的ヲ以テ敢テ自ラ揣ラズ茲ニ拙

著ヲ公表スル所以デアアル。本著述タル元ヨリ植物学的・化学的・応用的三方面ノ完備ヲ期スベキモノナレド淺学菲才元ヨリ其任ニ非ルヲ知ル、況ンヤ本書ハ徹頭徹尾孤軍奮闘独力ヲ以テ成就セルモノデ他人ノ助言助カヲ受ケナカッタニ於テオヤデアアル。書中ノ誤植謬見不備・脱漏等多クアルヲ憂フ、是等ハ他日上梓ノ機アラバ詳細ナル卷末索引ヲ加フルハ勿論根本ヨリ改正増補ヲ断行スベク、尙大家並先輩諸氏ノ教示ト助言トヲ切望スル次第デアアル。

⑤薬用植物学教科書又ハ参考書ノ機構・内容等ニ就テハ異説アルベケレド本書ハ他書ノ模倣ニ非ズ新説・新説表・新編述ヲ有シ多少現代ニ即セル薬用植物学書トシテ本学参考書トナシ又ハ教科書タラシメントシタモノデ聊カ藥学界ニ貢献センコトヲ期シタ次第デアアル。庶幾クハ此微表ヲ諒トセラレ藥学校ノ教科書トナリ又ハ植物学関係者ノ参考利用セラレ、所トナリ、或ハ生薬学ノ補足トナリ、手引トナリ或ハ植物成分研究上ノ指針トナリ、或ハ保健上・治病上座右ノ友トナリ、其他薬用植物ニ関心ヲ有スル一般諸氏ニ利用セラレナバ著者ノ満足スル所デアアル。尙一般植物研究者ニ対シ、応用方面ノ知識ヲ供給シ、從來分類・記載ニノミ專念セシ分類学ヲシテ利用厚生ナル重要方面ノ嚴存シ、国家・民衆ノ要求カ此方面ニ絶大ナルヲ感得シ、凡百ノ応用方面ニ向ツテ分類学的開拓ノ勳與ニ寄贈スル所アラバ本書ノ使命ハ達セラレタルニ庶カラウト思フ。以上薬用植物学ノ現況及本書著述ノ由来並ニ

目的ヲ記シ、以テ下巻ノ序トスル。

○ 例言及内容ノ解説

(1) 本書下巻ハ上巻ノ藥用植物學總論ニ對シ藥用植物學各論(藥用植物分類學)ヲ、大別シテ分類學總論ト分類學各論ノニ編トスル。

(2) 下巻ノ第一編ハ藥用植物分類學總論デ、本草學及藥學ノ系達史、藥品及藥劑ノ種類、藥品須知及藥劑並藥令、藥學及藥用植物學並生藥學、漢方醫學及皇漢醫學大意、植物及藥物ノ名稱ト學名、植物ノ分類、植物分類ノ方法並其實例、植物ノ記載及記載例並其批判ノ九章ヲ論述シ以テ各論ヲ理解スベキ豫備知識トシタ。(第十章 羅與文法大意ヲ脱稿セルモ頁數ノ増加ヲ恐レ削除シタ)。

(3) 下巻ノ第二編ハ藥用植物分類學各論デ全植物界ヲ19門並立ノ私見(著者ノ林網式分類)ニ基キテ大別シ、更ニ各門ヲ綱・目・科・屬ニ分チ、既知ノ日本産及渡来又ハ輸入外國産藥用植物ノ殆全部ニ千數百種ヲ自然分類ノ順序ニ從ヒ下等ヨリ高等ニ向テ各科屬ニ配分シタ。故ニ本書ニハ現今迄日本ニ知ラレタ和・漢洋藥用植物ノ効用確實ナルモノハ勿論稍確實ナルモノモ殆全部収録サレタモノト信ズル。

但シ非藥用植物ハ一切之ヲ省略削除シタ。

(4) 藥用植物タルベクシテ未ダ成分不明(未研究)ノ爲メ、或ハ近縁種ニシテ藥用種タルベク期待サル、モ未ダ實證ヲ

缺ク植物ガアル。是等ノ諸種モ切メテ記載シ、以テ此後ノ研究者ノ目標トナリ得ル様利便ヲ図ツタ。

(5) 記述ノ順序及重点ハ科ヲ標準トシ、各目ニ各科ノ檢索表ヲ附シ、各科ノ特徴ハ切メテ簡明詳細ヲ旨トシ、形質(特徴)、成分及効用、分布及屬種數、本科ノ藥用植物ノ價ニ記述シタ。

(6) 以上ノ中形質の特徴ハ他書ト異リ植物記載ノホ式ニ則リ全相・部分相ニ大別シ、部分相ハ根・莖・葉・花・果實・種子ノ順序ニ記述シタ。成分及効用ハ各科ノ共通成分ヲ分類列記シ以テ成分ヨリ藥効ヲ窺知シ得ル様ニシタ。分布及屬種數ハ各科ノ世界的及日本領内ニ如何ニ分布スルカタヲ記シ、且屬種數ヲ世界及日本ノ二部ニ區別シタ、其中日本ノ部ニハ朝鮮植物屬種數ハ算入シテ居ラヌ。

(7) 本科ノ藥用植物：— ナル係下ハ各科ニ於テ現在日本知ラレタ藥用植物全体ヲ分類順ニ各屬毎ニ纏メテ記述シ、各屬中ノ諸種ノ配列ハ成ルベク類縁ノ遠近ニ依テ配列シ近縁種ヲ並列セシメタ。科ノ大ナルモノ又藥用關係深キ科ハ更ニ亞科ニ或ハ亞科ヲ更ニ族又ハ亞族ニ迄細密ニ分類記述シ以テ研究ト調査ノ便ヲ図ツタ。但シ各屬ト各種ノ檢索表ヲ省略セルハ頁數増加ヲ恐レシ結果デ遺憾至極デアルガ止ムヲ得ナカッタ。

(8) 各科ニ於ケル藥用植物各種ノ記載ハ1種毎ニ番号ヲ附シタガ稀ニ近縁同効種ハ同一番号下ニ並記シタ、種中ノ諸變種モ同様並記セシ場合多クアル。又和名直後ニ「及變種」及

諸変種<sup>1</sup>及諸変種諸変形<sup>2</sup>等ト記スルハ標準種ノ外ニ変種又変形等ヲ包含セル記述ナルコトヲ示スモノデアリ此ノ場合異等ノ藥効ハ同一ト見做サルルモノデアリ。

(9) 各種(各番号毎ニ)即各藥用植物ノ記載ノ順序ハ(番号); 和名(異名・漢名); 学名(屢異名ヲ記ス); (分生); (生藥); (成分); (藥効); (藥理); (處方例); (備考); ……デアリ。以上ノ中和名及学名ハ最正確・漸進ナルモノヲ選定セシ故他ノ同類書ト屢異ルモノガアル。漢名ハ藥品取引上又處方上必要ナルハ勿論今後東亞學術「ブロック」形成上ヨリモ廢棄シ得ナイカラ努メテ正名ヲ收録シタ。

(10) (分生)ハ分布・生態ノ義デ生藥採集上詳細ナルヲ至便トスルモ紙面ニ限リアル故樺(樺太)・千(千島)・北千(北千島)・南千(南千島)・北(北海道)・本(本州)・本北部(本州北部)・本中部(本州北部及中部)・本南部(本州南部)・本中南部(本州中南部)・四(四国)・九(九州)・朝(朝鮮)・琉(琉球)・名(台湾)・滿(滿洲)・支(支那)等ニ大別シタ。

(11) (生藥)ノ項ハ生藥名及生藥学名ヲ記シ、次ニ生藥ノ形質ヲ説明(簡略)シ、終ニ産地ヲ摘記スルニ努メタ。本項ニ就テハ著者ハ別ニ形態学的ニ詳細研究ヲ遂行シタイト思テ居ル。

(12) (成分)ノ記述ハ諸書ヲ参照シ最詳細且ツ簡明ナルヲ記シタガ構造式ヲ書ク余白ナキヲ遺憾トスル。

(13) (藥効)ノ項ハ最力説セル所デ現今迄知ラレタ藥学的効用特治病上ノ効用ハ簡明詳細脱漏ナキヲ期シタ。文中ニ局方

トアルハ局方藥、漢:トアルハ漢方藥、民:トアルハ民間藥デアリ。而シテ此中ニハ人ニ依リ休養ニ因リ無効乃至奏効不確實ノ場合アルベキモ之ヲ以テ直チニ其藥効ヲ否定シ得ナイモノデアリ。

(14) (藥理)ノ項ハ全体ニ亘ラズ屢記述セルニ止マルガ、不記種ハ未実験ノ爲ニ外ナラナイ。藥効ヲ確知スルニハ先ヅ藥理ニ通ズル必要アルハ言ヲ俟タナイ。是藥理ノ本学科ニ重要ナル所以デアリ、故ニ出来ルダケ多ク記述シタ。實際藥劑使用上ノ興味ハ藥理ヲ知ルコトニ依テ倍加サレルモノデアリ。

(15) (處方例)ハ其藥用植物(主ニ生藥)ヲ主トセル處方デアリガ此後共ニ處方配合上ニ工夫改善ノ餘地アルモノト愚考スル。普通漢方ノ處方例ハ概列挙スルニ努メタカラ実地利用上ニ役立ツコト、信ズル。

(16) (備考)ノ項ハ主ニ其植物ノ藥用以外ノ効用ヲ記述シタモノデ入生トノ関係大ナルヲ以テ出来ルダケ詳細簡明ナル様努力シタ。藥學者ハ植物ノ藥効ノミヲ知ルヲ以テ足レリトスベキモノデハナイト思フ。

(17) 和名ニ附セル符号ニ3種アル、即和名下ニ單線ヲ引(例ヤヅらん)クハ局方外藥用植物(概民間藥); 和名前ニ△印ヲ、下方ニ單線及点線ヲ引ク(例△じやのひげ)ハ準藥局方藥用植物; 和名前ニ○印ヲ、和名下ニ横平行線ヲ引ク(例○ろくわい)ハ局方藥用植物デアリ。但シばら科以下ノ諸種ニハ和名下ノ線ヲ引カナカツタノデ無印ハ局方外、△印ハ準局、○印ハ局

方藥デアル。

(18) 各種ノ形質的記載即記相文ハ殆全部之ヲ省略シタノハ遺憾ナレド頁數ノ倍加ヲ恐レシニ因ルモノデ必要ナキ故デハナイ、依テ是ニ就テハ種々ノ植物圖鑑圖説、就中日本植物總覽ヲ参照サレタイ。

(19) 本書ノ記載文ハ一種特別ノ型式ヲ有シ、最簡明直達ヲ主眼トシ、省略シ得ベキ文字ハ元ヨリ冗言漫語ハ悉ク削除シ植物記載文ニハ數多ノ記号ト花式ヲ使用シ以テ極力文章ノ短縮ニ努カシ、頁數ノ大縮減ヲ企圖シタ。之ハ科学的簡潔文トシテハ元ヨリ当然デアルガ、其上各頁ヲ出来ルダケ盡リ沃山ニシ節約ヲ計リ、時節柄無用ノ字數ヲ省キ、紙ノ消費ヲ節減シ、經費ヲ低下セシムル目的ニ出タモノデ國策上ヨリモ、四方ノ賛同ヲ希望スル次第デアル。

(20) 下卷各論ハ生藥學ニ近似スルモ是ト異リ日本既知ノ藥用植物全体ヲ一定ノ分類系統下ニ總合統括シ、組織的並類縁的ニ序列シ、以テ統一セル系統的類縁的知識ノ收得ヲ目的トシ、且ツ藥理藥効ヲ詳述シ實際的應用方面ヲ重要視スルノ差ガアル。

(21) 抑藥用植物學ノ本領ハ徒ニ不必要ナル分類學的記述並非藥用植物ノ記載ニ傾クコトナク、努メテ藥用植物及關係事項ノ記述ヲ主眼トスベキモノデアル、特ニ其化学成分ト藥理藥効等ノ應用方面ノ論述ニ重点ヲ置クベキモノタルヲ論ヲ俟タヌ。故ニ本書ハ此方面ニモ多大ノ努力ヲ拂ヒシハ勿論、

内容ニ於テ植物學的・化學的・应用的三方面ノ充實ヲ図リ、勉メテ現代ニ即セル藥用植物學書タランコトヲ期シタ。

附言—製本ノ都合上ヨリ下卷ノ前方 $\frac{1}{4}$ ヲ上卷ノ終ニ附加シタ場合ガアル。

○参考圖書目錄(上卷及下卷共通)

本書述ニ参考セル圖書頗多シ、就中主ナルモノヲ掲出シ以テ各著者ニ深甚ノ謝意ヲ表ス。

(1) 植物學關係：—

- (1) A. Engler:—*Die Natürlichen Pflanzenfamilien.*
- (2) Engler-Gilg:—*Syllabus der Pflanzenfamilien* (1924).
- (3) Engler-Diels:—*Syllabus der Pflanzenfamilien* (1936).
- (4) Strasburger's:—*Lehrbuch der Botanik für Hochschulen.*
- (5) Wettstein:—*Handbuch der systematischen Botanik.*
- (6) Warming—Möbius:—*Handbuch der systematischen Botanik.*
- (7) Prantl-Pax:—*Lehrbuch der Botanik.*
- (8) Gray's:—*Structural and Systematic Botany.*
- (9) Gray's:—*School and Field book of Botany.*
- (10) Johnson:—*Taxonomy of the Flowering Plants.*
- (11) A. S. Hitchcock:—*Methods of descriptive Systematic Botany.*
- (12) Le Maout-J. DeCaisne:—*A General System of Botany (Descriptive and Analytical*

Botany). (13) Swingle:—Textbook of Systematic Botany. (14) Goebel:—Organography of Plants. (15) Warming:—Oecology of Plants. (16) Hegi:—Flora von Mittel-Europa. (17) Britton-Brown:—Illustrated Flora of the Northern States and Canada. (18) Abrams:—Illustrated Flora of the Pacific States. (19) A. Arber:—Monocotyledons. (20) Dallimore—Jackson:—Handbook of Coniferae. (21) Sargent:—Manual of the Trees of North America. (22) Gray:—Gray's New Manual of Botany. (23) Knuth:—Handbook of Flower pollination. (24) Beddome:—Ferns of British India. (25) Bailey:—The Standard Cyclopedia of Horticulture.

(26) 小倉謙:—植物形態学, (27) 浜健夫:—植物形態学講話 (28) 松村任三:—植物の形態 (29) 田原正人:—植物形態学汎論 (30) 全:—植物細胞及組織学講義 (31) 藤遠喜人:—植物細胞 (31) 山羽儀兵:—植物学解説 (32) 三好学:—最新植物学講義 (33) 全:—最新植物学 (34) 全:—実験植物学 (34) 石川光春:—植物ノ構造と生殖 (35) 全:—植物学通論 (36) 吉井義次:—植物学大要 (37) 市村塘:—植物学講義 (38) 牧川鷹之祐:—綜合植物学 (39) 田原正人:—綜合植物学

(40) 藤遠一名和一向坂:—図解実験植物学 (41) 廣島文理大:—図解植物学 (42) 牧野富太郎:—植物記載学 (43) 三宅一草野:—ストラスブルガー植物学 (44) 池野成一郎:—植物系統学 (45) 岡村金太郎:—藻類系統学 (46) 神谷辰三郎:—顯花植物分類学 (47) 全:—羊齒ノ検索ト鑑定 (48) 川村清一:—日本菌類図説 (49) 安田篤:—植物学汎論 (50) 全:—植物学各論(隱花部) (51) 本田正次一向坂道治:—大綱日本植物分類学 (52) 全:—全(第二版) (53) 早田文藏:—植物分類学(第一=卷) (54) 中井猛之進:—朝鮮森林植物編(I~ ), (55) 全:—大日本樹木誌(卷之一) (56) 全:—東亞植物 (57) 杉本順一:—日本樹木總檢索表 (58) 白井光太郎:—樹木和名考 (59) 白沢保美:—日本森林樹木図譜 (60) 牧野富太郎—根本莞爾:—日本植物總覽 (61) 根本莞爾:—日本植物總覽補遺 (62) 夫田部良吉:—日本植物図解 (63) 緒方正資:—日本羊齒類図集 (64) 宮部一工藤:—北海道主要樹木図譜 (65) 工藤祐舜:—日本有用樹木分類学 (66) 夫田部良吉:—日本植物編 (67) 飯沼—牧野:—増訂草木図説(草部), (68) 牧野富太郎:—牧野植物学全集 (69) 木松直次:—応用植物学汎論 (70) 全:—應用植物学各論 (71) 中井猛之進:—朝鮮植物(上卷) (72) 齊田—佐藤:—最新図説内外植物誌 (73) 松村任三:—改訂植物名彙(漢名之部), (74) 全:—全(和名之部) (75) 全:—帝國植物名鑑(I~III), (76) 森島三:—朝鮮植物名彙 (77) 佐々木舜一:—台湾植物名彙 (78) Kudoa 編著:—最新台湾植物總目錄 (79) 菅原繁藏:—樺太の植物, (80) 全:—



樺太植物図説 (80) 宮部三宅:- 樺太植物誌 (81) 伊藤武夫:- 台湾植物図説 (82) 全:- 續台湾植物図説 (83) (84) コマロフ原著:- 滿州植物誌 (大毎日) (85) 夫部吉穂:- 滿州植物目錄 (86) 三浦道哉:- 滿蒙植物誌 (87) 服部健三-近藤真:- 食用植物誌 (88) 田寺寛二:- 食用植物 (89) 佐藤潤平:- 東北实用植物之新研究 (91) 三好孝:- 人生植物学 (92) 白井光太郎:- 救荒植物 (93) 全:- 植物学教科書(續編) (94) 齊田功太郎:- 内外普通植物誌(下等隱花部)

(II) 藥学関係:-

(95) Fr. Losch:- *Kräuterbuch (Unsere Heilpflanzen in Wort und Bild)* (96) Tschirch:- *Handbuch der Pharmakognosie* (97) C. Wehmer:- *Die Pflanzenstoffe* (98) 下山-柴田:- 藥用植物学 (99) 佐藤敏雄:- 綱要藥用植物学 (100) 中沖太七郎:- 藥用植物学概要 (101) 橋本-大村:- 綜合藥用植物 (102) 刈米-木村:- 邦産藥用植物 (103) 全-全:- 和漢藥用植物 (104) 下山-朝比奈-藤田:- 生藥学 (105) 村上師壽:- 藥理的藥学 (105) 白井光太郎:- 本草学論攷 (106) 清水藤太郎:- 本草辞典 (107) 全:- 植物藥物学名典範 (108) 李時珍:- 頭註國譯本草綱目(春陽堂版) (109) 第五改正 日本藥局方 (110) 第二改正 日本準藥局方 (111) 高瀬豊吉:- 植物成分ノ研究 (112) 全:- 全(改訂増補版) (112) 小泉栄次郎:- 和漢藥考 (113) 清水藤太郎:- 實驗漢方医学叢書 (114) 調源太:- 新藥对照便覽

(115) 森島庫太:- 藥物学 (116) 林春雄藥理学 (117) 松島種美:- 藥草藥木速治療法 (118) 神谷-松島:- 趣味の藥用・有毒植物篇 (119) 寫政局編?:- 糧食經理教程 (120) 工藤-須崎:- 北海道藥用植物図象 (121) 市村塘:- 日本藥用植物図譜 (122) 朝比奈泰彦及協力者:- 報文集(化学之部) (123) 全:- 全(植物学・生藥学之部) (124) 西川義方:- 内科診療ノ實際 (125) 全:- 衛生看護ノ實際 (126) 筒井八百珠:- 臨床医典 (127) 栗原廣三:- 日本藥草学 (128) 全:- 容体と藥物 (129) 藤野魁治:- 皇漢藥医方詳解 (130) 小出良夫:- 实用和漢洋生藥処方集 (131) 全:- 和漢洋生藥全集 (132) 川端勇男:- 漢方医藥處方全書 (133) 馬場和光:- 漢方治療法 (134) 長田操二:- 有機化学 (135) 小竹兼二雄:- 有機化学 (136) 清水貞二:- 調劑学 (137) 中村勇藏:- 衛生裁判化学 (138) 小泉秀雄:- 菊科植物檢索表 (139) 全:- 新編藥用植物学(上卷)

(III) 定期及不定期刊行圖書雜誌:-

(140) 植物学雜誌(月刊) (141) 植物研究雜誌(月刊) (142) 植物分類地理(年四回) (143) 藥学雜誌(月刊) (144) 漢方と漢藥(月刊) (145) 岩波講座(生物学)(既刊) (146) 東亞植物図説(中井猛之進監輯)(不定期) (147) 大日本植物誌(中井猛之進, 本田正次監輯)(不定期刊行)。

(IV) 補遺:-

(148) 根本莞爾:- 日本植物乾 標本目錄 (149) 本田正次:

—日本植物名彙 (150) 村越三千雄:—原色図説植物大辞典 (151) 沖田秀秋:—薬草採取栽培及利用法 (152) 全:—薬用植物製造学 (153) 平野一貫:—新撰薬用植物図譜 (154) 橋本亮:—薬用植物図譜並有毒植物図譜 (155) 梅村甚太郎:—民間薬用植物誌 (156) 帝國藥專校誌:—薬用植物和漢名对照便覧 (157) 全:—日本民間薬草集覧 (158) 小林英一:—万病筒治薬用植物と家庭療法 (159) 川端勇男:—東西薬用植物考 (160) 松島種美:—薬草薬木療法 (161) 中尾万三:—本草書目の考察 (162) 清水留三郎:—保健國策ト医薬制度 (163) 栗原愛塔:—漢方薬術 (164) 日本漢方医学会:—漢方医学大観 (165) 伊吹高峻:—集成生薬図譜 (166) 薬学辞典 (167) 石川日出鶴丸:—石川大生理学(第一卷) (168) 曲淵景章:—亜氏化学 (169) 朝比奈泰彦:—有機化学概要 (170) 刈米達夫:—原色薬用植物図譜 (171) 朝比奈—高木:—第五版改正日本薬局方注解 (172) 石戸谷勉:—朝鮮漢方薬料植物調査書 (173) 浅沢博:—薬用植物の詳解。

○ 本書ノ使用法(特ニ応用方面)

(I) 本書ノ使用法トシテ學術的方面ニ関スル事項ハ前記ノ「序文」, 「例言及内容解説」ヲ讀メバ自ラ理解シ得ル故, 此所ニハ改メテ書クコトヲ省略スル。

(II) 以下応用方面ニ関シ本書ノ使用法及使用上ノ注意ヲ述べル。

1) 生薬採集 薬用植物ヲ採集乾燥セルモノヲきぐすり

(生薬)ト称ス, 藥局ノ有無ニ不問藥種尙ヲ生薬屋ト云フノハ之ニ依ル。野生薬用植物ノ採集期ハ採薬部ガ全草ノ場合ハ開花期ヲ最良トシ, 葉ノ場合ハ花時又花後結実前ヲ良ヨシ, 花ノ場合開花時又ハ七八分咲ノ程度ヲ最良トスル。又地下部(根又地下莖等)ノ場合ハ秋彼岸前後ヨリ翌春発芽前(発芽セバ不可)ヲ最良期トス, 樹皮, 樹幹又之ニ準ズル, 但シ樹脂樹枝, 樹葉, 樹花等ハ概開花期又成葉期ニ採集スルヲ良トスル。

2) 本書中 局方。トアルハ第五改正日本薬局方植物生薬又其製剤, 準局。トアルハ第二改正日本準薬局方ニ收載ノ藥物デアル。

3) 本書中 新薬。トアルハ薬用植物又其主成分ヨリ製セル新薬・新製剤ヲ記載シタルモノデアル。

4) 本書記載ノ用量ハ概(断ラサル限り)乾燥品ノ重量デアル。サレバ新鮮品ヲ用フル場合ハ其2~3倍量以下ヲ使用セヨ。

5) 煎劑 トハ粘性又冷水ニ溶ケ難キ有効成分ヲ含ム植物生薬(稜メ細剉又細切ス)1日分ニ10倍以上ノ水ヲ加ヘ短キハ5~10分間長キハ1~2時間煮沸シ(2合ノ水ガ1合ニナル迄, 又600瓦ノ水ガ200瓦ニナル迄又200瓦水ガ100瓦ニナル迄等), 之ヲ濾過シ, 3分シ1日3回ニ服用スルヲ常トスル, 又分量ト場合ニ依リ1回頓服ノ場合モアル。但シ煎器ハ必ず土瓶ヲ用ヒ金屬器具ヲ用フベキデナイ。

6) 用量ハ本書ニ瓦ヲ用ヒタルモ, 1匁ハ4瓦, 1瓦ハ2分

5厘トシテ換算シ得ル。

7)浸劑 トハ揮発生又ハ溶解シ易キ有効成分ヲ有スル植物生薬ニ煎湯ヲ注ギ、冷却後濾過シ服用スルモノデ、生薬ハ豫メ粗〜細切シ又粉末トシ、10倍以上ノ煎湯ヲ加フ(温浸劑又抽出シ薬)。此外冷浸劑トハ冷水ニ浸漬スルモノデ、酒浸劑ハ酒又酒及水ニ浸出セルモノデアル。

8)越幾斯<sup>エキス</sup> トハ植物生薬ノ有効成分ヲ煮沸煎出セル薬液ヲ更ニ蒸詰メタ濃厚液デ、軟網越幾斯乾燥越幾斯ノ二種ガアル。甲ハ左右ノ天秤皿ニ同大紙片ヲ載セ平均セシメ、棒ニテ取出シ秤量シ、水又ハ湯中ニ紙ノ儘浸溶シ後水ニ投入シテ用ヒル。乙ハ直チニ乳鉢中ニ取り細粉末トセル後少量ノ微温湯ヲ加ハ研磨シ水ニテ服用スル。

9)丁幾<sup>チンキ</sup> トハ植物有効成分ヲ酒精ニ浸出セルモノヲ云ヒ、<sup>チンキ</sup>「メートルグラス」ニテ秤量スルモノデアル、成分ノ種類ニ依テ何々丁幾ト称スル。

10)植物生薬ハ凡テ金屬器具トノ接触ヲ忌ム故ニ煎劑・浸劑・エキス劑・丁幾劑等以上ノ操作ハ皆土器(陶磁器類)・又硝子器ヲ用フルヲ定法トスル。

11)本書ノ薬用量ハ大人標準ナレバ使用ニ当ツテ小児ハ半量内外トスル等、年齢体重ノ多少ト輕重ニ依テ加減ヲ要スルコト勿論デアル。

12)傳染病其他現在身命ニ危険アル場合又疾病ニ対シテハ第一ニ専門医ノ治療ヲ受ケ、本書ノ使用ハ後廻シニセラレ

タシ。但シ滋養強壯、強精長壽長命藥等ハ常用シテ大効ガアル。

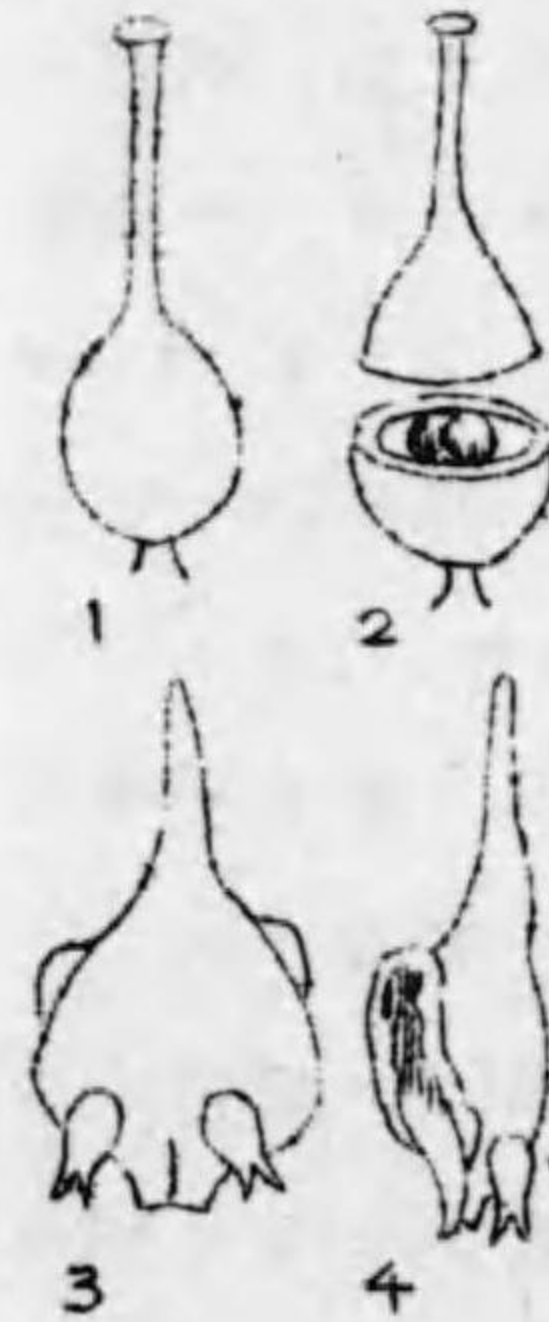
13)本書記載ノ生薬又藥物ヲ用フル場合、或疾病ニ対シ其ノ種ヲ使用シ効力ヲ否定スルコト勿レ、カハル輕卒ノ態度ハ一ヲ知テニヲ知ラザルモノデアル。例令無効ノ場合ト虽モ他ノ同効ノ異品種藥ヲ次々ニ再三試用セバ必ズ其内ヨリ効果顯著ナル所謂「合藥」(其人ニ適合スル藥デ他人ニハ必ズシモ有効デナイ)ヲ悉見シ得ルデアラウ、其藥コソ当人ノ体質ニ合致スル良藥即合藥デアル。

14)用量ハ其人ノ体質ナリ体重ナリニモ依ルモノ故本書記入ノ最少量ヨリ順次増量シ、状態ニ依リ最高量ニ達シ其後ハ逆ニ減量スベキデアル。分量ハ過甘又様ニセヨ。特ニ毒性強キ生薬ノ使用ハ大ナル注意ヲ要スル故醫師ノ指揮ヲ受ケヨ。

15)日本藥局方ニ收載セラレザル民間藥ト虽モ概長年月間ニ実験ニ依テ体得セル結果ナル故濫リニ輕視シ得ナイモノデ確ニ識者ノ一考ヲ要スルモノデアル。

第二綱 雙子葉植物綱 *Dicotyledoneae*

(51圖)



(51圖) — 裸子植物及被子植物ノ雌器比較圖 (原圖)

1. 被子植物ノ雌蕊 2. 同上ノ子房ノ橫斷面 3. 裸子植物ノ雌蕊

特徴: — 植物体ハH(①v.⊗)又D根ハ胚ノ幼根ニ由來スル原生ノ主根ヨリ發長シ概∞ノ側根ヲ悉生シ樹枝狀根系ヲ形成ス。莖幹ハ草本莖又木本莖、少〜多分枝、木部及皮部ノ區別明瞭、中央ヲ輪狀ニ排列セル開放(無限)維管束ニテ貫通セラレ、中心ニ髓ヲ有シ其形成層(新生組織)ノ活動ニ依リ肥大成長(厚經増育)ヲ営ム; 外表ニ表皮、發達ヲ見ル。

(52圖)



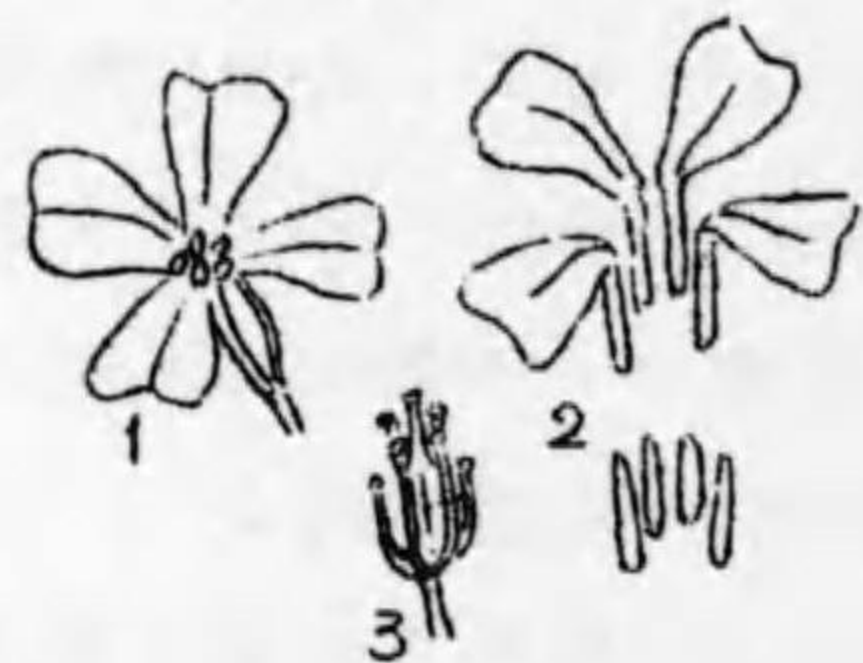
(52圖) — 單子葉植物及雙子葉植物ノ花ト葉ノ比較圖(原圖)

1. 雙子葉植物ノ5數端正花(平等花) 2. 同上ノ網狀脈葉 3. 單子葉植物ノ3數端正花 4. 同上ノ平行脈葉

葉ハ互生又對生稀輪生又亂生、形狀多散多變、全緣〜齒牙緣〜介裂、單葉〜複葉、概羽狀脈

屢掌狀脈又肋出脈ナルモ總テ網狀脈系ナリ。花ハ♂×♀♂  
 稀ニ雜性，端正又偏形，概兩花被花屢單花被花，概5數花  
 屢4又6數花稀3又2數花或以上ノ混合，概4又5花輪ニ  
 排列シ各器官ハ各互生ヲ原則トスルモ稀ニ對立生。花式ハ  
 ……K:5:C:5:A5 v. 5+5 G:(1-5)ヲ最多トスルモ，一般花  
 式ハ……K:n:C:n:An(v,n+n-∞)G:(0-n)ニシテn=5v.  
 4 γ. 3 v. 6 γ. γ. 2 v. 7……ナリ；而シテK.C共ニ(n+n)ノ  
 如ク重輪排列シ，Gハ稀G:(n+n)又G:n+n+……nノコト  
 アリ；又各器官ノ數位置ニ變化アル外，相互ノ離合關係及

(53圖)



(53圖) — 離瓣花ノ構造ヲ示  
 ス(原圖) 1. あぶらなノ離弁  
 花. 2. 全上ノ解剖圖. 3. 雄器  
 及雌器

花粉ハ概同時ニ4裂稀ニ4

分子形成アリ。極稀花粉塊(團)ナリ。

胚(芽胎)ハ概2ヶノ子葉ヲ具ヘ例外トシテ稀ニ多子葉  
 又1子葉(萎縮〜退化消失，例こまくさ，むらさきけまん，か  
 がりびさう，うしのれた，むしとり，すみれ等)又無子葉ナリ。  
 多子葉類ニハひな-がれ(2~5), *Psithacanthus* 屬(ヤ  
 どりぎ科, 4), *Persoonia* 屬(やまもがれ科, 2~8)等アリ，  
 無子葉類ニハらん科(さかねらん屬, はまうつぼ屬, ざんりや  
 うさう屬, いちやくさう屬等)ノ寄生又衛生物ニ此例アリ，

是等ハ概シテ胚ノ發育不完全ナリ。

(54圖)



(54圖) — 單花被花ヲ示ス(原圖)  
 1. いわりんさうノ單瓣花 2. 同  
 上ノ解剖圖. 3. 雄器及雌器

稔熟セル種子ハ胚乳ヲ包含シ  
 稀是ヲ缺如ス，而シテ種子ノ卷

芽スルヤ子葉ハ地上ニ展開スルヲ常トスルモ，屢卷芽ニ際

(55圖)



(55圖) — 無花被花ヲ示ス(原圖)  
 1. どくだみノ標花即無花被花ヲ示ス

シ種皮下ニ保留セラレ其貯藏養分ノ消  
 耗スルニ及ソテ目ヲ低減スルモノアリ

(例，くり屬，ぶな屬等ノ植物)ノ  
 内胚乳ハ多細胞ニテ細胞組織狀形

成ニテ基底器アルカ又ナシ，或ハ核狀(多核非組織狀)形  
 成。胚ノ位置ハ基部又中央。胞原細胞(花粉母細胞)ハ多  
 細胞又單細胞ナリ。

本綱ヲ次ノ二亞綱ニ分類ス。

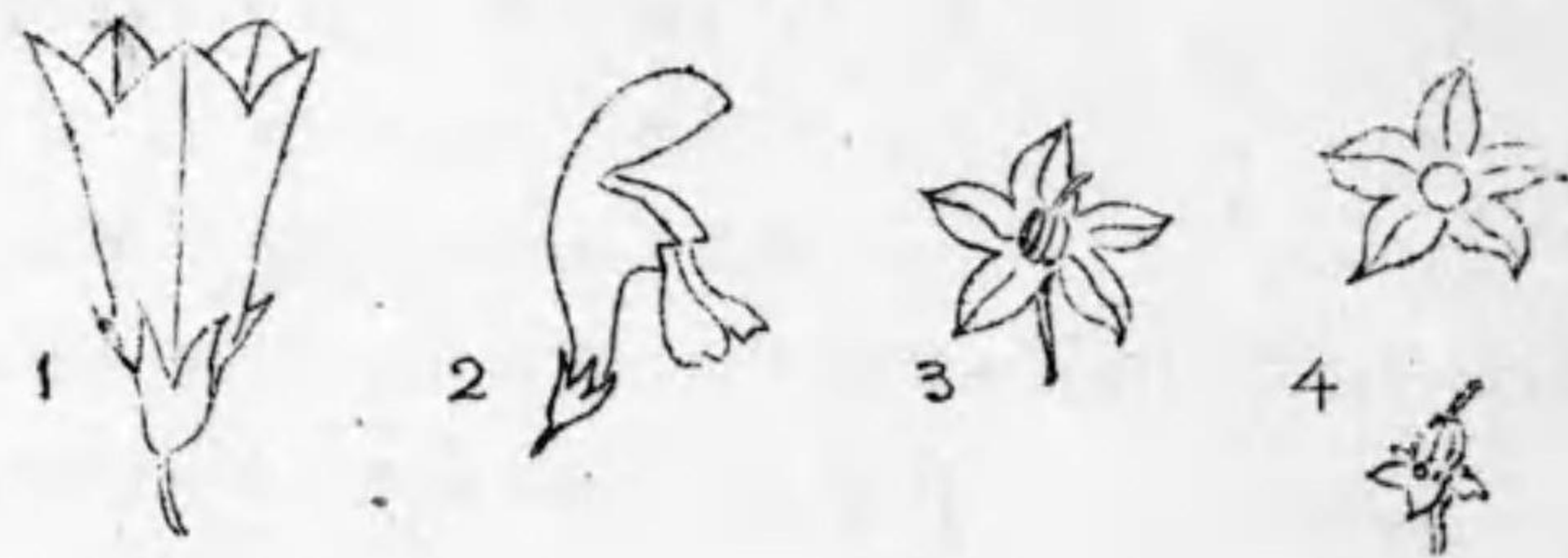
第一亞綱 離瓣花(多瓣花, 古生花被)植物亞綱

*Choripetalae* (*Polypetalae*, *Archichlamydeae*)……概  
 K.Cノ別アリ，Cハ相互介離ス，屢單花被又無花被ナリ。

第二亞綱 合瓣花(單瓣花, 新生花被)植物亞綱

*Sympetalae*, (*Metachlamydeae*)……概C(n)ニシテ漏斗  
 狀鐘狀管狀等ヲナシ，以縁上介離スルヲ常トス。

(56圖) 一種々ノ合瓣花ヲ示ス (原圖)  
 1. さきやう 2. おどりこさう 3. なすび (はす) 4. 同上ノ解剖圖



第一亜綱 離瓣花植物亜綱 (古生花被亜綱)

*Choripetalae (Archichlamydeae)*

本亜綱ヲ30目ニ分類スルモ其中藥用植物ニ關係アルモノハ次ノ24目ナリ。

○ 離瓣花植物亜綱ノ24目ノ檢索表

- 1 { 卵子ハ1箇ノ大孢子ヲ生ズ ..... 1
- 1 { 卵子ハ20箇又ハ其以上多數ノ大孢子ヲ生ズ ..... 2
- 1 { ..... 第一目 輪生目 *verticillatae*
- 1 { 花ハ普通萼ト花冠 (花被内輪) トヲ併有ス, 稀單花被ナリ ..... 14
- 1 { 花ハ普通花冠無ク, 又屢無萼無花冠ナリ ..... 2
- 2 { 花ハ全然無花被即裸花ナリ, 子房ハ1室ナリ ..... 3
- 2 { 花ハ普通單花被 (概萼) ヲ有シ, 往々兩花被ヲ有ス ..... 5

- 3 { 花ハ兩性或單性, 雌蕊ハ1~4箇ノ分離セル又結合セル心皮ヨリ成ル, 種子ハ内外兩胚乳ヲ有ス ..... 3
- 3 { ..... 第二目 胡椒目 *Piperales*
- 4 { 花ハ單性, 雌蕊ハ2箇ノ結合セル心皮ヨリ成ル, 種子ハ無胚乳 ..... 4
- 4 { 子房ハ含多數卵子, 結蒴果 ..... 4
- 4 { ..... 第三目 楊柳目 *Salicales*
- 4 { 子房ハ含1卵子, 結核果 ..... 第四目 楊梅目 *Myricales*
- 5 { 子房ハ下位 (G. 下) ナリ, 或雌花 (♀) ハ無花被 ..... 6
- 5 { 子房ハ普通上位 (G. 上) ナリ, 往々兩花被花ナリ ..... 11
- 6 { 寄生植物ニテ尋常葉ヲ有セス ..... 7
- 6 { 皆尋常葉 (寄生ノ場合トモ) ヲ有ス ..... 8
- 7 { 子房ハ1室, 1箇ノ卵子ヲ含ム ..... 7
- 7 { ..... 第九目 白檀 (檀香) 目 *Santalales*
- 7 { 子房ハ1室, 多數ノ卵子ヲ含ム ..... 7
- 7 { ..... 第十目 馬兜鈴目 *Aristolochiales*
- 8 { 花ハ兩性; 子房ハ4~6室, 各室ニ∞ノ卵子ヲ含ム ..... 8
- 8 { ..... 第十目 馬兜鈴目
- 8 { 花ハ普通單性 (♀♂), 稀兩性 (♀♂); 子房ハ1~3室, 各室ニ1~2箇或ハ少數ノ卵子ヲ含ム ..... 9
- 9 { 寄生植物ニテ無花冠, 或稀獨立植物ニテ有花冠ナリ ..... 9
- 9 { ..... 第九目 白檀 (檀香) 目
- 9 { 獨立植物ニテ無花冠ナリ. 花ハ普通單性ニテ雌雄同株

- (♀♂) ナリ ..... 10
- 10 { 葉ハ羽狀複葉ニテ無托葉 (♀♂) .....  
 ..... 第五目 <sup>クルミ</sup>胡桃目 *Juglandales*  
 葉ハ單葉ニテ有托葉, 概(♀♂)稀ナ .....  
 ..... 第六目 <sup>ナ</sup>栲目 *Fagales*
- 11 { 葉ハ普通鞘狀花葉ヲ有シ, 雌藥ハ概3ヶ屢2ヶ稀4ヶ,  
 結合心皮ヨリ成リ; 子房ハ1室含1卵 .....  
 ..... 第十一目 <sup>ゴザ</sup>蒙目 *Polygonales*  
 葉ハ鞘狀托葉ヲ有セズ; 花ハ兩性或ハ單性, 雄花ハ必  
 有花被 ..... 12
- 12 { 花ハ屢々萼ノ外ニ花冠ヲ有シ; 子房ハ概1室, 含离生卵  
 子; 種子ハ外胚乳ト屈曲セル胚トヲ有ス .....  
 ..... 第十二目 中央子(中心子)目  
*Centrospermae*  
 花ハ單花被, 萼様; 子房ハ1室, 1ヶノ懸垂稀直生卵ヲ含  
 ム ..... 13
- 13 { 葉ハ有托葉, 花ハ概單性又偏性退化, 種子ハ無胚乳或有内  
 胚乳 ..... 第七目 <sup>イラクサ</sup>蕁麻目 *Urticales*  
 葉ハ無托葉, 花ハ概兩性, 種子ハ無胚乳 .....  
 ..... 第八目 <sup>ヤマモミ</sup>山茂樫目 *Proteales*
- 14 { 子房ハ普通上位ナリ ..... 15  
 子房ハ普通下位ナリ ..... 23

- 15 { 心皮ハ1~∞, 概分離シ又独立ス, ムクモ柱頭ハ分立  
 ス ..... 16  
 心皮ハ概2~∞稀1, 概結合シ單雌藥ヲ成ス ..... 17
- 16 { 雄藥ハ普通雌藥ノ下位ニ在リ, 萼片ハ概分離ス, 花被ハ概  
 1~2輪生ニテ發育ノ程度多变化ナリ .....  
 ..... 第十三目 <sup>キンポウゲ</sup>毛茛目 *Ranales*  
 雄藥ハ普通雌藥ノ同位ニアリ, 稀其上位ニ着生ス, 萼片ハ  
 屢結合ス, 花被ハ概2輪生稀1又∞輪生 .....  
 ..... 第十六目 <sup>バラ</sup>薔薇目 *Rosales*
- 17 { 食虫植物(陸生~水生)ナリ .....  
 ..... 第十五目 <sup>シシトフ</sup>瓶罎草目 *Sarraceniales*  
 食虫植物ニ非ズ, 直生卵ヲ生セズ ..... 18
- 18 { 雄藥ハ普通花托ニ着生ス ..... 19  
 雄藥ハ普通花盤ニ着生ス ..... 21
- 19 { 萼及花冠ハ概5片宛ヨリ成リ, 葉ハ概有托葉 ..... 20  
 萼及花冠ハ概2~4片宛ヨリ成リ, 葉ハ概無托葉, 子房ハ  
 側膜胎座ヲ有ス ..... 第十四目 <sup>クシ</sup>罌粟目 *Rhoeadales*
- 20 { 萼片或萼裂片ハ芽中ニ於テ概覆瓦狀又同旋狀ニ排列ス,  
 子房ハ概側膜胎座ヲ有ス .....  
 ..... 第廿一目 側膜胎座目 *Parietales*  
 萼片或萼裂片ハ芽中ニ於テ概鑷合狀ニ排列ス, 子房ハ  
 概中軸胎座ヲ有ス .....  
 ..... 第廿目 <sup>セニアカ</sup>錦葵目 *Malvales*

- 21 { 雄蕊ハ萼片或花瓣ト同数又其ヨリ少数或多数アリ、同数ノ場合ハ概萼片ト對生シ花瓣ト互生ス ..... 22
- 21 { 雄蕊ハ萼片或花瓣ト同数在リテ萼片ト互生シ花瓣ト對生ス ..... <sup>ラウマキ</sup>鼠李目 *Rhamnales*
- 22 { 卵子ハ下垂シ其腹側(内方)ニ脊線ヲ有スルガ、又傾上シ其脊側(外方)ニ脊線ヲ有ス .....
- 22 { ..... 第十七目 <sup>アラカシ</sup> 槭牛兒目 *Geraniales*
- 22 { 卵子ハ下垂シテ其脊側(外方)ニ脊線ヲ有スルガ、又傾上シ其腹側(内方)ニ脊線ヲ有ス .....
- 22 { ..... 第十八目 <sup>アフロジ</sup> 蕪患子目 *Sapindales*
- 23 { 莖ハ肉質多齒、 $\infty$ ノ針(葉)ヲ有シ、概尋常葉ヲ有セス .....
- 23 { ..... 第二十二目 <sup>サボテン</sup> 仙人掌目 *Opuntiales*
- 24 { 莖ハ尋常葉ヲ有シ、肉質多齒ナラス ..... 24
- 24 { 雄蕊ハ概花瓣ヨリ $\infty$ 、或花瓣ト同数；雌蕊ハ概単体花柱ヲ具ヘ、花托ハ必凹形、葉ハ概直平行維管束ヲ有ス .....
- 24 { ..... 第二十三目 <sup>マンニツク</sup> 桃金娘目 *Myrtiflorae*
- 24 { 雄蕊ハ概1花輪生、各心皮ハ概1ヶ宛ノ卵子ヲ生シ、種子ハ多量ノ胚乳ヲ含ミ、花ハ概繖形花序系ニ排列ス .....
- 24 { ..... 第二十四目 繖形花目 *Umbelliflorae*

第一目 輪生目 *Verticillatae*

本目ハ次ノ一科ヨリ成ル。

Fam. (i) もくまわう(木麻黄)科 *Casuarinaceae*

形質——を又を、麻黄及木賊類似植物。莖ニ明節及縱枝アリ、枝ヲ輪生シ其縱溝内ニ氣孔陷在ス。葉ハ小形鱗狀輪生ス。花ハ(♀♂)；♂ハ葉裏花序様總ヲナシ鞭狀枝ノ先端ニ占居シ、花被片2苞狀、雄蕊1箇中央ニ位ス；♀ハ短頸狀花序ヲナシ細小側枝ノ先端ニ生ズ、無花被、G(2)、2柱頭ハ絲狀、子房ハ概2室、2-4直生卵子ヲ含ミ結実性後室ハ無卵子不実性；卵子ハ20又其以上ノ大孢子(胚囊)ヲ生ズ、花粉管ハ合点ヨリ進入直上シ♀性前葉体ノ上端ニ達ス(即卵底受管)。果実ハ複果、各翅果ハ木質鱗狀ノ小苞葉ニ包マル。種子ハ無胚乳。

成分及効用——皮質部ニ鞣酸(*Gerbstoff*, 單寧類)及 *Casuarin* ナル褐色々素ヲ有スル故鞣皮用及染用ニ供シ東印度及「ネリネシア」ニテハ藥用トス。 *Casuarin* ハ羊毛及絹絲ヲ永久ニ褐染ス。材ハ堅硬ニシテ鉄木ト稱シ珍重セラレ。美觀ニ依リ觀賞用又街路樹(台湾・南洋)トス。

分布及屬種數——熱帯産樹木ニシテ濠洲ニ多産シ、熱帯・亞熱地方ニ移植セラル、1屬(*Casuarina*)25種ヲ包含ス。我邦ニ栽植スルモノ1屬3種ヲ下ラズ。

本科ノ藥用及有用植物——

(1)ときばぎよりう(常盤榲柳) *Casuarina equisetifolia* Forst. [分布生態] 旧熱帯海岸生喬木、10米。

[成分] 樹皮ニ褐色素ノ外畧18%ノ鞣酸ヲ含ム。[藥効其他] 樹皮ヲ收斂劑トス、又褐色ノ色素ヲ採リ染用トス、材ハ鉄材又



鉄樹ト称シ悉異用其他ニ供ス観賞用トス。

(2) もくまわう (木麻黄) *C. stricta* Ait. [分布] 濠洲原産, 台湾南部ニ移植, 4~5 米。 [成分効用] 畧同上, 代用西トスベシ, 又観賞用, 街道樹トス。

### 第二目 胡椒目 *Piperales*

特徴 — ②, ③ 式。單葉無分裂, 有縁全縁, 托葉有又無。時ニ全株ニ芳香性樹脂又油ヲ含ム油 (槽) 細胞ヲ多含ス (こせう科)。花ハ ♀ 又 ♂, 又 ②, ③ 細小ニシテ穗狀又偽繖狀, F. f. = Po r. 1 A 1~10 G. (1-4)。種子ニ内外両胚乳アリ, 内乳ハ細胞組織狀。次ノ 3 科アリ。

#### ○ 胡椒目 3 科ノ検索表 (57~59 図参照)

- 心皮ハ 1 ヶ, 子房ハ 1 室, 室頂ヨリ懸垂セル 1 直生卵子ヲ有ス.....Fam. (iii) ぢやらん (金粟蘭) 科 *Chloranthaceae*
- 心皮ハ 1~4 ヶ 合生又分離, 子房ハ 1~4 室.....
- G. (3~4); 1~4 室, 各室 2~∞, 直生卵子ヲ含ム.....  
.....Fam. (i) どくだみ (はんげしやう) (十藥, 三白草) 科 *Saururaceae*
- G. (1~4); 子房 1 室, 基底着ノ 1 直生卵子ヲ含ム.....  
.....Fam. (ii) こせう (胡椒) 科 *Piperaceae*

Fam. (i) どくだみ (はんげしやう) (十藥, 三白草) 科

*Saururaceae* (55 及 57~59 図参照)

形質 — ②, 油 (槽) 細胞ヲ有ス。葉ハ長卵心形~心形, 有柄, 有托葉, 互生 ② 着。花ハ ♀, 無花被即裸花, 各花有 1 苞; 穗狀花序ハ基脚有 4 總苞, 白色, 又軟; F. f. = Po A 3 v. 6~8 G. (3~4 r. 5~6); 各心皮ハ 2~∞ 直生卵子ヲ生ズ, 子室ハ 1~6 室, 壁縁又中軸胎座。果実ハ蒴又蓇葖或漿果, 内乳ハ饒多粉狀胚ハ微小。

成分及効用 — 成分ハ木精査ナルモ, 檳榔油ヲ含ミ, 其主成分ハ *Methyl-n-Nonylketon* 多シ。藥用又観賞用トス。

分布及属種數 — 世界ニ 3 属 4 種ヲ産シ, 亞細及北米ノ暖温帯ニ分布ス。本邦自生 2 属 2 種アリ。

#### 本科ノ藥用植物 —

(1) どくだみ (じふやく, 十藥, 血藥, 藪菜, 藪草) *Houttuynia cordata* Thunb. (55 及 57, 58 図) [分布生態] 本四・九州・台湾ノ平地山麓陰地ニ粗~密生ス。

[(57 図) — どくだみノ花序式圖 (原圖)]



[生藥] 藪菜 *Herba Houttuyniae*  
全草ヲ開花前ニ採乾セルモノ也。

[成分] 揮発油ヲ含ミ, 其主成分ハ *Methyl-n-Nonylketon*  $CH_3-CO-(CH_2)_5-CH_3$  ナリ。其他少量ノ *Myrcen*, *Caprin-*

säure, Quercitrin 等ヲ含ム。而シテ精油ハ本種特有ノ臭氣ヲ有セザルハ奇ナリ。

(58圖) — どくだみノ花式圖(原圖)  $B_1PoA_3+0G(3)$



[藥効] 利尿薬トシテ淋疾・尿道炎・水腫ニ煎服, 1回8瓦。治瘡薬ト化膿・腫物・創傷・汗疱・淫疹等ニ生葉ヲ揉ミ貼付シ, 又煎汁ニテ洗滌或巻法ス, 特ニ蒸焼トシ飯粒ト練リテ腫ノ吸出シニ大効アリ。毒下

シトシテ瘡毒, 淋病, 腎臟病ニ煎服ス。生葉ヲ塩ニテ揉ミ痔疾患部ニ敷回塗布。浴湯用トスレバ田虫, 疥癬, 疥疾, 腰痛ニ有効。茶劑トセバ駆虫劑(蛔虫)トナリ, 毒解シ, 毒下シ又下劑トナリ, 健胃強壯薬トナル。(以上民間)。地下莖ヲ食用トス。

(2) はんげりやう(かたしろぐさ)(三白草) *Saururus Lourieri Decne.* (59圖)。

(59圖) — はんげりやうノ標花(原圖),  $B_1PoA_6G(3-5)$



[分布生態] 本(中南部)・九・琉・各・朝・ニ産シ, 湿地, 溝畔ニ粗〜稍密生ス。[成分] 未詳。

[藥効] 莖葉ヲ煎服スレバ利尿劑(脚氣・水腫)トナリ, 枝葉藥・胃腸病薬トナルモ, 人ニ依

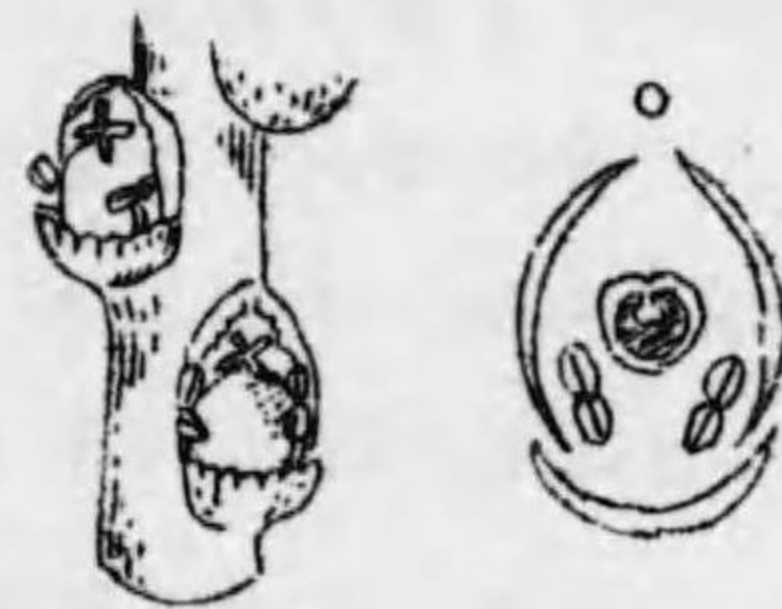
リ吐逆ノ副作用アリ。觀賞用トス。

Fam. (ii) こせう(胡椒)科 *Piperaceae* (60圖参照)

形質 — ②, 屢  $\left\{ \begin{array}{l} 往々稀き, \\ 全株油(槽)細胞ヲ有シ有鋭$

香。葉ハ長卵形〜楕円形又心形, 互生稀對生又輪生, 有托葉又無。花ハ♀ス♀♂, 概穂狀又總狀花序, F.f. =  $POA_1 \sim 10G$  (1~4), 1子室ハ基底ニ1直生卵子ヲ生ズ。果実ハ漿果又核果, 屢内胚乳ハ核狀也。

(60圖) — 1. こせうノ花序ノ一部(Baillon) 2. 全花式圖(warming)  $B_3PoA_2G_1$



成分及効用 —

本科ハ概刺激性又芳香性ノ精油又脂肪油樹脂ヲ含有シ, 尚植物鹼基, 苦味質等ヲ含有ス。

即如次。植物鹼基 (*Piperin, Piperidin* 等, *Piperalkaloide, Methylpyrrolin, Zaboridin, Zaborin* 等), 苦味質 (*Kubebin*), 其他ノ物質 (*Sesquiterpen, Methysticin, Kawain, Yangonin, Kubeben-säure, Dihydromethysticin*) 等也。本科ニハ香辛料, 藥用草ニ供スルモノ不尠。

分布及屬種數 — 世界ニ凡9屬1100種ヲ有シ, 主ニ熱帯産僅數ハ亞熱産。我邦ニ自生又栽培スルモノ21種ニ産シ主ニ各・琉・小笠原ニ分布ス。

本科ノ藥用植物 —

○(1) こせう(胡椒) *Piper nigrum L.* (60圖) [分布生態] 東印度原産, 熱帯各地ニ移植, 長3~4米ノ蔓草。[生薬]

黒胡椒 (蜀方) *Fructus piperis nigri* ハ半紅熟果ヲ採乾 (黒蒔ス) セシモノ有。白胡椒 *piper album* ハ黄熟果ヲ洗滌脱果皮白化セルモノ、無皺。共豌豆大、無梗。

[成分] 塩基 (*Piperin, Chavicin* 辛味ノ基), 精油 (*l-Phellandren, Sesquiterpen, Caryophyllen*), 樹脂等ニテ芳香ハ精油ニ基因ス。 [薬効] 黒果ヲ粉末トシ香調味料ニ汎用ス, 特異ノ辛味ヲ有ス。又食欲増進薬トシ, 健胃驅風薬トシテ一回 0.5-1瓦 (散・丸・酒精浸劑) ヲ服用ス, 尚舌部ノ麻痺ニ咀嚼劑トス。白胡椒ハ味峻烈灼クガ如キモ前者ニ比シ芳香性佳快ナリ, <sup>マラリア</sup> 同歌熱ニ応用スル外効用同前者。

(2) ふとう-かづら (つるごせう), (風藤葛, 蔓胡椒) *P. Futo-kadsura Sieb* [分布・生態] 本 (中南部)・四・九・台・朝ノ常緑藤木。 [生薬] 風藤葛実乾莖ハ風藤葛<sup>トコソウ</sup>又土藤葛 [薬効] 果実ヲ煎服スレバ健胃驅風薬トナリ。乾莖ハ風邪・神経痛ヲ治シ, 健胃薬トナリ, 下利ヲ治スルニ煎用ス。根ハ毒蛇咬傷薬ニ用フ。

○(3) ひつちようか (くべは, 華澄茄) *P. Cubeba L. f.* [分布・生態] 東印度・瓜哇・及近接諸島ニ分布又栽培, 半藤木。 [生薬] 未熟果ヲくべは実又華澄茄 (*Fructus Cubebae*) ト称ス。

[成分] 果ハ精油 10~18% (主成分 *Terpen C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>, Bipenten C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>, Cadinen, Sesquiterpenalkohol* 等) 苦味質 *Cubebin C<sub>20</sub>H<sub>20</sub>O<sub>6</sub>*, 樹脂状ノ *Kubebensäure*

$C_{13}H_{14}O_4$  等ヲ含有ス, 味ハ窸透芳香性非奇烈少ク苦シ。

[薬効] くべは実又華澄茄 (蜀方) ハ淋病薬トシ一日 (數回) 1~5瓦 (一回量) ヲ散劑トシテ内服ス, 消化器障害甚キ長所ヲ有ス。くべは越規斯 (華島) ハ治淋薬トシテ一日量 0.5~20瓦ヲ膠囊劑又丸薬トシテ内服ス。

(4) ひはつ (華菱) *P. officinarum DC.* [分布・生態] 東印度・安南・馬來半島及沖繩ニ分布スル蔓草。胡椒トハ花穂長ク葉腋ヨリ出デ葉側脈多 (5~7双) キニヨリ區別ス。 [生薬] 乾果ヲ華菱又華効・華撻ト称シ, 古來漢方薬トス。 [成分] 未詳乾果ハ黒灰又赤灰色, 氣味胡椒ノ如キモ苛劇如灼。 [薬効] 健胃・興奮薬。漢: 急性胃腸加甚見ニ一回 1~2瓦ヲ服用ス, 外用ニハ粉末トシ肥厚性鼻炎ニ吹入ス。歐洲ニテハ稀ニ殺菌劑トスルモ薬効不確實也。

(5) きんま (茜草, 羌葉) *P. Betle L.* [分布・生態] 東印度其他熱帯各地, 台・栽培ノ蔓草。 [生薬] <sup>キンショクエフ</sup> 茜草葉 *Folium Betle* ハ其採乾葉也, 長 10セメ, 心形 5~7 行脈有柄。 [成分] 乾葉ハ精油 0.8~1.8% (主成分 <sup>シヤビベトール</sup> *Chavibetol C<sub>10</sub>H<sub>12</sub>O<sub>2</sub>, Chavicol*) ヲ含有ス。 [薬効] 漢: 葉ヲ健胃祛疾止瀉薬トス, 種子根モ同効アリ。嗜好料 (南洋及熱帯各地ニテ檳榔子ニ少量ノ石灰ヲ附ケきんま葉ニ包ミ嚼煙草ト称スル嗜好品ヲ作ル, ひんわうじノ項参照)。

△(6) かわ (かわかわ) *P. methysticum Forst.* [分布・生態] ポリネシア諸島, 我邦南洋, ハワイ島ニ自生又栽培, ⊙, 高 3 米,



葉心形鋭頭。〔生薬〕根及根莖ヲかわ根ト称シ布哇ヨリ多度ス。〔成分〕*Methysticin*  $C_{15}H_{14}O_5$ , *Diphydro-methysticin*, *Kawain*  $C_{14}H_{14}O^3$ , *Diphydrokawain*, *Yangonin*  $C_{15}H_{14}O_4$ , *Desmethoxyyangonin* 等ノ外 *Alkaloid* 0.02%, *Glykosid* 0.7% 及かわ樹脂約5%含有。かわ樹脂ハ麻醉性ヲ有シ, 「アルカリ」=依テ冷時酸化セバ *Kawasäure*  $C_{15}H_{16}O_5$ ,  $\beta$ -*Kawasäure*  $C_{14}H_{18}O_4$   $\beta$ -*Methysticinsäure*  $C_{14}H_{14}O_3$  等ヲ生ズ。〔薬理〕 $\Delta^4$ -ステロン<sup>7</sup>ハ麻醉作用不着,  $\Delta^4$ -ヤンゴニン<sup>7</sup>ハ僅ニ反射興奮性ヲ有シ麻醉作用無。かわ樹脂ハ局所麻醉作用ヲ有シ一般麻醉ニ陥ル, 之ヲ持長服スレバ障害肝臓, 皮膚=悉癩様潰瘍。此嗜好人種=見本中毒症 *Kawaiismus*。かわ根亦麻醉性ヲ有ス。〔薬効〕根及根莖ヲ利尿(米津局方)・防痲(痲疾・膀胱カタル, 急性多悉性関節炎等)薬トス, 又ポリネシヤ土人ハ根ノ搾汁ヲ嗜好料トス。津局: かわ根, かわエキス, かわ流動エキス。〔新薬〕かわ樹脂ヲ白檀油又他ノ *Sesquiterpenalkohol* 含有ノ精油ニ溶和シテ治淋薬トス, 蓋其排泄ニ際シ局所麻醉作用ニ依リ尿道痛覺ヲ減少シ, 其内ニ含有スル樹脂酸ハ殺菌力ヲ有スト云フ。かわ樹脂配伍ノ新薬如次。

*Gonosan* (リーデル), *Kawasantal* (パークデービス), *Cryptal* (武田), *Obutal* (塩の), 複方カワカワ錠(マルホ)。〔処方例〕: かわエキス 0.2. 白糖 3.0 (10包トシ3時間毎ニ1包内服)……急性多悉性関節炎・淋疾・膀胱カ

タル等ノ鎮痛劑トス。

Fam. (iii) ちゃらん(せんりやう)(全葉蘭草珊瑚)科  
*Chloranthaceae* (61~63回参照)

形質——(61回) 2又3, 有油細胞。單葉, 有托葉, 有鋸齒。花ハ♀又♂, 無花被又或苞様花被, 穗状又聚繖花序,  $F.f. = Po \sim 1$   $A(1 \sim 3) G1 -$  (63回); 子房ハ1室, 1ヶノ下垂直生卵子アリ。果実ハ核果, 種子ハ内外胚乳アリ。

成分及効用——未精査, 薬用又観賞用トス。

分布及屬種数——世界ニ3屬凡33種ヲ産シ, 主ニ熱及亞熱地方ニ分布ス。我邦ニ自生又栽培スルモノ3屬5種(1種栽培)ヲ産ス。

[(61回) — せんりやうノ單性花(原圖)(♀♂共存ス)]

♀ = PoG1 ♂ = PoA1



本科ノ薬用及有用植物——

(1) ふたりレづか(及己) *Chloranthus serratus* Roem. et Sch.

〔分布生態〕南千・北・本・四・九・ノ山麓乃至山腹ノ陰地ニ点生~粗群生ス。〔薬効〕根ハ惡瘡ヲ治ス, 又殺虫ノ効アリ, 皮膚病ニ有効。

(2) たいわん-ふたりレづか *Ch. Oldhami* Solsm.

〔分・生〕台・ノ山地。〔成分〕未詳。〔薬効〕根ヲ腹痛及蛇毒咬傷ニ煎服ス。

(3) ちゃらん(全葉蘭) *Ch. spicatus* Makino.

[分生] 支那原産、日本ニ栽植。[成分] 未詳。

[効用] 芳香アル花ニテ茶ニ香氣ヲ附ス。又觀賞用トス。  
(62回)

(4) ヒトリシブカ (まゆはささう、銀線草、眉掃草) *Triser-  
candra japonica Nakai* [分生] 樺・千・北・四・九・  
朝・ノ山地ニ粗生ス。葉ハ輪生。[成分][藥効] 共ニ未調  
査。(63回)

[(62回) — ちゃらんノ花式圖  $P_0 A_3 \overline{G} \overline{G} \overline{I}$  (Eichler)]



[(63回) — 1. ヒトリシブカノ両性花,  
 $P_0 A_1 \overline{G} \overline{I}$ 。2~4  $A_3$  分  
裂ノ変化順序 (原圖)]



### 第三目 楊柳目 *Salicales*

本目ニハ次ノ一科アリ。

Fam. (i) ヤナギ (楊柳) 科 *Salicaceae* (64,  
65回参照)

形質 — 互ニ互ニ又互ニ。葉ハ單葉無裂稀淺裂 (*Popu-  
lus* 屬), 概有鋸齒縁, 互生, ③着, 有托葉。花ハ♀♂, 無被, 花盤有  
又無, 穂狀ノ葉莖花序;

♀ =  $P_0 \overline{G} \overline{I}$ , ♂ =  $P_0 A (2-\infty)$ ; 花盤 (*Populus*) ト蜜腺  
(*Salix*) トハ花被ノ変形退化ニ因ル, 形状多様; 花脚1有苞  
全辺 (*Salix*) 又分裂 (*Populus*); 柱頭ハ2~4; 子

房ハ1室, 壁面 (側膜) 胎座,  $\infty$  ノ倒生卵子ヲ有ス。果實ハ  
蒴果, 種子ハ有軟密毛, 無胚乳, 種皮薄弱, 胚ハ直, 生活時短シ。

(64回) — しだれやなぎノ單性花ト花  
式圖 (原圖) 1. ♂ 2. 全花式圖 3. ♀  
4. 全花式圖...  $B, P_0 A_2 \overline{G} \overline{I}$



成分及効用 — ヤナギ屬ノ葉及樹  
皮ニハ一般ニ *Salicin* ト稱スル苦  
味結晶性ノ配糖体 (藥用) ヲ含有シ,

やまねらし屬ニハ *Populin* ヲ含有ス。此外 *Saligenin*,  
*Salicinerein*, *Rutin* 等ノ *Glycosid*, 外ニ *Mannan*,

(65回) — やまねらし屬ノ單性花  
ト花式圖 (原圖) 1. ♂ 2. 全花式圖  
3. ♀ 4. 全花式圖...  $B, P_0 A \infty \overline{G} \overline{I}$



*Mannit*, *Xylan*, 鞣酸, 没食子酸  
等ヲ含ミ, 稀ニ精油ヲ含有ス。

藥用 (樹皮, 枝, 葉, 根等) 外, 工薬用 (杖

觀賞用, 浴花 (生草), 木材用, 器具用, 織物 (經木, 真田) 用, 製紙用, 燐  
寸軸木用等効用大ナリ。

分布及屬種數 — 本科ハ世界ニ4屬畧300余種ヲ産シ, 主  
ニ北半球温帯地方ニ分布シ, 少数ハ熱及亞熱帯ニ分布ス。本  
邦ニ4屬 (*Salix*, *Chosenia*, *Toisusu*, *Populus*) 凡ソ

120種ヲ産ス。

本科、薬用及有用植物 —

(1) かばやなぎ (水柳) *Salix Gilgiana* Seem.

[分布生態] 北・本(北中部)・朝; 平地・山麓ノ河岸生ノ木ニ至ル。[生薬] 樹内皮及梢皮ヲ水楊皮又楊皮ト称シ、春秋根岸頂採乾ス。葉皮根ハ花時採乾ス。[成分] 生薬ニハ *Salicin*、鞣酸 (*Gerbstoff*)、外 *populin* モ含有スト云フ。

[薬効] 生薬ヲ煎服セバ感冒ノ収斂性解熱劑又解熱性利尿薬トナリ苦味健胃薬トナル。収斂薬トシテ肋膜炎・骨膜炎腫物・打撲等ニ煎煮法劑トシ又浴湯用トス。内用ニハ1回1~4瓦、外用ニハ10倍煎液トス。楊皮ヲ主トシ葉莖是。

(2) しだれやなぎ (枝垂柳・垂楊柳) *S. babylonica* L.

(64回)。[分布生態] 西北亞ノ原産、本邦隨處ニ栽植、露傍庭園・社寺等。大レだれ・小レだれの2品種アリ。[生薬] 同前種。[成分] 葉ニハ *Salicin* ヲ不含、*Salicinase* ヲ含ム。[薬効及他効用] 内皮ヲ煎出シ懸液料又浴湯用トシ凍傷・リウマチス・ヒゼン・ニキビ・木虫ヲ治ス。是ヲ煎服セバ黃疸・麻疹・特ニ感冒ノ解熱利尿薬トナル。葉ヲ煎服セバ解熱薬トナリ、洗滌セバ筋骨ヲ續キ・肉ヲ生ジ・瘡ヲ止ム、又悪瘡・漆瘡ヲ治ス、汗疣ニ白桃葉及十藥ノ莖葉ト共ニ浴湯料トシテ有効。材ハ純白色蠶甲ヲ接ク押ヘニ最可、材板ハ器具用、茶席ノ天井板・基盤・須板トス、又觀賞用トス。

(3) しらやなぎ *S. alba* L. [分布] 欧米原産、河岸ニ生

育。[成分] 樹皮ト葉ニ *Salicin* ヲ含ム。[薬効] 梢皮ヲ *China* 代用トシ解熱及腺病質及病後ノ衰弱ニ強壯劑トス。[備考] 和産(しらやなぎ) *S. hirosakensis* Koidz. ハ北・本(北中部)・産也。

(4) たいわんやなぎ *S. Warburgii* Seem. (= *S. Gilgiana* v. *Warburgii* Koidz.) [分布] 台湾特産。[薬効] 根莖ヲ煎服セバ疲労ヲ治ス。

(5) どりやなぎ (どり、どりやなぎ、青楊) *Populus Maximowiczii* A. Henry (65回) [分布] 樺・南千・北・本(北中部)、平地・山腹下部ノ溪畔点生~林立。[成分] 未詳ナレバ *Populin* 及 *Salicin* 及鞣酸ヲ含有スベシ。

[薬効] 樹皮ヲ煎ジテ解熱利尿薬トス。[其他効用] 材ヲ燐寸軸木・經木・總楊板トシ、又白茶箸・扇筥等ヲ造リ(特ニ旧時)、種毛ヲ蒲團ノ心トス。

(6) ぎんどり (はくやう、白楊) *P. alba* L. [分布] 歐洲原産、本邦栽植。[成分] 全上(?) [薬効] 全前種。

(7) こくやう (あめりか-はこやなぎ、ほぶら、黒楊) *P. nigra* L. (及 *P. pyramidalis* Roz ヲ含ム) [分布] 歐洲原産、本邦栽植。[成分] *Populin*、*Salicin*、バルサム様樹脂、没食子酸。[薬効] 新芽ニテ軟膏ヲ製シ、火傷・炎症ノ出血部ニ塗布ス。

#### 第四目 やまもも(楊梅)目 *Myricales*

本目ニハ次ノ1科アリ。

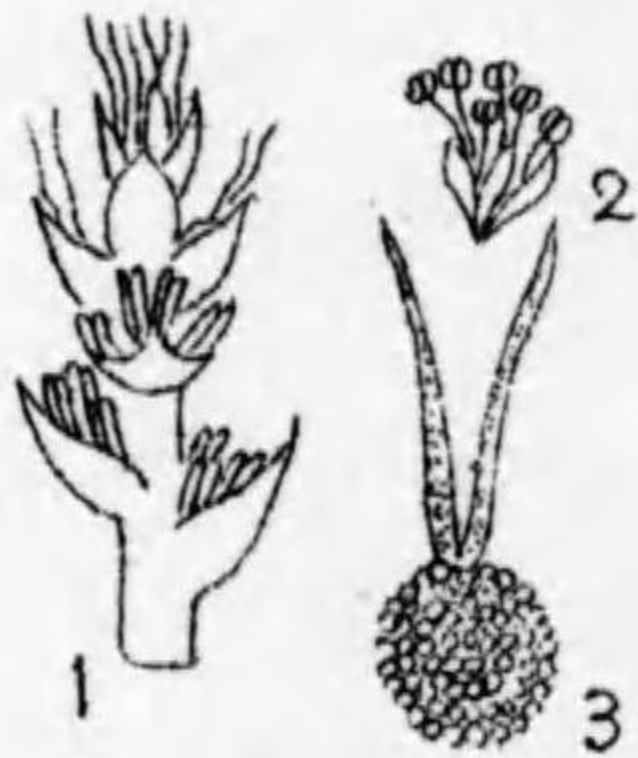
Fam. (1) やまもも (楊梅) 科 *Myricaceae* (66 図参照)

形質 — 茎、枝又互。葉ハ中、無花葉、概單葉、有齒縁稀羽裂。花ハ(♀♂)又♀♂、基部厚有苞、無花被、穗狀稀複穗狀花序。♂ = Po A<sub>2</sub> ~ 4 ~ 16, ♀ = Po G(2), Aハ概4, 柱頭2絲狀, 1子室1卵膜、基立性直生卵子ヲ藏ス。核果、外皮ヨリ蠟質ヲ分泌ス、種子ハ無胚乳。

成分及効用 — 脂肪油・精油・安息香酸・鞣酸・没食子酸・林檎酸等ヲ含有シ、特種者ハ配糖体 *Myricitrin* ヲ含ム。

本科ハ藥用ノ外ニ木材用・鞣皮用・染用・製蠟用・食用(果実)等ニ供ス。

(66 圖)



(66 圖) — やまもも 屬ノ單性花 (Maout & Decaisne) 1. やまもも 屬 (*M. serrata*) ノ花序. 2. 公 花. 3. 雌藥 (やちやなぎ)

分布及種屬數 — 世界ニ1屬40餘種ヲ産シ、主ニ亞熱帶産也。我國

ニ自生又栽培スルモノ、1屬3種ヲ産ス。

本科ノ藥用植物 —

(1) やまもも (楊梅) *Myrica rubra* Sieb. et Zucc.

[分生] 本(中南部)・四・九・琉・台・ノ山麓・山地(特ニ千葉和歌山・四國鹿兒島・沖繩ニ多産ス)ニ自生スルモノ。[生藥] 楊梅皮 *Cortex Myricae* ハ乾樹皮・半管狀・外面灰褐色内面

暗褐色、收斂味アリ。楊梅實ハ藥果生品也。[成分] 樹皮ハ單寧 *Myricetin* C<sub>15</sub>H<sub>10</sub>O<sub>5</sub>, *Myricitrin* C<sub>21</sub>H<sub>22</sub>O<sub>13</sub>ヲ含ム。丙ハ次ノ如ク分解ス…… C<sub>21</sub>H<sub>22</sub>O<sub>13</sub> + H<sub>2</sub>O = C<sub>15</sub>H<sub>10</sub>O<sub>5</sub> (*Myricetin*) + C<sub>6</sub>H<sub>14</sub>O<sub>6</sub> (*Rhamnose*)。果ハ有酸味、含種々有機酸。[藥理] *Myricetin* ハ腎臟ノ直接作用及心機元進ニヨリ強カナル利尿作用ヲ有ス、*myricitrin* ハ更ニ強カナリ。[藥効] 漢：楊梅皮ヲ收斂(下劑・出血・打撲症)藥、殺虫劑、解毒(砒素中毒)藥トシテ煎用ス。又樹皮煎汁ハ防臭收斂劑トナリ、惡瘡其他一切腫物ニ有効、尚打撲傷ノ患部ヲ洗滌ス。樹皮ノ細粉ヲ油ト煉リ火傷ニ塗布シテ有効。

[處方例] 1) 寸金丹 (食傷・霍亂ニ有効)……楊梅皮 40.0 黃藥 20.0 胡椒 12.0 山椒 4.0 沈香 3.0……以上爲粉末作丸藥。2) 楊梅散 (跌撲損傷ニ有効)……楊梅皮、無名異、黃藥各等分……以上 細末粘和、貼布患部。果實ハ生食シ、醫渴、霍亂、胸痞ニ有効、瘡癩ハ祛痰・酒毒・嘔吐ニ有効、果ニ紅・白(しろもも・レちやまもも)ノ二品アリ。[其他効用] 樹皮煎汁ハ桃皮越錢斯(灌木エキス)ト稱シ20~40%單寧ヲ含ミ木醋酸ヲ加ヘ魚網木綿絹等ヲ黑又鼠色ニ染ムル外鞣皮工業ニ使用ス。尚明礬錫塩等ノ媒染劑ヲ加ヘ黃色、鉄媒染劑ニヨリ黒茶色ニ染色ス、徳之島ニテ灌木越錢斯ト稱スルモノ是也。

第五目 くろみ (胡桃) 目 *Juglandales*

本目ニハ次ノ科アリ。

Fam. (i) くるみ(胡桃)科 *Juglandaceae* (57.63  
図参照)

形質 — 木, 全株富鞣質及樹脂然モ樹脂道ヲ具ス。葉ハ,  
①, 無托葉奇数羽狀複葉。花ハ(♀♂), 單花被有又無, 花被下  
有小苞如葶藶狀花序(葉腋), F. f. = B. (1-3); Po ~ 2-6 A 3 ~ 40  
G ②, 花ハ退化 = 四ヲ單性化ス; ♀ = Po ~ 2-4 G ②, ♂ = Po ~  
4-6 A 3 ~ 40, 柱頭2, 不整齒牙縁, 子房ハ1室, 基底 = 直生1



卵子ヲ生ズ, 卵被ハ1層, 合点受精ヲ営ム。果實ハ核果又堅果,  
種子ハ無胚乳, 莖芽時子葉ハ地下殘留。

成分及効用 — 鞣酸類及精油ヲ含ミ特ニ種子ハ脂肪油ヲ  
多含ス, Alkaloid 極稀 (*Juglandin* ハ? アリ), 其他配  
糖体 *Quercitrin* / 外,  $\alpha$ - $\beta$ -*Hydrojuglon*, *Juglon*  
(*Oxy-naphthochinon*), *Xylon*, *Inosit*, 鞣酸, 浸食子

酸, *Ellagsäure* 等ヲ含有ス。藥用, 外染料(果皮), 木  
材用, 器具用, 食用(種子)トシテ大効アリ。

分布及種屬數 — 世界ニ6屬凡40種アリテ主ニ北半球  
ノ溫帶地方ニ少數ハ東亞熱帶ニ産ス, 北米ニ僅數アリ。本  
邦ニ自生又植栽スルモノ5屬10種アリテ樺台間ニ分布ス。

本科ノ藥用植物 —

(1) おくくるみ及ひめぐるみ, (くるみ, 鬼胡桃, 山胡桃,  
炬胡桃) *Juglans Sieboldiana Maxim.*

[分生] 樺 (他ニヒカラふとくるみアリ) 北本四九ノ平地  
〜山地ノ河岸生。栽培ニあたふくぐるみ(ひめぐるみ)  
*V. Cordiformis Mak.* アリ。果ハ扁球形鋭尖頭殆平滑。  
核ニハ深廣脚心形脱易シ。[生藥] 胡桃仁 *Semen*

*Juglandis* 及果皮, 其他胡桃油及葉。甲ハ2瓣裂馬鞍  
狀子葉多脂肪, 乙ハ肉質褐綠色。[成分] 末精査ナルモ歐  
州胡桃 (*J. Regia L.*) ノ成分ハ……種仁ハ脂肪油(胡  
桃油) 40 ~ 50% (主ニ *Linoloreglycerid*) ニテ  
少量ノ  $\gamma$ -*リノレン酸* 及油酸  $\gamma$ -*グリセリド*ヲ混ズ), 蛋  
白質 15 ~ 20%。ペントサジノ  $\gamma$  ~ 1.5%ヲ含ム故本種モ  
果ト大差ナカラシ。其他未熟ノ假果皮ハ  $\alpha$ - $\beta$ -*Hyd*-  
*rojuglon*ヲ含ム, 甲ハ空氣中ニ酸化シ。 *Juglon*  
(*5-Oxy-naphthochinon*)ヲ生ズ, 之ヲ皮膚ニ塗バ  
水泡ヲ生ジ黒炭ス服用セバ下痢ス, 乙ハ氣中ニ酸化セズ,  
酒精製塩酸ヲ作用セバ甲ニ炭ス, 以上ノ外隣酸及隣酸カル



シム含有ス。堅果皮(内果皮)ハ約6%、(ペントサン)  
(主=Xylan)ヲ含ム。樹皮中=Hydrojuglonヲ根皮=  
グリチリチンヲ含ム。葉=ハヒトロユグロン、  
「イノシット」、エラグ酸、没食子酸等ヲ含ム。〔藥効〕胡  
桃仁ハ滋食強壯・強精藥トシテ顯著、又鎮咳・祛痰・痲痛  
=有効、種仁ヲ味噌ト交セ弱火ニ焼キ熱湯ニテ服用セバ治  
感冒。胡桃油(仁ヲ压榨製)ハ諸種ノ皮膚病ヲ治ス、又腫  
痛・梅毒=緩下淨血劑=使用ス。未熟果皮(胡桃青皮)ハ  
煎ジテ染髮劑トス、又黃疸・皮膚病=有効。假果皮(樹皮  
及葉モ併用スルコトアリ)ハ驅虫劑トシテ線虫驅除=煎服  
ス、尚收斂性アル故腺病、眼疾=懸法用(10%煎液)トシ、  
又腫粘液漏=注入藥トス。〔新藥〕juglin(三共)ハ未  
熟果ヨリ製ス、汗疱・凍瘡、苔癬・股臭等=常用セラル。  
尚 jugol(三共)アリ。〔其他効用〕材質優良、銃床ト  
シテ照準、炬燵檣・箱類・盆等=使用ス、建築材トス。子  
実ハ調味料・油料、子殻ハ板付・繕糸又ハ繕足(くるみあ  
しの繕)トス。

(2) てうぐるみ(わしぐるみ)(唐胡桃) *J. regia* L.

〔分生〕歐洲原産、本邦栽植。〔生藥〕前同。

〔成分〕果実= Juglon, Citronensäure  
Äpfelsäure, Pentosan, 種子=40~50% 脂肪油  
葉= Inosit, 精油, Gerbstoff(鞣酸), Juglon ヲ含  
有ス、(尚前種ノ成分ノ項參照)。〔藥効〕葉ハ瑞・独局  
方、假果皮・油ハ佛局方收載。葉ノ煎劑(10:1000)ハ瘰癧=

肉用シ、毒虫ノ刺傷=貼布、濃煎劑(10:100)ハ毛生藥  
トス。

(3) てうちぐるみ(くわしぐるみ、てうせんぐるみ、手  
打胡桃、菓子一、朝鮮一) *J. regia* L. *V. sinensis*,  
C.D.C. 〔分生〕支那原産・日本各地・朝鮮栽植、小葉5~9。  
〔生藥〕(1)=全ジ。〔成分〕(1)ヲ參照。〔藥効〕(1)及(2)ヲ  
參照、殆全一也。

(4) さはぐるみ(かはぐるみ、澤胡桃) *Pterocarya*  
*rhoifolia* Sieb. et Zucc. 〔分生〕北・本・四・九ノ山地  
溪畔=独生又粗立。〔生藥〕樹皮。〔成分〕未詳ナルモ  
Juglonヲ含ムベシ。〔藥効〕新藥ノ jugol(三共)ハ本  
種ノ油劑ニシテ妊婦嘔吐ノ治療藥トス。〔其他効用〕材ヲ  
燐寸ノ軸木・下駄材トシ、樹皮(壽光皮)ハ粗外皮ヲ去リ卷  
合テ匣・盆器具類ヲ製ス。

(5) のぐるみ(のぶのき、やまぐるみ、化台樹、野胡  
桃) *Platycarya strobilacea* Sieb. et Zucc.,  
〔分生〕本(中南部)・四・九台山麓~山中ノ湿地生。花序  
ハ皆直生。〔効用〕老木ハ香氣アリ。蚊遣=用フ。嫩芽ヲ  
食用トス。葉=毒成分ヲ含ミ、山間民之ヲ灸獲用トス、即  
未熟果及葉ヲ搗碎シ川中ニ投入シ浮出ス負ヲ捕フ。

## 第六目 ぶな(榎)目 Fagales

特徴— 左~右。葉ハ、有托葉、單葉、概有鋸齒稀全

縁。花ハ概(♀♂)稀♂, 單花被稀無花被, 葉莢花序ハ單  
總狀又兩側假軸性總狀乃至卷繖總狀, Aハ屏 P=對立,  
G(2-6), 1~2卵子。概堅果又殼斗果, 1ヶノ無胚乳  
種子ヲ有ス, 卵底受管, 内胚乳ハ核狀。

次ノ二科=分類ス

- 子房ハ基部ニテ2室ヲ成シ, 花柱ハ2箇-----
- Fam. (i) かんば(樺木)科 Betulaceae
- 子房ハ3箇又其以上ノ多室ヲ有シ, 花柱ハ3~6箇----
- Fam. (ii) ぶな(榊)科(殼斗科) Fagaceae

Fam(I) かんば(かほのみ)(樺木)科 Betulaceae

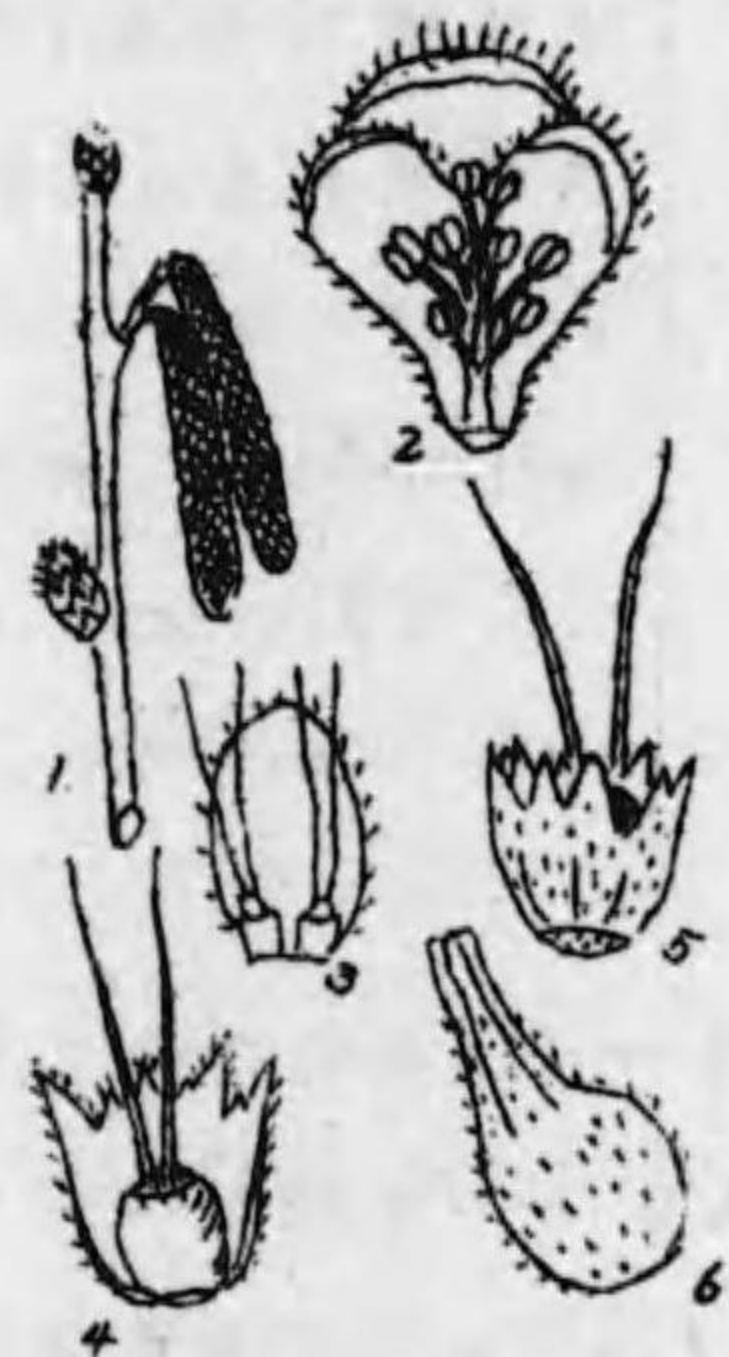
(69~73 図参照)

形質 — 茎~支, 概落葉性。單葉, 無裂有齒牙縁,  $\psi$ ,  
有托葉。花ハ(♀♂), 單花被又無, 葉莢花序又總狀花序,  
主苞1ヶ小苞2~4ヶ合又離, 單花被ハ苞狀數齒裂離又合  
又無(花<sub>式</sub>式圖参照)。♀ = P(0~4) G(2), ♂ = P  
(0~4) A 2~10, 花柱ハ2絲狀, 子房ノ基部ハ2室,  
2箇ノ懸垂性ノ卵膜ノ側生卵子ヲ容ル。果實ハ堅果。1箇  
ノ無胚乳種子ヲ藏ス。而シテ堅果ハ大(はしばみ屬)又ハ  
小。有翅(はんのみ屬)又無翅, 主苞及小(副)苞ハ成長  
シテ果鱗(椀果狀)(はんのみ屬)トナリ, 或囊蓋狀(は  
しばみ屬)トナリ, 或翅翼狀(しで屬。あさだ屬)トナリ,  
果ヲ保護シ又散布ヲ補助ス(69~73 図参照)。

成分及効用 — 配糖体 Gaultherin ヲ含有スルモノ

(かんば屬)アリ, 是ハ加水分解ニヨリ  $\alpha$ -サリチール酸メ  
チールエステル<sup>7</sup> (精油, 成分)ヲ生ズ, 精油(Salicy-  
lsäuremethylester), Triacontan  $C_{30}H_{62}$ , 其  
他材檜酸・没食子酸・鞣酸・Iecithin・Xylan.  
ヒヨレスチリン  
Cholesterin・赤色々素(樹皮)等ヲ含有ス。本科ハ木  
材用・薪炭用, 器具用・染料・藥用等ノ外樺皮ヲ松明トス。  
又食用種子ヲ生ズルモノアリ。

69 図



(69 図) — はしばみ屬ノ  
花序及單性花  
(1. 6...原圖, 2-5.....  
Prantl und Eichler)  
1. (♀♂)ノ葉莢花序  
2. ♂(苞ト小苞及A)  
3. ♀花葯(苞及2♀) 4. ♀  
(半切)(小苞及P) 5. 初果  
(Pハ果被ト成ル) 6. はし  
ばみノ堅果

70 図



(70 図) — はしばみ屬  
ノ花序式圖(原圖) 1.  
♀花序式圖, 主苞1, 小苞  
(3) ♀ = P(n) G(2) 2. ♂-  
花序式圖(主苞1, 小苞2) ♂ = P<sub>0</sub>A<sub>4</sub>

71 図



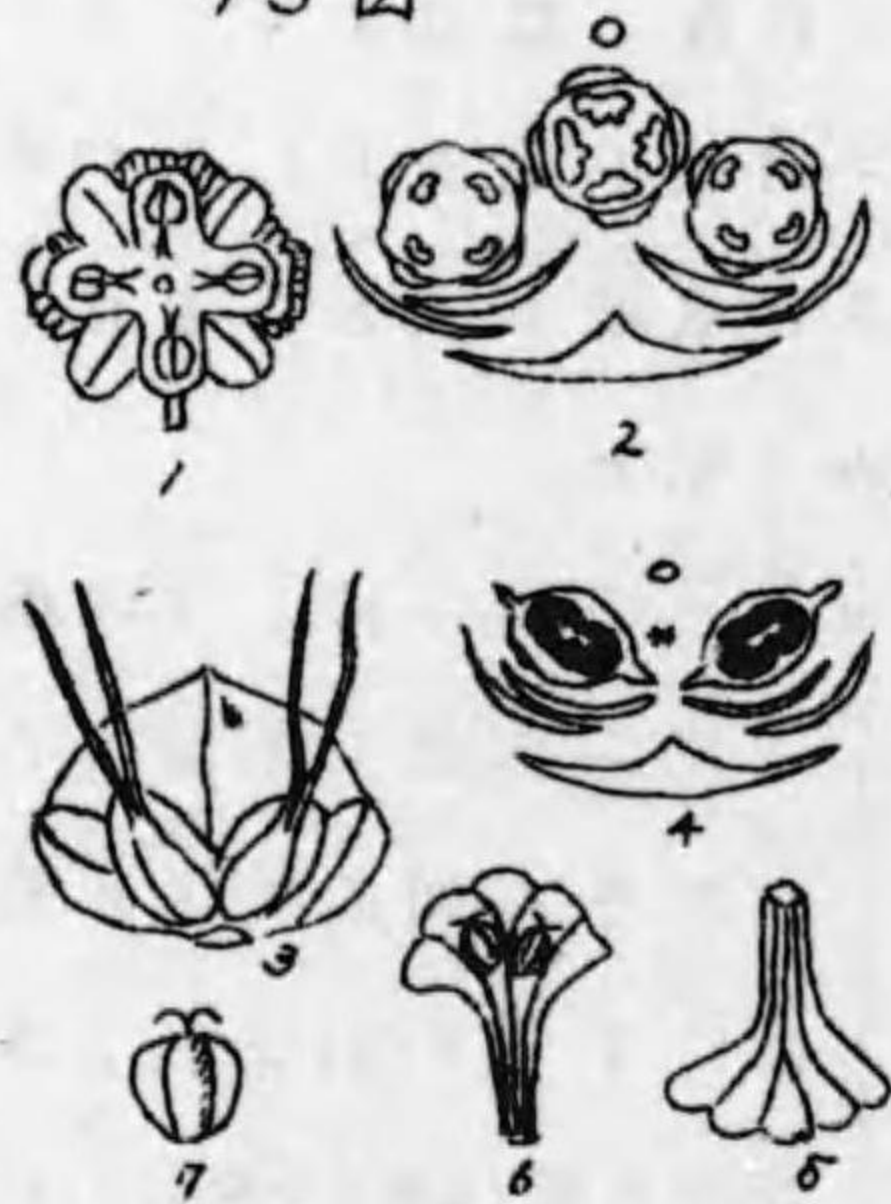
(71 図) — さはしばノ  
 小 子 花 序 及 單 性 花 ( 原 図 )  
 1. 小 子 花 序 2. ♀ 3. 種 子  
 4. 小 子 花 序 復 元 図 5. ♂  
 6. 雄 藥

72 図



(72 図) — はしばみ  
 族 諸 種 ノ 小 ( 副 ) 苞 葉  
 及 雄 藥 ヲ 示 ス ( 原 図 )  
 1, 2. さはしば 3, 4. く  
 ましで 5, 6. あかし  
 で 7, 8, 11. むしで  
 9, 10. あさだ

73 図



(73 図 — はんのき属ノ 花 果  
 及 花 式 図 1 ~ 5. 歐 洲 はんのき  
 (Eeicher) 6, 7. 日 本 産 はんの  
 き ( 原 図 ) 1. はんのきノ 小 苞  
 花 序 2. 全 小 苞 花 序 式 図 3.  
 全 小 子 花 序 4. 全 小 子 花 序 式  
 図 ( 無 花 被 ) 5. 果 鱗 ( 主 苞 副 苞 ノ 合  
 一 外 面 ) 6. 全 内 面 ( 2 期 果 附 着 ) 7. 全 有 翅 型 果

分 布 及 属 種 数 — 世 界 = 6 属 凡 100 餘 種 ヲ 産 シ、 主 =  
 北 半 球 ノ 温 帯 = 分 布 シ、 僅 數 ハ 寒 及 熱 帯 = 産 ス。 我 國 = 5  
 属 凡 60 餘 種 ヲ 産 ス。

本 科 ノ 藥 用 及 有 用 植 物 : —

(1) しらかんば (かんば, かばのき, かんび, 白樺) 及  
 其 諸 変 種  
*Betula japonica* Sieb. (= *B. Tauschii* Koidz.)  
 [ 分 生 ] 樺 · 南 千 · 北 · 本 ( 北 中 部 ) · 1 平 地 ~ 山 地 = 生  
 シ 極 粗 ~ 粗 林 ヲ 成 ス。 [ 生 藥 ] 樹 皮 及 葉 ヲ 陰 干 ト シ テ 貯  
 フ。 晚 春 ~ 初 夏 = 採 取 ス。 [ 成 分 ] 樹 皮 = サリチール  
 酸 · メチールエステル · Triacontan · Gaultherin ·  
*Betulin* 等 ヲ 含 有 シ 樺 朮 又 樺 木 皮 ト 稱 シ。 葉 = ハ 精 油  
 若 味 質 · 鞣 酸 · タール · Guajakal · Kreosol · Kresol ·  
 等 ヲ 含 有 シ 樺 木 葉 ト 稱 ス。 [ 藥 効 ] 樺 木 皮 及 樺 木 葉 ハ 共 =  
 煎 じ 緩 和 性 利 尿 藥 ト ス。 煎 汁 = テ リ ウ マ チ ス · 痛 風 · 皮  
 膚 病 ヲ 洗 滌 シ 又 温 湿 布 ス。 樹 皮 製 タール ハ 防 腐 · 皮 膚  
 病 = 有 効。 葉 及 樹 皮 煎 汁 ハ 菌 毒 ノ 中 毒 = 効 ア リ ト 云 フ。

[ 其 他 効 用 ] 材 ハ 薪 炭 用 · 諸 器 具 用 ノ 外 材 ヲ 挽 物 細 工 ト シ  
 又 近 時 有 名 ナ ル 白 樺 細 工 ( 人 形 · 樹 図 ) ト ス。 樹 皮 ハ 両 中  
 = モ 燃 エ ル 故 松 明 = 最 適、 又 鞣 皮 用 ト シ 燃 料 ト シ、 紙 = 貼  
 布 シ 風 佳 ナ ル 端 書 ヲ 製 ス。

(2) だけ-かんば (さうし-かんば, 岳樺) 及 其 諸 変 種、  
*B. Ermanii* Chan. [ 分 生 ] 樺 · 千 · 北 · 本 · 四 ·  
 朝 · 1 平 地 ~ 山 地 = 粗 ~ 密 林 ヲ 成 ス。 [ 生 藥 ] 同 前 種。  
 成 分 未 詳。 同 前 種! [ 藥 効 ] 略 前 同 様 代 用 ヲ 得 [ 其 他 効 用 ] 略 前 同 様。

(3) あめりか-かんば (新種, 重米利加樺) *B. lutea* Michx. f. [分布] 北米東部産。[成分] 樹皮 = 約3% Gerbstoff, Gaultherin, Salicylsäure methylester 等ヲ含ム。[効用] 白樺と同様也。

(4) はんのき (はりのき, 赤楊) (73 図) 及其変種 *Alnus japonica* Sieb. et Zucc. [分布] 北・本・四・九・朝・ノ平地 ~ 山麓 / 河畔・湿地等 = 粗 ~ 稍密林ヲ成ス。[生薬] 赤楊実・赤楊皮ハ果・皮ノ乾物也。

[成分] 果実ト樹皮 = 鞣酸・赤色々素 (配糖体)・Alnein Populin 等ヲ含ム。[効用] 果実及樹皮ヲ染料トシ、材ハ器具用又薪炭料トス。

(5) やしやぶし (やしや-はんのき) *A. firma* Sieb. et Zucc. [分布] 本・四・九・ノ山麓 ~ 山地 = 実生 ~ 粗林ヲ成ス。[生薬] 果ヲ核又附子ト稱ス。[成分] 未詳ナルモ唇前同ナラン。[効用] 果実ヲ五倍子ノ代用トシ染料 = 供ス、陶器 = 古色ヲ帯バシムル爲 = 其煎液中 = 浸置ス、葉枝ハ他ノ同属諸種ト共 = 水田 = 入レ肥料トス (信州 = テ川リ式ト云フ)。材ハ挽物細工及薪炭用 = 供ス、昔時既婚婦人ハ本染料 = テ齒ヲ染ノタリ。

(6) おぼば-やしやぶし *A. Sieboldiana* Matsum. [分布] 本 (中南部)・九。其他凡テ唇前同種。

(7) つの-はしばみ (角標) 及其変種 *Corylus Sieboldiana* Blume [分布] 北・本・四・九・

朝ノ山地 = 実生 ~ 粗林ヲ成ス。[成分] 未詳。

[効用] 果ノ種仁ハ滋養強壯藥トシテ食用、材ハ器具用・薪炭用トス。

(8) はしばみ (標) (69・70 図) 及其変種 *C. heterophylla* Fisch. [分布] 北 (南部)・本 (北中部)・朝・ノ山地。[効用] 同前種。

Fam. (II) ぶな (榎) 科 (旧名穀斗科) *Fagaceae*

(74・75 図参照)

形質 — 葉ハ單葉無分裂、稀羽分裂、有齒牙縁 ~ 全縁、有托葉 (脱落性)。花ハ (♀♂)、稀々、有花被♂ハ葉裏花序稀頭状花序、♂ =  $P(4 \sim 7) A 4 \sim 7 \sigma$ 、♂ - 14、♀ハ1 ~ 数ヶ宛 (かし属ハ1花ハぶな属ハ2花くり属ハ3花) 碗状穀斗中 = 没在シ、單生又頭状或穗状 = 排列シ、或♂花序ノ直下 = 位ス、♀ =  $P(4 \sim 7) G(3 \sim 6)$ 、花柱6、子室3 - 6、各室 = 2ヶ宛ノ下直且側生卵子 (2細胞) ヲ有ス。果実ハ堅果 = 類スル穀斗果 = シテ、囊状又碗状 = 發育セル穀斗 (Cupula 總苞ノ合一) = 被ハレ、有棘 ~ 無棘也、各分果ハ1ヶノ無胚乳種子ヲ含ム。

成分及効用 — 本科特 = かし属・くり属等 = ハ糖類・鞣酸類ヲ多含スルモノ多ク收斂藥ノ外鞣皮用 = 供セラル。化学成分ハ配糖体 (Coniferin・Quercitrin)、含水炭素 (Methyl-pentose・Pentosan・Dextrin・蔗糖)、有機酸

(鞣酸・没食子酸・Ellagsäure・Ellagensäure, Phellonsäure・林檎酸・酒石酸等), 精油, 其他成分 (Vanillin・Quercetin・Inosit・Mannit・Quercit・Cholesterin・Cholin・Kreosot・Guajacol 等) 等ナリ。材ハ堅硬、建築用、器具用トシ樹皮ト共ニ鞣皮用・染用トシ、葉ハ天蚕飼育料トス、又食用種子(くり属・かし属)ヲ供シ、観賞用モ不割。

分布及属種数——世界ニ6属凡420種ヲ産シ、全世界ニ分布スルモ北半球温帯地方ヲ最多トス。日本6属凡120種ヲ産ス。

本科ノ薬用及有用植物:——

(1) ぶな(ぶなのき, しろ-ぶな, 榎) (74図)

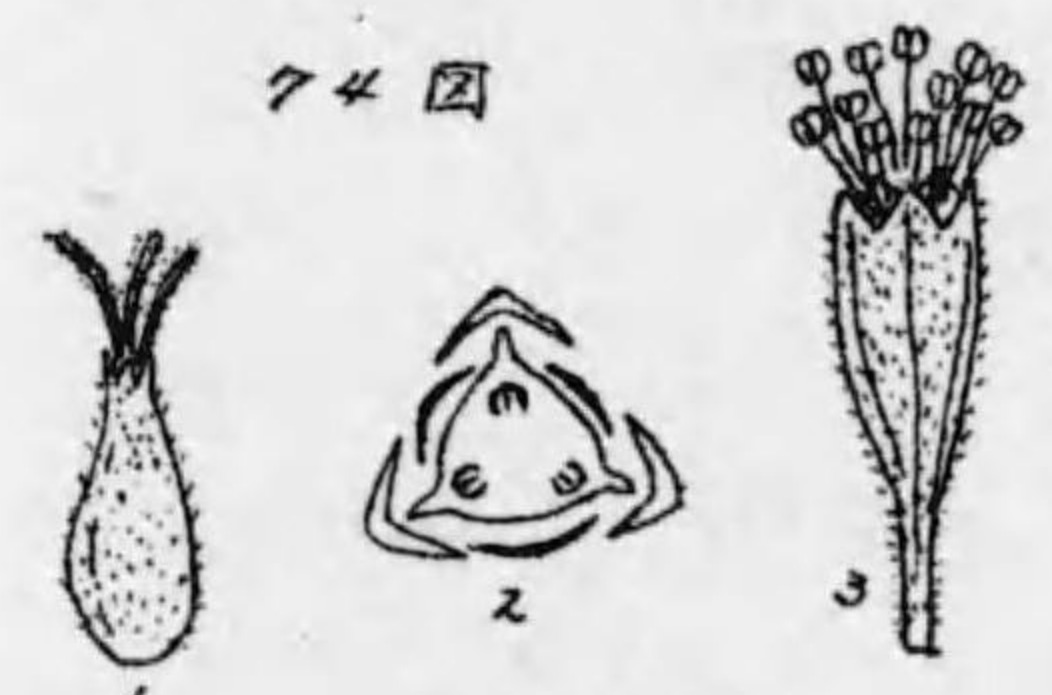
*Fagus crenata* Blume, [分生] 北(東南部)本・九州ノ山地ニ粗〜密林ヲ成ス。[成分] 材ニ Kreosot・Xylan (19.7%) ヲ種子ニ油ヲ含ム。[効用] 材ハ

Kreosot 製造原料トナル, 其他建築及器具材トシ又木槌・杓子・篋・寝具・薪炭等ヲ造ル。種子ハそば-くるみト稱シ生食シ又油ヲ搾取シ燈用トス。

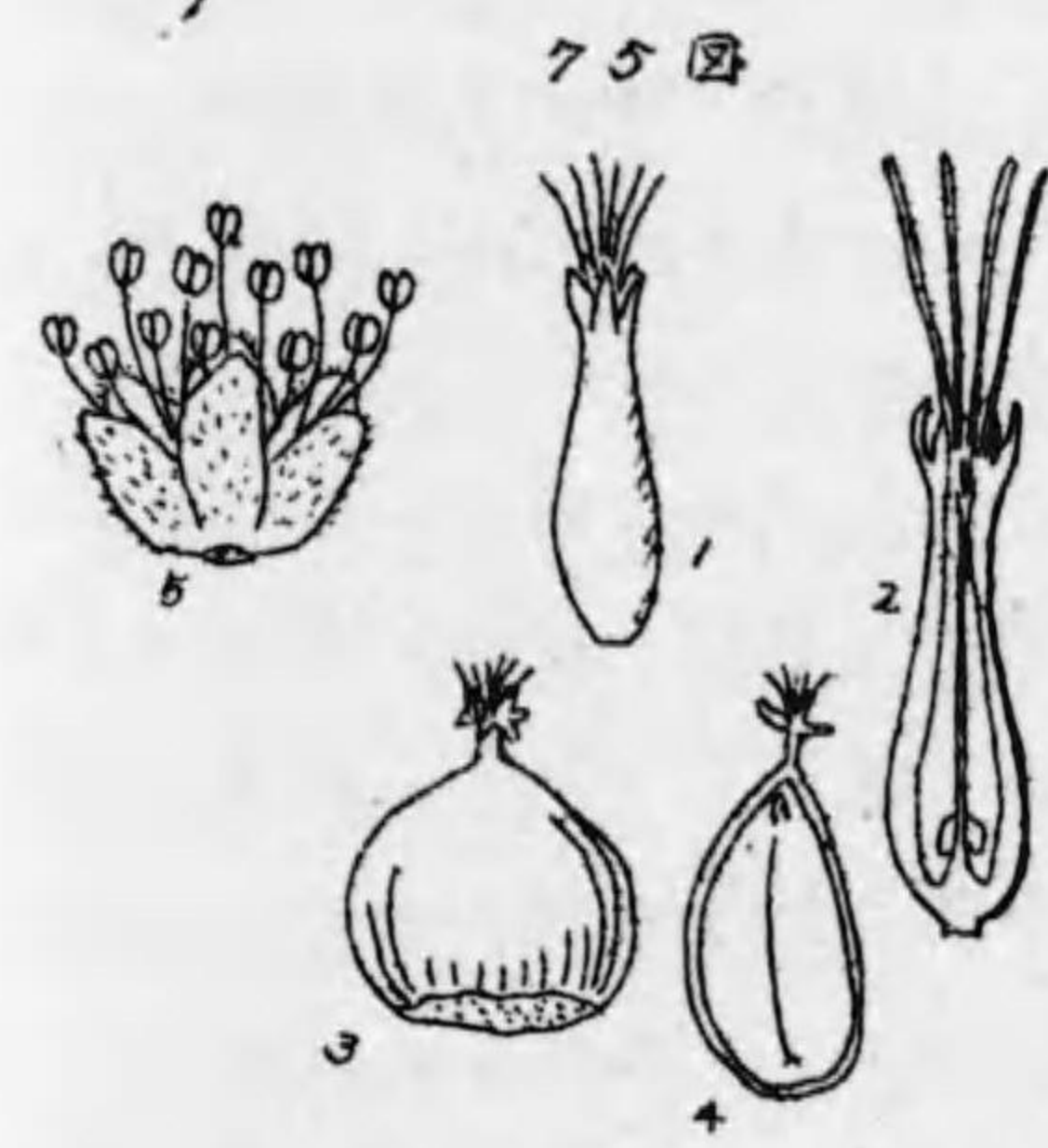
(2) いぬ-ぶな(くろぶな, 山毛榎) *F. japonica*

Maim, [分生] 本(各部)ノ低山地ニ真生〜粗林ヲナス。[成分] 材ニ Kreosot・Guajakol・Xylantenosan・Cellulose 等ヲ含ム。[効用] 材ハ乾燥シテ Kreosot ヲ製ス, 本品ハ肺結核患者ニ用フ, 又消化管

ノ消毒殺菌ノ効アリ。材ヨリ得タルぶな-ター-ルニハ Guajakol・Kreosot ヲ含ミ, 腸加苾兒及結核症ニ有効。材ヲ煎服セバ食物ノ消化ヲ助ケ, 胃腸ヲ健全ニス。種子ハ食用トシ又油ヲ搾取シテ食用又燈用トスルコト皆ぶなニ同ジ。材ノ効用モ同前。



(74図) -ぶなのきノ  
單性花及花式圖(原  
図) 1.ぶなの子 2.  
全♀ノ花式圖 3.全  
合



(75図) -くりノ單性  
花及分果(堅果)(原  
図) 1.くりノ子 2.全縱  
断面 3.分果(藏種子)  
4.全縱断面・全合ノ  
側面圖

[藥理及藥効] 局方

*Creosotum*.....くれおそ-トハ Phenol = 比シ腐蝕性  
及毒性少ク, 結核治療藥トシテ食慾亢進・異狀醜瘡防止ニ  
ヨリ栄養ヲ良シ。又氣管枝分泌及咳嗽ヲ減ズル作用ヲ有ス。  
内服ニハ 0.05 ~ 0.3g ヲ 1日2~3回漸増量服ス, 外用

=ハ腐蝕及局所麻酔カアル為齒痛=5~10%丁銀ヲ使用、  
又塗布用ハ1~3%、軟膏トシテハ2~6%等トシテ防齧  
ノ目的=用フ、1回ノ極量0.5g/日ノ極量1.5g也。

[處方例] クレオソート丸(喉頭及肺結核) - クレオソ  
ート...10.0 燉製マクネシウム<sup>アルテア根10.0</sup>10.0以上混和、グリセリン  
=テ100丸ヲ製シ、毎食後2丸宛漸増量。クレオノート、  
2.5 肝油200.0、サツカリン0.1以上混和、1日2~3回、  
毎ノ食匙(肺結核)。

(3) くり(くりのき、栗)(アケビ) *Castanea*

*Crenata* Sieb. et Zacc. [分生] 北・本・四・九ノ  
山野=真生~粗林ヲ成ス。[成分] 樹皮=鞣酸類ヲ果実  
=澱粉・蔗糖・葡糖・Pentosan 等ヲ含有ス。[効用] 樹  
皮ヲ染料及鞣皮料(Gerbstoff製造原料)トシ、又枝葉、  
種実等ノ綜合煎汁=テ漆かぶれヲ洗滌又罨法シ又浴湯料ト  
ス。栗実ヲ啗漬シ馬咬傷=塗布シ有効。枝葉ヲ果焼トシ胡  
麻油=テ練リ塗布シ毛生薬トシ又脱毛<sup>1カ</sup>ヲ防グ。種実ハ滋養  
強壯薬トシ食用トス。材ハ耐朽力強ク家屋ノ土台・鉄道枕  
木・土木用杭・建築用・器具用トシ比類無シ、又栗炭ハ火  
力強烈專鐵冶=用フ。葉ハ天蚕ノ飼料トス。[備考] 朝鮮産ノてう  
せんぐり・しなぐりモ全効アルベシ。

(4) あべまき(こるく-くぬぎ) *Quercus variabilis*  
*Blume* [分生] 本(中南部)・四・九・朝台ノ山野=真生~  
粗林ヲ成ス。[生薬] あべまき皮 *Suber Quercus*

*variabilis* ハ栓(栲)皮ヲ剝採セルモノ、稍弾性アリ。

[効用] 栓皮ハこるく=代用シ瓶栓・圧搾こるく板(冷蔵  
庫用・履物用)等ヲ製ス。材ハ薪炭用トス。

(5) こるく-がし(こるくのき) *Q. suber* L. et *Q.*  
*occidentalis* J. Gay. [分布] 地中海沿岸地方(ス  
ペイン、モロッコ、アルセリア等)=自生又栽培。

[生薬] 栲(コルク)(栓) *Suber quercinum* ハこるく-  
がしノ栓皮ヲ剝採セルモノ也。弾性强シ。[成分] 栲化層  
中=SuberinナルPhellonsäure  $C_{22}H_{43}O_3$ 、

Phloionsäure  $C_{22}H_{44}O_2$ 、Suberinsäure or  
Korksäure  $C_{17}H_{30}O_2$  等ヲ含ム。[効用] 栓皮ハ栲栓  
(瓶栓)ノ外、靴・帽子・床板・履物等=常用セラル。

(6) くぬぎ(栲) *Q. acutissima* Carr. [分生] 本・四  
九ノ山野=真生~稍密林ヲ成ス。[生薬] 土骨皮、乾内  
皮也。[成効] 樹皮=鞣酸ヲ含ミ、乾テ煎服セバ痲瘋・痢  
病・淋病ノ收斂薬トシテ有効、又煎湯浴=テ悪瘡ヲ治シ、  
咽喉病ヲ医シ、水腫=有効、其他鞣華・媒染料トス。材ハ  
薪炭用トシテ優秀ナリ。世=佐倉炭・池田炭(板津)等ト  
稱スルモノ也。

(7) かしは(解栲)及其变种、*Q. dentata* Thunb.  
[分生] 北・本・四・九・台ノ山野=真生又独生、稀粗  
林ヲ成ス。[成効] 成分同前種、樹皮ヲ染料及鞣皮料、  
鞣酸製造ノ原料トス、又收斂薬トス。葉ハ瓦ヲ刻ミ葱々及

ト共 = 煎服 (空服時) スレバ血尿 = ナ痛ム淋病ヲ治シ, 又  
 絲虫驅除藥トナル。尚腫物ヲ治ス。種子ハ食用又ハ糊料ト  
 シ。葉ハ柏餅ヲ包ム。材ハ薪炭 = 用テ上等, 樹皮ハ糞網ヲ  
 染ム。又觀賞用トス。

(8) こ-なら (楮・枹・小楮) *Q. serrata* Thunb.

[分生] 北・本・四・九ノ山野 = 粗 ~ 稍密林ヲ成ス。

[成・効] 成分同前種。樹皮ノ効同前, 材ヲ薪炭用及器具用  
 トス。種子ハ食用トシ又玩具ヲ作ル, 収斂性アル故下痢止  
 藥トシ又強壯藥トシ, 炒リテここめ代用名トス。

(9) みづ-なら (水楮) *Q. Crispula* Blume, [分生]

樺・南千・北・本・四・九ノ山野 = 粗 ~ 稍密林ヲ成ス。

[成・効] 同前種。以上ノこなら・みつならの材ハ香茸材ト  
 シテ上等ナリ。山民 (持 = 陸中) ノ子実ヲ食スル = ハ先ヅ  
 之ヲ乾シ, 臼ニテ搗キ穀ヲ去リ, 次ニ熟蒸シ, 溪水ニ浸ス  
 コト數日, 滋味全ク去レバ之ニ蕎麥粉ヲ加ヘ煮食ス, 又酒  
 ヲモ醸セドモ一種ノ臭氣アリ。

(10) もんでり-なら (からふと-がしは, もりこ-がし  
 は, 蒙古栎) *Q. mongolica* Fisch. [分生] 蒙・滿・  
 朝・樺・北・本 (北中部) ノ山野 = 点生 ~ 粗林ヲ成ス。

[成・効] 同前種。

(11) うばめ-がし及其近種 *Q. phylliraeoides* A. Gray

[分生] 本 (中南部): 四・九ノ山野 = 点生 ~ 粗林ヲ成ス。

[効用] 材ハ太ク堅硬。本邦無比。櫓脚・櫓首 = 賞用ス,

此炭ヲびんちやうト云フ。火力強烈無比。繭病・料理店・  
 飯治等 = 専用ス, 関西ヨリ東京ニ輸入ス。又觀賞用トス。

(12) 没食子楮 *Q. infectoria* Olivier [分生] 歐洲  
 産。[成・効] 本種ノ虫癭ハ所謂没食子 Gall<sup>Galla</sup>ニシテ没食子  
 酸・没食子鞣酸・Ellagsäure等多量ノ鞣寧ヲ含有シ歐洲  
 ニテハ鞣酸製造ノ原料 (染色・鞣皮) トシ収斂藥トス。

(13) あか-がし (赤楮) *Cyclobalanopsis acuta*

oerst, [分生] 本 (中南部)・四・九・朝・流・台ノ山野 = 点  
 生 ~ 稍密林ヲ成ス。[効用] 材ハ赤色堅牢, 車輪, 下駄  
 歯・船具 (柁・櫓)・農具・器具柄等ヲ造リ, 又薪炭用トス。

(14) しら-がし (うらじろ-がし・ほそは-がし) (白楮)  
*C. myrsinaefolia* oerst. [分生] 本 (中南部)・四・九  
 朝・台ノ山野 = 点生 ~ 粗林ヲ成ス。[効用] 材ハ白色堅  
 硬。強靱。船柄・量衡・器具材・車輪, 器具柄トシ又薪炭  
 用 (堅炭) トス。

(15) しひ (しひのみ・しひがし, 椎, 椎木) *Shiia*

*Sieboldii* Mak. [分生] 本 (中南部)・四・九ノ山野  
 = 点生 ~ 粗林ヲ成ス。[効用] 樹皮ヲ染用 (ハズ絹ノ黒  
 色等) = 供シ, 種子 (灸リ) ヲ食用トス。材ハ建築用・器  
 具用・薪炭用 = 供シ, 香茸発生用トス。觀賞用 = 截植ス。

## 第七目 蕁麻目 Urticales

特徴 —— H又D。葉ハ $\psi$ 又 $\gamma$ 。組織中 = 槌鐘乳 (房状)

体又無柄鐘乳体アリ，有托葉。概聚繖花序。花葉ハ◎，同被，◎狀又◎糸・，概  $P_{2+2} r_{2+3}$ ，概⊕， $\overline{P}A, G(2) \sim 1$  2卵膜，1卵子ヲ藏ス。一般花式ハ  $\overline{P}_{4-5} A_{4-5} \sim \infty$   $G(1 \sim 2)$ 。核果又小堅果。内乳ハ核狀。木目ニ次ノ3科アリ。

- 果実ハ非瘦果 (但くわ科ノかなむぐらトあさヲ除ク)。  
 左・左・又Hナリ，卵子ハ懸垂ス-----I
- 果実ハ瘦果，花ハ小形・帶綠色・簇生ス，Hナリ，卵子ハ直生又斜上，Aハ蕾時内曲ス，全株乳液ヲ含マズ-----  
 Fam.(III) いらくさ (荨麻) 科 *Urticaceae*
- 左，葉ハY，全株乳液ヲ含マズ，Aハ眞直ナリ-----  
 ----- Fam.(I) クレ (榆) 科 *Ulmaceae*
- 左~左，葉H又Y，葉ハY又Y，全株乳液ヲ含ム，Aハ眞直又ハ内曲ス-----  
 ----- Fam.(II) くわ (桑) 科 *Moraceae*

Fam.(I) クレ (榆) 科 *Ulmaceae*

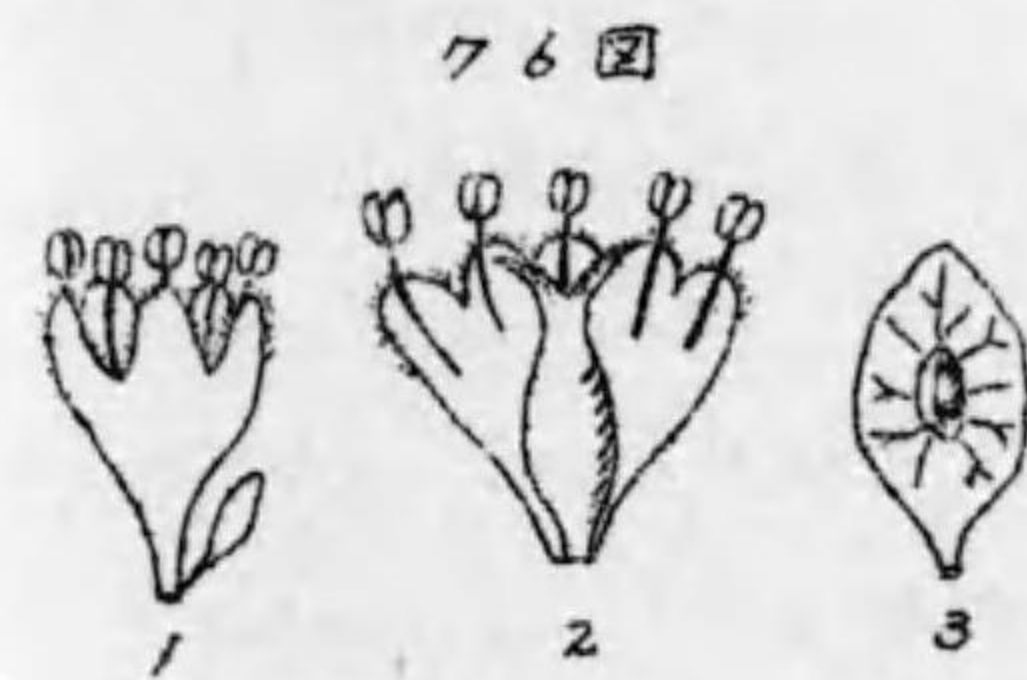
(76, 77回参照)

形態—— 左糸左，有鐘乳体，無乳液。葉ハY，2列生。葉集，無裂，有鋸齒縁稀缺刻状分裂，屢歪形，有托葉。花ハ概細小，腋生，聚繖花序又早ハ單立。花ハ早又早合，同被。F.f. =  $\overline{P}_{(4 \sim 5) r_{(3 \sim 8)}} A_{4 \sim 5} r_{3 \sim 8 \sim 12} G(2)$ ，理論上ハ  $P(2+2) r_{(2+3)}$ ，花柱ハ2ヶ。子室ハ1 (1室退化) 稀2室，各室ニ懸垂セル倒生又半倒生

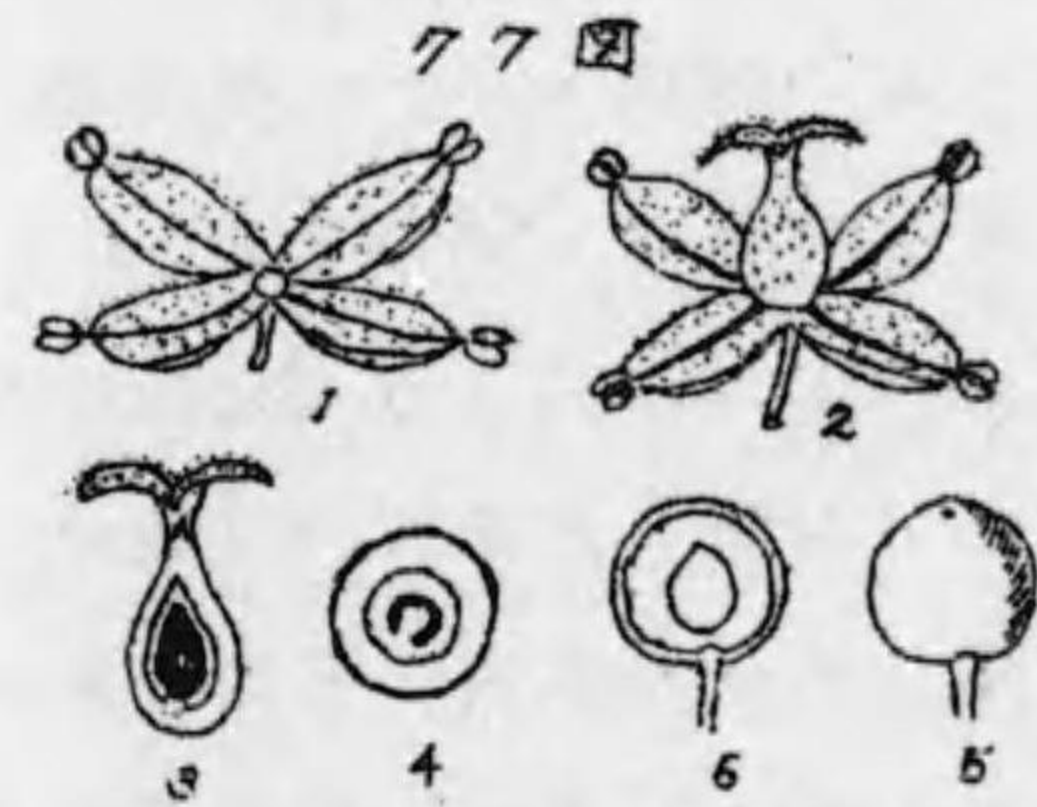
卵子1ヶヲ藏ス。果実ハ核(石)果又堅果，稀有翅，種子ハ概無胚乳。

成分及効用—— *Indol*・*Skatol*・*Xylan*・*Inosit*・糖類・*Dextrin* (糊精)・粘液・鞣酸・脂肪等ヲ含有シ。藥用，纖維用・木材用・器具用等ニ供セラル。

分布及属種數—— 世界ニ13属凡150種ヲ産シ，主ニ温帯~熱帯ニ分布ス。日本ニ5属約20種ヲ産シ。樺太南千島台湾間ニ分布ス。



(76回) — クレノ科ノ及  
 果実(原図) 1. 果,  
 $\overline{P}_{(2+2)} r_{(2+3)} A_4 r.$   
 5 G(2) 2. 全開放図.  
 3. 翅果



(77回) — 桑ノ科ノ及  
 及果実(原図) 1. 桑ノ  
 子房ノ縦断面 2. 全果 3. 全  
 断面 4. 全横  
 断面 5. 果実 6. 全縦  
 断面

本科ノ藥用及有用植物: ——

- (1) はる—クレ (あかだえ・榆, 春榆, こぶクレ・てりはクレ) 及其变种 *Ulmus Davidiana* Planch. v.



*japonica* Nakai [分生] 樺・南千・北・本・四・九・朝ノ山野ニ点生〜粗林ヲ成ス。[生薬] 乾内皮ヲ楡白皮又榔楡皮トス。[成分] 糖類・鞣酸・Phytosterin・Stigmaterin・Sitosterin等ヲ含有ス。[薬効] 上粗皮ヲ除キ乾粉末トシ5瓦内用又煎服セバ利尿・不眠症・収斂(炎症発疹)・痲瘋核痰薬トナリ、又解毒劑(下劑)トシ、粘滑性強壯藥(2〜6瓦)トナル。以上ハ特ニ根皮ヲ常用ス、民間分娩時内服シ羊水ヲ出スニ用フ。此他木材用器具用トス。

(2) あき-くれ(くれいし-トヤヨ、楡、秋楡) (76回)  
*U. parvifolia* Jacq. [分生] 本(中南部)・四・九・台・ノ山野ニ点生〜粗林ヲ成ス。[効用] 樹皮ヲ煎服シ痲瘋ヲ治ス。木材ハ器具用・挽物細工・車軸等トス。[成分] 略同上

(3) てうせん-あきくれ(朝鮮秋楡) *U. Sieboldii* Davaux v. *Coreana* Nakai. [分生] 朝鮮ノ山野。[成分] 略同上。[効用] 全上。朝鮮ニテハ内皮ヲ楡皮ト稱シ、腫物ヲ破リシ穴ニ挿入シ傷口ノ開ルヲ防グ。

(4) おひよう-くれ(おひよう・あつし・あつに) *U. laciniata* Mayr [分生] 樺・北・本・四・九ノ山野ニ点生ス。[成分] 略同上。[効用] 薬効ハ同前種、あいの土人ハ内皮ヲ剥取シ水浸十日餘、餘ヲ製シ織物トスあつし是也、衣服草鞋等トス、材ハ薪炭用・器具用トス。

(4) かが-くれ(かき-くれ) *U. campestris* Sm. [分生] 中歐及北歐、中支那ニ var. フリト云フ。[生薬] 蒸葉仁

ハ其種子也。[薬効] 種子ヲ驅虫藥(体内寄生虫)トシ又小児宿藥トス。

(5) むくのき(むく-ゑのき、樺樹、棕) *Aphananthe aspera* Planch. [分生] 本(中南部)・四・九・朝・台・ノ山野ニ点生稀粗林。[成分]  $\text{Antiarin } C_{27}H_{40}O_{10} \cdot 4H_2O$  ト類似セル毒成分ヲ樹液ニ含有ス。[効用] 花ヲ胃腸病ニ煎服ス。果実ハ食用トシ、材ハ器具用、葉ハ器物ノ研磨用トス。又觀賞用トシテ栽培ス。

(6) 元のき(元、楡) (77回) *Celtis sinensis* Pers. v. *japonica* Nakai [分生] 本・四・九・朝・琉・台・ノ山野ニ点生〜粗林ヲ成ス。[成分] Indol, Skatal 等ヲ含ム。[効用] 樹皮ヲ朴樹皮ト稱シ煎服シ通經藥(月經不順・全促進)トシ、食慾増進ニ有効、又鼻麻疹ヲ治ス。葉ノ煎汁ハ漆瘡ニ有効(又葉ヲ揉ミ貼布ス)。果ヲ甘味可食。材ハ器具用・薪炭用トス。庭植シ觀賞用トス。

Fam. (II) くは(桑)科 *Moraceae* (78・79 回参照)

形質—— ①〜⑤、稀①又②、概含乳液、屢鐘乳体ヲ有ス。葉ハ概シ稀シ、有托葉、單葉無裂〜深裂、全縁〜鋸齒縁。花ハ♀♂又(♀♂)、同被・宿存性、又無被。概花ハ細小聚繖花序、屢總梗(總花托)ノ短縮ニヨリ頭狀花序ヲナシ、又ハ中間生長ニ依リ肥厚シ盤狀・盃狀・壺狀(隱頭花序)器内

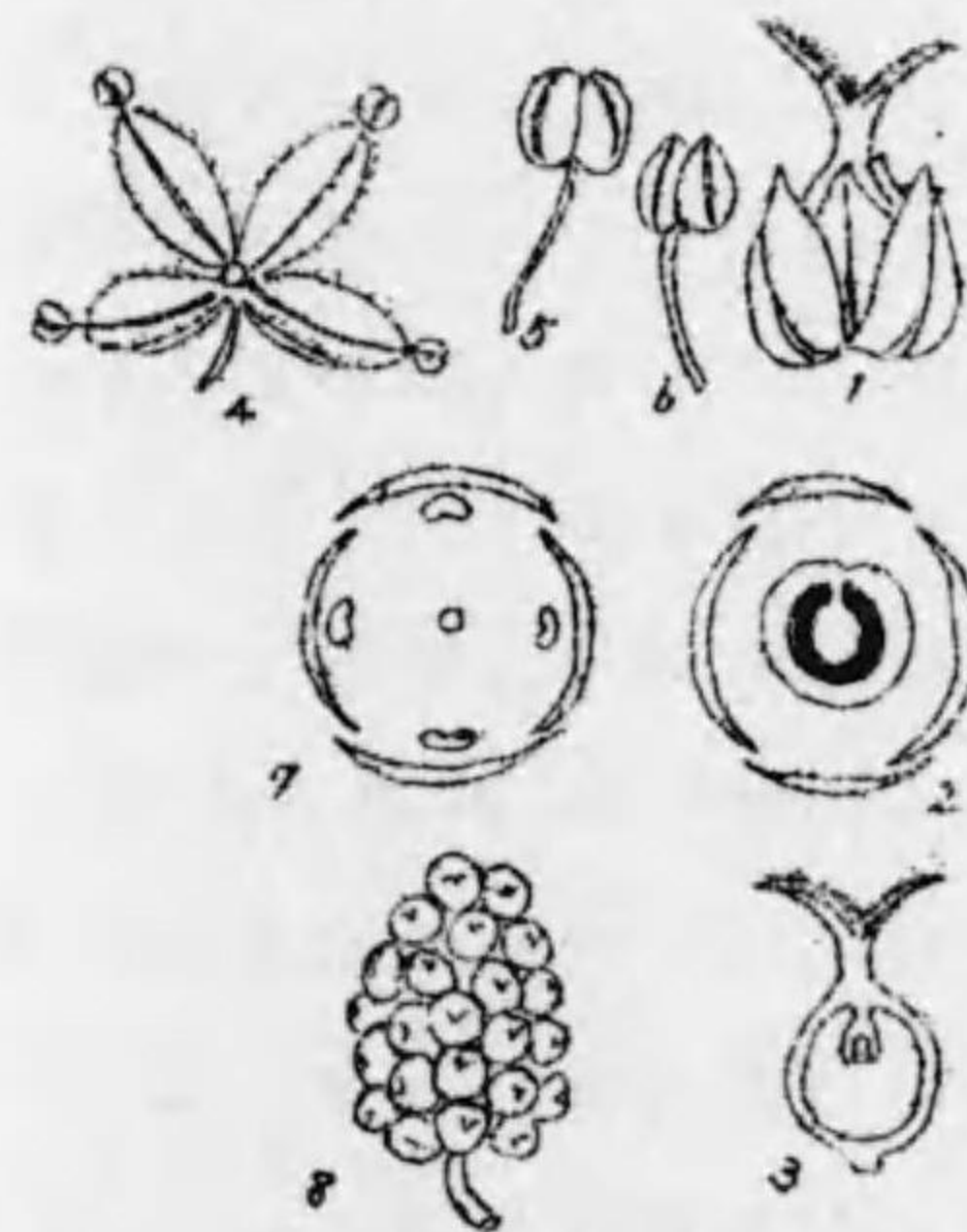
ニ在リ，又頭狀穗狀円錐狀花序ヲ成ス，稀♀ハ單生ス。  
 ♀ =  $P(2+2)U(2\sim6)G(2)-$ , Pハ宿存肥厚シ果外  
 部ヲ構成ス, ♂ =  $P(2+2)U(2\sim6)A4U(2\sim6)R!$ ,  
 花柱ハ單柱又2分枝，内面柱頭ヲ爲ス，1子室，中ニ倒生  
 又半倒生ノ1卵子ヲ下置ス，稀基立性直生卵子。堅果又核  
 果ヲ本トシ屢集合シテ桑椹果又隱頭花果ヲ成ス。種子ハ胚  
 乳有又無。

成分及効用 —— 化学成分 = 塩基 (Muscarin, Trigo-  
 nellin, Cholin, Cowleyin, Cecropin, Cannabinin  
 等), 配糖体 (Antiarin  $C_{27}H_{40}O_7 + 4H_2O$ , Dambonit-  
 glukosid = Inositdimethylester  $C_6H_{10}O_6(CH_3)_2$ ,  
 Quercitrin 等), 若味質, 有機酸 (林檎酸, 枸橼酸, 琥珀酸,  
 鞣酸 等), 色素類 (Carotin, Morin, Maclurin,  
 Cyanomaclurin, Quercetin 等), 酵素類 (Pepsin,  
 Trypsin, Diastase, Lypase, Eemulsin, Protease 等)  
 其他ノ物質 (Kautschuk, 蠟, 樹脂, 油脂, Lethicin, Phytin,  
 Contraferbin, Cajapin, Pseudocumarin, Cannabin,  
 Cannabinol, Saponin, Artocarpin, Asparagin,  
 Cholesterin, Pentosan, Galactan 等) ヲ含有ス。  
 本科 = ハ揮性ゴム料・纖維料・蚕飼料(葉)・製紙用(内皮)・  
 藥用(内皮・葉果・花乳液・種子)・木材用・器具用・染用(材果)・觀賞  
 用・食用(果実) = 殊スルモノ不尠。

分布及屬種數 —— 世界 = 55屬凡1200種ヲ産シ温〜

熱帯ニ分布ス。日本 = 17屬屬80種ヲ産シ，北〜台間ニ  
 分布シ又栽培セラル。

クハ図



(クハ図) —— くはノ單性花  
 花式圖及果実(桑椹)ヲ示ス  
 ... (1.3 ~ 6.8 系圖)  
 (2.7 --- Engler)  
 1. ♀ノ側面 2. 全花式圖  
 3. Gノ縱断面 4. ♂ノ側  
 上面 5. Aノ内面 6. 全外  
 面 7. 全花式圖 8. くは  
 ノ椹果即桑椹

本科ノ藥用及有用植物: ——

Subfam. (i) くは豆科 *Moroideae* ----- Aハ内彎曲，1  
 卵子ハ懸垂ニ嚚生，葉ハ芽中褶曲，小托葉ヲ具フ。

(1) くは (セキ-くは, 桑) (クハ図) 及其变种 *Morus*  
*bombycis* Koidz. [寄生] 樺北本丸朝台ノ山野ニ点生  
 ス。[生藥] 桑白皮又桑根白皮 *Cortex Mori radice* ハ  
 桑根ノ内皮ノ乾品ニ淡黄色也，若枝・若葉・果実等ニ藥用ト  
 ス。[成分] 根皮 = ハ果糖・葡萄糖・Pentosan・Gala-  
 ctanヲ葉 = 以上ノ外 Glucoseヲ含ム。[効用] 桑白皮  
 ハ消炎性利尿藥・緩下劑・鎮咳藥トシテ有効 (1回1~2  
 瓦/日4~10瓦前用), 又酒ノ醸造用トシ，其20瓦ヲ水1

合ニテ10~15分間煮詰ノ其上清液ヲ生毛藥(塗布)トス。  
 桑茶又南部桑茶トハ8.9月頃若青枝ヲ採リ押切ニテ細切シ  
 炒リテ貯ヘ、後同量ノ決明子(忍びすぐさ種子)ヲ加ヘ茶  
 劑トス、常時服用セバ消化ヲ助ケ、循環ヲ旺盛ニシ、月經  
 不順及困難ヲ治シ、中風ニ良ク、血圧ヲ下シ、頭腦ヲ明晰ナ  
 ラシム。尚桑茶ニ杏仁及げんのしようニテ配合セル茶ハ風  
 味良ク効力大ナリ。瘡地生桑ノ若葉ヲ陰干トシ茶劑トセバ  
 中風ニ有効。葉ハ蚕ノ飼料、材ハ床柱・器具用・樂器用ト  
 シ黄褐色・堅固強韌・挽物細工・箱・盆・茶托・枕・茶椀ノ  
 上等材ナリ、〔處方例〕桑皮湯(消炎性利尿藥又鎮咳藥)  
 一桑白皮6.0 水100.0 以上1日量煎分服。桑白皮4.0 高  
 陸1.0 沢瀉2.0 水200.0 以上1日量煎分服。

(2) きぐは(から-むきぐは、真桑、唐山桑) *M. alba*  
 L. [分布] 支那及朝鮮原産、日本ニ栽植。〔生藥〕同前  
 [成分] 葉ニハ Carotin  $C_{26}H_{28}$ 、多量ノ Tannin,  
 Pentosan・Adenin・Cholin・Trigonellin 等ヲ含  
 ミ、種子ニハ脂肪油及脂肪酸ヲ含ム、根皮ハ同前ナラン。  
 [藥効] 乾根皮ヲ煎服セバ利尿劑・祛痰劑トナリ、淋疾及消渴  
 ニ奏効シ、煎汁ニテ曲毛、抜毛、禿頭ヲ洗テ奏効スト云フ。

(3) たいわん-ぐは(しま-ぐは、山黄桑樹、台湾桑)  
*M. australis* Poir. [分布] 琉球ノ山野ニ自生。  
 [藥効] 根白皮ヲ乾シ細切煎服セバ肺炎ヲ治ス。葉ヲ煎服  
 セバ肺結核ヲ治シ血行ヲ良クシ、解熱劑ヲバ祛痰藥トシ、

且水腫・煩渴・吐血・衄血等ヲ治スト云フ。

(4) かうそ(かそ、かつ・かみぎ、楮) *Broussonetia*  
*Kazinoki* Sieb. [分布] 本・四・九・朝鮮・台ノ山野・河  
 岸等ニ点生〜粗林稀密生ス。〔生藥〕楮実子ハ果実ナリ、  
 [成分] Lignin・Cerotinsäure 等ヲ含ム、甲ハ纖維ニ  
 多含ス。〔効用〕楮実子ハ強壯藥、葉ト共ニ煎服セバ陰萎  
 ヲ治ス。乾葉物末ハ切傷ヲ治シ煎服セバ不眠症ニ有効。内  
 皮纖維ハ製紙ノ良原料也。白井博士曰ク「一種ひめ-かうそ  
 (forma) ハ山野ニ自生ス、古書ニ「楮ト云フモノ是也、  
 上古此木皮ヲ以テ布ヲ織リ衣服トシ又繩トセリ、楮襖・楮  
 紙・楮機・白楮、楮是也」ト楮ハ古クハ古事記ニ出ズ。

(5) かのき(かみのき、楮) *B. papyrifera* Vent.  
 [分布] 台・支那ニ自生、日本内地ニ栽植。〔成分〕同前  
 [効用] 果実ヲ煎服セバ陰萎ヲ治シ、内皮ハ同前製紙原料  
 トス。

(6) クロコホラ *Chlorophora tinctoria* Gard.  
 [分布] 熱帯米。〔効用〕材ニ Morim・maclurin・没食  
 子酸等ヲ含有シ、黄色染料トナル。

Subfam. (ii) ばんのき亞科 *Artocarpoidae* --- A  
 常ニ直生、卵子ハ同前連科、葉ハ芽中捲曲、托葉ハ擬莖ヲ  
 圍繞シ脱落性也。

(7) ばんのき(まらみ-ばんのき) *Artocarpus incisa*  
 Forst. [分布] 南洋原産、熱帯各地ニ栽植ス。〔成分〕

果実(麴麴果) = ハ水60%, 澱粉40%, 蛋白質3%, 酵素(*Artocarpin* + *L. Enzym*)ヲ含ム。樹液 = ハ80~84% / 含水Cヲ含ミ *Kautschuk*、不含。[効用] 花ヨリ取ル油ハ下痢ニ有効、蕾ハ横痃ヲ治スル軟膏ヲ製シ、又利尿劑 *Artosin* ヲ造ルニ用フ。樹液ハ乳汁様粘着カ頗強大、糊料トシ物ヲ貼付ス。樹皮ヨリ纖維ヲ取り被服ノ原料トス。果実ハ徑15~20cm, 白色ハん黄、燒食スレバハんノ如シ、養分ニ富ミ熱帯人ノ重要食也。材ヲ建築用トス。

(8) ばらみつ (なかみ-ばんのま、波羅密樹)

*A. integrifolia* Forst. [分布] 東印度原産、熱地ニ栽培。[成分] 葉前同ナルモ心材 = ハ *Morin* 及 *Cyanomac lurin*  $C_{15}H_{12}O_6$  ナル黄色々素ヲ含ム。[効用] 果ハ熱帯土人ノ常食、味劣前種、又下劑トス。樹脂亦下劑トス。心材ヨリ採ル黄色染料ハ僧侶ノ法衣ヲ染ム。

(9) いちぢく (無花果) *Ficus Carica* L. [分布] 小亞細亞原産、暖地ニ廣ク栽培ス。[生藥] 無花果、葉、莖葉ノ乳液。[成分] 乾果 = ハ糖(轉化糖) 分20~45%, 枸橼酸・林檎酸・醋酸・ペプトン化酵素ヲ含ミ、葉 = ハ  $L$ ペプトン化酵素・アミノ酸・*Stigmasterin*・*Sitosterin*・*Fucusin*  $C_{11}H_6O_3$  等ヲ含ミ、莖幹及果ノ乳液ハ水・*Kautschuk*・*Cradin*・ペプトン化酵素・アルブミン、*Cerin* 等ヲ。莖葉 = ハ *Aminosäure* (例バ *Tyrosin*・*Glutamin*)・*Gerbstoff*・*Stigmasterin*

*Sitosterin* 及酵素ヲ含有ス。[藥用] 乾果ハ緩和滋養劑トナリ、緩下劑トナル。生果ハ消化劑又淨血劑トナリ。貧血・痔疾・酒毒・吐血・下血等ヲ治ス、乾葉亦此目的ニ供ス(1回1~5瓦)。即煎汁ニテ痔ヲ瘉法ス。莖・葉・葉柄等ノ傷ヨリ出ル乳液ハ痔疾ニ塗布シテ奏効。又蛔虫驅除藥(ホ洋局方)トス、但多服セバ暴瀉ヲ來ス。乾葉ハ治痔ニ煎用スル外、浴湯用トシ下痢・腹痛・痲痺等ヲ治ス、蓋甚ク温ル爲也。生葉ハ桐葉ト同様、便壺ニ投入シ蛆ノ発生ヲ豫防ス、又煎用セバ健胃劑(2~5瓦)トナル。乾種子ハ焙テ粉末トシ珈琲代用トシ飲用ス。無花果珈琲是也。果ヨリ無花果ジヤムヲ造ル。

(10) いぬ-びは (こ-いちぢく、やま-びは、天仙果)

*F. erecta* Thunb. [分生] 本(中南部)・四・九・朝(濟州島)・ノ山野ニ点生~粗林ヲ成ス。[効用] 果ハ *Glucose*ニ富ミ生食スベク、又痔疾ヲ治ス。樹皮纖維ヲ製紙料トシ、又觀賞用トシテ栽植ス。

(11) こうしゆん-いぬびは (恒春天仙果) *F. kashunensis* Hayata [分布] 台湾ノ特産。[効用] 葉ヲ搗碎シ毒蛇ノ咬傷ニ貼付シ、又煎服シテ感冒・關節痛ヲ治ス。

(12) いたび-かづら (つら-いちぢく) *F. foveolata* wall. [分布] 本(中南部)・四・九・朝・台・ノ山野ニ自生。

[効用] 莖ヲ豚ノ赤肉ト共ニ煎服シテ解毒藥トシ、又淨血劑(惡血清淨)トシ、莖葉煎汁ヲ淋病ノ洗滌劑トス。

(13) おほ-いたひ (薺蕪) *F. pumila* L. [分布] 本(中南部)・四九琉台朝ノ山野ニ自生。[効用] 乾葉ヲ細切シ煎服セバ風邪ヲ治シ、癰瘍ヲ治シ、又強壯劑トナル。

(14) あいざよくし-いたひ (かんてん-いたひ、あひざよくし-もどき、發玉子) *F. Aukheotsang* Mak.

[分布] 台湾・高地特産。[効用] 莖葉ヲ煎服シ風邪ヲ治シ、又強壯藥トス。果皮ヨリ寒天様物質ヲ取り發玉子ト稱シ(種子ニ凝膠質凡ノ3%含有)氷水店等ニ販賣ス。

(15) がじゆまる (がづまる、榕樹) *F. retusa* L.

[分布] 小笠原・琉台ノ山野ニ自生。[効用] 根ヲ煎服シ淋病・打撲傷ヲ治シ、酒及塩ニテ焙キテ煎服セバ脚氣・骨節痛ヲ治スト云フ。

(16) あかう (あこのき、雀榕) *F. wightiana* wall.

[分布] 本(南部)・四九琉台ノ海辺ニ自生。[効用] 葉ヲ搗碎シ積爛ニ貼付ス。材ヲ挽物細工及器具用トス。

(17) いんど-ぼだいじゆ (てんじく-ぼだいじゆ、印度(天竺)菩提樹) *F. religiosa* L. [分布] 東印度原産、日本栽植。[効用] 古来神聖樹トシ寺院ニ植ユ。莖ノ浸出乳液ハ弾性ゴム(Kautschuk)製造原料トナル。

(18) ごむのき (ごむ-ひは、だんせい-ごむのき、鐵樹) *F. elastica* Roxb. [分布] 東印度・馬來半島・ジバ島ニ自生。[効用] 莖葉ヲ傷ケ流出スル乳液ヲ乾燥シ、之ヨリ弾性鐵樹ヲ製造ス、硫黄ヲ混シ硬軟ヲ加減ス。

(19) おほば-ごむのき (おほば-ごむひは、大葉鐵樹) *F. macrophylla* Desf. [分布] 濠洲原産、熱帯ニ栽植。[効用] 同前種。

(20) べんがる-ぼだいじゆ (はんやんじゆ) *F. benghalensis* L. [分布] 東印度自生ノ大木。[効用] 根ヲ強壯藥トシ、樹脂ヨリわにすヲ製シ工業用ニ供シ、果実及葉ヲ食用トス。

Subfam. (iii) あさ (大麻) 亜科 *Cannaboideae*:

……Aハ直生、卵子ハ子室ノ頂ヨリ垂下ス。乾果、種子ノ胚乳ハ肉質、胚ハ彎曲ス。

O(21) あさ (いんど-だいまさう、印度大麻草)

*Cannabis sativa* L. [分布] 東印度原産、各地栽培。本邦ハ下野・越後・信濃・安藝・備後ノ諸國ニ多産ス。

[生藥] ♀株全草ヲ果熟初期ニ採集シ印度大麻草 *Herba Cannabis indicae* (局方)ト稱ス、藥用ニハ印度産 *indica* Lamark. ヲ最良トス。[成分] 全草ニ麻酔性樹脂ヲ多含シ、本樹脂ヲCannabinト稱シ、Kannabin(配糖質) Kannabinol (共ニ麻酔性ヲ有ス)ヲ含ミ、塩基(Muscarin・Trigonellin・Cholin)及精油ヲ含ム。

[藥効] 局方——印度大麻草 (*H. C. indicae*)ハ鎮痛、鎮靜・催眠(胃痙攣・偏頭痛・喘息)藥トシテ1回0.25~2.0gヲ散又丸トシテ用フ。印度大麻草ニテ *Extractum Cannabis indicae* ハ鎮靜及軟キ催眠藥トシテ

1日2~3回1回0.02~0.05g.ヲ与フ。主=疼痛ヲ伴フ胃腸病=用フ。又外用=ハ軟膏トシテ神經痛・リウチス等ノ鎮痛藥トシ1回極量0.05g/日極量0.15gトス。印度大麻丁葉 *Tinctura Cannabis indicae* ハ1日數回5~40滴ヲ鎮靜・催眠藥トシテ用フ。1回極量1.0g.1日全3.0g.トス。以上ノ外氣烟劑又喘息ノ喫煙料トス。回教國ノ土人ハ之ヲ麻酔性ノ喫煙料トシテ嗜好ス。葉又種子ハ解熱・緩下・通經・中風・催乳ノ諸藥トナル。〔其他効用〕莖皮ノ纖維ハ強靱無比以テ網・網・絲・織物用トス。剥皮莖ヲ碎散ト稱シ于蘭金會(七月)=用ヒ。又葦屋根下=用ユ。子実ヲ採リ食用・香料トシ又油ヲ搾ル。

(22) かむぐら(葎草) *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. [分生] 北本・四九・台朝ノ山野路傍=群生ス。〔生藥〕葎果(果及苞)ヲ乾貯ス。又莖葉ヲ葛勒蔓又葛律蔓ト稱ス。〔藥効〕果・莖・葉・皆苦味ヲ有シ。煎服シテ苦味健胃藥トス。又<sup>ホップ</sup>忍布=代用ス。又利尿・治淋ノ効アリ。1回1~2g.根部ヲ採乾シ煎用スルカ又擦リ瀉シタル汁2合ヲ酢2勺=混シ盃1杯宛1日3回服用セバ膀胱炎・淋疾性血尿・利尿困難=奏効ス。根ハ秋十月頃採入。

(23) からはなさう(蛇麻) *H. Lupulus L. v. cordifolius Maxim.* (79回) [分生] 葎・北本(北中部)ノ平野山麓・河岸等=点生又粗群落ス。〔生藥〕葎果ヲ蛇麻ト稱ス。〔藥効〕葎果ハ苦味ヲ有シ苦味健胃藥(1回1~2g.)トス。又忍

布ノ代用品トシテ麦酒釀=苦味ト香気ヲ付ス。又<sup>はん</sup>製造ノ際めりけん粉=酵母及ほつぶノ煎汁ヲ加ヘ捏リ醱酵セシムルカ。此際ほつぶノ代用トス。

△(24) ほつぶ(忍布) *H. Lupulus L.* [分生] 歐洲原産。各地=栽培。北海道及長野縣=多産ス。〔生藥〕ホップ(忍布) *Strobilus Lupuli* ハ葎果ノ將=液熟=近ク頂採集シ。火力ニテ陰乾セルモノニテ。麦酒釀造用=供スルハ葎果ヲ压榨シ30cm平方ノ板状トセルモノ也。ホップ腺(忍布腺) *Glandula Lupuli* ハ葎果(♀穂)ノ鱗苞ヲ敲打シ篩過シテ腺体ヲ採集セルモノニテ。徑0.2mm.ノ粒子也。味苦ク芳香ヲ有ス。〔成分〕忍布ノ分析結果ハ水分6~17

79回



(79回) - ほつぶノ単性花ト果實  
(1. 葎果 2. 3. Gilg.)  
1 葎果(複果)  
2. ♀ノ小花序(各2花)  
3 ♂ = P(5) A5

精油0.13~0.4%, 樹脂7~25, 單寧7~11. 含N物質10~17, 粗纖維10~18, 灰分5~10%也。苦味成分ハ2種ノ結晶性苦味質 $\gamma$ -ムロン *Humulon*  $C_{21}H_{30}O_5$  及 *Lupulon*  $C_{26}H_{38}O_4$  =テ。其他葡萄糖・*Quercitrin*・*Cholin* 等ヲ含ム。精油ハ *Humlen*・*Myrcen* (以上主成分)・リナロール・イソノニル酸リテリルエステル等也。〔藥効〕忍布腺(米・独・英・佛・准局方)ハ健胃・鎮靜・利尿藥トシ。又ヒステリ一。不眠症・膀胱カタル等=常用ス。忍布即葎果煎汁ハ麦

酒醸造ノ際苦味ト芳香トヲ附シ且清潔・防腐ニ不可缺ノ要  
 品也。又パン製造ニハ Lメリケン<sup>7</sup> 粉ニ酵母(パン種)及  
 忍布煎汁ヲ加ヘ捏テ醱酵セシム。〔處方例〕(1)忍布煎(苦味  
 健胃藥及食欲不振ニ用フ)……忍布 2.0 水 100.0 (以上1日  
 量、煎シ3分服)。(2)膀胱カタル藥……忍布煎 0.2 鞣酸 1.0  
 白糖 2.0 (以上1日量3分服)。〔新藥〕Hopalet (独、  
 Zyma・田辺)ハ忍布煎及甘草根ヲ原料トシ、胎神経鎮靜  
 藥及催眠藥トス。

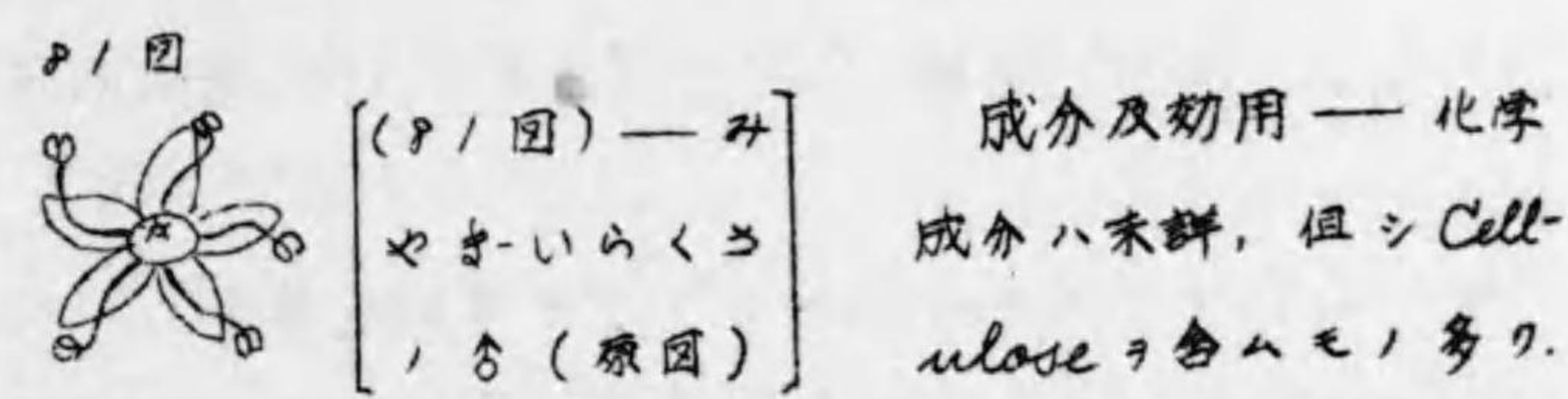
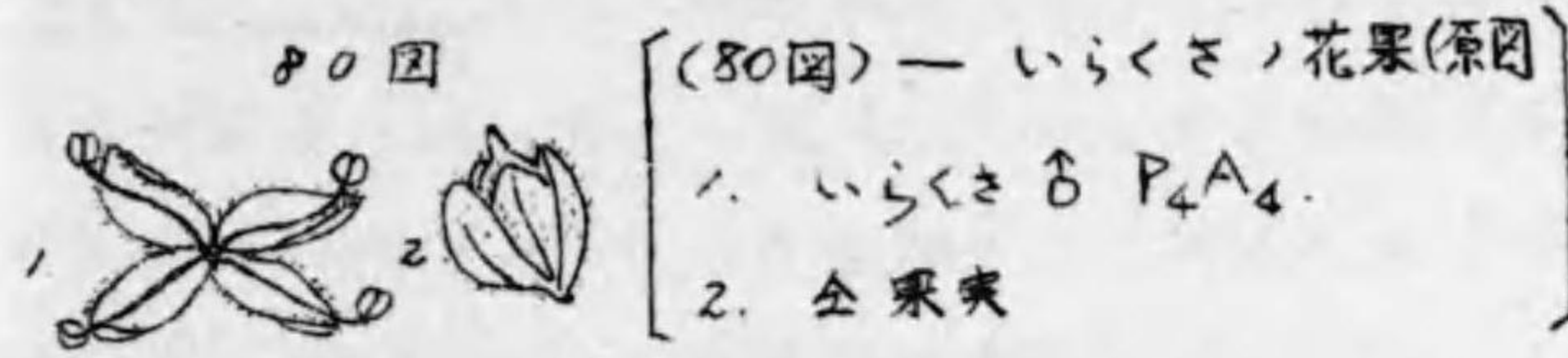
(25) はり-くは (板柘) *Cudrania triloba* Hce, [分布]  
 支・滿洲原産, 日本栽培。〔効用〕葉ハ蚕ノ飼料, 材ハ黄色  
 染料及器具用(弓等)。くわくわつ水巾(和造+油) *C.*  
*javanensis* [分布] 四・九・琉台及 あめりかはりくは (*M-*  
*aclura aurantiaca* Nutt.) ニ効用同シ。又矢ニ生垣ト  
 ス。

Fam. (III) いらくさ (蕁麻) 科 *Urticaceae*

(80-81 図参照)

形質——概①~④, 屢ニ稀ニ又ニ鐘乳体ヲ有シ, 概軟皮  
 纖維良好発達ス。不含有液。葉ハ概 $\psi$ 又 $\psi$ ⑤着, 稀 $\psi$ 。單  
 葉有齒牙緣稀缺刻緣, 葉先屢龜尾狀, 概有托葉。花ハ概  
 ♀♂) 屢♀♂, 稀雜性, 概聚繖花序時ニ擬總狀又擬頭狀,  
 同被稀無被。F. f. =  $\overline{P(4\sim5) r. (2\sim3) A 4\sim5 r. 2\sim3}$   
 $G \perp$ , Aハ芽中内曲, 子房ハ1室1ヶノ直生卵子ヲ藏ス,

花柱ハ1ヶ有 $\infty$ -乳頭突起。果実ハ瘦果又堅果或核果ニテ  
 屢Pニ被ハル。種子ハ有胚乳。



屢嫩毛中ニ毒成分(蛋白質性? 蟻酸?)ヲ有ス。主ニ纖維料  
 ニ供シ, 又藥用ニ供スルモノアリ。

分布及属種數——世界ニ41属凡600種ヲ産シ, 各地  
 ニ分布スルモ熱帯ニ多産ス。日本ニ21属凡100種ヲ産シ  
 樺太台湾間ニ分布シ, 種數ハ南進ニ從テ増加ス。

本科ノ藥用及有用植物: ——

(1) いらくさ (いたいた-くさ, 蕁麻) *Urtica Thunber-*  
*giana* Sieb. et Zucc. [寄生] 木・丸・朝・台ノ山野林地ニ粗  
 ~密生群落ヲ成ス。〔成分〕未詳ナルモ嫩毛中ノ毒液ハ蟻  
 酸・醋酸・酪酸・無N刺戟性碱性物質ヲ含ム。之ニ依テ皮膚  
 ニ病痛及発泡ヲ起ス。〔藥効〕嫩莖葉ノ酒精越短時ハ止血  
 劑(脱脂綿ニ浸シ當ツ)トス。生葉ノ揉汁ヲ蛇咬傷ニ附ケ  
 有効。全草煎出液ニテ入浴スレバ痲痛ヲ治ス。おぼはこい  
 らくさ(大葉蕁麻) *U. Takedana* Ohwi [分布] 樺・北・



南千本(北中部)・ハいらくさト同成分同効アリ。

(2) ほそば-いらくさ(細葉蕁麻) *U. angustifolia* Fisch.  
 [分布] 樺南千本・四九朝・満ノ山野=粗〜密群落ヲ成ス。  
 [薬効] 成分未詳ナルカ嫩莖葉ヲ60%酒精=浸漬圧搾・  
 濾過シ、得タル暗緑褐色・香靨性液ヲ出血・血腫等=脱脂綿=  
 浸シ局部=當テ止血薬トス。(1)(2)共=(3)同様糖尿病薬=  
 供シ得ベキ?

(3) せいやう-ほそばいらくさ(西洋細葉蕁麻) *U. dioica*  
 L. [分布] 歐洲産 [成分] 莖葉=Urticin(血糖減少作  
 用アリ)ト稱スル Glukokininヲ含有ス。[薬効] 莖葉煎  
 汁ハ糖尿病治療=用ヒラル。

以上ノいらくさ属諸種ハ嫩莖葉ハ煮食スベク、皮ヨリ絲  
 ヲトリ疊絲及布ヲ製ス、あいの人ハ弓弦ヲ造ル。

(4) むかぶ-いらくさ *Laportea bulbifera* Wedd. [生  
 分] 北本・四九朝ノ山地=点生〜粗群落ヲ成ス。[薬効]  
 莖葉榨汁ハ蛇毒ヲ消シ、風疹ノ初期=塗布シテ治療スベシ。

(5) いらくさのみ(いらのみ、えく-いらくさ、咬人猫)  
 L. *pterostigma* Wedd. [分布] 台湾産ノ中喬木。  
 [薬効] 葉及根ヲ搗碎シ瘰癧及癰=貼布ス。

(6) かてん-さう(ひしば-かさどうし、山帰来) *Nanocnide*  
*japonica* Blume. [成分] 本・四九琉・朝・台ノ山野=粗  
 〜密群落ヲ成ス。[薬効] 根ヲ煎服シ陰萎ヲ治シ、又手足  
 痙攣=有効、尚之=單合ヲ加ヘ内服セバ微毒=有効、尚淋

病・消渴ヲ治スト云フモ確證ヲ得ズ。

(7) ひめ-うははみさう *Eclatostema umbellatum* B-  
 lume 及うははみさう [みつな、むかぶ-みづ(秋形)] *E. um-*  
*bellatum* v. *major* Max. [分布] 北本・四九朝ノ山地  
 溪畔=粗〜密群落ス。[効用] 山民ハ嫩苗ヲ煉テ菜料トシ、  
 漬物トシ、搗碎シ味噌=和シ食フ(名稱ハ蛇食セバ蛇身溶  
 滅スト云フ俗説=出ツ)。

(8) ほそばの-さみづ(冷清草) *E. lineolatum* Wight.  
 v. *major* Thunb. [分布] 台湾産④。[薬効] 莖葉ヲ  
 搗碎シ刀傷及打撲傷=貼布ス。

(9) まを(からむし、苧麻) *Boehmeria nivea* Hooker  
 et Arnott [分布] 本・四九朝ノ平地・山麓=点生〜群  
 生ス。[成分] Cellulose・chlorogenic acid・Lignin 等  
 ヲ含ム。[効用] 根ヲ<sup>干</sup>碎ト稱シ新鮮ナルヲ搗碎シ、蜜ト  
 練リ合せ、淨血・掃毒・解熱劑トス又淋病・消渴ヲ治シ利尿・  
 通經劑トス(1回1〜2g.)。莖皮ヨリ絲ヲ製シ織物(リ  
 んねる)トシラミー=代用ス、栽培セバ一年2回採皮ス、  
 越後縮・明石縮等ヲ製ス、晒シ<sup>キ</sup>帯黄色者ヲ生<sup>ヒ</sup>平ト云ヒ三宅  
 島=テエのシト云フ。2変種アリ、var. *candicans*  
 Wedd. ラミー、支那草 var. *viridula* Yamamoto の-か  
 らむし共=台湾産、効用同前者。

(10) えく-まを(やなぎば-やぶまを) *B. densiflora* Hooker  
 et Arn. [分布] 小笠原・琉・台ノ島。[薬効] 葉煎汁



ニテ洗滌セバ痒ヲ止ム。

(11) ながば-ひめまを (いとざき-ひめまを) *B. Zollingeriana* Wedd. [分布] 台湾産ノ◎。 [藥効] 葉ヲ豚赤肉ト共ニ二重燻ヲナシ煎ジ、小児ノ滯食ヲ治スニ服用ス。

(12) あかさ *B. tricuspis* Mak. [分生] 北・本・四・朝ノ山野ニ群生ス。 [効用] 秋刈採、剥皮、灰汁ニ練混、石上ニ擲キ、浸水、箆上ニ置キ細釘ニテ打テ綿トシ布子ノ綿ニ用フ、あかわたト稱ス。又纖維ヲ麻絲同用トス。

(13) こ-あかさ (き-あかさ) [分生] 本(中南部)・四・九・台(vas)ノ山野ニ粗〜野生ス。 [効用] 越後方言ヲをろト云フ、秋採皮シ絲ヨリ布ヲ織ル。

(14) おとざり-まを *Pouzolzia hypericifolia* Bl. [分布] 台湾産。 [藥効] 莖葉ト糯米ヲ蒸シ共ニ搗碎シ惡血ノ吸出藥トシテ患部ニ貼付ス。

(15) おはば-ひめまを *P. indica* Gaud. [分布] 台湾産。 [藥効] 葉ヲ搗碎シ微毒・腫物ノ局部ニ貼付ス。

第八目 白檀(檀香)目 Santalales

特徴—花器ハ◎。同被・單被狀、稀異被; Aハ○又◎、Pト對立;  $G(2\sim3) \overline{r} 1$ 、各心皮ニハ房室1、頂端又中軸胎座上ニ懸垂セル1〜少数卵子ヲ有ス、又胎座ト卵子ト分化セザルモノアリ、時ニ全Gカ只大孢子(胚囊)ヲ藏セル1細胞体ニ過ズ(蛇菰科)。概寄生〜半寄生。次、3科アリ。

植物体ハ他植物ノ根ニ寄生シ、葉綠素ヲ不含、葉ハ皆鱗狀ナリ……Fam. (IV) つちどりえち(蛇菰)科 *Balanopharaceae*  
植物体ハ葉綠素ヲ含ミ尋常葉ヲ有シ、半寄生植物ニテ同種花被ヲ有ス……………1

植物体ハH又Dニテ概他植物ノ根ニ寄生スル半寄生植物ナリ……Fam. (I) ひやくだん(白檀)科 *Santalaceae*

1. 植物体ハ他植物ノ莖幹上ニ生スル半寄生植物ニテ、概常緑ノ小灌木ナリ……Fam. (IV) やどりぎ(柃寄生)科 *Oranthaceae*

Fam. (I) ひやくだん(白檀、檀香)科 *Santalaceae*

(82. 83 図参照)

形質— 茎、葉又H、概他ノ顯花植物ノ根ニ寄生スル半寄生綠色植物也。葉ハψ◎着又ψ、單葉・無裂・全縁・無托葉。花ハ⊕。萼又(♀♂)或♀♂、花序ハ單頂・腋出・總狀・円錐・繖狀・總狀・頭狀等、 $F. f. = \overline{P} 2+2 \overline{r}. 2+3 \overline{r}. 3 \overline{r}. 6 \overline{A} 4\sim 5 \overline{r}. 3 \overline{r}. 6 \overline{G} (3\sim 6) \overline{A} 4\sim 5 \overline{r}. 3 \overline{r}. 6 \overline{G} (3\sim 6)$ ; PハK狀又C狀、下部土結合、芽中銀合狀。屢肉質; 花托ハ盃狀、概花盤アリテ多形、AハPト同数、對立・約ハ2室; Gハ概下位稀上位、中軸胎座、子室ハ1ヶ、1〜3、稀4〜5ヶ、懸垂卵子ヲ有ス、卵子ハ無被。堅果又核果、1種子、有胚乳。

成分及効用— 精油、*Osyritrin* (Glycosid)、*Gerbstoff*

(稀)等ヲ含ミ、藥用ノ外芳香アル良材ヲ供シ、又食用果実ヲ産ス。

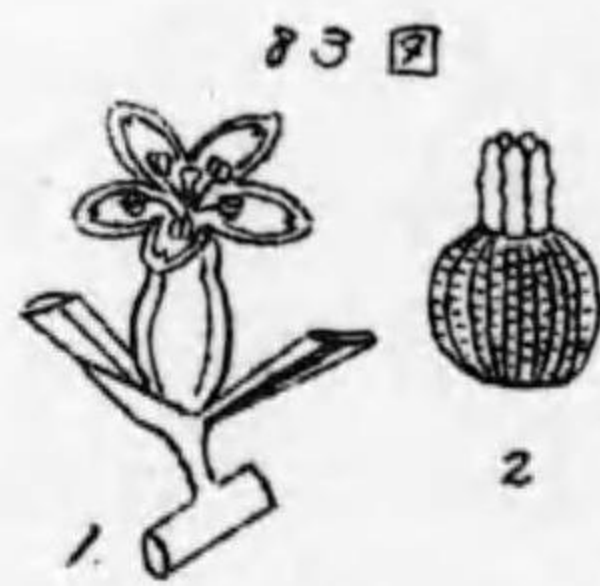
分布及属種數——世界ニ26属約400餘種ヲ産シ、熱〜温帯ニ分布ス。日本ニ自生又ハ栽培スルモノ5属6種ヲ産ス。

本科ノ藥用植物：——

○(7) ひやくたん (せんだん・白檀・檀香・旃檀) *Santalum album* L. (82回) [分布] 印度及馬來半島原産、日本栽培。[生藥] 白檀(局方) *Lignum Santali album* ハ材ニシテ、專ラ白檀油(局方)製造ノ原料トス。[成分] 木部ニ白檀油3.75%(精油)ヲ含ミ



(82回) — 1. ひやくたん、花  
2. 全花、縦断  
(Natur)



(83回) — かなひきさう、花果  
(原図) 1. 5数性、花(無梗)  
2. 果、側面

部ニ白檀油3.75%(精油)ヲ含ミ  $\alpha$ - $\beta$ -Santalol  $C_{15}H_{23}OH$  及 Sesquiterpen、90~98% 及 Santen  $C_9H_{14}$ 、 $\alpha$ - $\beta$ -Santalen  $C_{15}H_{24}$  等、炭化水素類ヲ含有ス。[藥効] 白檀油 (*Oleum santali*) ハ *Copaibaolsum* 同様粘膜ノ加答兒症ニ有効、故ニ急性及慢性淋病・治淋劑トス。樹ヨリ滲出セル精油(白檀)ハ以上ノ外石淋ニ香氣ヲ付シ膀胱カタル、攝護腺炎等泌尿生殖器疾患ニ服用(1回0.5

〜1.0g.カプセル入トシ)ス。フィジー島産 *S. yasi* 及那産 *S. Freycinetianum* 及 *S. Preisi* 等ヨリモ精油ヲ製スルモ良品ニ非ズ。材ハ芳香ニ富ミ薰烟料トシ珍重シ又緩和・清涼劑トシテ煎用シ、又器具用トス。[藥理] 白檀油ハ尿消毒藥トシテ刺激性少ク、速ニ尿道ノ灼熱感ヲ去リ、分泌ヲ抑制シ、尿ヲ澄明ナラシム、副作用亦少シ、故初期淋病ニ使用シ大効アリ。[處方例] 白檀油(急性淋病ヲ治ス)……0.5カプセルヲ膠囊ニ入レ1日3回食後1箇宛。

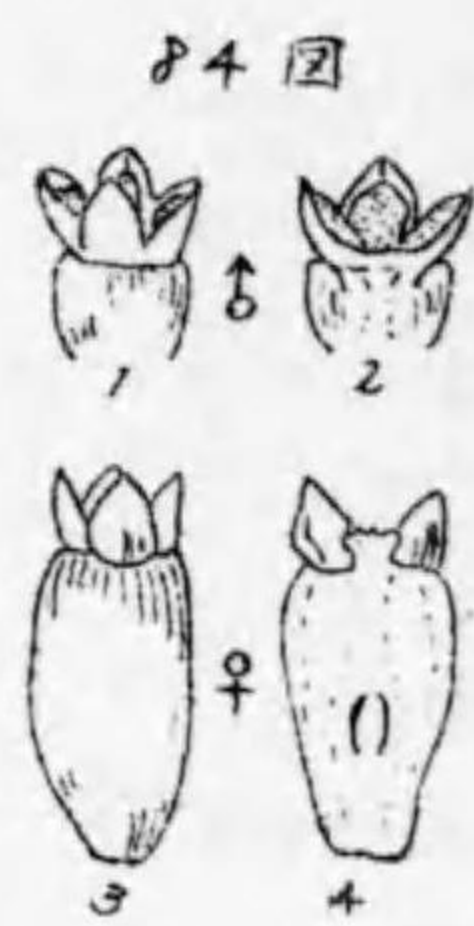
(2) かなひきさう (83回) *Thesium chinense* Turcz. [成分] 木・四九朝・瓊・台ノ山野ニ点生〜粗生ス。百藥草ノ莖葉ヲ乾煎服セバ瘰癧・頑瘡ヲ治スト云フ。

(3) つくばね (はこのき) *Buchleya Yoan Mak.* [成分] 本州(中南部)・四ノ山地ニ点生〜粗群落ヲ成ス。[効用] 果実ヲ塩蔵シ又炒テ食ス、味樞実ノ如シ、嫩葉亦食スベシ。

Fam. (II) ヤドリギ (槲寄生) 科 Loranthaceae

(84回参照)

形質——5〜5、稀5、槲吸根ニテ樹上ニ固着スル緑色半寄生植物。葉ハ稀又ハ、單葉無脈全縁・厚質・稀鱗狀、花ハ♀又♀♂同被、單被狀、花序ハ單出又繖形。概 $\oplus$ 稀 $\ominus$ 稀 $\oplus$ 、2〜3数性、花ハ  $F.f. = P(2+2)r.(3+3)A4r.6G(2\sim3)$ 、花托ハ土壺狀〜壺狀、子房ト完全癒着、其上縁ハ屢K狀ヲ成シP基部ヲ囲ム。藥ハ概2室、稀多室、子室



(84回) — ヨドリギノ  
 單性花(原図) 1. ♂ =  
 $P_{2+2} A_4$  2. ♀ 縦断  
 図. 3. ♀ =  $P_{2+2} G_{(2)}$   
 4. ♀ 縦断図  
 ハノ室ノ卵子  
 卵子ト中央胎  
 座トノ區別不  
 明。果実ハ漿  
 果様稀核果様  
 花托内層粘液化シ、多ハごも葉ヲ含ム、  
 胚乳ハ少量、胚ハ2~6子葉ヲ有ス。

成分及効用 — 化学成分トシテ Inosit · Urson · Quer-  
 cetrin · Viscin · Cholin · Kautschuk · Harzkörper · Ha-  
 rzalkohol ヲ含ムモ Alkaloid · Glycosid · Saponin ·  
 揮発油ハ殆見出レズ。寄主樹ニ損害ヲ与フルモ又藥用 · 鳥  
 糞用 · 觀賞用等ニ供スルモノアリ。

分布及属種数 — 世界ニ21属凡1400餘種ヲ産シ、主  
 ニ熱帯ニ僅數ハ温帯ニ分布ス。日本ニ3属凡26種ヲ産シ  
 北・台間ニ分布ス、台湾最多シ。

- 本科ノ藥用及有用植物： —
- (1) せいやく-ヨドリギ *Viscum album* L 分布 歐  
 洲。[生藥] 乾莖 · 葉 · 果実。[成分] 葉 = Inosit 果 = In-  
 osit · Urson, viscin, Cerylalkohol, viscinsäure ·  
 Kautschuk 等ヲ含ム [藥効] 莖葉果ヲ鎮靜劑(痙攣) ·  
 通經劑 · 催吐劑ニ煎服ス。樹皮果實ヨリ鳥糞(掃鳥虫ノ外  
 酢ト練リ外用貼付消炎藥トス)ヲ製ス。
  - (2) ヨドリギ(寄生) (84回) *V. Coloratum*

*Nakai var. lutescens Nakai* [寄生] 北本 · 四九朝 · 台 ·  
 山野樹上着生。葉生 ~ 群生。[生藥及成分] 同前種ナラン。  
 [藥効] 同前種。朝鮮 = ヲハ洋毒 · 紅疹 = 内服ス。var. ru-  
 bro-aurantiacum M. etk, あかみ-ヨドリギ(北本)  
 モ凡テ同前種也。

(3) ふうじゆ-ヨドリギ(ふうのき-ヨドリギ、楓寄生) *V.*  
*liquidambaricolum* Hayata [分布] 台湾産。[藥効]  
 莖葉ヲ煎服シ神經痛ヲ治ス。

(4) まつぐみ *Loranthis Kaempferi* Max. [寄生] 本  
 (中南部) · 四九ノ山野樹上着生。[藥効] 莖葉ヲ煎服シテ  
 1) ウマチス<sup>7</sup>、中風、淋病、消渴、疱瘡等ヲ治ス。

(5) おはけ-ヨドリギ(桑寄生) *L. yadoriki* Sieb  
 [寄生] 本(中南部) · 四九朝 · 山野樹上。[藥効] 莖ヲ強  
 壯、安胎、催乳藥ニ煎服ス。

Fan. (四) つちどりもち(蛇菰)科 *Balanophoraceae*  
 形質 — 他植物ノ根ニ寄生スル葎狀肉質草本。無葉綠素  
 根ハ球莖狀ニ長ク他根ニ固着ス。莖ハ土肥太。無分枝。根  
 莖端其一部ヨリ發生。葉ハ鱗狀。⊙着。花ハ概♀♂又(♀♂)  
 極稀々、無苞。頭狀 ~ 肉穗花序、稀分枝。花ハ同被又無被  
 $\delta = P_{(3 \sim 4)} r_{(2 \sim 8)} A_{3 \sim 4} r_{1 \sim 2 \sim 8}$ 、概中稀⊙  
 約室ハ1 ~ ∞; ♀ =  $P_0 G_{(1 \sim 2)} r_{(3 \sim 5)}$ 、1 ~ 2又3 ~  
 5、花柱アリ、子房ハ1室概1 ~ 3、懸垂性無被卵子

ヲ藏ス。堅果又核果，有1種子，高油胚乳ヲ有ス；胚ハ小，無子葉。

成分及効用——多量ノ澱粉，外  $\beta$ -Amyrin palitat (Balanophorin) (C<sub>12</sub>H<sub>20</sub>O)<sub>n</sub> ナル蠟狀物質ヲ含ム。藥用，外糊料又蠟燭原料ニ供セラレ。

分布及屬種數——世界ニ14屬凡110種ヲ産シ，主ニ熱帯ニ分布シ僅數ハ亞熱〜暖温帯ニ分布ス。日本ニ1屬10種ヲ産シ本(中南部)・台灣ニ分布ス。

本科ノ藥用及有用植物：——

(1) つちどりえち(つちやまえち，蛇菰) *Balanophora japonica* Mak. [分生] 本(中南部)・西丸・琉球・山脚樹根ニ寄生ス。[成分] 根及地下莖ニ Balmophorin・Gondangwachs 及鳥糞等ヲ含有ス。[藥効] 根及地下莖ヨリ鳥糞(根莖ヲ水ニ浸シ，搗碎シテ製ス)ヲ採リ，又糊料ニ供ス。

(2) しまつちどりえち(しまつちえち) *B. Jungosa* Forst. 及やへやまつちえち(りうきうつちどりえち，瓊陽) var. *Kuroiwai* Mak. [分生] 琉球(八重山)ニ産シ樹根寄生。[藥効] 全草ヲ強壯・益精・泻下劑ニ煎服ス。

### 第九目 馬兜鈴目 Aristolochiales

特徴——花器ハ◎。♂又♀。同被又單被，PハC様。子房3〜6室。下位。中軸胎座。稀1室側膜胎座，各室∞卵

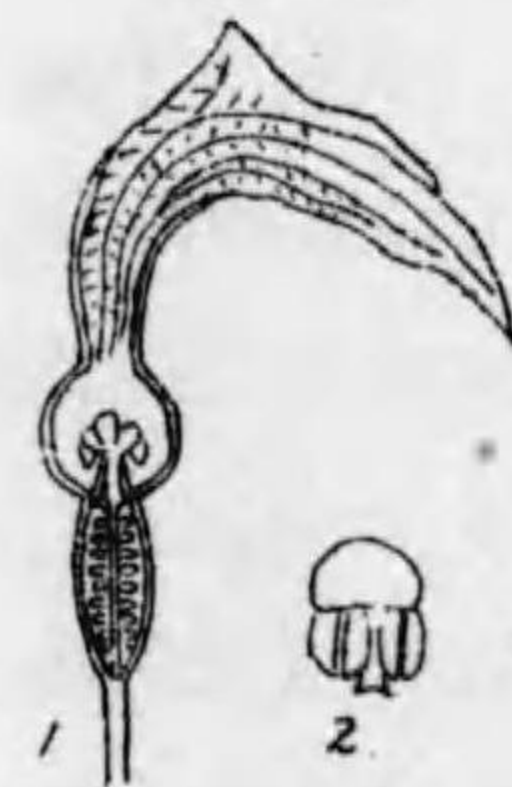
子(種子)。胞原細胞ハ單細胞。本目ニウマノすすくさ科(藥用)及 *Rafflesiaceae* (南洋産・非藥用)科ノ2科アリ。

Fam. (I) うまのすすくさ(馬兜鈴)科 *Aristolochiaceae* (85-87回参照)

形質——①〜④。屢々又互性葎，油槽細胞ヲ有ス。葉ハ，單葉概無裂絲3〜5裂。全縁，心形〜腎形系，無托葉。有長柄。花器◎。概♀，♂又♀，同被・單列・3數。花序ハ概單頂花稀集合性， $F. f. = P(3) A 6 \sim 36 r. 5 G(4 \sim 6)$ 。PハC様有色，Aハ分離又花柱ト合着，概外向葎，子室4〜6。各室ニ2卵膜，∞例生卵子ヲ藏ス。蒴果，種子ハ有胚乳，胚ハ細小。

成分及効用——精油・Inosit. 有機酸・Aristolochin. 等檢出サレ，Alkaloidハ稀ニGlycosidハ殆無ク，脂肪・羧酸類・Saponin 等ハ未檢出也。藥用又觀賞用ニ供スルモノ不尠。

85回



(85回)——うまのすすくさノ花器(原圖)1. ♀ノ縱斷面2. A及花柱ト柱頭

分布及屬種數——世界ニ5屬400餘種ヲ産シ，熱〜温帯ニ産シ其∞ハ南米ニ分布ス。日本ニ3屬凡55種ヲ産シ，樺・台灣ニ分

布スルモ南方ニ向テ逸増ス。

86図



本科ノ藥用植物：——

(86図)——うすば-さいし  
心ノ解剖(原図) 1. 全草(但  
双葉及根ヲ切除ス) 2. 花柱及  
柱頭 3. 雄蕊

87図



(87図)——かんあふひノ  
解剖(原図) 1. 植物体(但  
双葉及根ヲ切除ス) 2. G及  
A並花盤 3. 雄蕊

(1) うまのすずくさ(うまのすずかけ。馬兜鈴)(86図)  
*Aristolochia debilis* Sieb. et Zucc. [分生] 本(中  
南部)・四九琉ノ山野ニ点生又粗生。[生薬] 土青木香(青  
木香) *Radix Aristolochiae* ハうまのすずくさ属ノ根ノ根  
乾品也。故日本ハうまのすずくさヲ支那ハおぼばうまのす  
ずくさヲ朝鮮ハまるばうまのすずくさヲ使用ス。氣味芳香  
性稍苦ク辛シ。馬兜鈴 *Fructus Aristolochiae* ハ熟果ノ乾  
品也。楕円形有六稜。暗褐色。容翅種子。[成分] 精油。  
*Clematitin* (苦味質), *Aristolochin* (有毒Alkaloid)  
等ヲ含ム。[藥効] 土青木香(根部) ハ虫毒・蛇毒ノ解毒藥  
トシ煎服及外用シ又酒浸出内服ス。用量4~10g。粉木ヲ  
傷口ニ散布スルモ有効。但多服スレバ消化器及泌尿器ヲ刺  
戟シ中毒ス。又解熱・鎮咳・祛痰・通經・清血劑トシテ特効ア

リ。又煎汁ヲ痔出血(肛門腫脹疼痛甚)ニ外用シ又其根ヲ  
火ニ燻シ煙ヲ局所ニ觸レテ治ス。(秋期掘根水洗乾貯ス。根  
皮剝離セシラ白木香又白香ト稱ス)。馬兜鈴(乾果)ハ鎮咳・祛  
痰ニ有効ノ回4g。漢方。[藥理] <sup>アリストロヒン</sup>*Aristolochin* (果持種  
子中)ハ強毒性。家兎ニ「アロイン」様出血性腎炎。犬ニ  
垂比酸様腸炎ヲ起ス。其致死量ハ体重1kgニ付。靜脈内  
注射量8~10mg也。家兎靜脈内注射ハ一過性ノ血圧上昇  
ト呼吸増大頻數ヲ来シ。迷走神經切断ニテモ。「アトロピン」  
ノ前處置ニテモ無影響也。末梢血管ニ對シテハ強收縮的ニ  
作用ス。腸管及子宮亦然リ。「アトロピン」ニ依テ無影響也。  
又家兎体重1kgニ付0.0075gノ皮下注射ハ重々腎炎(尿  
量増大・蛋白及グロブリン多量・腎上段細胞混入)ヲ起  
シ。5~6日ニテ恢復ス。0.02gニ増セバ尿量大減シ遂ニ  
血尿・尿閉・後肢不全麻痺・呼吸困難・脈搏不整・頸部振り  
様運動・角膜反射減退等ノ諸症狀ヲ起シ。呼吸靜止ノ下ニ  
斃ル。犬ニ對シテ10.01gノ注射ハ不反應又ハ下痢症狀  
ノミナレド。之ヲ靜脈内ニ注入セバ体温上昇・脱力・嘔吐・  
下痢・衰急後重・呼吸靜止ヲ来ス。[處方例]<sup>1)</sup>馬兜鈴散(咳  
嗽・喘息ニ用フ)——馬兜鈴・桔梗・人參・貝母・甘草各5.0  
陳皮・大腹皮(檳榔子ノ果皮)・紫蘇・桑白皮・五味子各2.0  
——以上煎劑。200.2日分。<sup>2)</sup>喘息藥——馬兜鈴・桔梗各  
1.5・人參・貝母・陳皮・紫蘇・桑白皮各1.0・甘草2.0・水200.0  
——以上1日量煎劑。3分服。<sup>3)</sup>祛痰藥——馬兜鈴4.0

甘草 2.0 水 100.0 ----- 以上 1 日量煎劑, 3 分服。

(2) おぼば-うまのすずぐさ (馬兜鈴) 及其諸変形 *A. Kamperferi* Willd. [分生] 本 (中南部)・四九流ノ山野生。根果ノ生薬・成分・薬効等凡テ同前種。

(3) まるば-うまのすずぐさ (馬兜鈴) *A. contorta* Bunge [分生] 朝・満ノ山野生。薬効 果ヲ肺虚・喘息ニ内服ス, 除熱ノ効アリ, 其他同前種。

(4) あめりか-うまのすずぐさ *A. Serpentaria* L. [分布] 北米南部 (ミシシッピ河以東)。[生薬] セルペンタリア根 *Radix Serpentariae* ハ本種ノ根及根莖ノ乾物也。[成分] *Aristolochin (Sespentarin)* ヲ主トス。根莖ニ 1~2% ノ精油ヲ含ム。其主成分ハ *Borneol* 也。其他 *Cymol* 及 *Terpen* ヲ含有スト云フ。薬効 食慾増進薬・<sup>熱痛ノ</sup>興奮薬トス, 浸劑トシ用重 0.5~1.5g。

(5) うすば-さいしん (さいしん・細辛) (86 回) *Asarum Sieboldi* Miq. [分生] 本四九朝ノ山地陰地ニ点生~粗群生。[生薬] 細辛 *Radix Asari Sieboldi* ハ乾根及根莖也。氣味芳香性辛辣也。朝鮮ニハ *var. seoulensis Nakoi*。うすば-さいしんアリ, 同効アリ。[成分] 根ハ精油 3% ヲ含ム。主成分ハ *Methyl-eugenol* = 其他少量ノ *Asarylketon*  $C_{10}H_{16}O$ ,  $C_{10}H_{10}O_4$  ナルフェノール<sup>7</sup> *Phenol*・<sup>7</sup> *Palmitinsäure*, *Parmitinsre*・*Asarinin* 等ヲ含有ス。加来氏ハうすば-さいしんノ根

ヨリ精油・*Methyleugenol*・*Parmitinsre*・*Safrol*・*ビニル-β-Pinen*・*Eucarron*  $C_{10}H_{14}O$  及  $C_{10}H_{10}O_4$  ナル *Phemol* 等ヲ検出セリ。[薬効] 細辛 (準局) ハ解熱発汗薬トシテ感冒・頭痛・頭内搏動ヲ治シ又利尿及祛痰ノ効アリ, 1 日 4g。煎服。煎汁ハ口臭ヲ去リ, 口瘡藥トシテ外用シ口舌ノ瘡ヲ治ス。[薬理] 精油ノ金線蛙・白鼠・豚兒等ニ對スル作用ハ, 初ニ過性興奮ヲ呈セル後麻痺状態ニ陥ル。即隨意運動及呼吸運動ノ減退ヲ来シ, 反射運動亦次ニ減退シ, 完全ナル一般麻痺ニ陥リ。遂ニ呼吸停止ヲ以テ斃死ス。心臟ハ呼吸停止後尚搏動ヲ保持ス。故細辛ノ薬効ハ本精油ノ鎮靜的作用ニ歸スベシ。[採集] 夏日根ヲ掘採シ陰干シ貯フ。[処方例]<sup>1)</sup> 細辛湯 (感冒・頭痛ヲ治ス) ----- 細辛 4.0 水 100.0 以上 1 日量煎劑, 3 分服。2) 細辛川芎湯 (感冒・発汗解熱) ----- 細辛・荆芥 (*Nepeta*。ありたさう)・川芎各 1.0 ----- 以上 1 日量粉末トシ 3 分服。3) 細辛半夏茯苓湯 (発汗鎮咳驅風薬) ----- 細辛・半夏・茯苓・桔梗・桂皮・甘草各 2.0 水 200.0 ----- 以上 1 日量煎劑 3 分服。

(6) おくゑぞ-さいしん (奥蝦夷-細辛) *A. heterotropoides* Fr. Schm. [分布] 樺・南千・北ノ陰地 (山岳地) ニ生ス。生薬・成分・薬効等前種ト同様ナラン。[備考] 本種ハ従来 (5) ト混同サレシモノ也。

(7) せいやう-さいしん (西洋細辛) *A. europaeum* L. [分布] 歐洲。[生薬] アサラム根 *Radix Asari euro-*

paei ハ其乾根及根型也。[成分] 精油 (Asaron.  $\alpha$ -pinen. Eugenol-Methyläther) ヲ主トス。[薬効] 頭痛薬 = テ又興奮・利尿・通経薬トス。

(8) かんあひひ (杜衡) (87回) *Heterotropa nipponica* F. Maikawa [分生] 本州各地 / 山中陰地ニ点生〜粗群生。[生薬] 杜衡 (杜葵, 土細辛) *Rhizoma Heterotropae nipponicae* ハ根莖ヲ秋日 採乾セルモノ也, 細辛ヨリ粗大辛味小シ。支那産杜衡ハ *Asarum maximum* Hemsl. ナリト云フ。[成分] 精油 (主成分 *Safrol*. Eugenol) ヲ主トス。[薬効] 鎮咳・祛痰・氣管支加苔塊・喘息・水腫・利尿劑トシ / 日 4g. 1回 / 2g 煎服ス。又発汗・咳嗽・等ニ有効。果実ヲ煎用シ催乳薬トス。又觀賞用トス。[藥理] *Safrol* ハ麻痺毒ニテ死因ハ呼吸中樞麻痺也。猫及家兎ニ長時間其少量ヲ与フレバ, 燐中毒ト同様高度ノ肝臓及腎臓ノ脂肪变性ヲ来ス。犬ニ 0.75g ヲ与レバ嘔吐ス。犬ノ致死量ハ注射・内服共ニ 体重 1kg = 付 1.0g. 静脈内注射ニテ同ク 0.2g. 也。局所刺戟作用ナシ。[處方例] 1) 杜衡水 (鎮咳薬) …… 杜衡 6.0 水 100.0 以上 / 日量煎劑. 3分服。 2) 全 (氣管枝カケル, 喘息) …… 杜衡 6.0 甘草 2.0 水 100.0 以上 / 日量煎劑. 3分服。

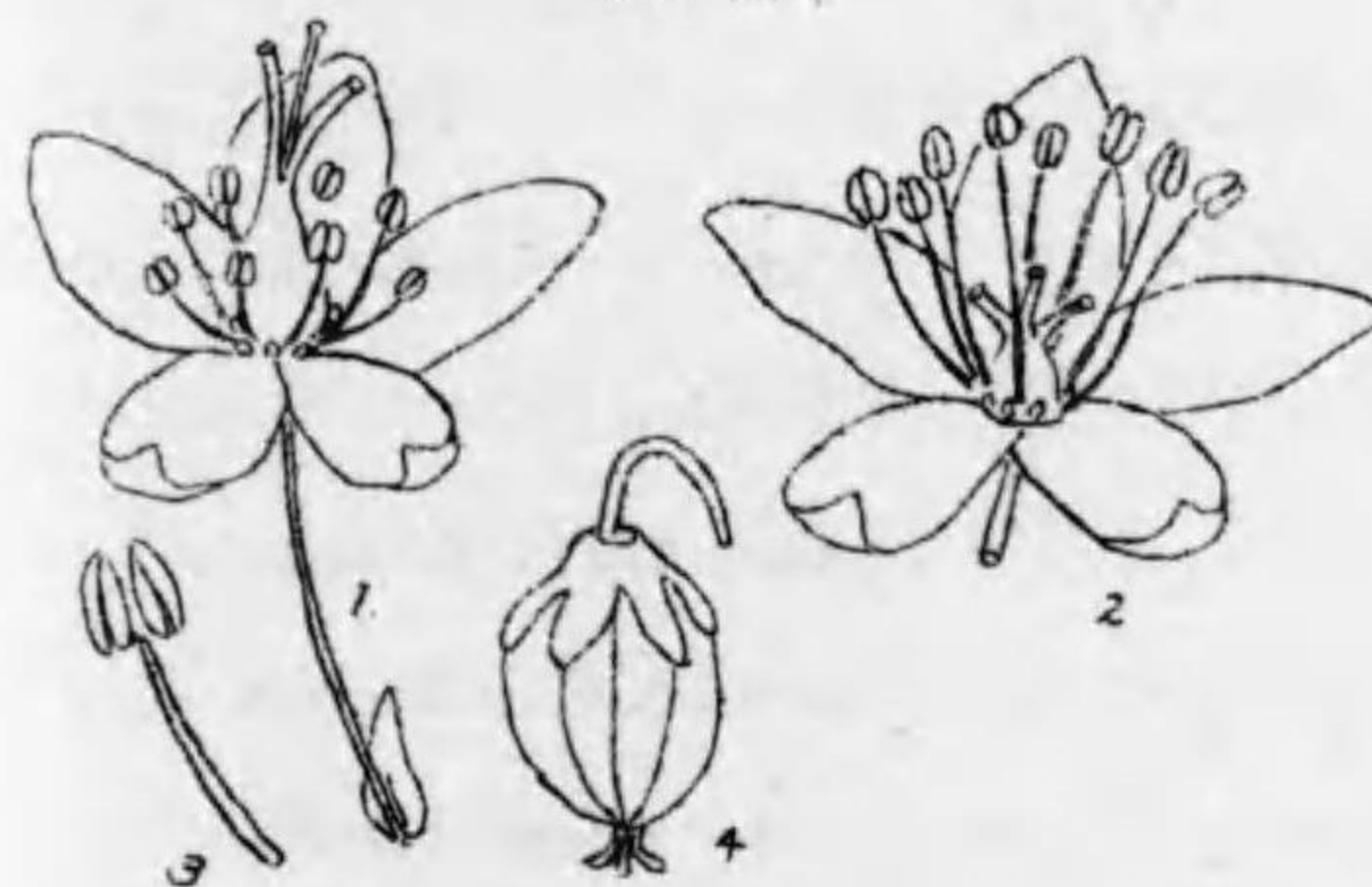
### 第十目 蓼目 Polygonales

次ノ一科アルノミ。

Fam. (1) 夫 (蓼) 科 *Polygonaceae*. (88~92回参照)

形質 — 概 ①~④. 稀又又 (外國). 葉ハ概 ⑤ 着. 稀 ⑥ 又 ⑦ (外國); 單葉概無裂稀羽〜掌狀淺〜深裂. 概全縁稀齒牙縁〜缺刻縁. 概狭〜廣披針形又狭〜廣心形或戟形. 概有柄稀無柄屢有翼. 概皮膜質〜肉質, 托葉鞘 (葉靴) アリ. 花器ハ小形. 單被又與被, 傘又子房; 花序ハ散傘又複總〜總狀花序. 花ハ ⑧, ⑨,  $F. f = P_3 \sim 6 r. 3 + 3 A_6 \sim 9 G(2 \sim 3)$ . 花被ハ K 様 (綠色系) 又 C 様 (着色又白). 概單列稀又輪列 (K-C 狀). 稀宿存時膨大; A ハ稀 3 ヲリ少又 9 ヲリ多; G ハ稀 G(4). 花柱ハ心皮ト同数. 子房ハ / 子室 / 卵子, 卵子ハ概直生稀倒生. 果実ハ堅果又瘦果, 概伴宿存萼; 種子ハ粉質又角質胚乳ニ富ム。

88回



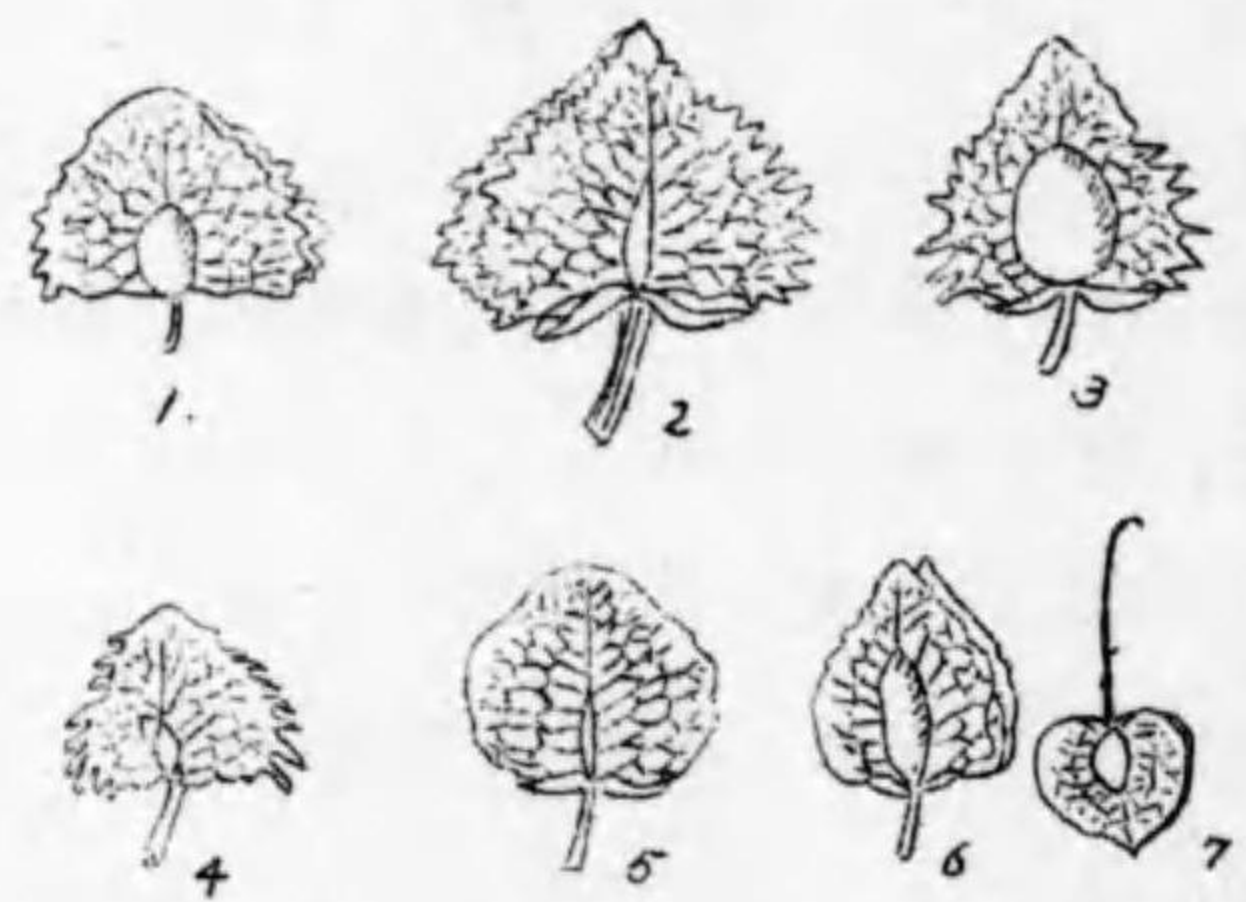
88回—4は  
1. 二形花及果  
実 (原図)  $P_5$   
 $A_9 G(3)$  1. 長  
柱花 (伴萼) 2.  
短柱花 3. A  
4. 果実 (伴萼,  
堅果)

90 図



(90 図) — 大で科諸属ノ花式图 (Engler) 1. ざしざし属 (Rumex) 2. だいわう属 (Rheum) 3. そげ属 (Fagopyrum) 4. 大で属 (Persicaria) ノ花式。

91 図



(91 図) — ざしざし属ノ葉ヲ示ス (原图) 1. ざしざし 2. ま-だいわう 3. あれち-ざしざし 4. さぶね-だいわう 5. 大かね-だいわう 6. 7. なかば-ざしざし

92 図



(92 図) — だいわう (R. officinale) ノ果実 (Engler)

成分及効用 — 化学成分トシテハ配糖体 (Polygonin, Cuspidatin, Rhaponticin, Emodin-glucosid, Rhein-glucosid, Chrysophanein, Rheochrysin, Glukogallin, Tetrarin, Indican 等). 配糖分解物 (Anthrachinonglycoside (Rhein, Emodin, Chrysopha-

nsäure, Isoemodin, Rheochrysin, Rhapontigenin, Chrysorhapontin, Rheosmin 等). 有機酸 (林檎酸, 蔞酸, 遊離又塩, 没食子酸, 鞣酸等). 色素 (Indigotin). 其他ノ物質 (Quercetin, Lethicin, 澱粉, 糊精 Dextrin, 糖類, 蛋白質, 粘液質, 脂肪油, 揮発油等) 等也。

本科 = ハ藥用植物甚多ク, 又食用, 染料, 觀賞用 = 供スルモノ不尠。

分布及属種数 — 世界 = 30 属凡 850 種ヲ産シ, 世界各地 = 分布スルモ主 = 北半球ノ温帯 = 多産ス。日本 = 自生又栽培スルモノ凡 16 属 130 種ヲ下ラズ, 本州區最多ナルモ台湾琉球區亦不尠, 而テ北州區 (千・樺・北) = ハ寒地性者多ク極地分布 = 連絡ス, 鮮・滿・支・地方 = モ固有種多シ。大英属 (Rheum) ハ其一也。

本科ノ藥用及有用植物: —

(1) みちやなぎ (クハヤナギ, 蒭蓄) 及其諸变种 Polygonum aviculare L. [分生] 樺・南千・北本・西九・朝・1 平地・路傍 = 粗 ~ 稍密生。[生藥] 蒭蓄 Herba Polygoni avicularis ハ夏期全草採乾セルモノ也。[成分] 糖分・揮発油・鞣酸・鞣質・蠟 等ヲ全草 = 含有ス。[藥効] 漢: 全草ヲ痰癰・腹痛・霍乱 = 用フ, 又利尿 (黄疸・腎臟病) 劑・止瀉藥 (腹痛下痢止) トナリ, 尚驅虫劑 (蛔虫等) トス, 1 日量 5 ~ 25 瓦ヲ煎服ス。

(2) 魚之-みちやなぎ P. Bellardii All. [分生] 北本



=自生ス。成分・薬効未詳ナルモ前者ト畧同微同効アラン。

(3) いぶき-とらのを(えびね伊吹虎尾<sup>フンジン</sup>拳参) *Bistorta vulgaris* Hill. [分生] 北(南部)・本・四・九・朝・ノ山地又亜寒地帯ノ草地=粗~群生ス。[生薬] 拳参ハ根及根莖ヲ秋期採乾セルモノ也。黒褐塊状。[成分] 根=單寧・鞣酸(*Bistra Gerbsäure*) 没食子酸・糖・ゴム質 *Kautschuk* 樹脂・粘液質・*Oxyanthrachinonglycosid* 還元糖・澱粉・纖維素・灰分等ヲ含有ス。噛ムニ収斂性滋味強シ。[薬効] 強収斂性ヲ利用シ止瀉薬ス口腔内炎症ノ含嗽劑トス。尚慢性痔疾・下痢・出血・腫氣ヲ治ス。1日6瓦煎用。本品ハペル一産ラ夫にあ根(决明料)ノ代用トス。又若キ莖葉ヲ食用トシ或觀賞用トス。[採集] 秋期根ヲ掘取り水洗陰干トシテ貯フ。

(4) えび-いぶきとらのを(蝦夷伊吹虎尾) *B. vulgaris* Hill. v. *ovata* Nakai [分生] 樺北本(中北部)・朝ノ寒地帯ノ草原=粗~稍密生ス。成分・効用等凡テ同前種也。

(5) はる-とらのを(いろはさう・紫参) *B. tenuicaulis* Nakai [分生] 本(中南部)・四・九ノ山地=粗生ス。[薬効] 地下莖ヲ通經藥=煎用ス。

(6) そは(蕎麥)(88回) *Fagopyrum vulgare* Hill. (= *F. esculentum* Hoench.) [分生] 東亞ノ大陸地原産日本・鮮滿各地栽培。[生薬] 子実ヲ蕎麥・會皮・久呂無<sup>クハ</sup>水ト稱シ概粉末ヲ用フ。[成分] 莖葉 = Anthocyan.

*Zucker*・*Rutin*・*Quercitrin* 等ヲ。果 = ハ *Pentose*・*Xanthophyll*・*Pyrocatechugerbstoff* = 屬スル *Phlobaphen* 等ヲ。種子 = ハ *Saccharose* (1~2%)。澱粉 (67% 迄)・脂肪油・蛋白質・糖類・*Glutenin*・*Glutenfibrin*・*Globulin* 等ヲ含有ス。[薬効] 蕎麥粉ハ食用トシ滋養價大ナルモ癰腫・淋病ニハ藥物(民間)トス。又緩和・滋養強壯・緩下劑トシテ有効。粉ヲ酒ニ解キ打身ニ貼付ス。酢ニ練リタルハ刺ヲ抜ク(局部貼付)ニ妙也。粉ヲ酒ニ練リ塗沫シ氣力ヲ益シ。冷汗ヲ收ム。粉ヲ炒リ白糖ニテ飲メバ産後腹痛ヲ治ス。若キ莖葉ハ食用ニ供スベシ。[備考] 蕎麥ハ養老・承和年間ニ朝廷ノ奨励ニテ栽培ヲ始メ。徳川時代ニ始テ蕎麥切ヲ用ヒタリト謂フ。蕎麥ハ高地即寒地産程佳味ナルハ奇也。

(7) だつたん-そば(鞆韮蕎麥) *F. tataricum* Gaertn. [産地] 中亞又印度原産。各地栽培。本種ハ前種ニ近キモ葉ハ三角~三角戟形。單總花序ナリ。成分・効用同前種ナラシモ研究未詳。

(8) かんきちく(對筋草・蜈蚣草) *Muehlenbeckia platyclada* Meson. [産地] 濠洲ノコモン島原産ノ草。[薬効] 葉ヲ田蛙ト混シ搗碎シ蜈蚣又毒蛇咬傷・腫物等ニ貼付ス。又莖葉搗碎液汁ヲ局部ニ塗布スルモ可。又莖葉ヲ煎服シ熱病ヲ治ス。驅風ノ効アラン。觀賞用ニ栽培ス。

(9) いぬ-たで(あかのまま・馬蒙) 及其变种 *Persica-*

*ria Blumei* Gross. [分生] 樺・南千・北・本・四・九・朝・琉・台・ノ平地・山麓・稀山中ノ路傍〜湿地ニ粗〜密生ス。

[生薬] 全草ヲ馬藜<sup>バレイク</sup>又天葵ト稱シ花時採乾ス。[薬効] 馬藜ヲ黒焼トシ其粉ホヲ婦人産前産後ノ浄血劑トシ又健胃ノ効アリ。煎服セハ小児ノ解毒劑、蛔虫驅除藥、皮膚病藥トシテノ回ノ煎用ス。

(10) みそ-そば (た-そば, 苦蕎麦) 及其近種 *P. Thunbergii* Gross. [分生] 樺・南千・北・本・四・九・朝・台ノ平地ノ湿地・水辺・河岸ニ群生ス。[薬効] 莖葉ヲ煎服セバ「山ウマチス」ニ有効。又葉ヲ揉ミ塗布シ止血藥トス。

(11) つか-そば (赤地利) *P. umbellata* Nakai [分生] 本(中南部)・琉・台ノ海浜ニ蔓延ス。[薬効] 莖葉ヲ油ト搗キ溶シ指ノ腫物及小児ノ諸症ニ粘ト共ニ患部ニ貼付ス。

(12) あざぶ-たて (えど-たて, 麻布蕨, 江戸藜) *P. fastigiataramosa* Nakai [分生] 東京及其附近ニ栽植。[成分] 未詳, 未研究。[効用] 葉ヲ辛味料(香辛料)トシ食膳ニ供ス。[近種] いと-たて (やをせん-たて, ほそば-えど-たて, 八百膳藜) *var. angustissimum* Nemoto ニ全効アリ。

(13) やなぎ-たて (かは-たて, みづたて, 水蓼, 柳蓼) 及其近種 *P. Hydropiper* Spach. (1) 本種ノ自生(樺北・本・四・九・朝・琉・台) 近種ヲ *var. vulgaris* Ohki (やなぎ-たて) ト云フ。之ニ *var. miya-たて* 一名 *かは-たて*・*むらさき-たて* ノ2 変

形アリ。(2) 栽培種(各地栽培) = *var. laetevirens* Nemoto (あわ-たて, あを-たて, たて, ほん-たて, きたて)。

*var. Maximowiczii* Nemoto (ほそば-たて, さつぎ-たて)。*var. viridi-purpureum* Nemoto (むらさき-あわ-たて) ノ3 型アリ。甲ハ無毛。乙ハ多少有毛。丙ハ微紫紫色ナリ。効用皆同。[生薬] 莖葉及子実ヲ藜・棘藜・藜藜・苦味・辣果・唐菜等ト稱ス。生品ヲ貴フ。[成分] 未詳ナルモ一種苦味質・揮発油等ヲ含ム。[薬効] 葉ヲ辛味(香辛)料トシ。生葉ヲ搗ミ揉ミ得タル汁ヲ中暑・霍乱・腹痛ニ内服シテ有効。採乾全草ヲモ中暑・霍乱ニ3〜5 瓦煎服ス。子実ハ解熱利尿藥(水腫・結毒)トシ下毒ノ効アリ。1 回1〜3 瓦煎用。茶劑トセバ血行ヲ盛ニシ耳目ヲ明ニスト云フ。朝鮮ニテハ捕魚及南京虫驅除藥トス。

(14) さくら-たて (櫻藜) *P. conspicua* Nakai [分生] 北・本・四・九・台ノ原野・水辺等ニ点生又粗生ス。[薬効] 葉ヲ搗碎シ諸虫ノ毒ヲ解クニ用フ。

(15) いしみかは (杠板帰) *P. perfoliata* Gross. [分生] 樺北・本・四・九・朝・台ノ原野路傍ニ点生又粗生。[薬効] 莖葉及根ヲ杠帰又杠板帰・逆茨ト稱シ。花時採乾(根ハ秋採採水洗陰干ス)シ。糖尿病 = 40 瓦(十匁)ヲ5 合ノ水ニテ3 合ニ煎ジ。1 日3 回ニ分服ス。又尿毒症ニ同量ヲ用ヒ。其他収斂藥(下痢止)トナリ。打傷・切傷ニ罌法ス。又搗碎シ切創。癰腫・毒蛇咬傷ヲ治スル爲メ局部ニ貼付ス。

(16) あきのうなぎつかみ (あきのうなぎづる) 及其变种 *P. Sieboldi Ohki* [分生] 北・本・四・九・朝・台・原野・路傍 = 粗〜群生ス。[薬効] 莖及根ヲ取ト共ニ煎出シ、腫物ノ洗滌料トス。

(17) はるかたで (あをなつたで) *P. vulgaris webb. et Moq.* [分生] 本(中南部)・四・九・台・水田(耕作前)・湿地等 = 粗 = 群生ス。[薬効] 莖葉ニ不明ノ辛辣成分ヲ含ミ、辛辣料トス、但シ大量ハ胃腸及膀胱粘膜ノ炎症ヲ起シ、更ニ多量ハ失神・痙攣・麻痺等ヲ示ス (Horst氏ニ據レバ莖葉中ニ *Kampfer* 様ノ *Persicariol* ヲ含有スルト云フ)。

(18) あい (たで-あい・藍) *P. tinctoria Gross.* [分生] 原産地支那、日本南部ニ栽培ス。四國河原ハ古来有名ナリキ、沖縄・廣島・愛知・三重ノ諸縣之ニ至ケ、葉形ニヨリ數種ニ分類ス。[生薬] 莖葉 *Folium Persicariae tinctoriae* ハ葉ヲ採乾セルモ、藍實 *Fructus Persicariae tinctoriae* ハ果ヲ採乾セルモ、内ニ種子ヲ藏ス。

[成分] 莖葉 = *Indican* (配糖体  $C_{14}H_{17}NO_6$ ) ヲ含ム、是ハ加水分解シ酸化セバ葡萄糖ト *Indigois (Endoxyl)* (白藍) トナリ、更ニ空気ニ觸レ酸化サレテ *Indigoblau (Indigo)* (青藍) トナリ染色ニ適ス。[薬効] 生葉ノ揉汁ヲ毒虫(蜂・蜘蛛・蜈蚣等)ノ螫傷ニ塗布又ハ乾葉煎服ニヨリ治癒ス、又腫物・腫毒ニ塗布シテ奏効ス。子実即藍実一名青黛実ヲ煎服(1回1〜5瓦)セバ氣力精カヲ増進シ、諸

毒ノ解毒劑トナリ且解熱ノ効アリ。[染色] 葉ヨリ藍玉ヲ製シ藍染料トス。藍玉ハ水ニ不溶性故先ツ是ヲ還元シあるカリ性ノ水ニ溶シテ白藍トシ、是ニ可染物(木綿・羊毛等)ヲ浸漬シ、次ニ空中ニ曝セバ白藍ハ酸化シテ青藍トナリ染色ヲ完了ス、此方法ヲ藍理ト云フ。

(19) つるどくだみ (かしう、何首烏) *Pleuropterus multiflorus Turcz.* [分生] 支那原産ナレド各地ニ自生狀ヲナス蔓草。[生薬] 何首烏 *Radix Pleuroptari multiflori* ハ肥大不完塊狀ノ根ヲ秋期採乾セルモ、味ハ收斂性稍苦シ、赤白黒ノ別アリ、赤葛・夜交・地精トモ稱ス。支那・山形・岩手縣産。朝鮮産何首烏ハこいけまノ根ナリト云フ。[成分] 有効成分 *Anthrachinon* 誘導体 (*Oxy-methyl-anthrachinon*……クリソファン酸トシテ、又 *glycosid*) 及レチケン、皂素、澱粉(暑キ量)・粗脂肪・鎳物質・水ニ可溶性物質等ヨリ成ル。[薬効] 漢ノ根ハ專ラ強壯・強精藥トシテ古来長生不老ノ目的ニ使用ス、又中風ノ妙藥トス、健胃強壯劑トモ稱ス。緩下劑ナレバ腰膝痛・足痛・結核・盗汗・腎臟病・肝臟病・癰疽・瘰癧・毒瘡・胎毒・肺疾・癩病・老衰ニ有効トス。用法ハ何首烏粉末2〜7瓦ヲ酒ニテ空腹時ニ嚥下ス。痔疾ニハ茯苓(まつぼと)ノ煎湯ニテ1回4瓦ノ粉末ヲ飲ノバ奏効ス。強壯補精藥トシテハ老衰・病後・神經衰弱・腺病質・佝僂病・肺疾ニ應用ス。[薬理] 上記れちんハ神經組織中特ニ腦質中ニ存スル含磷性化合物ニテ卵黄ヨリニ

製ス、これすてりんト共ニ細胞膜ノ主成分トシテ大ナル生物學的意義ヲ有シ。常ニ血液中ニハ一定ノ比率ヲ以テ含マル。今れちちんヲ金線蛙ノ抽出心臓ニ作用セシムルニ1万~2万倍ノ濃度ニテ催進的作用ヲナシ。特ニ疲勞心臓ニ對シ明ナル催進作用ヲ認ム。漢方中糖尿病用植物生藥ノ一ナル何首烏ヲ煎劑トシ家兎ニ經口的ニ与ヘ、血糖量ニ及ズ影響ヲ觀ルニ、投藥後30~60分ニテ血糖量上昇最高ニ達スルモ、爾後漸降下シ、6時間後、血糖量ハ正常ヨリ約0.03%少シ。〔處方例〕1) 強壯補精藥-----何首烏70 酒1立以上冷浸後ノ日數回小量宛服用。2) 全-----何首烏100 水2000 以上ノ日量煎劑トシテ分服。3) 全-----何首烏10.0 青皮陳皮大棗生姜以上各2.0 甘草1.0 水200.0 以上ノ日量煎劑ヲ分服。4) 不老長壽強精藥(儒醫岸原鴻太氏處方)-----何首烏2斤 白朮1斤 五味子1斤 以上混合臼搗粉末トシテ篩ニカケ、朝夕食前ニ2匁(8瓦)ヲ酒又塩湯ニテ服用シ、7~8ヶ月連服セバ、體齡65才ニ及モ無病強健・精力絶倫・老テ尚陽道ノ勃如タルヲ覺エト、而テ本處方ニ枸杞ヲ混ズレハ一層ノ効アリト言フ。〔備考〕本品ハ支那産ヲ最上品トスルハ原産地且ニ野生品ナルカ故ナリ、栽培品ナレバ支那モ本邦モ大差ナカルベシ。但シ産地ノ地勢氣候ニ依リ紫外線ノ影響ヲ蒙リ、自然成分ニ差ラ生ジ効力從テ差等アルヲ免レズ是一般植物ニ通有現象也。何首烏ノ意味ハ「何ト云フ人ノ首ハ黒イ」ノ意ニテ、昔「何公」ナル者有リ本植物ノ根ヲ煎

服シ白髮ハ黒復セリ、故ニ何公ハ何首烏ト號セリ-----ニ出ツ。本邦ニテ往々本品ヲ万病藥又靈藥ト稱スレモ、世界元ヨリ万病藥トク万能人ナシ。世人欺カルコト勿レ。根ヲ洗ヒ夜ヲ煎シ苦味ヲ去リ可食。一種台湾産ニ夫いわんツカトクダミ *P. hypoleucus Nakai* ナリ、全切アランモ研究未詳也。

(20) おほけだて (おほぐで、荏草、水蓼) *Amblygonon pilosum Nakai* [分布] 台湾産・本邦各地栽培。〔藥効〕全草花時採乾シ煎服或浴湯料トシ痲瘋ヲ治シ、産ヲ去リ、消渴ヲ治シ、<sup>マ</sup>ラリ<sup>マ</sup>ヲ癒シ、利尿(淋病・消渴)劑トナル。又解熱ノ効アリテ小兒瘰癧ニ内服スル外諸種ノ疹(カブレ)ヲ治ス。果實ハ熟ヲ去リ、煩渴・瘰癧ニ用キ、花ハ莖花ト稱シ止痛・消化藥トシテ煎服ス。1回量1~4瓦ヲ煎用ス。〔備考〕別ニ邦内ニベクはな-おほけだて *P. orientale Nakai* ヲ栽培ス、前種ト同効アラシ。共ニ觀賞用ニ供スル大草本也。

(21) いたどり (虎杖) 及変種変形 *Reynoutria japonica Houtt* [分布] 北(南部)・本四・九州・朝鮮・台ノ平地~山地ニ粗~密生ス。〔生藥〕虎杖根 *Radix Reynoutriae japonicae* ハ根ヲ採乾セルモノ、味ハ緩和稍苦シ。徳島・香川・石川縣産多シ。〔成分〕全草中ニ *Polygonin*、他ニ1種ノ配糖体(加水分解ニ依リ *Emodin* 及 *Methyl-emodin* 等ヲ生スル) *Anthrachinonglykosid* 等ヲ含有ス。〔藥効〕漢根ハ織下

利尿・通經劑ニ前用シテ奏効ス、又粉末トシテ日10瓦トス、月經閉止ヲ通ジ、皮下ノ凝血ヲ吸收セシメ、熱毒ヲ治シ、風邪ノ解熱劑トナリ、打撲症ニ鎮痛作用アリ、又淋病ニ有効、1回2〜5瓦煎用ス。〔採集〕秋岸前後ヨリ翌春三月迄ニ根ヲ掘リ水洗乾貯ス。〔藥理〕粉末少量ヲ与レバ健胃ノ効アリ、大量ヲ与レバ下痢ヲ起ス、蓋シ其効大黃ノ半ニ過マサレバ下痢トシテハ大黃用量ノ2倍ヲ要ス。〔處方例〕1) 健胃性緩下劑……虎杖根 6.0 以上ノ日量粉末トシテ3分服。2) 緩下劑……虎杖根 8.0 水 100.0 以上ノ日量煎劑3分服。3) 全及鎮咳劑……虎杖根 10.0 甘草 2.0 水 100 全上但鎮咳ノ目的ニハ2分服多飲ス。〔備考〕いたどり及おほいたどリハ嫩莖葉ヲ山民之ヲ食用トス。

(22) おほいたどり及其夜種 *R. sachalinensis* Nakai.

〔分生〕樺・北・南千・本(中北部)ノ平地〜山地(北本ハ亜寒地帯上限迄)ニ粗〜密生シ往々大群落ヲ成ス。成分効用暑前種ト同様ナルベシ、未精査無シ。本屬植物ハ皆嫩莖葉ヲ煤ヲ苦味ヲ去リ可食。

(23) すいば(すかんば、酸模) *Rumex acetosa* L.〔分生〕樺・南千・北・本・四・九・琉・台・朝ノ原野・路傍ニ粗生又点生ス。〔生藥〕酸模(山大黃)ハ根ノ乾又生品也。〔成分〕全草ニ酸性尿酸加里 *Kaliumoxalat* ヲ根ニ *Chrysophansäure-derivat* (クリノファン酸類物質) 及 *Lタンニン* 酸、尿酸 *Oxalsäure*、*Oxymethylantrachinon* ヲ果實ニ脂肪油約4.7

物ヲ含有ス。〔藥効〕濃生根(莖葉ト共用スルモ可)ヲ滑石間ニ搗碎シ積癬及疥癬ニ其俵又搽液ヲ塗布又貼布ス、特効藥トス、但シ患部以外廣汎ノ使用塗布ヲ可避、其他痔出血・吐血・赤痢症狀ニ乾品ヲ煎服ス。積癬・疥癬ニハ生根(根汁モ可)碎物ニ硫黄筆(粉末)ヲ混シ少量ノ醬油ニテ練リ入浴後塗布セバ最良法也、*Lリウマチス* 一ニモ奏効ス(但硫黄ヲ混)、根ノ煎汁ハ外創ニ塗布シテ有効、胸焼ケ(塩酸過多症等)ニハ莖葉ヲ嚼シ汁ヲ飲下シテ奏効ス、又花ヲ乾シ煎服セバ健胃劑トナル、本屬根物亦前屬同類ニ可食。〔藥理〕すいばヲ過多運用セバ胃腸炎・出血性下痢・痙攣・尿管閉・腎炎・強直性痙攣ヲ起シ遂ニ虚脱ヲ起ス。蓋シ尿酸及尿酸カノ塩類ハ生体内ニ吸収セラル、又体液及諸組織中ニ存スルCaヲ奪取シ、尿酸Caヲ生ズ、Caハ生体ノ生存上最必要成分ナレバ、之ガ減少ハ直ニ生理機能ニ悪影響ヲ及シ、血液ノろかり性及凝固性ノ減弱ヲ起シ、体内ノ新陳代謝機能ノ減少及体温降下ヲ招来シ、尚尿酸Caノ腎細尿管閉塞ニ依リ尿分泌ノ障害ヲ起シ、中樞神經系及心臟機能ノ減退ヲ惹起シ、遂ニ心臟ハ擴張期静止ヲ来シテ斃死ス、小児ハすかんばヲ過食セバ中毒スルコトアリ、要注意。

(24) さしきし(90回ノ1及91回ノ1)(しぶくさ、うきすいこ、羊蹄) *R. japonicus* Meism.〔分生〕樺・南千・北・本・四・九・朝ノ原野・路傍ニ点生又稍密生ス。〔生藥〕根ニ羊蹄又野大黃・土大黃ト稱ス。〔成分〕根ニ *Chrysophansäure*

*Frangulae modin*  $C_{15}H_{10}O_5$  を含有ス。【藥効】生根ヲ石間ニ摺リ潰シス摺リ下シ直ニ又ハ搾汁ヲ礫癩・疥癩・腫物・リウマチス。等ノ患部ニ塗布又貼付シ即効アリ。腫毒ヲ消シ、なます・ひぜん・しらくも・いんざん・田虫等ノ腫皮膚病ニ奏効ハ元ヨリ、婦人陰部ノ癢癢ヲ治ス。又分娩後ノ便秘ニ乾根ヲ煎服ス。又摺卸シ酢ト練リ混ぜ黒存ますニ摺リ込ミテ奏効スル外生毛藥トシテ禿頭病ニ塗布ス。根搾汁ハ緩下劑トナル外、是ニ錳鉍粉ト卵白トヲ混練シ生紙ニ伸ベリウマチス<sup>1</sup> 患部ニ貼付ス。

(25) だいわう (おほし、大黃) (92回) *Rheum officinalis* Baillon 【分生】支那原産ノ寒地植物ニシテ四川省及西藏ノ高山寒地ニ点生ス。【生藥】大黃 *Rhizoma Rhei* (*Radix Rhei*) ハ剥皮乾根也。屢數割ス。塊状ヲナス。【成分】根ニ *Chrysophansäure* Emodin 等ヲ含ムモ *Rhein* ヲ不含。【藥効】乾根ヲ煎用シテ小量ヲ健胃藥トシ大量ヲ瀉下劑トス。又生根ヲ摺卸シ之ニ酢ト醬油トヲ混和シ<sup>ラス</sup> 癩風・白癬等ニ塗布シテ奏効ス。【備考】本種ハ大高ク葉ハ心形ガ〜ク中〜深裂・裂片ハ缺刻狀齒牙縁也。4〜6年根ヲ分割販賣ス。有効成分ハ黄色ノ *Chrysophansäure* ニテ水ニ難容酒精ニ可溶性也。本屬諸種ノ幼莖・葉柄ハ近時洋食ニ供セラル。【備考】マウセン・だいわう *R. coreanum*、*Nakdi* ハ朝鮮冠帽峯頂寒地帯ニ産スル固有種ナルガ研究未詳ナルモ全効アルベシ。

0(26) もみぢば-だいわう (極樹葉大黃) *R. palmatum* L. 2変種アリ、var. 1) *typicum* Max. var. 2) *tanqueticum* Max. 是也。【分生】2変種共ニ支那西北部 (青海ヨリ陝西省迄) 産也。歐洲ニ栽培ス。葉ハ大まきみぢ状ニ数深裂シ、裂片ハ不齊缺刻齒縁也。【生藥】大黃 *Rhizoma Rhei* ハ乾根垂ニテ帯黄色塊状也。【成分】根ニ *Chrysophansäure*、*Rheum*、*Emodin*、*Rhein*、*Rheochrysin*、*Chrysophansäure-methylaether*、*Aporetin*、*Erythroretin*、*Rhocoretin*、*Rheumgerbsäure* (大黃鞣酸) 等ヲ含有ス。【藥効】局方大黃ハ健胃藥トシテ1日數回0.1〜0.3gヲ化散・煎劑トシテ、或ハ大黃煎汁 (*Extractum Rhei*) トシテ全量ヲ与フ。無害ノ緩下劑トシテハ全エヲ0.4〜2.0〜4.0gヲ反覆使用ス。急ぎテハ0.5〜1.0gヲ内服ス。故ニ小児ス、産弱者ノ下劑トシテ適切也。但シ運用快癒藥セバ *Jannin* ノ為却テ便秘ヲ起スニヨリ屢他藥ヲ使用スベシ。局方大黃しわぶ (*Sirupus Rhei*) ハ小児ノ下劑トシテ1茶匙宛ヲ内服シ、或ハ健胃又瀉下性合劑ニ和シテ与フ。局方大黃丁幾 (*Tinctura Rhei*) ハ1日數回2〜4.0gヲ健胃劑トシ、下劑ニハ其十倍ヲ内服ス。水性大黃丁幾 (*J. R. aquosa*) ハ健胃藥トシテ1日 (數回) 2〜12.0gヲ用フ。此外複方大黃丸・小兒散・複方蘆薈丁幾等アリ。【藥理】クリソファン酸ヲ箱ニ0.5g大ニ0.2gヲホト下劑ヲ起ス。蓋大黃ハ大腸ニ作用シ瀉下劑也、然モ便秘及後

下作用物質ヲ含ム。而テ少量(0.05~0.2)ハ鞣酸ノ為分泌ヲ制限シ便秘作用アリ、大量(0.5~2.0)ハ緩下作用アリ、而モ作用緩和ナレバ衰弱者・貧血者・病後者・小児等ニ適ス、慢性症ニモ有効ナリ。大黃製劑多服時ハ各個人ノ特異質ニ依リ不定ナルモ、先ツ 悪心・嘔吐ヲ発シ、酸化アントラヒノン<sup>7</sup>ノ為ニ尿ハ赤化シ、腹痛ヲ起シ発熱甚キ者アリ、発疹ヲ見ル者アリ、甚キ胃腸炎ヲ起ス者アルヲ觀察セリト云フ。

[處方例] 1) 緩下劑……大黃末10.0 硫酸ナトリウム5.0 重曹5.0 以上混和毎夕1刀尖。2) 全……大黃浸(2.5) 90.0 重曹5.0 薄荷油糖3.0 以上毎2時1食匙。3) 全……大黃末、大黃エキス、蘆薈エキス各0.5 以上調和丸5粒 毎夕1粒宛、4) 健胃劑……大黃末1.0 龍膽末0.2 重曹2.0 以上1日量、3分服。

○(28)から-だいわう(わ-だいわう、おほし、唐大黃・和大黃)(90回・3) *R. undulatum* L. [分生] 北支及西比利亞ノ原産ニシテ支・滿洲ニ栽培シ日本モ古クヨリ奈良・徳島縣下ニ輸入栽培シ和大黃ト稱セリ、葉ハ有長柄・卵心形∞淺裂狀・皺縮縁也。[生藥] 唐大黃(和大黃) *Rhizoma Karodaiwo* ハ剥皮乾根莖ニテ切面黄褐、味微ニ苦ク收斂性アリ。[成分] 根(莖) = Emodin  $C_{15}H_{10}O_5$ 、Chrysophansäure 等配糖体分解物ヲ含ミ有効成分ハアントラヒノン<sup>7</sup> 配糖体也。葉 = ハ酸性蒽醌加里ヲ含ム。[藥効] 本品ハ真正大黃(前二者)・代用品トシテ同効アリ、然モ腹痛

ヲ伴ハズ作用ハ更ニ緩和也、1回1g 内服ス。浸劑エキス・含利別等 = 製劑ニテ用フ、健胃ニハ1回0.1~0.5g。下劑ニハ全0.5~1.5gヲ煎・丸・散劑又浸劑・越幾斯・含利別・丁酸若土大黃散等用途廣シ、[採收] 旧八月十五日ヲ最良ノ掘採日トス。[備考] 明治八年支那ヨリ渡来ス、爾來津輕產ヲ上品トセリ。大黃ハ前記ノ他消化不良ニ健胃ヲ兼テタル下劑トシテ廣ク應用ス、又生根莖ヲ搗却シ酢及醬油ニ混和シなます。しらくえ等ノ皮膚病ニ塗布シテ大効アリ。莖葉ハ一晚酒ニ浸漬シ煎服シテ癩癧ノ特藥トス。[處方例] 1) 大承氣湯(頭痛・胃腹痛・脚氣ニ有効)……大黃20 厚朴14.5 枳實8.5 芒硝11.0……以上四味煎劑200.0 1日3回冷服。2) 小承氣湯(痢疾・腹痛ニ有効)……大黃5.0 厚朴・枳實各4.0……以上三味煎劑100.0 頓服。3) 大黃甘草湯(便秘・腹痛嘔吐ニ有効)……大黃6.5 甘草3.0……以上二味煎劑100.0 頓服(主ニ緩下劑也)。

(28) まるば-だいわう *R. rhaponticum* L. [分生] 歐洲ニ栽培セラレ、日本ニモ生育シ得。[生藥] ラボンチクム根又歐洲産大黃ト稱スルハ其根莖ノ乾物也。[成分] *Rhaponticin* (配糖体)、*Chrysophansäure* [藥効] 真正大黃ト全効アルモ其下等代用品也。葉柄ヲ食用トス。

(29) おうしう-だいわう(歐洲大黃) *R. Compactum* L. 及 *R. Emodi wall.* [産地] 共ニ西藏・ヒマラヤ原産也ト云フ。歐洲ニ栽培ス。[藥効] 真正大黃偽造品ニテ專ラ歐医

用トス。

第十一目 中心子(藜)目 Centrospermae

特徴——①~⑩。葉ハ托葉ナシ。稀ニ有スレバ發育不完  
全也。花器ハ⑨又⑩, ①又②。Aハ屢Pト同数ニシテ之ト  
對立, 又Aノ~∞, G(1~∞) 概合一, 概上位稀下位。概  
1室稀多室, 概2卵膜ヲ有ス(例外ヤマビク科)ル1~  
∞嚮生卵子ヲ藏ス。種子ハ外胚乳ヲ有シ, 彎曲ス。葉用關  
係ハ次ノ7科ニ分類ス。

- 1 { 子房ハ上位ナリ, 葉ハ非同質ナリ ..... 7
- 1 { 子房ハ下位ナリ, 葉ハ土肉質ナリ ..... 8
- 1 { 花ハ萼(K)ノ他ニ花冠(C)ヲ有ス ..... 10
- 1 { 花ハ花被(P)(概萼様)ノニニ花冠ヲ有セス ..... 2
- 2 { 雌蕊ハG1又G1~∞心皮ナリ ..... 3
- 2 { 雌蕊ハG(2~∞)心皮ナリ ..... 4
- 3 { 心皮ハG1, 1卵子; 瘦果ハ宿存花被ノ基部ヲ被ル; 葉ハ  
Ψ又Ψ ..... Fam. (3) おしろいばな(紫茉莉)科  
Nyctaginaceae
- 3 { 心皮ハG1~∞, 各心皮1卵子包藏; 結漿果; 葉ハΨ  
..... Fam. (4) ヤマビク(高陸)科 Phytolaccaceae
- 4 { 子房ハ1子室ナリ ..... 5
- 4 { 子房ハ2~∞子室ナリ ..... 7
- 5 { 花器ハ⑨; 葉ハΨ ..... Fam. (7) せきぢく(石竹)科

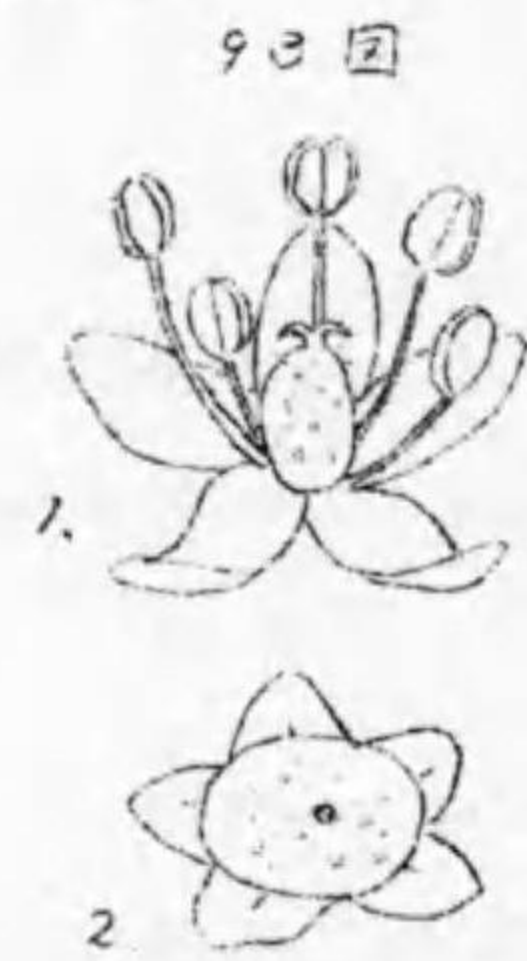
- 6 { 花器ハ⑩部ヲ有シ, 葉ハΨ又Ψ ..... 6
- 6 { 苞(B)ハ非膜質非乾燥式O, PハK様帶縁非麗, Aハ概  
分離ス ..... Fam. (1) あかざ(藜)科 Chenopodiaceae.
- 6 { B及Pハ膜質乾燥最美麗, Aハ概基部結合ス  
..... Fam. (2) ひや(莧)科 Amaranthaceae.
- 7 { 子房ハ各室藏1卵子, 結漿果 ..... Fam. (4) ヤマビク(高陸)科
- 7 { 子房ハ各室ニ藏∞卵子, 結漿果 ..... Fam. (5) つるな(蒼杏)科  
Aizoaceae
- 8 { 花ハ明=Cヲ有ス ..... 9
- 8 { 花=C無シ, P3~5 ..... Fam. (8) つるな(蒼杏)科
- 9 { 子房ハ数室又∞室, 概K5C∞ ..... Fam. (9) つるな(蒼杏)科
- 9 { 子房ハ1子室, 概K2C4~5  
..... Fam. (6) (馬齒莧)科 Portulacaceae.
- 10 { 概K2, 子房ハ1室2~∞卵子ヲ藏ス, 葉ハΨ又Ψ .....  
..... Fam. (6) すべりひや(馬齒莧)科 Portulacaceae
- 10 { K(4~5), 葉ハΨ ..... Fam. (7) せきぢく(石竹)科 Caryophyllaceae

Fam. (1) あかざ(藜)科 Chenopodiaceae

形質——概①~⑩稀互極稀也(外國)。葉ハ屢多肉。無毛  
平滑又毛(屢特異ノ叢毛)概Ψ⑨着稀Ψ, 單葉, 有柄, 無  
裂全縁屢不齊淺~深裂又齒牙縁。無托葉。花器ハ♀又♀♂,  
概球狀, 小形, 帶綠色, 單被稀無被。花序ハ概聚繖花序系ニ  
テ大抵總狀・繖狀・棍棒狀等ニ密集セル小花序ノ集合ヨリ成



ル、稀單出花也。花、非籠、 $\odot$ 部アリ、概 $\oplus$ ; F. f. =  $\overline{P_5}$   
 $\circ A_5 \sim G(2 \sim 5)$ , 花下ノ苞、非膜質、非乾質、又無; P  
 ハ $\delta. 3. 2$  稀 $4. 1. 0$ . 覆瓦狀、宿存性屢花後成長又硬化或有  
 刺又翅化ス; AハPト同枚且對立、稀Pヨリ少枚、蕾中ニ  
 内曲ス; 子房ハ1子室、1卵子、卵子ハ基立性・母性也。  
 果實ハ胞果、堅果稀莢果也; 種子ハ胚乳有又無、胚ハ彎曲ス  
 螺旋狀也。



93 回  
 (93 回) —  $\delta$ カ  
 ザノ花果(原図)  
 1. 花 =  $\overline{P_5} A_5$   
 G(2) 2. 果実  
 (胞果 = 子房  
 存Kヲ伴フ)。



94 回  
 (94 回) — ははさざ(は)  
 さ(さ)ノ單性花ト胞果(原  
 図) 1.  $\delta = \overline{P_5} A_5 G \div 2. \text{♀}$   
 =  $\overline{P_5} G(2)$  3. 子房・胞果 4.  $\delta$   
 ノ胞果



95 回  
 (95 回) — *Chenopodium* 一種 *C. quinoa* ノ卵子  
 (Engler-Diels) 1. Gノ子房縱割卵子ヲ示ス。  
 2. 卵子ヲ縱斷シ構造ヲ示ス

成分及効用 — 成分ハ揮発油、脂肪油、含  
 水炭素、種々ノ酸類等ニテ詳細ハ次ノ如シ。  
 含水炭素 (Pentosan · Mannan · Arabin.  
 Raffinose · pectose · Pectin · 蔗糖等)、有機  
 酸 (Malonsäure · Aconitssäure · Tricarballoxyssäure ·  
 枸橼酸 · 林檎酸 · 酒石酸 · 蟻酸 · 醋酸 · 尿酸等)、酵素 (Invertin

Diastase · Katalase · Protease · Peroxydase · Lactol-  
 ase 等)、其他ノ物質 (Betain · Trimethylamin · Leucin ·  
 Glutamin · Isoleucin Allantoin · Tyrosin · Asparagin ·  
 Arginin · Guanin · Adenin · Asparaginsäure · Glutami-  
 nsäure · Xanthin · Coniferin 等) 外精油 (Chenopod-  
 iumöl) 及 Saponin ヲ含ムモ Alkaloid · Gerbstoff 等  
 ヲ含有セズ。

本料ニハ砂糖製造原料・食料・曹達製造原料ニ供スルモ、  
 アリ、藥用ニ供スルモ、亦不動。

分布及屬種數 — 世界ニ凡ク5屬1400種ヲ産シ、主ニ  
 熱帯ヨリ温帯ニ廣クス。日本ニ自生又栽培スルモ、8屬28  
 種ヲ下ラス。本料ノ生態ハ特異ニシテ草原・荒地ヨリ特  
 ニ塩分ニ富メル土壤ヲ好シ、海岸・磯岸ニ群生ス。一部ハ分  
 布廣ク汚生植物也。

本料ノ藥用及有用植物: —  
 (1) あかざ (藜) (93 回) *Chenopodium album* L (標  
 準種シラス、変種モリスカ・あかざ *v. purpurascens* Mak.  
 あかざ *v. centrourubrum* Mak (總石) [分生] 樺・高千  
 北本・四・九・朝・琉・台・平地・磯・荒地ニ点生ニ群生。[生藥]  
 藜ハ全草ヲ藜葉ハ葉ヲ花時採乾セルモ、也。[成分] 莖葉中  
 ニ精油、他 <sup>コイリン</sup> Leucin · Betain 等、あみの酸類及 Parachole-  
 sterin ヲ含有ス。[効用] 漢: 生葉搾汁ハ毒虫刺傷ニ塗布  
 シテ有効、又 <sup>ナマス</sup> 藏風ニ奏効ス。乾莖葉煎汁ハ含嗽ニテ齒菌ノ

疼痛ヲ治ス。又健胃強壯藥トス。果実ヲ黒焼トシ小児ノ疳  
癆ニ胡麻油ト練リ塗布シテ治ス。嫩莖葉ハ煤テ浸物・胡麻和  
味噌和・芥子和等トシ佳味也。古ヨリ藜ノ藥物トシテ知ラ  
ル。老莖ハ老人ノ杖トシテ輕キ杖トス。

(2) ありたさう (わうださう、<sup>ドガリ</sup>土前芥草) *C. ambrosioides* L. [分布] ノキシコ・南米原産、日本各地ニ帰化自生  
状。[生薬] 土前芥ハ全草ヲ採乾セシモノ也。[成分] 全  
草ニ揮発油ノ他僅少ノ *Ascaridol* ヲ含ム。[薬効] 土前  
芥ヲ健胃強壯劑トシ又通経劑・鎮痛劑(神經痛)・鎮痙藥又神  
經強壯藥トス、7回2~4瓦煎服ス。毒虫刺傷ニハ生莖葉  
ノ搾汁ヲ塗布シテ奏効ス。又驅虫劑トシテ煎服有効也。

○(3) あめりかありたさう *C. anthelminticum* L.

[分布] 米國原産ニテ日本各地ニ自生状(帰化)ヲナス、  
前種ノ葉ハ概全縁倒披針形ナルニ本種ハ披針形~廣三角形ニ  
テ明ナル齒牙縁也、以テ別種トス。[生薬] 果実ヲ陰干セ  
ルモノヲ生薬トス。[成分] 全草ヲ蒸溜シテヘのぼち油(  
*Chenopodiumöl* ト稱スル精油也)ヲ得。之ハ果皮中  
ニ最多也。本精油ノ成分ハ *Ascaridol*  $C_{10}H_{16}O_6$ ・*As-*  
*caridolglykol*  $C_{10}H_{18}O_2$ ・*Ascaridolglykolanhyd-*  
*rid*・*P-Cymol*・ $\alpha$ -*Terpinen*・*P-Menthadien* (左  
旋リモネン)・*l-Limonen* 酪酸・トリケール酸メテルエ  
ステル等ニテ就中有効成分ハ *Ascaridol* ノミニテ他ハ驅  
虫力無シ、精油中ニ *Ascaridol* 40~70% 含有ス。[薬効]

ヘのぼち油 (*Oleum Chenopodii*) ハ十二脂腸虫・蛔  
虫・鞭虫・東洋毛様線虫・<sup>蟻虫</sup>線虫等ノ強カナル驅虫劑也。7回0.2  
~1.0瓦、10~15滴ヲ糖ニ和シヌ「カプセル」ニ入レ2時間  
毎ニ2~3回内服ス。而テ本劑服用後ハ必ず下劑(硫酸・ひ  
まし油又せんな浸膏)ヲ用フルヲ要ス、然ラズシテ腸内ヨ  
リ吸收セラレバ嘔吐・悪心・嘔吐等ノ副作用ヲ起ス危険  
アリ。本油ハ米・粗局方藥ニテ健胃強壯ノ効アリト云フ。

[新薬] ネマトール(三共)・リシボラ……丹毒ニ外用(鳥居)。

[薬理] 蛔虫ヲばんぐ氏液中ニ入レ、ヘのぼち油ヲ作用セ  
バ其運動頰緩漫トナリ、終ニ全ク脱力性トナル。又猪犬等  
ニ大量ニ与レバ、急性ノ中枢麻痺ニヨリ昏迷・呼吸麻痺ヲ来  
スベシ。本油ハ虫ノ筋肉ヲ興奮セシムル作用アルコト恰モ  
さんどにんノ如シ。然モ大量ハ上記ノ副作用ヲ起シ、過大  
量ハ人ヲ斃スニ至ル、服用後心下劑ヲ用フベシ。

(4) さとう-だいこん (さとう-ぢさ、<sup>シュツ</sup>甜菜) *Beta vulgaris*  
L. var. *Rapacea* C. Koch [分布] 歐洲原産、日本北  
地栽培。[成分] 根ニ12~14%ノ糖分(*Rohrzucker*)ヲ含  
ム。[効用] 主ニ砂糖製造料トス、甜菜糖ト稱スルモノ是  
也。佛國ニテハ清酒ノ醸造ニ使用ス。

(5) ははき-ぎ (ははき-ぐさ、はうき-ぐさ、地膚) (44回)

*Kochia scoparia* Schrad. [分布] 歐洲原産、日本各  
地栽培。[生薬] 地膚子 *Fructus Kochiae* ハ果実ヲ採乾  
セルモノ也。[薬効] 漢地膚子ハ強壯藥トシテ陰痿(萎)ニ

用ヒ、又利尿(水腫・淋病)薬トス。嫩葉果ハ食用トスベシ。  
 老全草ハ乾テ草蓐ヲ造ル [處方例] 1) 補精利尿薬……地膚子100 甘草1.0 水100.0 以上1日量煎劑ヲ分服 2) 全地膚子(炒)3.0 以上1日量粉末トシテ3分服 3) 全地膚子6.0 紅花2.0 木通2.0 蚕沙1.0 水200.0 以上1日量煎劑ヲ分服。4) 健胃強壯利尿薬……地膚子5.0 菘朮(藜蘆屬) 菘朮<sup>ハマスゲ</sup> 香附子 山查子 厚朴 陳皮各1 水200.0 以上1日量煎劑ヲ分服。

(6) はうれんそう (菠薐草・齒根菜) *Spinacia oleracea* L. [分布] 波斯〜中東原産、各地栽培②。[成分] Vitamin A・B・C・ヲ多含スル外蛋白質・脂肪・レチン・カロチン等貴重成分ヲ含ミ日本生薬ハ胃液・胆汁等分泌ヲ促進スルハ *Spinatsecretin* <sup>アトセクレチン</sup> ヲ含有スルニ基クト云フ (Bickel氏)。[薬効] 主要食菜ニシテ胃腸ヲ健全ニシ、便秘ヲ治シ、産前産後ニ又催乳ノ効アリ。常食セバ滋養強壯劑トナリ、消化ヲ助ケ胃腸ヲ整ヘ、血行ヲ旺チラシム。他、蔬菜ヨリ Vitamin 及鉄分ヲ多含スル故補血薬トシテ大効アル外貧血ノ恢復ヲ着ク促進ス。又神經衰弱・健胎・淨血・痔疾・関節疾患ニ有効。  
 [新薬] スピナチン(三共) 菠薐草水(全)。

Fam. (II) ひゆ(莧)科 *Amarantaceae*

(96〜97 図参照)

形質——概①又②。輪互又対。葉ハヤヌヤ、單葉・無托葉。

全縁輪凹頭、無托葉。花器ハ細小緻色、雄又♀♂、單被。花序ハ聚繖花序又其集合セル穂状・總状・頭状・円錐状花序ヲ成ス。花ハ中、基部アリ。萼一部不実、花下苞ハ乾膜質美麗;  $F.f. = P(4 \sim 5) r. 1 \sim 3; A(1 \sim 5); G(2 \sim 3)$ . Pハ乾膜状屢宿存, Aハ花絲間ニ屢C状物アリ, 花柱ハ2〜3裂又單立。子房1室, 1〜∞基立性直生卵子又長梗懸垂ノ莖生1卵子ヲ藏ス。胞果・堅果又稀漿果也, 種子ハ有胚乳。

成分及効用——成分ハ尙未研究ニテ僅ニ硝石(稍多量) *Kaliumnitrat*  $KNO_3$ , *Betain*, *Oxalsäure*・脂肪酒等知ラレタルノミ。薬用ノ他食用又觀賞用ニ供スルモノアリ。

分布及属種数——世界ニ凡40餘属850種ヲ産シ、熱〜温帯ニ分布ス。日本ニ自生又栽培スルモノ凡13属33種ヲ下ラス、台湾最多。

本科ノ薬用植物: ——



(96 図)——のげいとうノ花及解剖  
 ト花式圖(原圖) 1. ♀ 2. BトPヲ除キA・Gヲ示ス 3. Gノ横斷(示卵子)  
 4. 花式圖—B1+2 P5 A(5) G(2)  
 ……1. ト同様主苞ノ側苞2ヲ伴フ。

△(1) むのこづち(ふしだか, 牛膝)

(98 図) *Achyranthes japonica* Nakai [分生] 本・四・九・朝ノ平地〜山

獲・路傍等ノ半陰〜陰地ニ点生〜群生ス。〔生薬〕牛膝(牛



97回

(97回) — いぬびゆノ雌性花(原  
回) 1. ♀及♂... ♀ = P<sub>3</sub> A<sub>0</sub> G<sub>(2)</sub>  
♂ = P<sub>3</sub> A<sub>3</sub> G<sub>(2)</sub>ヲ示ス。



98回

(98回) — おのこづちノ  
及両性花。  
花序ノ一部(原回) 2, 3, 4(本  
田氏) 2. ♀ = B<sub>1+2</sub> P<sub>0</sub> A<sub>(10)</sub> G<sub>3</sub>  
3. 小包 4. G<sub>(2)</sub>... 一部ヲ切  
除シノケノ懸卵ヲ示ス。

莖・脚膝) Radix Achyranthis 秋日根ヲ採取水洗・陰干切  
片トセルモノ也, 奈良・徳島縣多産, 支那ヨリ輸入ス。〔成分〕  
根ニ牛膝サポニン<sup>アリウム</sup>・K塩類及粘液質ヲ含ム。〔薬効〕漢: 牛膝  
ハ瘀血ヲ治シ, 利尿通経・収斂強精薬トナル。即淋病・(血淋)  
通経(月経不順) 強壯(陰痿ヲ治シ腎ヲ補フ)・癰腫等ニ煎服シ,  
筋肉ヲ強壯ニス, 但多服セバ流産ノ恐アリ。1日量ヲ瓦1  
回ノ〜2瓦煎用又膝痛(膝關節腫脹, 一炎)・腰痛ヲ治シ。産  
後ノ腹痛ニ良ク, 乳腫ニハ極濃煎液ヲ膏薬トシ貼付: テ有  
効。莖葉煎汁ハ蚊等ノ咬傷ニ塗布シ解毒スト云フ。〔薬理〕  
牛膝ニは<sup>ト</sup>にんハ溶血作用及蛋白凝固作用ヲ呈ス, 又<sup>レ</sup>セル  
モット<sup>7</sup>ノ腸及子宮ニ對シ収縮作用ヲ有ス。〔處方例〕1)  
牛膝散(月経不順・通経劑)……牛膝4.0 桂皮・芍藥・桃仁・延  
胡索・當歸・牡丹皮・川芎・木香各1.0……以上散藥2日量, 6  
回分服。2)牛膝湯(足部ノ浮腫ヲ治ス)……牛膝・羚羊角・橘

榔子・大黃・芒硝・牡丹皮・防己・桂皮・甘草・赤芍藥各2.5……以上煎劑  
200. 1日量3分服。3)利尿劑……牛膝6.0 白芷3.0 水200.0  
……以上1日量煎劑3分服。4)利尿通経鎮靜強壯劑……滯經  
ヒステリ-神經質藥)……牛膝3.0 大黃2.0 牡丹皮・當歸・芍藥・  
蒲黃・桂皮・各1.0 水200.0……以上1日量煎劑3分服。

(2) ひな夫-おのこづち(陽地牛膝) *A. Fauriei* Lev. et  
vnt. 〔分生〕北・本・四ノ平地〜山麓ノ陽地ニ点生〜群生。  
成分・効用等示詳ナルモ同前種ナランカ。〔備考〕日本ニハ  
以上ノ外本属ニハながは-おのこづち(ながは-おのこづち) *A.*  
*longifolia* Mak. (本・四・九台)・しろ(け-しま)-おのこづち  
*A. obtusifolia* Lam. なんてん-おのこづち(はび-おのこ  
づち) *A. ogatai yamamoto* (台)・むらさき-おのこづち *A.*  
*rubro-fusca wight* (台)ノ4種アレドモ未各藥學的研究  
ヲ經ス。

(3) おきなは-おのこづち(ながはのしま-もんば-沖縄  
牛膝・土牛膝) *A. mollicula* Nakai 〔分布〕琉・〔薬効〕  
莖葉乾ヲ煎服セバ肝及腎臟病ニ有効。或解熱・止咳劑トシ。  
生草搗碎液汁ヲ服用セバ腹痛ヲ治ス。又莖葉ノ煎汁ヲ膏薬  
トシテ毒地咬傷ニ貼付シテ有効。

(4) ひゆ(こ-ひゆ・ひょうな・莧) *Amarantus inamo-*  
*nus Willd* (本種ヲ3品種ニ分ツ, 即ひゆ又ひょうな *f.*  
*viridis* Mak. あか-ひゆ *f. ruber* Mak. はな-ひゆ *f. ve-*  
*rsicolor* Mak. 是也) 〔分布〕東印度原産ノ①。日本各地ニ

栽培。〔藥効〕種子ヲ煎用セバ利尿・通經・止瀉・効アリ。又眼疾藥トシテ視力ヲ強ム。莖葉ヲ食セバ便通ヲ良クシ、眼疾ヲ治ス。妊婦ノ食用ニ適スルコトはウレんさうニ同シ。

(5) いぬ-びゆ (の-びゆ、野苧) (97回) *Euxolus Blitum* Gren. [分生] 北・本・四・九ノ國圃・路傍ニ点生〜群生。

〔効用〕葉ヲ野苧ト稱シ止瀉藥トシテ下痢ニ煎用ス、又若莖葉ヲ食用トス。

(6) せんこんこく (ひえ-げいとう、こうばう-めは、老鎗般) *A. caudatus* L. [分布] 波斯原産ノ①、日本各地ニ栽培。〔効用〕觀賞用トスル外、種子ヲ老鎗般ト稱シ炊テ飯トシ搗テ餅トシテ食ス。形味共ニ嬰粟子ニ似テ香シ、農家食品トシテ至便也。風味佳快。土地ヲ不撰取ニ繁殖ス。

(7) けいとう (鶏冠花、鶏頭) *Celosia cristata* L. [分布] 東印度原産ノ①、日本各地ニ栽培。〔成分〕種子ニ脂肪油 *Celosiaöl* ヲ含ム。〔藥効〕種子ヲ煎服セバ強壯劑トナリ耳目ヲ明カニシ。眼疾及肝臟病ヲ治ス。全草特ニ肥大花序部ヲ採乾シ止血 (痔出血・赤痢・下血)、止瀉 (腸カタル)、腎臟病等ノ回々〜ク瓦煎用又罨法 (痔) ス。又風邪氣血ノ循環ヲ良好ニシ、瘡毒ヲ治スト云フ。又觀賞用トシテ園養ス。

(8) の-げいとう (青箱) (99回) *Celosia argentea* L. [分生] 東印度原産ナルモ現今ハ南日本各地及朝鮮ニ自生状ヲナス、又栽培ス。〔生藥〕青箱子 *Semen Celosiae*

ハ乾種子也、黑色微粒、経1mm。〔藥効〕種子ヲ煎服シテ強壯劑トシテ耳目ヲ明カニシ又止血・解熱劑トナリ。煎汁ハ眼疾洗滌料トシ又皮膚 (特ニ癬疥・疥癬) 病ニ内服ス、1回1~3g、1日6~10g服用。花及根ヲ陰干セルヲ煎用セバ解熱・月経不順ニ奏効ス。〔處方例〕強壯藥……青箱子8.0水100.0……以上ノ日量煎劑ヨ分服。

(9) つる-のげいとう (ほし-のげいとう、蓮子草) *Alternanthera sesillis* R. Br. [分布] 九 (大島)・琉台・ノ山野ニ自生スル②。〔藥効〕乾莖葉ヲ煎服セバ腎臟病及痢病ヲ治シ、砂糖ト和シテ煎服セバ癆瘵症及吐血ヲ治ス。

(10) ほそば-つるのげいとう *A. nodiflora* R. Br. [分布] 台。〔藥効〕全上。

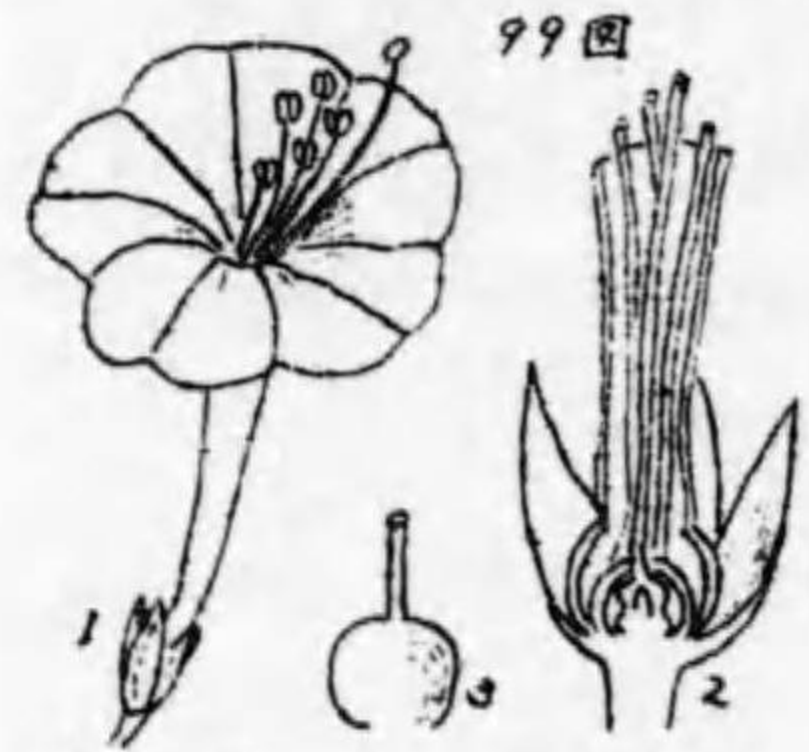
#### Fam. (四) おしろいばな (紫茉莉) 科

#### Nyctaginaceae (99回参照)

形質——概①〜②。屢左又右。葉ノ稀シ、單葉概無裂全縁、無托葉。花器ハ葯又♀♂、葯被、聚繖花序ニ排列。花ハ概③、④、花基ノ總苞ハB(5)屢K狀; F.f.=P(5) A(1~5r. 5~30) GL, PハC様美麗、Aハ概不同長、子房1室1ヶノ基立性; 倒生又彎生卵子ヲ藏ス。果実ハ瘦果薄膜ナルモP基ノ堅部ニ破ル、種子ハ有胚乳、胚ハ彎曲外乳中ニ在リ。

成分及効用——成分ニ樹脂・蠟・鞣酸・Kaffein 等知ラレ

ルノミ，末精査。薬用ノ外觀賞用ニ供セラレ。



(99回) — おしろいばなノ花及解剖(原図) 1. 花(伴總苞) 2. 全下半部縦断…… B10) P10) A5 G1 3. 子房及花柱。

分布及属種数 — 世界ニ凡20属300種ヲ産シ，熱帯ニ多産シ歐中南北米ニ多シ。日本ニ自生又栽培スルモノ4属10種ヲ下ラス，小笠原・台・産。

本科ノ薬用植物：——

1) おしろいばな(紫茉莉，白粉花)(99回) *Mirabilis jalapa* L. [分布] 熱米原産，日本各地栽培。[成分] 根ニ *Trigonellin* 及 *Galactose*・*Arabinose* ヲ分解スル含水Cヲ含有ス。[薬効] 生葉搾汁ハ疥癬(又疥癬)頑癬・小瘡・打傷等ニ塗布シテ奏効(又搗碎貼付モ可)。又種子ノ白粉状胚乳ヲ汗疱ニ塗布シテ有効。

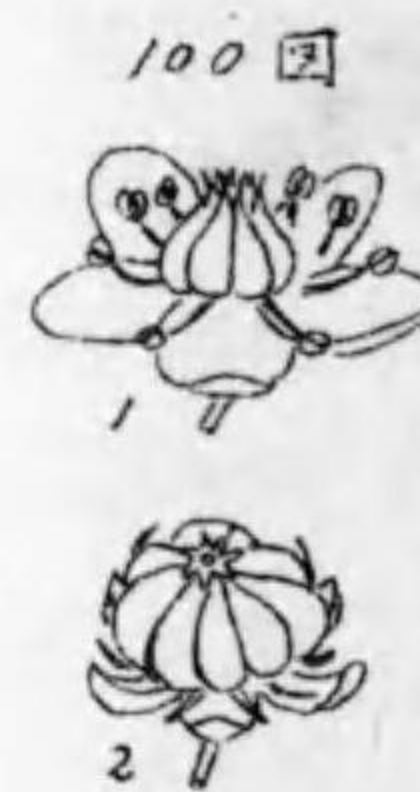
Fam. (IV) ヤマゴボウ(商陸)科 *Phytolaccaceae*

(100~101回参照)

形質 — 概①~④，稀D(外國)。葉 $\psi$ ，單葉・無裂・全縁，托葉有又無。花器ハ小形，♀又♂，單被稀異被。花序ハ總狀又聚繖花序。花ハ⑤，⑥部アリ；F. f. = P(4~5) A(4~5) V. 8~10; G(2~8~10~∞) r. 1, 或ハ K(4~5) C0~2 A(4~5) V. 8~10; G(2~8~10~∞) r. 1, 又 P4~5

A4~5~10 G(1~∞), Cハ稀有。子房稀下位，花柱ハ心皮ト同数，各心皮ハ其腹縫ニ各1ヶ穴ノ嚢生卵子ヲ有ス。果実ハ邦産ハ皆漿果，外國ニハ蒴果アリ。外乳ハ粉状，胚ハ弯曲ス。

成分及効用 — *Saponin*，樹脂，揮発油等見出サル。他ニ *Phytolaccatoxin* ヲ見出セリト云フモ不確實也，有毒物質アルモ成分不詳。薬用ノ他，食用・染料觀賞用ニ供セラレ。



100回 (100回) — ヤマゴボウノ花果(原図) 1. 花 = P5 A5 G10 2. 果(伴宿存K)



101回 (101回) — ヤマゴボウノ花式圖(Eschler氏) B3 P5 A5 + 5 G100

分布及属種数 — 世界ニ23属凡175種ヲ産シ，主ニ熱帯~亞熱帯ニ多産ス。日本ニ自生又栽培スルモノ凡2属5種アリ。

本科ノ薬用植物：——

1) ヤマゴボウ(商陸) <sup>商陸根</sup> (100回) *Phytolacca esculenta* Houtt. [分生] 北・本・四・九・朝鮮・台・ノ山中陰地ニ点生又粗生。或栽培。[生薬] 商陸 *Radix Phytolaccae* ハ根ヲ秋日採乾シ縦割又横切セルモノニテ切面汚白色，殆無臭。長野・三重・奈良・富山縣産。商陸葉ハ花時採乾貯ス。[成分] 多量ノ樹脂・硝石ヲ含ム。又 *Saponin* + *Phytolaccin* 類

苦味性配糖体ヲ含ムト云フ。(長井博士、*Phytolaccatoxin*  $C_{24}H_{30}O_9$  ハ牛皮消根ヲ商陸ト誤認シテ、抽出ナリト云ハル、即種ノ鑑定誤認ニ出ルセル根本要事ナルカ如シ、)

[藥効] 漢：商陸ハ重要ナル利尿藥ニテ慢性腎臟炎・肋膜炎・心囊水腫・腹水・脚氣・腫物・淋病・慢性脚氣等一切ノ水腫ニ奏効ス、1回1~2gヲ煎服ス。妊婦多服セハ墮胎ノ憂アリ。生根ヲ摺卸シ梅毒ニ用フ。生葉ノ裏面ヲ腫物ニ貼レバ膿ヲ吸出(熟時)ス、乾貯葉ヲ用ルトキハ温湯浸柔軟後用フ。

[其他効] 生根ハ有毒ナレド、薄ク切り水灰汁ニテ煮熟シニ三日浸シ可食。嫩莖葉ハ水灰汁ニテ煮水浸シ後浸物又味噌汁トシテ食ス。鮮果汁ハ葡萄酒ノ染色(色付)用トス。

[藥理] 商陸根及其製劑ヲ多服セバ、血中ニ吸収セラレ、尿量ノ増加ヲ来スモ、下痢時ハ却テ減少ス。其利尿作用ハ塩類利尿劑ノ如ク量少ケレバ顕著ナラズ、服用量ト共ニ増加スルモノ、如シ。但シ心筋ハ成分ノ作用ヲ受ケ、搏動ノ障害ヲ来スニヨリ、其服用量ヲ増加スル時ハ血圧下降シ利尿作用抑制セラレ。多量ヲ内服セバ中樞神經系麻痺及運動障礙ヲ来ス。更ニ其量ヲ増加セバ動物ハ心臟麻痺ニ依テ斃死ス、故此有効成分ハ無機塩類-硝酸Kニテ商陸根中畧15%ヲ含有ス。全成分致死量ハ人ニ於テ30gナレバ2匹ノ商陸根ハ人ヲ斃スベシ。[臨床的實驗] 商陸ノ酒精越幾斯ヲ与レバ血管運動神經ノ中樞ヲ刺激シテ血圧ヲ増進セシメ、尿分泌ヲ増加セシムルニ起因スト云フ。[製藥法] 商陸越

幾斯ハ商陸根粉末1分ニ稀酒精20分ヲ入レ3日間温浸シ、後圧濾シ、其残渣ニ又稀酒精15分ヲ入レ温浸圧濾シ、其兩液ヲ合テ濾シ、蒸乾セシメテ得タル褐濃稠物ナリ、苛辣性苦味ヲ有ス。1日量1.5~3.0g也。一説ニ商陸エキス(旧局方)……0.4~0.7g。商陸丁幾1日量4~8g。[處方例] 1)利尿劑……商陸3.0 甘草0.5 水100.0……以上1日量煎劑3分服。2)全……商陸3.0 陳皮2.0 木香1.0 <sup>Saussurea Lappa</sup> 水100.0……以上1日量煎劑3分服。3)全……商陸エキス0.5 乳糖適宜……以上為6包3分服。

(2) ヤウシゆ-やまごばう(せいやう-やまごばう、洋種商陸)  
(101回) *P. americana* L. [分布] 北米原産、日本各地栽培又自生状。[成分] 根 = *Phytolaccasäure*, *Phytolaccin*. 果 = *Caryophyllinrot* (色素)ヲ含ム。[藥効] 根ヲ利尿藥トシ(畧前同、効アラン)、熟果搾汁ヲ以テ一時的インスリンヲ作り實用ニ可供。[備考] 本属ニハ他ニヤマゴバウ *P. japonica* Mak. 本(中南部)・四・九・台・たいけん-やまごばう *P. acinosa* Roxb. 台……等アレトモ本種也、恐クハ(1)ト同効アラン。

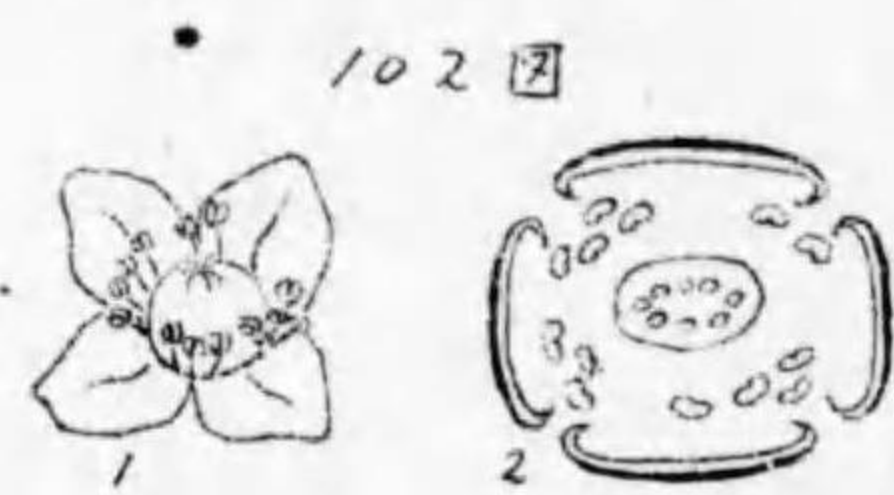
Fam. (V) つるな(蕃杏)科 *Aizoaceae*

(102回参照)

形質——①又②、稀互、屢葉多内質也。葉ハ $\gamma$ 又 $\gamma$ 或 $\gamma$ 單葉、無裂、全緣、屢線~絲形、稀披針形又広卵形、托葉有(梅肉)

乾膜状)又無。花器ハ大又細小, 萼, 單被又翼被(外輪A/C化)。單頂又聚繖花序=排列。花ハ中。◎。◎又◎: F.f.=K(4~5); C or ∞ A(3~5~12~∞); G(2~∞)。CハAヨリ変化スハ假A状。芽中覆瓦狀排列, Aハ∞時ハ外輪層ハ瓣化ス; 子宮ハ2~∞稀1室, 各室=概∞稀1ヶノ倒生~等生卵子ヲ藏ス。果實ハ蒴果・堅果又核果, 種子ハ粉質外乳ヲ固ム彎曲胚ヲ容ル。

成分及効用——成分 = Äpfelsäure・Citronensäure・Oxalsäure 等ノ酸ヲ見出サレシノミ。他ハ不明也。藥用ノ外食用・觀賞用=供スルモノアリ。



102 図 (102 回) —— つるなノ花及花式圖 (Maout d Decaisne 氏) 1. 花 2. 花式圖  $K_4 C_0 A_{12} G_{(∞)}$

分布及屬種數——世ニ凡22屬1100種ヲ産シ。主ニ亞弗利加洲=多産シ, 熱及重熱帶ノ乾性荒地又砂地 稀ニ海岸=廣布ス。日本=自生又栽培スルモノハ屬13種ヲ下ラズ。主ニ熱帶(台)産也。

本科ノ藥用植物: ——

1) つるな(はま-ぢま, はま-な, はま-ぢしや, 番杏)(102 回) *Tetragonia expansa* Murr. [分生] 本(中南部)・西・北流朝・台ノ海辺=自生スル①伏臥草, 又栽培ス, 蔬菜トス。[生藥] 番杏 *Herba Tetragoniae* ハ全草ヲ開花時ニ採取陰干セルニ

也。[藥効] 番杏ヲ茶代用=煎服セバ慢性胃腸病及腸加答児ヲ治ス, 又胃癌・子宮癌=古來煎服又食用トス。常食(味噌汁・浸物等)セバ機下ノ効アリ。便通ヲ整ヒ・強壯劑トナル。最近胃潰瘍=有効トシ, 乾草20g(分及)ヲ3合ノ水ニテ約30分間煎シ詰メ, 1日2回食後2時間後=服用ス。又心臟病=茶代用トシテ有効也ト云フ。葉及若垂ヲ食用トス。[新藥] *Anticarcinon* (東京・高木)ハ番杏=沃度其他ヲ配位セシモノ。胃癌及他ノ癌=有効。

(2) さくろ-そう(粟米草) *Mollugo stricta* L. [分生] 木四・丸・朝・台ノ圓圖・踏傍等=点生~密生ス。[藥効] 根ヲ鰯卵・酒水ト混煎服又單ニ水浸シ其液汁ニテ眼ヲ洗滌スルニ用フ。

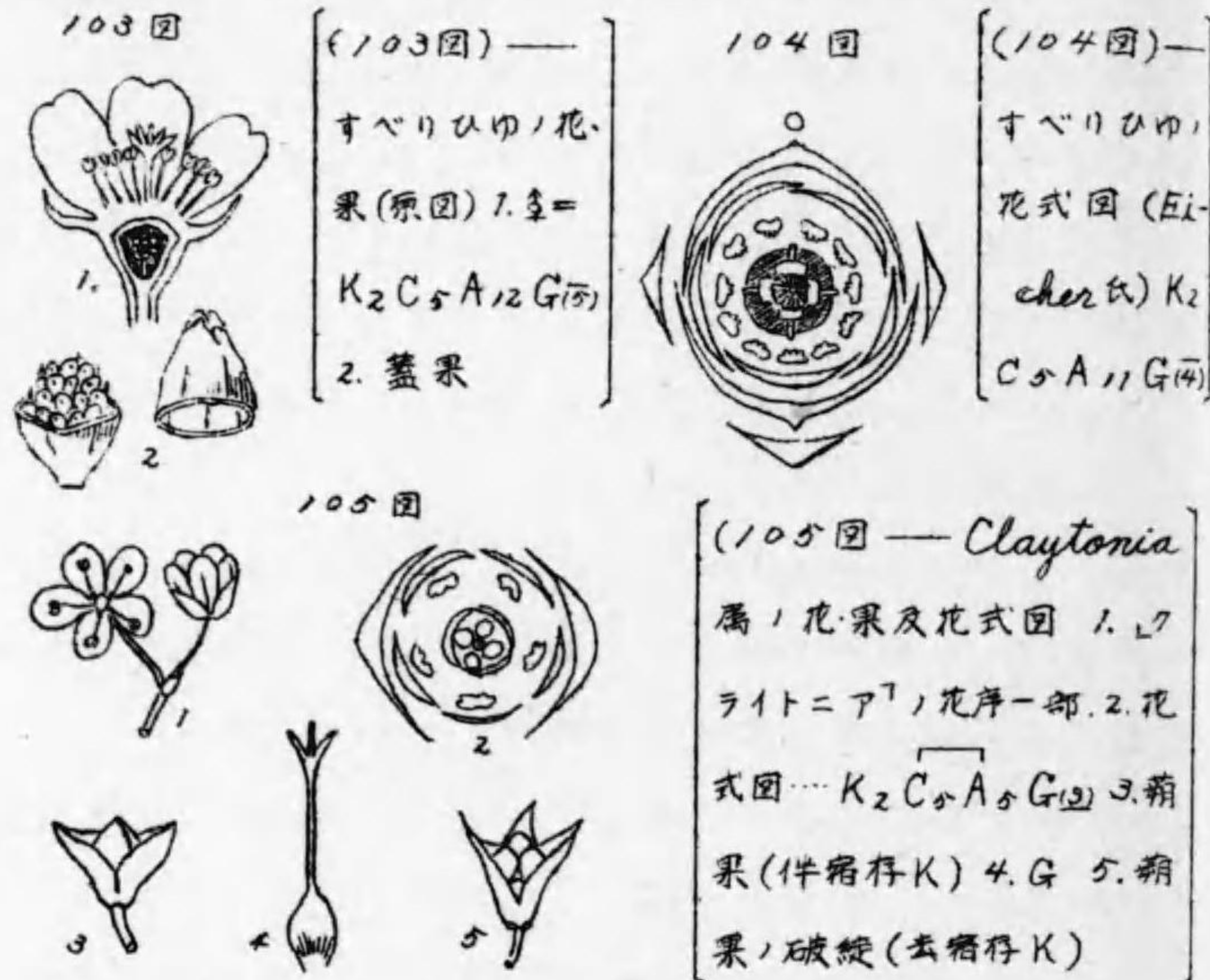
(3) えんば-みみなぐさ(えんば-はこべ) *M. hirta* Thunb. [分布] 台ノ原野=自生ス。[藥効] 莖葉ヲ煎服セバ癩癧ヲ治シ, 毒ヲ解ク。又莖葉ヲ搗碎シテ腫物ニ貼付ス。

Fam. (VI) すべりひや(馬齒莧)科 *Portulacaceae* (103~105 回参照)

形質——H(①・②・④)稀互又互(外國)。葉ハ $\Psi$ 又 $\Psi$ 。單葉概狹細・肉質・全緣, 托葉有(乾皮狀又毛群)又無。花器ハ $\hat{\sigma}$ ・翼被; 花序ハ總狀・円錐狀・頭狀・雁木狀稀單性花序。花ハ $\oplus$ (稀 $\oplus$ ぬま-はこべ屬), ◎, ◎, F.f.=K; 2T. 4~5;  $\overline{C} 4~5$  T.  $\infty$  A 4~5 r. 5+5 r.  $\infty$  G(3~5), 日本産ハ  $K_2 \overline{C}_5 A_5 \infty G(3~5)$ , Cハ芽中覆瓦狀, Aハ分裂=依テ稀 $\infty$ , 花柱3



〜♂, 1子室, 基立性胎座 = 嚚生卵子 2〜∞ 附着ス。穎果  
又蓋果有胚乳, 胚ハ弯曲シ胚乳ヲ圍ム。



成分及効用 — 未精査ニテ唯澱粉・糖分等知ラルルノミ。  
藥用ノ外食用又觀賞用ニ供ス。

分布及属種數 — 世界ニ凡18属500種ヲ産シ、主ニ米  
大陸ノ温〜熱帯ニ分布ス。日本ニ自生又栽培スルモノ4属  
10種ヲ下ラス、概台湾産唯1種ぬまはこべハ北州區ニ産  
ス。

本科ノ藥用植物: —

(1) すべりひゆ(馬齒莧)(103〜104回) *Portulaca oleracea* L. [分生] 北・本・四・九・琉・台・ノ・園・園・路・傍ニ点生

〜群生スル伏臥性肉質①, 斜上〜直生スルヲ尖ちすべりひ  
ゆ *v. sativa* DC. (栽培)ト云フ。[生藥] 馬齒莧ハ夏時全  
草ヲ採乾セルモノ也。[成分] 莖葉 = 0.3〜0.4%ノ脂肪ヲ  
含ム, 他ハ不詳。[藥効] 馬齒莧ヲ利尿(淋病・脚氣・乳腫・  
水腫・脹滿・小便滯)藥ニ當用煎服ス, 又痔ヲ治ス。其他  
淋病<sup>及</sup>婦人陰部ノ粘液性分泌物ヲ制止シ且下毒ノ効アリト云  
フ。尚莖葉ヲ搗碎シ搾汁ヲ塗布シ陰莖ノ疼痛ヲ治シ, 腫物  
及牛馬ノ咬傷ヲ治ス, 又毒虫毒蛇刺傷藥及乾癬藥トス。

(2) けづめくさ *P. pilosa* L. [分布] 台。[藥効] 莖葉  
ヲ搗碎シ飯粒ト共ニ練リ腫物ニ貼付ス。

(3) はせらん *Talinum crassifolium* Willd. [分布]  
熱帯原産ノ◎, 台栽培。[藥効] 葉ヲ搗碎シ腫毒ヲ散シ熱  
ヲ去ルニ腫物ニ塗用ス。

附: — つるむらさき(落葵)科 *Basellaceae* .....ハ暖  
地生葉ニテ *F. f.* =  $K_2 \overline{C(5)} A_5 G_{12}$ , 傘・中・◎・◎也。世界  
ニ5属20種, 主ニ熱帯及亞南産也。日本ニ栽培スルモノ  
2属2種アリ。

(1) つるむらさき(落葵) *Basella rubra* L. [分布] 熱帯  
原産。日本栽培。[効用] 莖葉ヲ敲キ指股症(虎口腫)ニ貼  
用シ, 又小児食セバ黒髮トナル。若葉ハ食用トシ, 果實ヨ  
リ紫色染料ヲ採ル。又觀賞用ニ供スベシ。

Fam. (VII) セミチク (存でしに石竹) 科 *Caryophyllaceae* (106~109 図参照)

形質——①~④稀互(外國)。葉ハ概ヤ稀ヤ又ヤ。單葉無裂，概全緣鋸齒牙緣，概托葉無屢有。花器ハ傘稀半(退化)異被，小~大屢美麗，概聚繖花序稀單生。花ハ每③④5又4數花； $F.f. = K:5 \sim 4; C:5 \sim 4; A:5 \sim 5; G:4+4; r.5 \sim 4$  (5~2)，日本産ハ概  $K:5; C:5; A:5 \sim 10; G:(2 \sim 5)$ 。Cハ芽中覆瓦狀又回旋狀排列，概AハCノ倍數，1子室。胎座ハ其立性~中央特立胎座 = 1~1 卵子 (彎生~倒生)ヲ包藏ス。花柱5~2ヶ。概蒴果稀漿果。種子 = 胚乳及彎曲胚アリ。

成分及効用——本科 = ハ *Glykosidische Saponin* (*Sapotoxim* · *Saporubin* · *Saporubinsäure* · *Saponarin* 等)ヲ含ムモノ多ク，*Alkaloid* = ハ *Pyronynchin*ヲ見出スト云フモ不確實也。藥用ノ外觀賞用頗多ク美花美容者不鮮又飼料トシ，石鹼代用ニ供スルモノアリ。

106 図



(106 図)——つめく  
コノ花(原圖)  $K:5$   
 $C:5; A:5; G:(5)$  (模  
式カ數花)

107 図



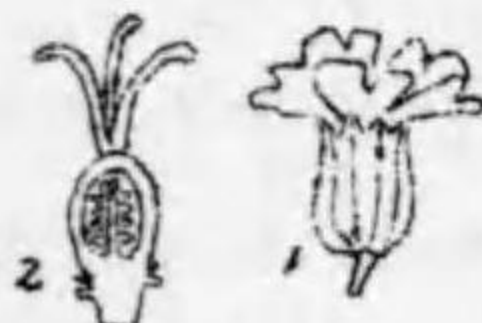
(107 図)——みぢ  
なぐさノ花・果(原  
圖) 1. ♀ =  $K:5; C:5$   
 $A:5+5; G:(5)$  2. G  
ノ縱断面 3. 蒴果  
ノ側面圖

108 図



(108 図)——のみのおすまノ花・果(原圖)  
1. ♀ =  $K:5; C:5; A:5 \sim 7; G:(5)$  2. 蒴果 (伴存  
存K) 3. 對生葉ヲ示ス。

109 図



(109 図)——ふくろま  
てまノ花及其G(原圖)  
1. 花  $K:(5); C:5; A:5+5; G:(5)$   
2. G(5) 及花托ノ縱斷

分布及屬種數——

世界 = 凡70屬2000種ヲ産シ。主 = 温帯 = 広布ス。日本 = 自生又栽培スルモノ凡22屬150種ヲ下ラズ。種子~台開 = 広布ス。分テ2亜科トス。

本科ノ藥用及有用植物:——

1) つめくさ (漆姑草) 亜科 *Alsinoideae* (*Paronychioideae*)  
K片ハ分離，子房ハ屢半下位 (Aハ屢子房ノ周圍ニ着生)。花  
式ハ概……  $K:5; C:5; A:5 \sim 10; G:(2 \sim 5)$ ;

(1) はこべ (はこべら。繁縷) *Stellaria media* Cyr.  
[分生] 樺・南千・北・本・四・九・朝・琉・台ノ圓圍・路傍等 = 粗~強群生。  
[生藥] 繁縷 *Herba Stellariae* ハ全草ヲ花時採乾セルモノ  
也。[成分] 未調査。莖葉 = 無機鹽類。種子 = 脂肪油 4.8%  
ヲ見出セルノミ。[藥効] 繁縷ヲ煎服セバ胃腸炎 = 特效アリ  
テ奏効確實ナル外一切ノ胃腸病 = 有効。又月經通ヲ完治  
シ。婦人産後ノ淨血藥トシテ分娩後・腹部ノ硬塊ヲ去リ。尚  
催乳藥トシテ分泌増加ス。又諸瘡ヲ治シ脚氣ヲ治シ。齒痛・  
打撲傷・子宮諸病・白帶下・心臟病・腸カタル・心悸亢進等 = 奏

切ス。1回3~6g 1日2~3回服用。莖葉ノ黒焼ヲ胡麻油ニテ練リ癰・瘡・痔ノ腫物ニ貼付ス。口臭症ニハはこべノ莖葉ヲ先ツ炮烙ニテ炒リ付ケ。次ニ食塩ヲはこべ炒ニ混セ揉ミナカラ焼塩ヲ作り。此綠色塩ヲ齒磨粉トセバ快癒ス。はこべ塩是也。子宮諸病ノ妙藥トシテ莖葉ヲ和紙ニ包ミ。之ヲ火ニ焙リ蒸焼(又ハ焼灰中)シタルヲ掌上ニ丸ノ腔球トシ腔内ニ挿入セバ美神丸ノ如キ効カラ現ス。又陰干セルヲ温湯ニ浸シ丸ヲ腔球トシテ用フルモ奏効スト云フ。煤ヲ浸物トシ食スレバ胃腸藥トナリ。腹痛・下痢ニ良ク。盲腸炎ニハ運食2週間ニテ頑固症ヲ完治再発セズト云フ。若莖葉ヲ食用トスル外古来小鳥ノ飼料トシテ着明也。〔處方例〕胃腸藥又催乳淨血藥……紫線10.0 水100.0……以上1日量煎劑。

(2) うし-はこべ *Malachium aquaticum* Fries (= *S. aquaticum* Scop.) [分生] 北・本・四・九・琉・台ニ分布シ形態生態共ニ前者ニ近似セルモ全然別種也。(即甲ハ全株小形小葉莖毛ノ道・KハCト全長内外・G(3)ナルニ本種(乙)ハ大形大葉・全面毛茸・KハCノ倍長・G(4)也)。成分効用尋前種ニ近似スベシト思ハルルモ、効力ハ更ニ弱シト云フ。即全草煎汁ヲ利尿劑トシ又婦人産後ノ腹塊ヲ治(去)スル外、淨血・催乳ノ効アリ。又嫩全草ヲ味噌汁トシテ食セバ盲腸炎・脚氣症・胃癌等ニ有効。尚湯煮シテ揉ミ痛部(挫傷・腔炎等)ニ應用ス。

(3) つめ-くさ(長かのつめ・漆姑草)(106回) *Sagina maxima* A. Gray [分生] 北・本・四・九・琉・朝・台ノ庭園路

傍ニ粗ニ生ス。〔藥効〕莖葉搾汁ス煎汁ヲ漆疹<sup>フシカサレ</sup>及漆癬ニ塗布シテ治ス。又諸部趾・肢ヲ傷メタルニ搾汁ヲ塗付シテ奏効著シ。

ii) まんてま(ひらんじ) 豆科 *Silenoideae* K片ハ卷合。花柱ハ分離。子房ハ上位。花式ハ概  $K(5)C_5A_5+5G(2\sim5)$ 。

(4) かはら-なでしこ(なでしこ・瞿麦) *Dianthus sibericus* L. (名ニかはらなでしこ。とうかはらなでしこ) var. *longicalycina* Williams <sup>(みせらぎ)</sup> 及其諸夜種 [分生] 樺・南千・北・本・四・九・朝・琉・台ノ山野ニ広布シ点生ニ群生ス。〔生藥〕瞿麦子 *Semen Dianthi* ハ熟種子ヲ採乾セルモノ也。〔藥効〕種子ヲ煎服シ利尿(水腫・淋病・消渴)劑又通經劑トシ、膀胱ノ邪氣ヲ去リ淋病ヲ治ス。又陳腐催進藥トス(多服ハ妊婦流産即墮胎ノ恐アリ)。1回2~4g 1日2回服用。秋ノ七草ノ一ニテゆまじ-なでしこ(から-なでしこニ對シ)ト云フ。觀賞用ニ供ス。

(5) から-なでしこ(せきちく・石竹・瞿麦) *D. chinensis* L. [分生] 支・滿・朝ノ山野ニ分布ス。〔生藥〕莖葉ヲ瞿麦・種子ヲ瞿麦子ト稱ス。甲ハ花時採乾ス。〔藥効〕瞿麦ヲ利尿劑トシテ浮腫・小便不通ニ煎服シ、瞿麦子ヲ前種同様ニ用フ。変種ニ三アリ。觀賞用ニ供ス。

(6) さぼんさう *Saponaria officinalis* L. [分生] 歐洲原産ノ(2)。日本各地ニ栽培。〔生藥〕さぼなり根 *Ra-*

*dix Saponariae* ハ花後(秋)根ヲ採乾セルモノ也。莖葉ハ花時ニ刈取險于ス。〔成分〕葉ニ配糖体 *Saponarin*  $C_{21}H_{34}O_{12}$  ヲ。根ニ *Saprorubrin* ナルサポニン4%及 *Saprorubrin-säure* ヲ含有ス。〔藥効〕サポニナリ根(独・佛両方)ヲ梅毒腺病(貧)・慢性皮膚病ニ殺菌藥トシテ1回1.5~5gヲ煎用ス。根及莖葉ヲ水浸出セル液ハ石鹼代用トシテ洗濯ニ用フ。〔新藥〕*Rasapon* ハ本種及かみつれ花ヲ原料トスル祛痰藥也(独・ホルスタイン商會)。〔藥理〕犬猫ノ体重ノ1%ニ付 *Saprorubrin* (又ナボルピン) 2.1gヲ静脈内ニ注入セバ動物ハ斃死ス。1.7gニテモ中毒症狀ヲ呈ス。皮下注射セバ局所ノ壞疽及出血性炎症ヲ起シ且嘔吐ヲナス。動物ニ服用セシムレバ毒分ノ大部分ヲ吐出ス。摘出心臟及筋ヲ逐ニ麻痺ス。溶血現象ハむぎせんのう(*Lychnis Githago Scop.*)ノ夫レヨリニ微弱ナリ。一般ニサポニクニ毒ヲ吸收ハ草本ノ種類ニ依リ一様ナラズ、むぎせんのうノ毒ハ比較的速ニ吸收セラレ。サボン草ノ之ニ至ギ、他ノ草本例バかがりびさうノ夫レノ如キハ殆吸收セラレズニ通過スル事多シ。蓋シ健全ナル消化管粘膜ハ容易ニ如斯毒分ヲ吸收セザルニ因ル、即毒分ハ消化管内ニテ分解シ殆無毒トナリ、全身症狀ヲ起スコトナシ。是サボン草内服用ニ際シ中毒、少キ所以ナルベシ。又一方注射時ニ静脈注射ノ如何ニ直接的・効果的ナルカヲ知り得ベシ。〔處方例〕殺菌藥……サポニナリ根8.0水100.0……以上ノ日量煎劑ヲ分服。

(7) 大王不留行(王不留行、道灌草) *Vaccaria vulgaris Host.* 〔分布〕歐洲及支那原産、日本各地栽培。(名稱ハ東京道灌山ノ藥園ニ栽培セルニヨル)。〔生藥〕<sup>ワカレヤウ</sup>王不留行 *Semen vaccariae* ハ種子ヲ採乾セルモノ也ト云フ。支那ヨリ輸入ス。收野博士ハ王不留行ハ支那産ノ *Melandryum apricum Rohrb.*ニ相當ストセラル。〔成分〕種子ニ *Lactosin*  $C_6H_{10} + 2H_2O$  クラトシン(含水炭素)ヲ含有スルヲ知ラル、ノミ。〔藥効〕漢:切創ニ外用シ、止血・鎮痛・催乳通經藥トス(煎服、1回3~5g)。切創ニ止血ノ目的ニ用フ。〔處方例〕1)催乳藥……王不留行4.0……以上ノ日量粉末トシテ3分服。2)催乳通經藥……王不留行5.0 水100.0……以上ノ日量煎劑ヲ分服。

(8) こごめなでしこ *Gypsophilla paniculata L.* 〔分布〕歐洲原産、日本栽培。〔成分〕全草 根ニ *Sapotoxin* ヲ含有ス。〔藥効〕(6)ノサポニナリ根ニ同ジ。

(9) むぎなでしこ(むぎ-せんのう) *Lychnis Githago Scop.* 〔分布〕歐洲原産、日本栽培。〔藥効〕種子ニ脂肪油・*Sapotoxin* ヲ含ミ有毒也。根ニ *Saponin* ヲ含有スル故(6)ノサポニナリ根ト全効アルベシ。

(10) なんばんはこべ(夫かねなんばんはこべ、つるせんのう、狗筋蔓) *Cucubalus baccifer L. var. japonica Mig.* 〔分布〕樺・南千・北・本・四・九・朝・台ノ山野ニ点生又簇生ス。〔生藥〕花時莖葉ヲ採乾セテ狗筋蔓ト稱ス。〔藥効〕莖葉

煎汁ヲ以テ痔疾ヲ温湿布ス。

### 第十二目 毛茛目 Ranales

特徴——H又D。花ハ◎, ◎又◎, 概◎屢◎稀, 概中屢  
①. 概A∞, G $\overline{\infty \sim 1}$ 。果ハ多様; 内乳ハ細胞狀又基底器  
アリ, 又核狀也。本目14科中藥用ニ關係アルハ次ノ9科  
也。

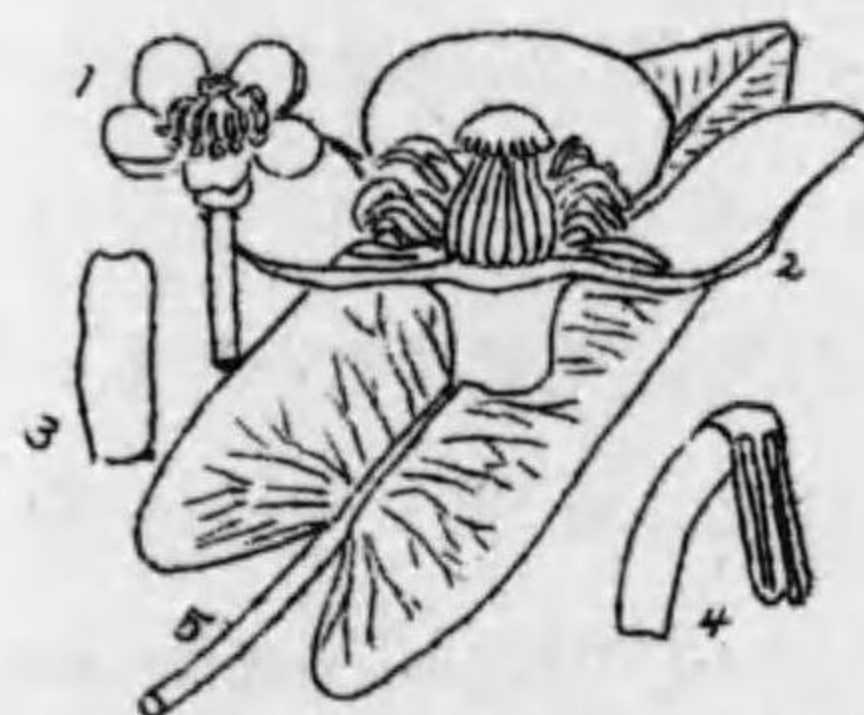
- 水生植物, 浮葉又氣中葉ハ楕形或箭形。花ハ中〜大形美麗  
◎. 心皮ノ内面ニ∞卵子ヲ着生ス……………Fam. (I) ひつじぐ  
さ(睡蓮)科 *Nymphaeaceae*
- 陸生植物, 稀水生者ハ花ハ小形, 葉ハ再三細分裂ス。心皮ノ  
内縫線ニ卵子ヲ着生ス……………1
- 花ハ裸花, ◎, 体中ニ含油細胞無シ, 葉ハヤ, 無托葉, 花ハ♀又  
1 ♀♂……………Fam. (II) やまぐるま(雲葉)科 *Trochodendraceae*
- 花ハ有花被, ◎〜◎, 体中ニ含油細胞アリ又無シ……………2
- 2 体中ニ含油細胞ナシ……………3
- 体中ニ含油細胞アリ, 莖葉ヲ破壊セバ土芳香ヲ發ス……………6
- 3 花ハ両性也(但シ毛茛科ノせんくんぶ及からまつさう屬ヲ除ク)……………4
- 花ハ單性又雜性也(但シ防己科ハ♀ニ退化Aヲ含ニ退化Gヲ有ス)……………5
- 4 葯ハ瓣開セズ G $\overline{2 \sim \infty}$ ……………Fam. (III) さんばうげ(毛茛)科 *Ranunculaceae*
- 葯ハ瓣開ス, G $\overline{1}$ ……………Fam. (V) のぎ(小檗)科 *Berberidaceae*
- 5 花ハ單性又雜性, (♀♂)……………Fam. (IV) あけび(木通)科 *Lardigabalaceae*
- 花ハ單性, ♀♂……………Fam. (VI) つづらふら(防己)科 *Menispermaceae*

- 6 { A∞ G∞……………Fam. (VII) いくれん(木蘭)科 *Magnoliaceae*
- A3~12 G $\overline{1}$ ……………7
- 7 { A3~12. 葯ハ瓣開セズ……………Fam. (VIII) くくつ(肉豆蔻)科 *Myristicaceae*
- A9~12. 葯ハ瓣開ス……………Fam. (IX) くす(樟)科 *Lauraceae*

Fam. (I) ひつじぐさ(睡蓮)科 *Nymphaeaceae*  
(110~113回参照)

形質——水生◎稀①。葉ハヤ又Y, 氣葉・水葉ノ別アリ, 水  
葉ハ浮葉・沈葉ノ二形ニ別レ單葉・無裂・全縁・有長柄ナレド; 沈葉  
ハ稀分裂ス。花器ハ概美大, 萼・瓣異被稀同被, 稀單頂花序,  
花ハ中, ◎又◎或◎, ◎稀◎, 花托ハ土凸狀又柱狀(此場合  
子房ト癒合); F. f. = K3~5 T. 6~12 C3~5~∞ A6~∞ G $\overline{3 \sim \infty}$ ;  
~6~∞; 概(日本産) K3~5 C3~∞ G $\overline{3 \sim \infty}$ ; 稀P∞

110回



- (はす亞科). Cト共ニ芽中覆瓦狀
- (110回)——かははねノ花葉
- (原図) 1. 花器 K5 C∞ A∞ G(∞)
- 2. 花ノ前方ヲ切除シ内部ヲ示ス
- 3. C 4. A 5. 箭形葉.

排列; 心皮(G)ハ屢C. Aト癒着  
ス各心皮ハ其内面ニ1~∞卵子ヲ着生, 概倒生稀直生有2  
卵膜。漿果又蒴果, 不規則裂開又稀兩果, 種ハ子衣(假種  
皮)ヲ有シ, 胚乳ハ稀又無。

成分及効用——Alkaloid = Nelumbin (心臟毒也)。

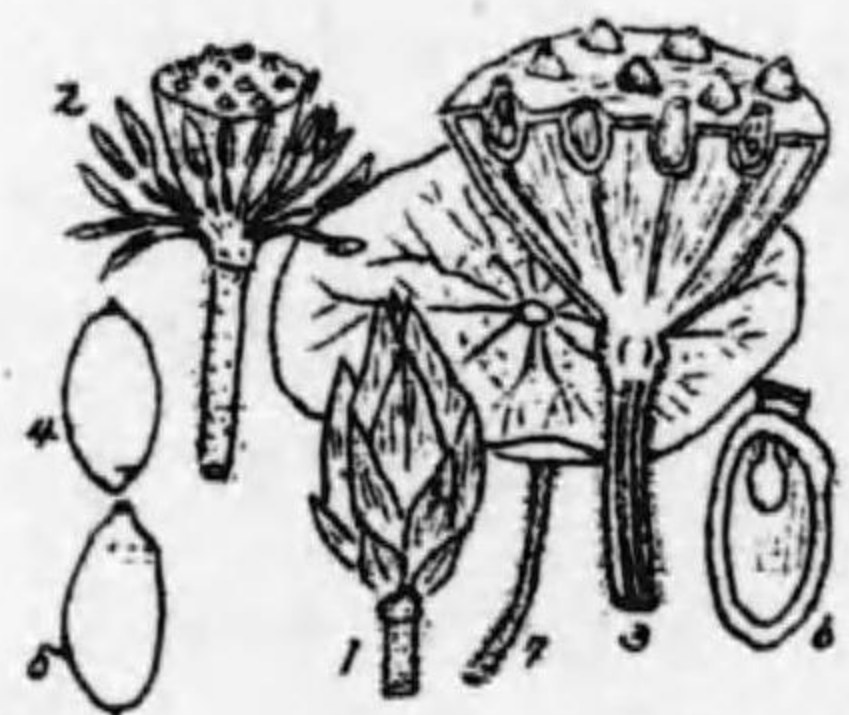
Nupharin, 其他 Asparagin, Pentosan, 鞣酸, 脂肪油, 粘液, 含水C等ヲ含シ, 種子ハ澱粉質ニ富ム。藥用ノ外食用・觀賞用ニ供セララルモノ不尠。

分布及屬種數——世界ニ8屬凡100餘種ヲ産シ, 廣ク南北兩半球ノ熱~寒帶ノ池沼・沢・瀉ニ生ジ, 主ニ南北米洲ニ多産ス, 日本ニ自生又栽培スルモノ5屬13種ヲ下ラズ, 全國ニ廣布ス。

本科ノ藥用植物: ——

Subfam 1) はす(蓮) 亞科 Nelumboideae ⊗, 根莖発達, 擔狀葉ハ有長柄, 花ハ有長梗, ⊙, ⊙, P∞ (稀 K4~5 C∞);

111 図



- (111 図) —— はすノ花・果・葉(原図)
1. 蕾又半開花 K4~5 C∞ A∞ G∞
  2. A及倒円錐形花托ト∞: G 3. 果実(∞分果, 陥没ヲ見ル) 4. G 1/7
  5. 1/7分果 6. 分果ノ縱断面
  7. 擔形葉

花托ハ倒円錐形, 心皮即Gハ各独離生, 花托上ニ陥没, 各有1卵子。Fr. f. = P∞ A∞ G∞。無胚乳, 分果中ニ有大胚。

1) はす(はちす, れんげ, 蓮)(111 図) *Nelumbo nucifera* Gaertn, [分布] 熱温亞, 原産。日本朝鮮各地栽培 [生藥] 蓮實(蓮肉) *Fructus Nelumbo* ハ果実ヲ採乾セルモノ, 分果也, 質堅硬・微苦シ。荷葉トハ初生葉ヲ蓮花トハ花ヲ採乾セルモノ。蓮根トハ其地下茎也。[成分] 蓮根ハ

Asparagin, Arginin, Torigonellin, Tyrosin, Lecithin, 蔗糖・葡萄糖等ヲ含有シ, 筋莖芽ニハ Asparagin ヲ含ム。葉柄・花梗・胚芽ニハ Nelumbin ナル有毒 Alkaloid 微量ヲ含有ス。種實ニハ Raffinose ヲ含ム。[藥効] 漢: 蓮實ハ婦人諸病(特月經不順・帶下等)・病後衰弱ニ有効, 又滋養強壯劑トシテ衰弱者(特下痢性アルモノ)・但乳結症有ハ禁・遺精者・神經衰弱者 = 7日8~10g 煎服ス。又口渴・嘔吐ヲ治ス。荷葉(天蓉葉)ハ強壯劑(神經衰弱・精神沈衰・遺精等)・止血劑(咯血・子宮出血等)・解毒劑(菌毒中毒等)・利尿劑(水腫等)・解熱劑トシテ用ヒ, 又夜尿症ニ有効, 1回3~8g 煎服ス。葉ノ黑煨ノ煎汁ハ含嗽シテ齒齦疼痛ヲ治ス, 又煙草ノ代用トシテ良好也。蓮花ヲ採碎シ唾液ニ和シ腫物ニ貼セバ化膿ノ吸出ヲ促進ス。蓮根ハ煎用シテ滋養強壯劑・清血劑・鎮咳劑(特ニ節節ヲ摘卸シ汁ニ砂糖ヲ加ヘ内服スレバ百日咳ニ奏効ス)・止血劑(肺結核ノ咯血)・止瀉劑(腸カタル)トナル外, 渴ヲ止メ酒毒ヲ解ス(止渴劑・解毒劑)効アリ。蓮根ハ滋養食品ニテ常食セバ身體強壯トナル。故肺病患者ニ適當ス。民: 夜尿症(尿小便)ニハ蓮葉ノ陰干2枚及甘草少量水ノ合ヲ加ヘ30分煎詰メ1日分トシテ内服ス。[處方例] 1) 滋養強壯劑——蓮實15.0 水200.0——以上1日量煎劑3分服。2) 強壯強精藥——蓮實8.0 麥門冬1.0 茯苓1.0 甘草1.0 水200.0——以上1日量煎劑3分服。[備考] 花葉ハ古來佛事ニ用テ, 花托ヲ乾シ土瓶歌トス頗佳趣アリ。

嫩葉ヲ飯ニ混テ食ス。蓮飯ト稱スルモノ也。

Subfam. ii) じゆんさい(蓴) 菰科 Cabomboideae



112 回 (112 回) — じゆんさいノ葉・花(原回) 蓴科  $K_3C_3A_3 \sim 18G_2$  1. 葉(浮葉) 2. 花器  $K_3C_3A_{12} \sim 18G_6 \sim 18$

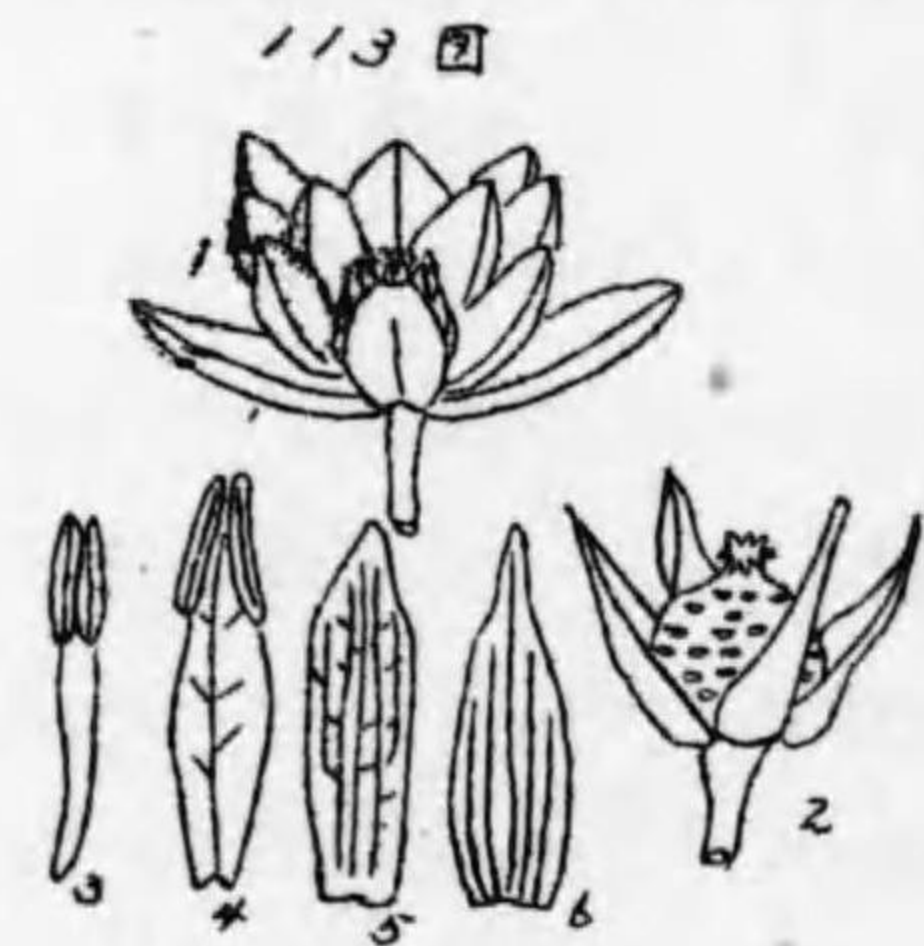
◎, 莖細長。花ハ◎ス ◎, F.f. =  $K_3C_3A_3 \sim 18G_2 \sim 18$ 。有内外両胚乳。 (2) じゆんさい(のなは、蓴、蓴菜)(112 回)

*Brasemia Schrebri* Gmel. [分生] 北・本・四・九・朝・台ノ池沼ニ群生ス。[生薬] 蓴菜ハ夏日莖葉ヲ採乾セルモノ也。

[効用] 莖葉ヲ搗碎シ瀉疔ニ塗布シテ有効。又乾草ヲ利尿劑トシ又胃痛ニ煎服ス。嫩葉ハ粘液質ニ富ミ酢醬油、酢味噌ニテ又吸物トシテ食ス、珍味也。

Subfam. iii) ひつじぐさ(睡蓮) 豆科 Nymphaeaceae ◎

稀◎。四萼類ハ有托葉。花ハ◎。F.f =  $K_4 \sim 5 \sim 12 C_{\infty} G_{\infty}$



113 回 (113 回) — ひつじぐさノ花・果及其解剖回(原回) 7. 花器  $K_4 C_{\infty} A_{\infty} G_{\infty}$  2. 果実(伴宿存萼) 3. A. 4. A+C+中 開形 5. C 6. K

Gハ全隔壁ニ等 卵子ヲ附着ス。 (3) かはほね(かうほね、川骨、萍蓬草)(110 回) *Nuphar japonicum* DC.

[分生] 種北・本・四・九・朝・琉ノ池沼中ニ群生ス。[生薬] 川骨 *Rhizoma Nupharis* ハ夏冬ノ間ニ太キ根莖ヲ採乾縦割

セルモノ。内質粉状軽粗也。[成分] 根莖 = Alkaloid (*Nupharidin*  $C_{15}H_{23}NO_2$ 。全属他種 = *Nupharin*  $C_{18}H_{24}N_2O_2$ )。Dextrose・Pararabin 様物質・澱粉等ヲ含有ス。又葉芽ヨリ分泌スル粘液ハ *Rhamnosan*  $C_6H_{10}O_5$  ナリト云フ。

[薬効] 漢・川骨ハ專強壯藥トシ尚健胃強壯藥・婦人病藥・神經衰弱藥トス。又破血及止血要藥トシテ産前産後・金瘡・切瘡等ニ煎服ス。尚ヒステリ・神經衰弱・消化器諸病・等ニ有効。1回1~10g 煎用ス。又金創・切創・打撲傷等ニハ10%煎液ニテ患法ス。民・乳房ノ腫痛ニ根莖ヲ摺碎シ紙又布ニ貼ベ患部ニ貼ル。[備考] 根莖ヲ東北地方ニテ食用トス。又觀賞用(生華・投入盛花)トシテ栽培ス。

(4) わむろ-かわほね(魚せ-かはほね、根室川骨) *N. pumilum* Smith [分生] 樺・南千・北・本(北中部)・朝・ノ池沼ニ粗ニ群生ス。[成分効用] 萼同種ナランモ精査ナシ。[備考] 本属ニハ以上ノ外日本ニハひめ-かはほね *N. subintegerrimum* Mak. [北・本(中南部)]。あぐら-かはほね。 *N. Oguraensis* Miki [本(中南部)・九]。たいわん-かはほね *N. Shimadai* Hayata (台) 等。外國 = *N. luteum* S. etz. (歐洲) 等ヲ産ス。皆強壯藥・婦人病藥トシテ同効アルベシ。

(5) おく-はす(いはら-はす、みぶ-ぶさ、茨實) *Euryale Ferox* Salisb. [分生] 本朝ノ池沼ニ群生ス。[生薬] 茨實 *Semen Euryales* ハ成熟種子ヲ採乾セルモノ、球形・堅

硬・灰又暗褐色也。〔藥効〕漢：灰実ハ強壯藥（神經衰弱・遺精ヒステリー等）。鎮痛藥（痛風・腰脚・關節痛等）婦人病藥トシテノ回2~5ヲ煎服ス。尚種子及地下莖ヲ食用ニ供ス。味如芋。子炒リ食シ又粉ヲ取り團子トシテ食ス。

(6) ひつじぐさ (睡蓮) (1113回) *Nymphaea tetragona* Georg. [分生] 北・本・九・朝ノ池沼ニ群生ス。〔藥効〕根莖ヲ食用ニ供ス。強壯劑トナル。葉及花ヲ採乾シテ止血・鎮痛藥ニ煎服ス。

(7) 糸せひつじぐさ (蝦夷睡蓮) *N. tetragona* v. *lata* Casp. [分生] 樺・北ノ池沼ニ群生ス。〔効用〕前同様。

Fam. (II) やまぐるま (山車・雲葉) 科 *Trochodendra-ceae* (114回参照)

形質——互~互。葉ハ常緑、ノ葉半状、單葉・無裂・有齒牙縁・無托葉。花器ハ♀又(♀♂)、無被、花序ハ繖房性又總狀花序。花ハ♂。◎; F. f. = P<sub>0</sub>A<sub>∞</sub>G<sub>5~∞</sub>-, Aハ◎, Gハ◎各Gハ∞~1倒生卵子ヲ包載ス(内縁線上ニ着生)。薄皮又瘦果、種子ハ有胚乳。

成分及効用——成分トシテ<sup>トリエン</sup>鳥糞及彈性護膜ヲ含有ス、他ハ不詳。木材用・鳥糞料・彈性護膜料ニ供スベシ。

分布及属種數——世界ニ2属6種ヲ産シ、東亞ニ分布ス。日本産ハ2属2種ノ変種、本~台・間ニ分布ス。

本科ノ藥用植物：——



(114回) --- やまぐるま及其変種ノ葉トA (原図) 1. やまぐるまノ葉(9双脈) 2. 全Aノ本 3. 厚かばやまぐるまノ葉(12双脈) 4. 全Aノ本

(1) やまぐるま (とりえちのさ・山車) (114回) *Trochodendron ralioides* S. et G. [分生] 本・四・九・琉・台ノ山地生常緑互~互。葉ハ半、薄皮ヲ結ブ。(生藥) 山車竊ハ夏日樹皮ヲ剝離シ煮テ白ニ搗キ精製ス、又ハ2~3ヶ月間水中浸ニ依テ組織ヲ腐朽後、白ニ搗碎分離セル粘性護膜様物質也。〔成分〕鳥糞中ノ成分ハ Trochol C<sub>26</sub>H<sub>44</sub>O<sub>2</sub> 及其 Palmitinsäure-ester. Trochosterin. Trochosäure C<sub>31</sub>H<sub>50</sub>O<sub>5</sub>、セロチン酸. Palmitinsäure. 酒酸・カウチユク(彈性ゴム)等也。〔効用〕樹皮ヨリ鳥糞及彈性護膜ヲ製ス。糞ハ紙上ニ塗布シ蠅捕紙ヲ造リ、芋ニ塗テ鳥・昆虫(蜂及害虫退治)ヲ捕獲スベシ。又糞ノ水ニ溶液ニころちうむ又ちゆるいじんヲ加レバ良好ノ糊液ヲ得ベシ。腫物等ニごま油ヲ混ジ厚ク塗レバ初期腫物ハ腫張ヲ去ルベク、其他腫物ノ消炎劑トスベシ。仁丹大ノ粒トシノ回6粒服用セバ痛風・痲氣ヲ治ス。

(2) ふさぶくら (たけぐは、雲葉) *Euptelea polyandra* S. et G. [分生] 本・四・九ノ山地ニ点生又粗林ヲ成ス。〔効用〕樹皮ヨリ鳥糞ヲ製シ前同様ノ効アリ。材ハ攪物細

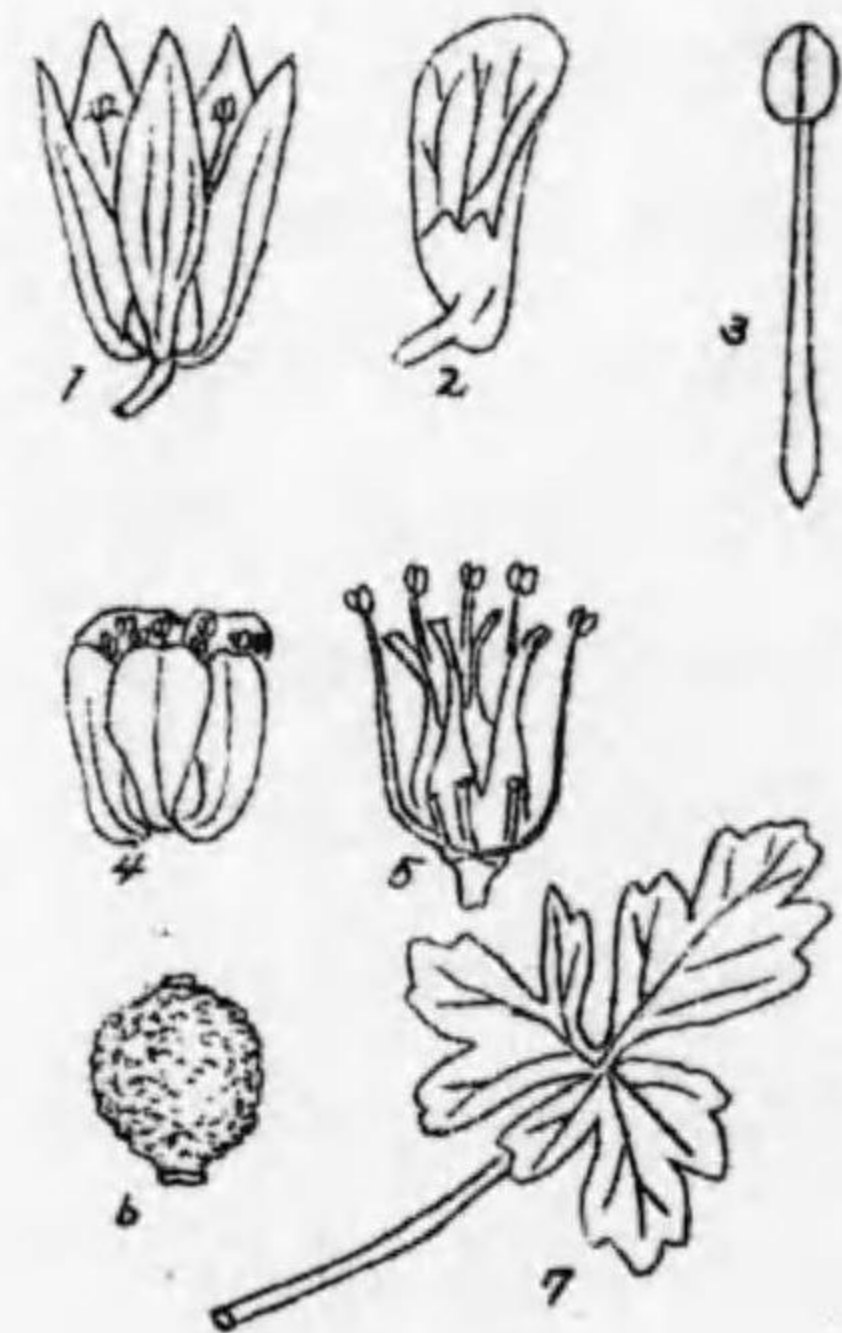


工用・器具用トシ、又観賞用トス。

Fam. (IV) さんぼうげ (毛茛) 科 *Ranunculaceae*  
(115~119回参照)

形質——概①~④、屢々稀左~右、地上茎ハ概1維管束無分泌腔、毛茸ハ概單細胞。葉ハ概Y、脚葉ハ屢半、稀Y、概有柄、單葉~複葉、無裂~再三細裂、全縁~齒牙縁~缺刻縁。花器ハ尊萼、概異被屢單被、小~大形。花序ハ單頂、總狀・円錐・聚繖花序等也。花ハ中稀中、◎又◎稀◎ (をたまき屬)。◎又◎: F. f. = K 4~5~6 r. 3 C 0 v 4~5~6 v. ∞ A 4~∞ G: 1~3~5~10 v. ∞; 又 K 3~6 C 0 v. 4~6~∞ A 4~∞ G: 1~∞; = 多様ナルモ各亞科ニ於テ單純化ス。

115回



(115回)——ひめうげノ葉及花ノ解剖圖(原因)。1. 花ノ側面 2. C 3. A 4. C 5. A ∞ 5. K. Cヲ除去シ花器ヲ示ス。A 8~14 G 3~4 6. 種子 7. 三出掌狀複葉 (1~6) 廓大回

單被即 Kノミノ場合ハ C 様ヲ呈ス。KトAトノ間ニハ屢密腺葉(Cノ變化)アリ; Cハ屢小形又O、又∞。芽中覆瓦狀排列、Aハ概∞; 心皮ハ1~∞、稀結合ス、各心皮ノ子室1~∞卵子(1~2卵膜ヲ

板ル)ヲ包藏ス。果実ハ概蓇葖又瘦果、稀漿果又蒴果也; 種子ハ含油胚乳ニ害ム、肉乳ハ核性、胚ハ細小。

成分及効用——概刺戟性~峻烈性氣味ヲ有シ、大多數ハ毒~劇毒性 Alkaloid 又配糖体ヲ含有スル毒草即概藥草也。檢出サレシ成分ハ塩基……ニハ *Aconitumalkaloide* · *Coptisalkaloide* · *Delphinium-alkaloide* 等ヲ主トシ、其細別ハ *Aconitin* · *Pseudoaconitin* · *japonaconitin* · *Mesaconitin* · *Pikraconitin* · *Lycaconitin* · *jesaconitin* · *japabenzaconin* · *Myoctonin* · *Macrocarpin* · *Clemastin* · *Delphinin* · *Delphinoidin* · *Berberin* · *Hydrastin* · *Kanadin* · *Mekonin* · *Damascenin* · *Methyl-damascenin* · *Coptisin* · *Palmatin* · *Woremin* 等ナリ。配糖体……ニハ *Adonis-glycoside* · *Helleborus-glycoside* 等、強心性配糖体ヲ含有ス、其細別ハ *Melanthin (Saponin)* · *Helleborin* · *Helleborein* · *Adonidin* · *Adonin* · *Paeonolglucoside* 等ナリ。其他ノ物質……ニハ *Anemonin* ナル刺戟性物質等アリ、其細別ハ *Protoanemonin* · *Anemonin* · *Anemonisiiure* · *Isoanemonisiiure* · *Aconitisiiure* · *安息香酸* · *Adonit* · *Inosit* · *Phytosterin* · *Lypase* 等ナリ。本科ニハ有毒植物頗多ク從テ藥用植物モ亦夥シ。尚食用ニ供スベキモノ若干アル外、美花・美容植物モ多ク観賞用トナルモノ不尠。

分布及屬種數——世界ニ凡35屬1300種ヲ産シ、主ニ温

~寒帯=分布ス、湿地~水生者不尠。日本=自生又栽培ス  
ルモ121属凡250種ヲ産シ、樺・北千~台湾=分布シ、本州  
最多シ、鮮満地方亦不尠。

本科ノ薬用及有用植物：——本科ヲ次、5亞科=分類ス。

Subfam. i) しらねあふひ (白根薬) 亞科 Hydrastidaceae  
④。全株有毛。葉ハY、掌狀数中~深裂。花ハ帯=單位、  
單被・密腺葉無。F. f =  $K_3 \sim 4 C_0 A_{\infty} G_{(2)} \psi_{\infty}$ 。漿果又  
蓇葖、種子ハ頗発達セル外種皮ヲ有シ、内種皮ヨリ遙ニ突  
出ス。

○ (1) ひどらすちす *Hydrastis canadensis* L. [分生]  
北米 (米國東北部及カナダ南部) 産林中生、Virginia 州  
ニテハ2500呎迄。F. f =  $K_3 C_0 A_{\infty} G_{\infty}$  [生薬] ひどら  
すちす根 *Rhizoma Hydrastis* (局方) ハ根莖ヲ採乾セル  
ルモ也。[成分] 主成分ハ *Hydrastisalkaloide* (*Hydras-*  
*tin*· $C_{21}H_{21}NO_6$ ·*Hydrastinin*·*Berberin*·*Canadin* 等)  
也。[薬効] 局方ひどらすちす根ハ止血薬 (脈管收縮薬)  
特ニ子宮出血ニ費用ス。局方ひどらすちす流動越幾斯 (*Ex-*  
*tractum Hydrastidis Fluidum*) ハ子宮止血薬トシテ  
1回15~20滴宛1日3回用ヒ、咯血及衄血ニハ効果不確  
実且貴角、如ク迅速ニ奏効セス、尙陳痛振起ノ作用ナシ。  
*Hydrastinum chlorid* (Bayer) ひどらすちん塩化物ハ子  
宮出血・月經過多ニ用ヒ、子宮收縮及止血ノ効アリ、1回  
0.025g. 1日3~4回内服ス、皮下注射ハ5%ヲ用フ但局

所疼痛強烈也。

(2) しらねあふひ (白根薬) *Glaucidium*  
*palmatum* S. et G. [分生] 北・本 (北中部) <sup>寒地帯下等~</sup> 寒地帯上  
部=粗~群生ス、半陰地性、日本特産、他ニ支那ニ一種、  
世界ニ計2種 (北産 *G. paradoxum* Mak. ヲ偶発ノ畸形ト見  
做ス)。 $K_4 C_0 A_{\infty} G_{(2)}$ 。蒴果。[生薬] 白根薬根 *Rhizoma*  
*Glaucidii* ハ根莖及根ヲ採乾セルモ也。[成分] 薬學者  
ノ研究ニ據レバ前属ト異リ *Alkaloid* ヲ含マズ、或配糖体  
(結晶性) ヲ含有スト云フ。[薬効] 未詳。

Subfam. ii) しやくやく (芍薬) 亞科 *Paeoniaceae*

④~⑤。葉ハ大形、1~2回3出掌狀複葉。花ハ稍枝頭ニ頂  
生、單頂花序。F. f =  $K_3 \sim 5 C_5 \sim 8 \sim 10 \sim \infty A_{\infty} G_{2 \sim 3 \sim 5}$ 。  
蓇葖、果葉、壁ハ韌狀肉質、種子ノ外種皮ハ頗発達シ前亞  
科同様。

△ (3) しやくやく (白芍薬) *Paeonia albi-*  
*flora* Pall. [分布] 亞比・蒙古・鮮・満・支ニ野生又栽培。  
日本栽培。[生薬] 芍薬 (津局) *Radix Paeoniae* ハ根ヲ秋  
期ニ採乾セルモノ、紡錘狀、長10~20cm 氣味緩和稍甘シ。  
根ヲトハ本品ノ根 (栓) 層ヲ除去セルモノ也。主産・奈良縣。  
[成分] 莖葉根中ニ安息香酸、根ニ *Asparagin*・安息香酸  
*Benzoësäure*·*Paeonia fluorescin* 等ヲ含ム。[薬効]  
古来鎮痛・鎮痙 (頭痛・腰痛・腹痛・胃痙攣・痛風・眩暈・痙攣・痙攣)  
諸症等) 藥。婦人病 (ヒステリー・帶下・通経・血ノ道諸病

一切)ノ要藥トシテ漢方ニ貴ル、煎服(1回1~2g、1日5~6回)シテ利尿(シビレ・引ツリ等)藥、発汗・解熱(肺病・感冒等)藥、祛痰藥トナル。又煎用シテ血淋ヲ清淨ニシ、循環旺盛從テ強心ノ目的ヲ達ス、且産前産後ノ諸病ニ大効ヲ奏シ、肋膜炎ニモ有効。又癰腫・血閉止(又不順)ニ内服シテ有効(朝鮮)。根皮ヲ除キ木心ノミヲ蒸乾セルヲ白芍(白朮)ト稱シ安息香酸又安息香塩ノ代用トシテ用フ(猪子博士)。祛痰藥トシテ1回1~2g煎服ス。種子ハ芍藥子ト稱シ同一目的ニ使用セラル、カ如シ。觀賞用ニ供シ品種多シ。〔處方例〕1)芍藥甘草湯{腹痛(直腸筋挛急シテ)シ或更ニ手足挛急(屢不伸)スル場合、小兒夜啼(疳症)、神經痛・腹痛等ヲ治ス}……芍藥甘草各12~14.5以上水400ヲ200ニ煎詰、1日3回温服。2)芍藥甘草附子湯{腰神經痛坐骨神經痛・關節強直症(手足挛拘急屈折シ難ク或諸關節疼痛シ惡寒スルモノ)}……芍藥・甘草各12~14.5附子40……水600ヲ200ニ煎詰、1日3回温服。〔藥理〕安息香酸ノ大量ヲ動物ニ与バ発痙挛、後中樞性麻痺ヲ起テ斃ル、サレド石炭酸ヨリ毒性弱シ。人ニ少量ヲ与バ顯著ナル症狀不起、10~15gニテモ体温下降・頭部重感・胃及腸ヲ刺戟シ、頭部ニ於テ持続的ノ苛烈感ヲ、而テ粘液ノ排出ヲ増加セシム。安息香酸ノ祛痰作用ハ此頭部ノ刺戟性搔癢ニ依リ咳嗽ヲ起ス為ナルベク、多量稀薄分泌物を伴フ氣管枝炎ニハ祛痰ヲ促進スル効アリ。概高齡者及小兒ニ使用ス。之ヲ内服セバ腎

臟ニテぐりこころト複合シ尿酸トナリ尿中ニ排出セラル。

(4) ヤマシヤクヤク(山芍藥) *P. obovata* Max. v. *japonica* Mak. [分布] 朝・滿・九・四・本(中南部)ノ山地ニ生ズ又粗生。及ベクハヤマシヤクヤク *Vor. japonica* Mak. (= *P. japonica* Miy. et Tak.) [分布] 支・滿・朝・四・本・北・樺・南千・ノ山地山麓ニ生ズ又粗生。〔生藥〕山芍藥又白芍藥(前種ヲ赤芍藥ト云フニ對シ)ハ其根ヲ採乾セルモノニシテ断面白色ニテ芍藥ノ帶紅色ト異ル。〔成分〕前種シヤクヤクト畧同様ナラン(未詳)。〔藥効〕根ヲ婦人調血・血閉(不順)・止痢・調血止瀉藥、又鎮痙(頭痛・腹痛)藥トシ又發汗劑トス。其他芍藥ト畧同効アラシモ未研究。  
 △(5) ハたん(牡丹・花神・百花王) *P. suffruticosa* Ands. [分布] 支那原産・日滿・支・鮮栽培。〔生藥〕牡丹皮 *Cortex radices Moutan* ハ根ヲ春秋二期ニ採取シ5~6cm.ニ切断シ其皮部ノミヲ陰干セルモノニテ管ニ半管狀、微苦味有芳香。植付5年目(芍藥ハ4年目)ニ採取ス。奈良・長野・埼玉縣多産。〔成分〕根皮ニ *Paenol C<sub>9</sub>H<sub>10</sub>O<sub>3</sub>*ヲ含ムモ、生鮮根ニハ其配糖體(*Paenolglykosid*)トシテ存在シ、根中ノ酵素ノ作用ニ依リ *Paenol*ト葡萄糖ニ分解ス、其他安息香酸・*Pytosterin*・*Asparagin*等ヲ、*Paenonin*(赤色素)含有ス。〔藥効〕漢:鎮痙及鎮痛(頭痛・腰痛・痛風等)藥トシ打撲症痛ヲ緩解スル痙痙劑トス、月經不順・産後諸病・婦人下腹部ノ硬塊ト滯血ヲ除キ子宮内

膜炎ヲ治ス等婦人病藥トシ、又關節炎ヲ治シ止血藥(吐血、衄血等)トス、又祛痰藥トス。朝鮮ニテハ婦人調血ノ外齒浮・齒痛ニ用フ。本生藥ヲ多用セバ破血又墮胎ノ恐レアリ。1回1~4g. 1日3~8g. 煎服ス。〔藥理〕本生藥ヲ祛痰藥トスルハ其安息香酸ノ作用ニ依ル、又牡丹皮ハ古來婦人病藥トスルハ安息香酸ノ含リある酸様防菌又消毒作用ヲ有スルニ因ルベシ。〔處方例〕1) 牡丹皮湯(月經不順・咳嗽・寒熱等)……牡丹皮・當歸各4.0 地黃・陳皮・白朮・香附子各3.0 紫胡・黃芩各3.0 甘草2.5 水400.0 7 200.0 = 煎詰 1日3回分服。2) 大黃牡丹皮湯(諸性病・痔疾・常習便秘・婦人病、神經衰弱・中風・盲腸炎等)……牡丹皮6.0 大黃2~10.0 桃仁5 冬瓜子8 硝芒2~10.0 水600.0 7 200 = 煎詰 1日3回分服。〔備考〕聖武帝時代ヨリ盛賞ス、日支共古來之ヲ貴重シ百花王トセリ。変種(かんぼたん)・変形多シ。

Subfam. iii) をだまら(小田巻) 亞科 *Helleboreae*  
 ②, 花序ハ單立~∞花。花ハ中又中;  $F. f = K_2 C_5 \bar{V} + 2 - 5 \bar{T}. 0 A_4 \sim \infty G_1 \sim 10$ , Kハ概C様, Cハ腺蜜腺(葉)ニ変形或缺如, 心皮壁ハ厚肉質卵形ノ外卵膜ハ内卵膜ヨリ不長, 外種皮ハ内種皮ヨリ發育良好。果ハ概蓇葖。分テ次ノ2族トス。

Tribus 1) をだまら族 *Aquilegiinae* 花ハ中, Cハ腺蜜腺腺糸0。

(6) をだまら(むらさき-をだまら, 小田巻・櫻斗菜)

*Aquilegia Flabellata* S. etz. [分布] 原産地不明,



116 図 (116 図 — やま-をだまらノ花果ノ解剖圖(原圖) 1. 花ノ側面, 2. KC 及 Aノ大部ヲ除去シテ示ス……G<sub>2</sub> 3. Kノ片(萼片) 4. Cノ片(花冠) 有腺腺 5. 心皮即チ1ノ雌蕊 6. 蓇葖1ヶヲ開キ種子ヲ示ス。7. 蓇葖ノ横断面(果胞及種子ヲ見ル)

日本広ク栽植ス。〔成分〕 開花時ノ草本ハ *Blausäure* ヲ含ミ有毒也。〔藥効〕 不詳。

(7) やま-をだまら及其変種(116 図) *A. Buergeriana* S. etz. [分・生] 北・本・九ノ山地ニ点生~粗群生ス。〔成分〕 前種同様有毒。〔藥効〕 不詳。

(8) ひめ-うつ(姫烏頭)(115 図) *Semiaquilegia adoxoides* Mak. [分・生] 本(中南部)・四・九・朝ノ平地~山地ニ美生~群生。〔成分〕 *Isopyrin*・*Pseudoisopyrin*・*Isopyrin*  $C_{28}H_{49}NO_9$  等3種ノ Alkaloid ヲリ。〔藥効〕 根莖ヲ煎服シテ冷風及中風ヲ治ス。

(9) くりすます-ろ-す(ヘレボルス) *Helleborus niger* L (= *H. viridis* L.) [分布] 歐洲原産。〔生藥〕 ヘレボルス根 *Rhizoma Hellebori* ハ根莖ヲ採乾セルモノ也。〔成分〕 根莖 = *Helleborein* (Glycosid)・*Helleborin* (Saponin) ヲ含有ス(一説ニ以上ハ共ニ塩基ナリト)。〔藥効〕 強心性配糖体ノ含有ニ依テ強心劑・利尿劑ニ煎用

ス、又嘔吐藥・精神病・月經不順・水腫ニ煎服スト云フ。尚鎮痙・鎮痛藥トス。

(10) さだち-くりすますろ一す *H. foetidus* L. [分布] 歐洲原産。[生藥] ヘレボルス根 *Rhizoma Hellebori Foetidi* ハ根莖乾物也。[成分] 根莖ニ強心配糖体 *Helleborein* 外 *Celliamin*  $C_{21}H_{45}NO_6$ ・*Sprintillamin*  $C_{28}H_{45}NO_4$ ・*Sprintillin*  $C_{25}H_{41}NO_3$  等、*Alkaloid* ヲ含ム。[藥効] 強心劑ニ使用セラル。

(11) りうさんくわ及ゑんこう-さう (猿猴草) *Caltha membranacea* N. Schip. [分生] *f. erecta* Koidz. りうさんくわハ本(中南部)・朝・*f. decumbens* Koidz. ゑんこうさうハ本(中北部)・朝ノ山地濕原・沢畔等ニ群生ス。

[成分] りうさんくわ屬ニハ多数、*Alkaloid* 色素等見出セラル。即 *Veratrin*・*Berberin*・*Helleborin*・*Anemonin*・*Quercetin*・*Isorhamnetin*・*Carotin* 等、而テ本種ニハ莖葉ニ *Coniin* 様塩基ヲ含有スト云フ。[藥効] 生莖葉ノ搾汁ヲ小兒痙痲ニ嚥下セシメ即効アリテ虎耳草ト全効アリト云フ。又小兒ノ急ニ人事不省ニ陥ル者ニ飲マシメ胃中物ヲ吐出セシメ蘇生スト云フ。然モ多用ハ有害(胃腸炎及腎臟刺激等)也。

(12) ゑぞの-りうさんくわ (ゑぞ-りうさんくわ・マぢぶさ) *C. fistulosa* N. Schip. [分生] 樺ノ北・朝ノ濕原・沢畔等ニ群生ス。成分・藥効器前同種。あいぬ人ハ莖葉ヲ若時採

食スト云フ。

(13) くろたぬ-さう *Nigella damascena* L. [分布] 歐洲原産、日本栽植。[成分] 種子ニ *Damascenin*  $C_{10}H_{13}O_3N$  ナル液体塩基及0.5%ノ *Nigellöl* (精油)ヲ含有ス。[藥効] 種子ハ烈キ香氣ヲ有シ、矯味・矯臭藥トス。

(14) きんばい-さう (金梅草) *Trollius hondoensis* Nakai [分生] 本(中部)ノ山地ノ山原ニ群生ス。[成分] *Saponin* ヲ含有スル外未詳。[藥効] 根莖ヲ煎服シ強壯劑トス。

(15) ゑぞ-きんばい (しなの-きんばい) (117回) *T. japonicus* Mig. [分生] 南千・北・本(北中部)ノ寒地帯ニ分布シ点生ニ群生ス。成分・藥効全前種。



(117回) — ゑぞ-きんばい (しなの-きんばい)ノ花ノ解剖圖ノ花ノ側面圖 2. 花ノ前方ヲ除去 (K.C.A) シ内部ヲ示ス 3. Cノ片 (花弁) 4. Aノ片 5. Gノ片 (心皮)

(16) むめえふ-しやうき *Astara acuminata* Wall. [分生] 北・本・四・朝ノ山地ニ分布シ点生ニ粗群生シ果ハ黒熟ス。[成分] 未詳。[藥効] あいぬ人ハ煎服シ心痛ヲ治ス。

(17) あかみの-むめえふしやうき *A. erythrocarpa* Fisch. [分生] 樺ノ北・南千・本(北部)ノ山地ニ分布シ果ハ赤熟ス。[成分] 未詳。[藥効] 同前種。鎮痛藥。

(18) さらしな-しょうま (くろ-しょうま, やまい-しょうま, 升麻, 黒升麻) *Cimicifuga simplex* Wormsk. var. *ramosa* Max 及其変種 [おくやま-しょうま 北本, やま-しょうま 樺・本・朝; しこく-しょうま 四; みやま-しょうま 一名しなの-しょうま 本(中部)] [種, 分生] 樺・北・本・四・九・朝 (標準種ハ本・四・九)ノ山地ニ点生〜粗群生ス。〔生薬〕*Rhizoma Cimicifugae Simplicis* ハ秋〜春期ニ根莖ヲ採乾セルモノ也, 味ハ果ト共ニ収斂性苦シ。長野・兵庫縣多産。〔成分〕未詳, *Cimicifugin* (塩基)ノ有無モ不明。〔薬効〕漢; 升麻 (及全草モ)ハ解毒・解熱ノ要薬ニテ麻疹・痘疹・チアス。諸瘡疾ニ発汗・解毒ノ効アリ, 1日5〜10g前服ス。又口腔炎・扁桃腺炎・咽喉腫脹及疼痛ニ煎汁ニテ含嗽シテ治ス。〔歳方例〕1) 発汗解熱薬……升麻8.0 水100.0 以上1日量煎劑3分服, 2) 麻疹薬……升麻8.0 葛根5.0 芍薬2.0 大棗・生姜・甘草各1.0 水200.0……以上1日量煎劑3分服但小児ハ年齢ニ應ジ減量スベシ。

(19) みつば-しょうま (いぬ-しょうま, 三葉升麻) 及其変種 *C. acerina* Tanaka, おはば-しょうま (ぢけん-しょうま, 大葉升麻) var. *obtusiloba* Nakai [分生] 本(中南部)・四・九・朝ノ山地ニ分布シ美生〜群生ス。〔生薬〕三葉升麻 *Rhizoma Cimicifugae acerinae* ハ秋〜春ニ根莖ヲ採乾セルモノ也。〔薬効〕根莖ヲ煎服セバ驅風・鎮痛・(歯痛・頭痛)止血(吐血・衄血)ニ有効; 尚口中瘡ヲ治シ, 諸

虫毒ヲ除キ, 又汗疱ニ煎汁ニテ数回洗滌シテ治ス。

(20) えび-しょうま (蝦夷升麻) *C. yessoensis* Kudo [分生] 樺・北・本(北部)ノ山地ニ点生〜群生ス。成分・薬効不詳, 恐クハ前全株ニ近カラシ。

(21) あめりか-しょうま (あめりか-くろしょうま) *C. racemosa* Nutt. [分布] 北米特産。〔成分〕根莖ニ *Jannin*・*Salicylsäure*・脂肪酸 *Cimicifugin* (塩基)ヲ含有ス。〔薬効〕米局方ニ其根及越幾斯ヲ記載ス, 諸鎮痛薬(リウマチス神経痛等)トシ, 1日用0.5〜1gヲ用フ。新薬 *Otosclerol* (東京・友田)ハ同種成分ニ他薬配伍, 耳鳴症ニ用フ。

(22) わうれん (黄蓮) 及其変形一きくぼ-, せりば-, おはば- わうれん. *Coptis japonica* Mak. [分生] 北・本・四ノ山地林下ニ点生〜群生ス。〔生薬〕黄蓮 *Rhizoma Coptidis* ハ根莖ヲ秋期採乾シ水洗後鬚根ヲ炭火ニテ焼拂ヒシモノ也。京都府・兵庫・鳥取・島根・石川縣等多産ス。〔成分〕*Berberin*  $C_{20}H_{17}NO_5$  7%, *Palmatin*  $C_{21}H_{21}NO_4$  (0.4%)  $C_{21}H_{21}NO_5$  ナルふゑのーる性塩基, *Coptisin*  $C_{19}H_{15}NO_5$ ・*Worenin*  $C_{20}H_{15}NO_4$  等5種, *Coptis Aekaloid*ヲ含有シ, 後2者ハ本種特有成分也。〔薬効〕局方ニ黄蓮ハ苦味健康薬(ころも根(ツクシ科)ノ代用)トシテ1日3〜5gヲ数回ニ煎劑又粉木トシテ用フ, 全黄蓮越幾斯・収斂薬・苦味健康薬トシテ消化不良・下痢等ニ0.3〜0.5〜1.0gヲ散丸・水劑トシテ1日数回用フ。根莖ハ苦味激烈・胃硬化・吐瀉・下痢(急慢

性)・腹痛・息切スル時・慢性胃腸カタル・赤痢 = 因ル衰弱・等ヲ治シ、解熱ノ目的 = テ回歸熱患者ノ回復期・婦人血ノ道・妊婦嘔吐(悪阻)ヲ静ム・子宮出血ヲ治ス、此目的 = ハノ回3~4回・煎服又粉末服用(連服セバ子宮收縮ヲ起ス)。又煎汁ハ凍傷ヲ治シ、乾根ヲ綿 = 包ミ体 = 當レバ寒中吹雪中 = 尚凍傷ヲ免ルト云フ。又乾葉ハ屏風樹物・毒蟲ノ虫害ヲ豫防シ得、根ハ黄色素ヲ多含シ染料トス。又根莖ヲ水浸シ其水ヲかすみ眼・やく眼・つま目・風眼等 = 点眼ス最法ス。全草ヲ煎用セバ健胃腸強壯藥トナル。〔處方例〕1) 黄連湯(食欲不振・消化不良・胃痛・嘔吐性胃弱・下痢性腹痛・飲酒過度・宿醉等 = 煎服)……黄連・乾姜・桂枝・大棗・甘草各5.5人參3.5半夏11.0以上7味煎劑、水400ヲ200 = 煎詰1日3回分服。2) 黄連解毒丸(胃部膨滿停滯感有テ精神不安者、咯血・衄血・嗽血アル者)……黄連・黄芩・山梔子各7.0大黃2.0……以上四味丸劑トシ1日3回分服。〔藥理〕Berberin 0.1gヲ家兎 = 注射セバ呼吸障礙並脱カヲ来ス。少量ハ呼吸中枢刺激セラレ深且數ヲ増加ス、大量ハ浅且緩徐トナリ後呼吸困難 = 陥ル。尚家兎体重ノ脱 = 付中番量0.5~1.0gヲ与レバ嘔吐並下痢ヲ惹起ス、剖兎セバ腸ノ着キ收縮ヲ見ル。又硫酸ベリベリン1%溶液 = 依リVibrio菌ハ運動ヲ止ム、赤血球ハ縮小シ顆粒狀 = 変ジ核鮮明ス、白血球亦同変シ且運動止ム。Berberinハ原形質毒也。

(23) みつば-わうれん(かたばみ-わうれん、三葉黃連)(118

回) *C. trifolia* Salisb. [分生] 樺・牛・北本(中北部)・寒地帯~亜寒地帯(泥炭地 = モ)・湿地 = 粗~群生ス。



(118回) — みつば-わうれん、葉・花・果・及解剖図(原図) 1. 三出掌狀複葉、2. 莖梢及花(單頂花序) 3. 萼片 4. 花瓣 5. K.C.Aヲ除去シGヲ示ス、6. 17. 莢。

〔藥効〕 前種同様若味性健胃藥トナル外藥効ハ若同前種ナラン。

(24) おかえみ-わうれん(はいくわ-わうれん、五加葉黃連) 及共夜種 *C. quinquefolia* Miq. [分生] 本・四・丸(屋久島)・台・山地針葉樹帯林下 = 粗~群生ス。〔藥効〕 同前種。

(25) みつばの-はいくわわうれん(三葉梅花黃連) *C. trifoliolata* Mak. [分布] 本(中部)ノ山地林下。〔藥効〕 全前種。

(26) ひまらや-わうれん *C. teeta* [分布] ヒマラヤ地方ノ山地。〔藥効〕 根莖ノ性狀黃連 = 類似ス、同効アラン。

Tribus 2) とりかぶと族 *Aconitinae* ⊙。花ハ中  $K_5 C_2 \sim 4 A \infty G_{1 \sim 7}, C_2$  ハ屢壘腺 = 硬化、 $K_5$  ハC狀美襪・上萼ハ土兜狀又長囊狀也。

(27) ひえんぢう(ちどりぢう、飛燕草) *Delphinium ornatum* Bouch. (= *D. Ajacis* L.) [分布] 歐洲原産、日本栽培。〔成分〕 種子 = *Ajacin*  $C_{15}H_{21}NO_4 + H_2O$

*Ajaconin*  $C_{17}H_{29}NO_2$  (?) 等、塩基ヲ含有ス。〔藥効〕種子ヲ利尿劑トス。

(28) ちり-ひえんさう *D. consolida* L. [分布] 歐洲原産、日本栽植。〔成分〕種子 = *Delsofin*  $C_{25}H_{41}NO_8$ 、*Delcosin*  $C_{21}H_{33}NO_6$  等、塩基ヲ含有ス。〔藥効〕種子ハ利尿劑、但シ過量ハ嘔吐及下痢ヲ起ス、米因ニテハ其丁幾ヲ痙攣性喘息及水腫藥トス。

(29) すたふいざぐりす *D. Staphisagria* L. [分布] 歐洲原産。〔成分〕種子 = *Delphinin*  $C_{34}H_{47}NO_7$ 、*Delphisin* 及 *Delphinoidin*  $C_{25}H_{42}NO_4$ 、*Staphisagrin* 等、Alkaloid ヲ含ム。〔藥理〕*Delphinin* ヲ温血動物ニ作用セバ呼吸麻痺ニテ斃ル、又心臟筋肉及神経ヲ麻痺スルモ固有ノ心臟毒非ズ、呼吸ニ對シテハ *Aconitin* 類似作用ヲ呈ス、犬猫ノ致死量ハ 7.5g. Pro kg. 也。 *Delphisin* ハ *Delphinin* ト同作用ヲ有スルモ、約2倍ノ毒性ヲ有シ、犬ノ致死量ハ 0.7mg Pro kg. 也。

△ (30) とりかぶと (やま-とりかぶと、ぶし; 烏頭・附子・草烏頭) 及其变种 *Aconitum japonicum* Thunb. [分布] 本(中部)ノ山野ニとりかぶと (*V. genuinum* Nakai)。本四ノ山地ニやま-とりかぶと (*V. montanum* Nakai) ヲ産シ、英生ニ群生ス。〔生藥〕草烏頭 *Radix So-udu* ハ秋季幼年根ヲ採乾セルモノニテ円錐形ノ母根及子根ヨリ成リ長円錐形也、味不快奇烈、毒性強シ、奥州・越後・佐渡ニ多産ス。

白河附子ハ老年根ノ両端ヲ切除シ、數日塩水浸後水洗シ水灰ヲ附シ乾燥ス、毒性弱シ、東洋産 *Aconit* 根ト換シ歐産ニ代用ス。勝山附子ハ越後勝山地方産、毒性最弱ク(或無シト云フ)且塩基ハ前二者ト異ルト云フ。〔成分〕根ニ猛毒ナル *Aconitumalkaloid* (*Aconitin*  $C_{34}H_{47}NO_{11}$ 、*Mesaconitin*  $C_{33}H_{45}NO_{11}$ 、*Hypaconitin*  $C_{33}H_{45}NO_{10}$ 、*Jesaconitin*  $C_{35}H_{49}NO_{12}$ ) ヲ含有シ、はな-とりかぶトハ約 0.5% 也。本属ニハ計8種ノ Alkaloid ヲ含有ス。〔藥効〕漢・烏頭及附子ハ麻酔藥ナリ、鎮痙及鎮痛藥トシテ神経痛・リウマチス等ヲ治ス、又熱性諸病(胸膜炎・肺炎・心囊炎・神経痛)等ニ煎用ス、外用ニハ鎮痛性塗擦劑トシ痛風・リウマチス・神経痛(三叉・顔面・坐骨・神経性齒痛)諸病ニ應用シ、癰疽・疔腫・毒腫ニ外用ス。以上ノ生藥使用少ク概シテ越後斯或 *Aconitin* トシテ使用ス。附子 *Tuber Bushi* ヲ漢方藥トス、其使用ニ當リ分量ヲ誤バ中毒ヲ起シ死亡(近例、白井博士)ス、誤食セバ全身麻痺シ紫斑ヲ起テ悶死ス。民:脚氣・リウマチス等、痛所ニ根ヲ磨潰シ酒又生姜汁ニ溶キテ患部ニ塗布ス。〔藥理〕生藥使用ハ其少量ニ依リ既ニ瞳孔散大・雷鳴・脈搏遲滯・倦怠・昏憤等ヲ起シ、多服セバ下腹部ニ劇痛ヲ訴ヘ嘔吐・全身麻痺シテ知覺ヲ失ニ筋疼痛・視聽覺障害・昏憤・脈搏遲緩次テ呼吸停止シテ斃ル、濃ニ不可使用。*Aconitin* ハ呼吸中樞ヲ麻痺シ、知覺及運動神経末梢ヲ刺戟シ疼痛ヲ感ジタル後知覺麻痺ヲ起シ、植物神経系ノ神経節細



胞並神経末梢ヲ刺激シ後麻痺ス。筋内・神経モ亦同様ニ犯ケル、大量ハ嘔吐痙攣ヲ起シ、後心臓及呼吸ハ麻痺ス。

[處方例] 烏頭湯 (脚氣・疼痛ニテ屈伸セザルヲ治ス) 烏頭 12.0 麻黄・芍薬・黄耆・甘草各2.5 烏頭ハ蜂蜜 60ニテ煎ジ30トシ、別ニ他薬ハ水煎 100トシ合セ頓服ス (但劇薬ナレバ要注意)。[備考] 本邦ニテ *Aconitum* 成分研究ハ東北大・真島博士一門ノ業績ヲ最大トシ、他ニ下山・馬越両博士ノ研究アリ。而テ就中真島博士一門ハ研究材料採集・鑑定共ニ *Aconitum* 分類専門家中井博士ノ指導ノ下ニ遂行セラレシハ研究方法並態度ハ最賢明適切ナリシト評スベク、満足スベキ結果ヲ得ラレタリ、以テ後者ノ範タルベシ。

(31) はな-とりかぶと (かぶとぎく、川烏頭) *A. Fauriei* Lev. et Vnt. (= *A. chinense* S. et G.) 支那原産、日本栽培。[生薬] 川烏頭 *Radix Senudgu* ハ塊根ヲ採乾セルモノニテ四川省産ヲ良トス。[成分] 根 = *Aconitin*・*Mesaconitin*・*Japaconitin* 等ヲ含有ス。[薬効] ハとりかぶとト同様 (麻酔・鎮痙・鎮痛薬) 也。

O(32) あこにつと *A. Napellus* L. [分布] 歐米等北温帯ノ山地産。[生薬] あこにつと根 *Tuber Aconiti Napelli* ハ其乾塊根ニテ大(老)小(初)2ヶ並列ス。あこにつと葉 *Folium Aconiti Napelli* ハ其乾葉也。[成分] 根 = *Aconitin*・*Pseudoaconitin*・*Pikroaconitin*・*Mesaconitin*・*Hypaconitin* 等ノ塩基ヲ含有シ、葉ニハ *Aconitin*・*Aco-*

*nitiure*・*Inosit*・*乳酸*等ヲ含有ス。[薬効] 生薬ノ外あこにつと丁莖ヲ製シ鎮痙・鎮痛 (神経系諸疾患) 薬トス。本局方ハ *Aconit* 根・あこにつと丁莖・*Aconitin* ヲ収載シ、生理的試験法ヲ設ケ、即あこにつと根ハ其丁莖 (10:100) ノモルもつとニ對スル最小致死量ハ体重 1g = 付 0.0004g・ヲ越エザルモノヲ適否トス、其ノ回量ハ 0.06gトス。[備考] あこにつと根ハ藥性烏頭ヨリ弱シ、而基源植物ハ上記ノ外 *A. Linnaeanum* Gayer Gyula 等數種ノ近似種ヲ含ムト云フ。

(33) をい-とりかぶと (せんうづ、おほ-とりかぶと) *A. subcuneatum* Nakai [分布] 北 (南西部)・本 (中北部)ノ山地ニ奥生~粗群生ス。[生薬] 乾塊根ヲ川烏頭ト稱シ薬用トセリ。[成分] 根 = *Jesaconitin*・*Aconitin* 等ヲ含有ス。[薬効] 同前種。[備考] 昔時あいの土人が鯖油ト練リ毒矢ニ付ケシ毒物ハ本塊根モ其一也。此外至ニ急毒ト云フ *A. yuparense* Takeda. からふと-がし *A. sachalinense* Fr. Schm. ヲ毒矢ニ使用セリト云フ、是等ハ猛毒ニシテ人体藥ニ使用シ難カラシ。

(34) れいじんさう (羊扁) 及其変種変形 *A. pseudo-lance* Nakai [分布] 北 (西南部)・本・四・九・朝鮮ノ山地ニ奥生~粗群生ス。[生薬] 羊扁ハ乾塊根也。[成分] *Lycaconitin*  $C_{36}H_{46}N_2O_{10}$ ・*Myoconitin* ( $C_{36}H_{46}N_{10}O_2$ )<sub>2</sub> 等ノ Alkaloid ヲ含有ス其作用 *Aconitin* ニ類スルモノヨリ弱シ。[薬効]

烏頭(附子)即とりかづと=葛同ジ。莖葉ヲ煎服セバ四肢  
關節痛・黃疸・便秘・利尿=有効, 牛乳=混ジ服用セバ更=  
良好也。朝鮮=テハ根莖葉ヲ<sup>ヒツソ</sup>蒸瓦ト稱シ中風・肢節痛=内服  
シ又發汗ノ効アリト云フ。

(35) きばな-とりかぶと *A. Koreanum* R. Raymond [分生] 朝鮮中北部ノ山野=分布ス, [生藥] 塊根ヲ白附子ト稱ス。  
[藥効] 根ヲ中風=内服シ, 細粉トシ顔癩=撒布シ又煎汁  
ヲ虱驅除=用フ。内用=ハ心ズ炮ヒテ後用フベシ。

(36) みつば-とりかぶと *A. triphyllum* Nakai [分生] 朝鮮各地ノ樹林下=産ス。[生藥] 塊根ヲ<sup>ヒツソ</sup>章烏ト稱ス。[藥効]  
根煎汁=テ濕腫ヲ洗滌シ又中風=内用ス, 内用=ハ尿中=  
1週間浸漬シ後炮リテ用フ。[備考] 朝鮮=テハ以上ノ外  
ユリ-とりかぶと *A. Uchiyamai* Nakai つかぶし *A. volubili-*  
*le* Pall. v. *Pubescens* Regel 等ハ本種同様=用フ。

Subfam. IV) クリンスう(ニ輪草) 亜科 *Anemoneae*  
◎. 葉ハ $\gamma$ 。花ハ $\sigma$ , F. f. =  $K_4 \sim 6 T. 7 \sim \infty C_0 \sim 5 A_{\infty}$   
 $C_{\infty}$ , 單被(K=相當)場合ハ屢C狀也。

Tribus 1) クリンスう族 *Eu-anemoneae* F. f. =  $K$   
 $5 \sim 6 T. 7 \sim 12 \sim \infty C_0 A_{\infty} G_{\infty}$ . Kハ屢C狀, 花柱ハ屢細長  
鞭毛狀。

(37) いちりん-さう(いちげさう, 一輪草, 一華草, 雙瓶  
梅) *Anemone nikoensis* Mex. [分生] 本(中南部)・四・九・  
ノ山地=粗~密生ス。[成分] 莖葉液=ハ *Protoanemonin*

ヲ含有ス, 其他不詳。[藥効] 全草液汁ヲ外用セバ引赤癩  
泡・濕疹・瘰癧ヲ来シ, 内服セバ胃腸炎・呼吸困難・心臟衰弱  
瘵等ノ中毒ヲ来スモさんぽうげ屬ノ毒性=比シ弱シ。

(38) クリンスう(がしやう-さう, ふくべら, ニ輪草) 及其  
変種, *A. flaccida* Fr. Schm, [分生] 樺・北・本(北中部)・  
ノ山野=粗~密群生ス。[成分] 不詳, 恐ハ同前ナラン。  
[効用] 藥効不詳, あいぬ人ハ煮汁ヲ捲テ後食用=供スト  
云フ。

(39) さんりん-さう(とぎは-いちげ, 三輪草) *A. stolonifera*  
*Mex* [分生] 本(北中部)・岩(?アリ)・ノ山地=点生~群生ス。  
[成分] 不詳。[藥効] 葉ノ揉汁ハ毒虫螫傷=有効。

(40) おさな-ぐさ(しまぐさ-さいふ, 白頭翁) 及其変種  
*Pulsatilla Cernua* Spring [分生] 本・四・九・朝・ノ山野  
=美生~群生ス。[生藥] 白頭翁 *Radix Pulsatillae* ハ初  
夏結実後根ヲ採乾セルモノ, 莖葉花ハ花時採乾ス。長野縣  
多産。[成分] 根= *Anemonin* ヲ根以外全草=強心作用アル  
*Okinalin*  $C_{32}H_{64}O_2$  ヲ含有ス。[藥効] 漢: 根ハ消化性  
收斂藥=テ止血劑トシテ大腸=作用(止血・止痢)ス。又熱  
性痢病(特ニ赤痢)=有効, 其他鎮痙・鎮痛止瀉藥トシ喘患  
リウマテス。月経困難・腹脹・月経閉止=1日10~15g煎服ス。  
莖葉ハ神經痛・氣管支諸病・月経閉止・心臟病・浮腫等=煎服  
ス。民: 根ヲ磨碎シ痔ノ腫痛=貼付ス, 白癬=ハ濃煎汁ヲ塗  
布シ治ス。[處方例] 1) 白頭翁湯(諸痢病特熱アリ下痢ス

ル者 = 有効) …… 白頭翁・黃蓮・黃蘗・桑皮又黃芩各 9.0 水 400  
…以上 4 味煎劑 200 トシ / 日 3 回分服。 2) 白頭翁加甘草  
阿膠湯 (白頭翁湯證 = シテ出血アルモノ …… 赤痢等 …… 煩燥ス  
ルモノ, 血便・子宮出血・白帶下・産後下痢・赤痢・痔疾 = 有効)  
…白頭翁・黃蓮・黃蘗・黃芩各 6.0 甘草・阿膠各 4.0 水 600 = テ煎  
劑 200 トシ / 日 3 回分服。

(41) せいよう-おきなぐさ (西洋白頭翁) *P. vulgaris* Mill.  
(*P. pulsatilla* Karsten = *A. pulsatilla* L.) [分佈] 歐  
洲 = 自生ス。独逸 = 多シ。 [成分] 全草 = *Anemonin*・*Ane-*  
*monecampher* ヲ含有ス。 [藥効] 鎮痙・鎮痛・止瀉藥トス。

(42) ゆきわり-さう (すはまさう・さんかくさう・獐耳細辛・三  
角草) 及其変種 *Hepatica triloba* Chaix. [分佈] 本(中  
南部)・朝ノ山野 = 点生 ~ 粗生ス。 [成分] 莖葉 = ハ *Hepa-*  
*trilobin* (配糖体) 及 *Saccharose*・*Invertin* ヲ含シ根  
= *Saponin* ヲ含ム。 [藥効] 莖葉ヲ肝臟病 = 煎用ス。

(43) からまつ-さう *Thalictrum aquilegifolium* L.  
[分佈] 樺・南千・北・本・四・九・朝ノ山野 = 点生 ~ 群生ス。  
[成分] 葉及種子 = *Blausäure* ヲ分離スル配糖体ヲ含有  
ス。 [藥効] 根ハ苦味ヲ有ス, 煎服セバ腹痛及下痢ヲ治ス  
莖葉モ全効アリ。又根粉末ヲ局部ニ塗布セバ棘ハ自ラ抜去  
ル。葉ヲ摺潰シ打撲傷 = 塗布シテ治ス。 [採取] 莖葉ハ開  
花前(夏) = 根ハ秋季掘採水洗シ陰干ス。

(44) あき-からまつ 及其諸変種 *J. Thunbergii* A.P. DC.

[分佈] 樺・千・北・本・四・九・朝ノ山野 = 広布シ点生 ~ 群生ス。  
[成分] 未詳, 本属 = *Thalictrin*・*Macrocarpin* + ル *Alka-*  
*loid* ヲ見出セリト云フモ不確定 = テ恐ハ *Berberin* + ラン  
ト云フ。 [藥効] 秋根部ヲ採取シ健胃劑トシテ / 日 2 ~ 4g  
煎服ス, 莖葉モ同効アリ。

Tribus 2) きんぽうげ (毛茛) 族 *Ranunculaceae*

*R. f.* =  $K_5C_5A_{\infty}G_{\infty}$ , 花柱ハ延長セス萼 = 凸 ~ 微凸状又  
凸拘状也。

(45) きんぽうげ (うまのあしがたハ誤稱ナリ應葉セヨ。毛  
茛) (119 回) *Ranunculus acris* L. (ニ・きんぽうげ) var  
*japonica* Max. 及其変種。 [分佈] 樺・南千・北・本・四・九  
朝ノ山野河岸 = 点生 ~ 群生ス。 [成分] 莖葉生液汁 = ハ有  
毒物質ナル揮発性刺激成分 *Protoanemonin*  $C_{10}H_{14}O_2$  ヲ含有  
ス, 莖葉ヲ蒸溜セバ 0.12% ノ毛茛油ナル強刺激性液ヲ得  
此液ヲ放置セバ 2 分子重合シテ白針状中性結晶 *Anemonin*  
 $C_{10}H_{12}O_4$  ト無毒物質ナル *Isoanemonensäure* トヲ析出シ  
刺激性ヲ失フ。本物質ハ本属ノ外 *Anemone*・*Clematis*・*Pu-*



(119 回) — きんぽうげノ花及其  
解剖図(原図) 1. 花ノ上側面. 2. 花ノ縦  
断面 ( $K_5C_5A_{\infty}G_{\infty}$  …… ヲ示ス) 3. 萼片 1 ヲ  
内面 4. 花瓣 1 ヲ (内面) 4. 全盛腺部  
ノ縦断面 5. 雄蕊 1 ヲ 6. 雌蕊 1 ヲ  
(瘦果トナル)

*Isatilla*、諸属 = 広ク含有ス。〔薬効〕莖葉液汁ヲ皮膚  
刺戟薬ナル発泡(吸出)剂 = 用ル、又<sup>ワラハキ</sup>間歇熱 = 服用シテ奏  
効ス。汁液ハ辛辣味アリテ刺戟性强ク。流涕及皮膚発泡ヲ  
起ス。莖葉液汁ト梅干ト飯粒トヲ混練シテ患部 = 貼付シ齒  
痛ヲ治ス、又摺潰シテ腫物 = 貼付セバ膿汁ヲ吸出ス初大也。

(46) 夫がらし(どぶ-あせう、こせう-な、かへらの-さつげ、  
石龍苜) *R. sceleratus* L. [分生] 樺北・本・四・九・朝・琉台  
ノ水田・構池・水辺 = 点生~群生ス。〔成分〕莖葉液汁 =  
*Protoanemonin* (→ *anemonin*) ヲ含有ス。〔薬効〕莖葉  
液汁ヲ発泡剂トス、即チ患部 = 塗布スルカ葉ヲ火 = 焙リ  
テ貼レバ悪瘡・癰腫・リウマチス等 = 有効、又痛ミヲ去リ、  
毒虫螫傷 = 塗布シ有効。又嘔吐 = 早レバ鎮静治スト云フ、  
1回2g・煎用ス。

(47) さつねの-ぼたん(回々蒜)及其諸変種 *R. Vernyi*  
*Fr. et Sav Var. japonicus Nakai* (けなし-さつねのぼ  
たん、*v. glaber Nakai* 等) [分生] 南千・北・本・四・九・琉台  
ノ山野ノ水辺・湿地 = 点生~粗群生ス。〔成分〕莖葉液汁 =  
*Proto-anemonin* (→ *anemonin*) ヲ含有ス。〔薬効〕莖  
葉果ノ液汁ハ発泡剂 = 應用セラル、又摺潰シ飯粒ト練合セ  
局部 = 貼付シ齒痛・リウマチス痛ヲ治ス。民:<sup>ワラハキ</sup>間歇熱ヲ治スト  
稱スルモ濫用スベカラズ。

(48) ふくじゆさう(福寿草・側金盞花・元日草) *Adonis*  
*amurensis Regel et Radd.* [分生] 樺・南千・北・本・九・朝

海ノ山野 = 点生~粗群生ス。〔生薬〕根及根莖ヲ花後 = 採  
取シ水洗除テス、福寿草根ト云フ。〔成分〕全草中 = *Ado-*  
*nin C<sub>14</sub>H<sub>40</sub>O<sub>9</sub>* ト稱スル無晶形強心性配糖体ヲ含ム。

〔薬効〕根及根莖ヲ心臟疾患 = 強心薬又強心性利尿薬トシ  
テ1回0.6~1g・1日2~3g・ヲ浸劑(25:100)又丁線ト  
シテ用フ、本品ハがらふたりす葉代用トシテ寧危険性ナク素  
人 = 稍安全也、但連服7~10日間ヲ越エベカラズ。福寿草  
浸4g・舌味丁線0.5g・單含利尿10g以上混和シ1日數回服  
用シテ強心剂トス、又あでいんと合劑シテ癩癩 = 持効アル  
モ医師ノ指揮 = 従フ可シ。又下劑トシテ1回0.6g・ヲ服用  
ス、又利尿ノ効アリ。〔薬理〕蛙ノ心臟ヲ露出シ *Adonin*  
水溶液ヲ滴下スレバ、初鼓動強盛且緩漫トナリ、次テ不整  
= 及シ蠕動狀ヲナシ收縮期ニ於テ静止ス。家兔ノ体重ノ肚  
ニ付 *Adonin* 0.03~0.05g ヲ静脈内 = 注射セバ血压大ニ  
抗進ス、更ニ少量ヲ用レバ心動強盛且緩徐トナルモ、血压  
ハ僅ニ昇騰スルニ過ス。而テ *Digitalis* 葉成分ノ如キ薬効  
作用ヲ有スルモ、彼ノ如キ蓄積作用ナシ。因ニ<sup>トサマカレ</sup>金線蛙ノ心  
臟ヲ1時間内ニ静止セシムルニ要スル各種強心性植物成分  
ノ最小量(蛙)如次。 *Adonin* 4.0~5.0 *Adonidin* 0.15  
*Convallamarin* 0.3~0.6 *Scillain* (海葱) 0.5~1.0  
*Strophantin* (夾竹桃科) 0.025 *Digitalin*・*Digitoxin*  
1.0~1.5以上ハ總テ強心性配糖体也。

(49) せいよう-ふくじゆさう(西洋福寿草・あとにす-さう)

*A. vernalis* L. [分布] 中部歐洲産。[生薬] 全草又根  
[成分] 根 = *Adonidin* (配糖体)  $C_{25}H_{40}O_{10}$  を含ム。其  
他 *Pikroadonidin*・*Adonit* 等ヲ含有ス。[薬効] 根ヲ  
強心劑 = 煎用スル外同前種。 *Adonin* = 比シ更ニ強作用ヲ  
ナス。又利尿藥トス。 *Adonidin* ハ強心及利尿藥トシテ  
*Digitalis* 代用トシテ 0.0002 ~ 0.005 g. ヲ 1 日 3 ~ 4  
回内服ス。

Subfam. V) せんこんさう (大蓼) 亜科 *Clemati-*  
*dicae* 科又科。葉ハ  $\Psi$ , F. f =  $K_4C_0A_{\infty}G_{22}$ , K ハ C 状  
果ハ堅果屢羽毛状ニ生長セル花柱ヲ頂ク。

(50) てつせん (鉄脚威靈仙, 威靈仙) *Clematis japonica*  
*Houtt.* (マヘ-てつせん) *V. Simsii* Mak. [分布] 支那原  
産。日本栽培。[生薬] 威靈仙 *Radix Clematidis* ハ秋季  
根ヲ採乾セルモノ也。[成分] 根 = *Anemonin*・*Anemonol*  
等ヲ含有ス。[薬効] 漢: 威靈仙ハ痛風・リウマチス・顔面神経  
麻痺・偏頭痛・尿酸症ノ要藥ニテ鎮痛・利尿要藥也。1 回 2 ~  
3 g. / 日 8 g. 煎用ス。亘久運用スベカラズ。威靈仙トハ其  
性猛ニシテ其効如神ヲ言フ。[處方例] 威靈仙芍藥湯 (痛  
風ノ要藥) …… 威靈仙 6.0 芍藥 2.0 防風 葛根 甘草 1.0 水 300  
…以上 7 日量煎劑ヲ分服。

(51) せんこんさう (はあはれ, うしろ-はこはれ・大蓼・仙  
人草) *C. paniculata* Thunb. [分布] 北・本・四・九・朝・  
琉・台ノ山野ニ点生 ~ 群生。[生薬] 仙人草葉又大蓼葉又ハ

全草。凡テ生ヲ用フ。[成分] 葉 = 強烈ナル刺激成分アリ。  
恐クハ *Protanemonin* ナラント云フ。[薬効] 全草又葉  
ヲ発泡劑トス。扁桃腺炎 = ハ生葉ヲ揉ミ前搏部ニ貼付発泡  
セシメ。既ニシテ発泡萎縮シ来レバ全治ス。特効アリ。又、  
葉ヲ揉ミ腫物ニ貼付セバ漸次帯赤シ水泡ヲ生ジ。遂ニ潰瘍  
ス。故ニ発泡劑ニ當用ス。又婦人ノイヌリ- (*Hysterie*) 或  
癲癩等 = 葉ノ泡劑ヲ長期服用シ奏効スレド過量服用ハ有害  
也。又葉ヲ刻ミ良搗シ *Vaselin* ヲ混ジ練合セ疥癬ニ塗布セ  
ハ発熱ト腫痛トヲ除去ス。葉ヲ搗碎シ河流ニ投レバ臭氣燒  
死ス依捕是。[備考] 本植物ヲ誤食セバ口中腫痛シ。齒牙  
脱落シ。甚ハ嘔瀉・腹痛ヲ起テ至死。

(52) いちりんざき-せんこんさう *C. brachyura* Max.  
[分布] 朝・滿ノ山野生。[薬効] 根ヲ威靈仙ト稱シ腰膝  
臂・痛風ニ内用ス。[備考] 全朝・滿産ノまんしうせんこん  
さう一名こうらい-せんこんさう *C. Mandshurica* Rupr.  
モ亦効用同前。

(53) はたんづる (からくさ, わくのこ, 山葵) 及其諸種  
*C. apifolia* DC. [分布] 本・四・九・琉ノ平地 ~ 山麓ニ  
点生 ~ 群生ス。[薬効] 根ハ下痢ヲ制シ。消化ヲ助ケルヲ

(54) しな-はたんづる (しな-せんこんさう) *C. chinensis*  
*Retz.* [分布] 本 (中部)・九・琉・台 = 自生ス。[薬効] 根ヲ  
煎服セバ寒熱ヲ治シ淋瀝 = 効アリト云フ。

(55) たいわん-はたんづる *C. Gouriana* Roxb. (= *C. ta-*

*iwaniana* Hayata) [分布] 台湾自生。[藥効] 葉ヲ搗碎シ塗抹セバ熱ヲ退ケ性珠交蛇傷ヲ治ス。

(156) くさばたん (たむしろう、つりかねさう) 及其諸近種 *C. heracleaefolia* DC. [分布] 北本・四・九・台・山野ニ点生~群生。[藥効] 根ヲ煎服セバ疝氣ニ有効。生葉ヲ揉碎シ滲出液ヲ田玉、頑癬(いんさん)ニ塗布シテ有効。

Fam. (IV) あけび (木通) 科 *Lardizabalaceae*

(120~121回参照)

形質— 概本稀左(外国)。葉ハ $\psi$ 、概掌状複葉(小葉3~7) 稀羽状複葉(外国)、小葉ハ無裂・全縁~波縁~鈍齒縁。葉托葉。花序ハ概(♀♂)、輪生、單性ノ場合ハ屢♀♂天ニ異性葉ヲ伴フ、同被。概總状花序稀單生。花ハ3数花中、②、①又②。F.f. =  $P_3+3$  v.  $3+0$  A(3+3):  $G_2$  r.  $3+3$  v.  $3+3+3$  (外国)、 $P_3+3$ ハ稀  $K_3C_3$  = 傾ク、 $P+A$ ト1間ニ往々2輪列ノ小形蜜腺(葉)アリ、葯ハ外向・縦列開、子房7室の倒生又彎生卵子ヲ側膜胎座ニ列生。果ハ漿果又漿質蒴果即肉鞘ハ野の種子、種子ハ有胚乳、被假種皮(甘味有)。

成分及効用— 2種ノ配糖体 (*Akebin*・*Stauntonin*)ノ外知レズ。藥用ノ外、食用果ヲ供シ、工薬品材料(藍類)ノ莖ヲ供スルモノアリ、又觀賞用トス。

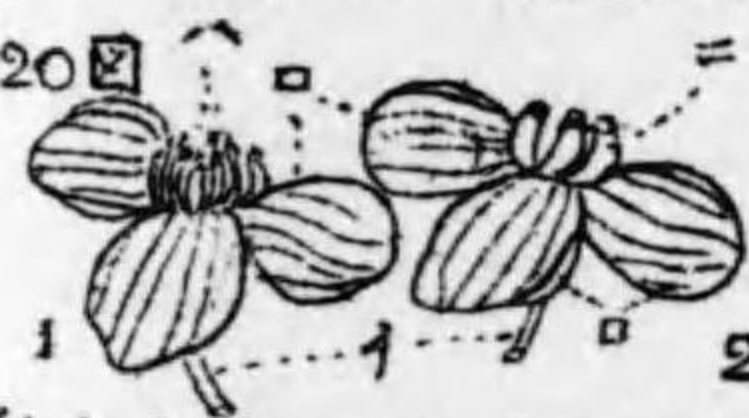
分布及屬種數— 世界ニ7属凡21種ヲ産シ、*Himalaja*

東亞・智利地方ニ分布ス。日本ニ2属9種ヲ産シ北海道南部ヨリ台湾間ニ分布シ台最多シ。

本科ノ藥用植物:—

△(1) あけび 木通・通草 及其变种变形 (120回) *Akebia quinata* Decaisne

(120回) あけびノ單性花(雄花) (分生) 本・四・北朝ノ山野ニ点生~粗群生



ス。(生藥) 木通 *Lignum Akebiae*

あけび及みつばあけびノ木部ヲハ

九月ニ採取輪切乾燥セルモノナリ。

(1. ♀ =  $P_3$  A<sub>3</sub>+3 2. ♀ =  $P_3+0$  G<sub>2</sub>)

但シ輪切ヲ丸木通更ニ細切シテ押木通ト稱ス。又根(秋ニ採取)ヲ木通莖ヲ通草ト稱スルコトアリ。長野富山縣多産ス。

成分 *Akebin* (結晶性配糖体) ( $C_{95}H_{56}O_{20}$ )ヲ莖根ニ含有ス、*Akebin*ハ加水分解ニ依リ *Akebigenin*  $C_{31}H_{50}O_4$  葡萄糖 (*Glucose*) 及 *Ramnose*ヲ生ズ、木部ノ水製越酸斯ニハ灰分8.0%ヲ含ミ就中多量ナルハK塩類(灰分中K 30.2%)也。種子ニハ脂肪油約18%ヲ含有ス。種子1斗ヨリ油1升5合ヲ得。

(藥用) 漢: 木通(其他枝葉乾物及根)ヲ利尿(水腫・淋病小便不通)要藥トシ又通經(不順・不通)藥・鎮痛(頭痛等)除熱・排膿・催乳貢痘ニ有効、1回1~3、1日5g.煎服ス。熟果ヲ乾燥細切煎服(1日4~8g.)セバ胃癌ノ熱ヲ去リ。腎臟ニ基因スル水腫ヲ治シ、疝氣及下疳又頑瘡ニ有効、又煎汁ニテ突眼ヲ洗眼ス。(他効用)假種皮ヲ食トス特殊ノ甘味有リ、苦莖葉ヲ食用トシテ美味。且乾燥シテ煎茶トス、又塩藏又乾物トシ食ス

冬季ノ食トス。種子ヨリあけ油ヲ採取シ食用又燈用トス。果皮ハ和物トシ又中ニ油味噌ヲ入レ燒食ス。健胃強壯劑トナル。莖蔓ハ熱湯中ニ投ジ除表皮、蘆類・土瓶敷等ヲ掃ム。北奥・信州産者明也。(新藥) *Akebin* (三共) ハ本植物ノ配糖体ニテ腎臟病脚氣其他浮腫ニ内用シテ有效。(處方例) 水通散 (雄婦) 浮腫ニ有效) …… 水通・黃芩各 3.0 白朮・木香 (*Saussurea Lappa*) 檳榔・紫蘇・枳殼・茯苓各 2.0 生薑 2片 …… 以上水 400 ヲ 200 ニ煎割、2 日量。 2) 利尿藥 …… 水通 5.0 水 100.0 …… 以上 1 日量煎割 3 分服。

△ (2) みつばあけび (三葉水通) 及其變種 *A. trifoliata* Koidz. (分生) 北(南部)・本・四・九・ノ山野ニ自生シ前種ヨリ数多シ。生葉。成分、效用等總テ同前種。

△ (3) む心くときばあけび (野木瓜) (121 圖) *Stauntonia*

(121 圖)

(む心ノ莖葉花(原圖))



〔1, 2. 莖ノ部 (1 葉花ノ部) 葉又利尿劑トス、又果實ヲ食用トシ強壯藥トス。〔藥理〕 *Stauntonin* ナル強心性配糖体ノ

*hexaphylla* Decaisne (分生)

本(中南部)・四・九・琉・台・朝・ノ山野ニ自生ス。(生藥) 根及莖ヲ採乾シテ藥用トス。(成分) 莖根ニ配糖体

(*Stauntonin* C59 H92 O31)

ヲ含ム、本物質ヲ加水分解セバ葡萄糖及 *Stauntonogenin* C27 H44 O4

ヲ生ズ。(藥效) 莖・根ヲ利尿強心

0.07% 水溶液ハ刷出セル蛙心臟ヲ收縮期ニ於テ靜止セシムルコトチギタリテ配糖体ニ類似ス。(備考) 本植物ヲ觀賞用トシテ園植ス。果ハ上品ナル食料也。

Fam. (V) めぎ (小檗, 日本) 科 *Berberidaceae*

(122 ~ 125 圖参照)

形質一 (122) 又五。葉ハ、長 ↓、有短~長柄無柄、單葉~複葉、無裂又 2~9 裂、掌狀~羽狀複葉、全緣齒牙緣~缺刻 稀毛刺緣、托葉有又無花苞ハ全、同被又異被、細小唇中形美麗。花序ハ單立又繖狀、可錐・穗狀或聚繖花序ヲ成ス。花ハ 3~2 數花性、⊕ ⊙ 稀 ⊙、⊙ 又 ⊙、F. f. =  $K_2+2+2+2$   $\gamma$ ,  $3\gamma$ ,  $3+3$   $V$ ,  $3+3+3$   $C_2+2$   $U$ ,  $3+3$   $\gamma$ ,  $3+3+3$   $A_2+2$   $V$ ,  $3+3$   $\gamma$ ,  $3+3+3+3 \sim 3+3+3+3+3$   $G_1$   $\gamma$   $\beta$ , 一般簡潔ニハ  $B_3 \sim \infty$   $K_3 \sim 9$   $G_1 \sim 6 \sim 9$   $A_4 \sim 6 \sim 12 \sim 18$   $G_1$   $\gamma$   $\beta$ , 花瓣ニハ唇蜜腺ノ對立ヲ有ス、極稀  $K_0C_0$  (外國), 藥ハ概 2 瓣開稀縱裂 (なんてん屬), 心皮ハ概 1, 極稀ニ數ヶ  $G_2$  (外國), 1 子室腹縫ニ  $\infty \sim 1$  個生卵子又基底ニ 1 卵子ヲ藏ス、共ニ 2 卵痰。葉果稀蒴果、有胚乳種子。

(122 圖)

(122 圖) めぎノ花葉及其解剖(原圖)



1. 花ノ上側面.  $B_3$   $K_3+3$   $C_3+3$   $A_3+3$   $G_1$   
 2. 花ノ側面 ---  $B_2$  --- 2. 花瓣 17 伴蜜腺 1 對、及之ト對立スル  $A_1$ , 4 雄藥 1 7  
 5. 全、瓣開  $G_1$ ノ縱斷 7. 葉 8. 葉針  
 9. 全、伴托葉針



(123 図) めき属ノ花式四及雄蕊1ヶ  
 (原四) 1. 花式四  $B_3 K_2 + 3 C_3 + 3 A_3 + 3$   
 G1 2. 蕊ノ瓣開セル雄蕊.

成分及効用—根樹皮木部=ハ碱  
 Berberin 及其近似塩基ヲ, 果實=ハ  
 有機酸ヲ含有ス, Glycosid 及 Sapo-  
 ninヲ含ムモノ少ク, Podophyllin

ナル特殊物質ヲ含有ス。即チ Alkaloid (Berberin, Oxy-  
 acanthin, Berbamin, Nandinin, Palmatin, Domes-  
 tin, Nantemin 等), 配糖体 (Scarim), 其他ノ物質 (Pod-  
 phyllotoxin, Podophylloresin, Pikropodophyllin,  
 Quercetin, 脂肪油, 核酸, 枸橼酸, 鞣酸, 青酸, 酒石酸, 等)ヲ含有  
 ス。本科=ハ薬用ノ外, 觀賞用, 染料, 水材料, 食用果実ヲ供ス  
 ルモノアリ。薬用植物甚多シ。

分布及属種類—世界=9 種 150 種ヲ産シ主=温帯=分布ス。  
 東亞及北米=多産ス。日本=自生又栽培スルモノ凡9 属 30  
 餘種ヲ産シ樺台間=分布ス。

本科ノ薬用植物:—次ノ2 亚科=分類ス。

Subfam. (i) みやまさら (ほとひるむ; 宮尾草) 亚科  
 Podophylloideae ⊕, 假軸性根莖ヲ有ス。葉ハ單葉無裂又  
 数深裂或3 掌状複葉。花序ハ頂生・繖形・單梗繖形稀穗状花序  
 花ハ極美麗,  $F. f = K \ni r. 3+3 C_3+3 r. 3+3+3 A_3+3 r.$

$3+3+3+3 V. 3+3+3+3+3+3 G1$ , 蜜腺C 帯也。

(1) たつたさう (いとまきぐさ, 胡黄蓮, 龍田草)

*Jeffersonia dubia* Benth. et Hook

〔分布〕朝滿ノ山野=自生, 葉ハ根生, 腎形, 波縁, 單頂花  
 序, 紫紅花。〔生薬〕胡黄蓮 *Rhizoma Jeffersoniae*  
 ハ根及根莖ヲ採乾セルモノ也。〔成分〕根莖=Berberin  
 ヲ含ム。〔薬效〕根莖及根ヲ黄蓮=代用シ苦味健胃薬トシ  
 又洗眼薬トス, 共=煎用。

(2) とがくし・しようま (とがくし・さう戸隠付麻) *Ranzania*  
*japonica* T. Ito 〔分生〕本(中北部)ノ山地=粗~稍密生  
 ス。〔成分〕未研究。〔薬效〕未詳ナルモ恐カハ有效成分ヲ有  
 スル靈薬ナラン。觀賞用トシテ貴ル。

(3) さんかゑふ (山荷葉) *Diphylleia Grayi* Fr. Schm.  
 〔分生〕樺・北本(中北部)ノ亜寒地帯~寒地帯下部=粗~群  
 生ス。〔成分〕未調査, 但シ根莖ハ肥太シ苦味甚シ恐ラクハ  
 塩基又配糖体ヲ含有スベシ。〔薬效〕未詳。

(4) あめりかさんかゑふ [*D. cymosa* Michx. 〔分布〕  
 北米 *virginia* ヨリ *Georgia*・*Tennessee* 諸州ノ山岳  
 高地ノ林下生。〔備考〕恐ハ藥草ナルベク形態ハ日本中部山  
 岳ノ寒地帯線際=分布スル余ノきればさんかゑふ *D. Grayi*  
*v. subpalmata* ト称シ來リシモノト畧一致ス。或同一  
 種? 要此後研究。

△ (5) ほとひるむ *Podophyllum peltatum* L. 〔分布〕



北米東部産。〔生薬〕 ホトヒルム根 *Rhizoma Podophylli*  
 円柱形、有輪節。ほとひるむ脂 (*Podophyllin*) ハ根莖ヨリ採  
 集セル樹脂也。〔成分〕 樹脂ノ主成分ハ *Podophyllotoxin*、  
*Pikropodophyllin* 等ニテ他ニ黄色々素ヲ含有ス。〔薬效〕  
 瀉下薬トシテ頑固ナル慢性便秘ニ用フ。其他黄疸、肝臓痛、  
 膽石病等ニ瀉下剤トス。作用強烈故要注意。又粉末ハ粘膜  
 ヲ刺激スル故取扱上注意。果ハ可食。〔薬理〕 *Podophy-*  
*llin*ヲ動物ニ與ハバ体重5匹ノ犬ハ0.1~0.25ニテ下痢ヲ起  
 シ、0.5ニテ嘔吐・下痢・死シ時間短キニテ死ス、即多服ハ下痢・嘔吐・  
 腎臓炎ヲ惹起シ中枢神経系ノ麻痺ヲ來ス。而テ *Podophy-*  
*llotoxin* 10 m.g.ヲ蛙皮下ニ注射セバ時々無作用ナルコ  
 トアルモ、時ニ4日後死スコトアリ。 *Podophyllin* ハ腸  
 全体ニ直ニ作用ス、即少量ハ緩和ニシテ12-24時間後軟便ヲ  
 排ス、大量ハ峻下劑性ヲ有シ腹痛ヲ伴ヒ腸ヲ刺激シ出血ヲ起  
 スコトアリ、本薬ハ作用確實ナルモ胆汁ノ存在ヲ必要トス(哺乳  
 動物介離小腸標本ヲ製シ之ニ胆汁ヲ添加シ後ニ是ヲ作用  
 セシメハ腸運動ノ亢進ヲ認ム)。〔薬方例〕 1) ほとひるむ  
 ろかい丸(慢性便秘ニ用フ)---ほとひるむ脂、ろかい碱幾斯各1.5...以上爲20丸毎夕1~2粒。 2) ほとひるむ石  
 酸丸(全)---ほとひるむ脂、藥用石酸各0.1蜂蜜適宜...以上爲10  
 丸、毎夕1~2粒。

(6) ききろ(唐白、天白、丸白) *P. versipelle* Hance [分科] 支  
 那原産、日本栽培。〔成分〕 有毒成分ヲ含ムモ本体不詳〔薬

効] 塩根ヲ殺虫シ解毒劑トス。

Subfam (ii) めぎ (小檗)  
 目木) 亞科 *Berberidoideae* 概ニ稀<sup>(C)</sup>、葉ハ單葉又ハ複  
 葉又ニ變化する、F. f. = K3+3 V. 2+2+2+2 Y. ∞ C3+3  
 V. 2+2 A3+3 V. 2+2 GL、蜜腺C葉ヲ有ス、葯ハ2瓣解稀縱  
 裂開。

Tribus 1) めぎ族 *Berberideae* 互、單葉、花序ハ側生  
 短莖ニ出ツ稀頂生、F. f. = K3+3 C3+3 A3+3 GL 稀(台湾  
 産) K5~6 C5~6 A5~6 GL 稀(全) K8 C4 A4~5 GL、葯ハ2  
 瓣開。

(7) めぎ(ニとリ・とまらず、小檗、日本) 及其變種 (122, 123  
 同) *Berberis Thunbergii* DC. [分生] 本(中南部)、四  
 九・流ノ山地ニ原生稀族生。〔生薬〕 小檗 *Lignum Berberis*  
*Thunbergii* ハ花時木部ヲ乾燥セルモノナリ。〔成分〕 莖(特  
 皮部)・根 = *Berberin* C20 H17 NO5・*Oxyberberin*・*Berber-*  
*min* C30 H38 N2 O6・*Oxyacanthin* C37 H40 N2 O6 *jateorrhizin* *Columbamin*  
*Shobakunin* C20 H19 NO4 等ノ諸塩基ヲ含有シ、味極メ  
 テ苦シ。〔薬效〕 漢・莖根ヲ專ラ健胃藥ニ煎用ス。又莖葉乾物  
 ノ煎汁ヲ洗眼藥トシ眼炎症ヲ治ス、目木ノ各之ヨリ起ル。  
 〔薬方例〕 健胃消化劑トシテ腹痛及消化不良ニ特效アリ...小  
 檗(0木200、煎劑1日3分煎(食後)。〔備考〕 樹皮・根皮ヲ黄色染  
 料トシ布ヲ染色ス。

(8) ひろは(ハハ)のぼらず(おぼとりとまらず、おぼ・ハハ)のぼ  
 らず) 及其變種 *B. Amurensis* Rupr. (= *B. vulgaris*

L. V. japonica Regel) (分生) 北・本・四ノ山地=点生~粗生。(生薬)全前種。(成分)木部及葉(花モ)ハ Berberin, 根皮ハ Berberin, Oxyacanthin C<sub>38</sub> H<sub>42</sub> N<sub>2</sub> O<sub>6</sub>, Berbamim C<sub>19</sub> H<sub>19</sub> NO<sub>3</sub>, jatrorrhizin, Palmatin, Columbamin, Berberubin, 茶塩基(融点256°C) C<sub>19</sub> H<sub>22</sub> N<sub>2</sub> O<sub>7</sub> 等ノ諸塩基ヲ含有ス, 果実中=ハ糖(葡萄糖及果糖)47% 林檎酸6.7%ヲ含ム。(薬用)木部及根皮ヲ煎服シテ脾胃消化薬又苦味健胃薬トシ, 未熟果ヲ前服(1回1~2g.)シテ祛痰薬トス, Oxyacanthinハ未临床上ノ用途不明ナルモ恐ハ解熱剂或ハ強壯薬トナルベシト云フ。(備考) 漢洲=テハ果実(B. vulgaris 種)ノ揉汁=其1.6倍ノ砂糖ヲ加ハ煮沸放置シ洗滌物ヲ去リ野ハ, 水=テ稀釈シリモナーニ(清涼飲料)又菓子=用フ。

(9) あほのぼらす(ニハあほのぼらす) B. Sieboldi Mig. (分生) 本(中南部)・四・九ノ山地生, 成分薬效共=不詳ナルモ恐ハ同前諸種ナラン。

(10) あほのぼらす(大葉目木) B. Tochonkiana Regel (分生) 全前種, 成分薬效未詳ナルモめキト恐同様ナルベシ。

Tribous 2) いかりさう(淫羊藿)族 Epimedieae ③. 3出, 1~3回掌状複葉, 花序ハ頂生, F・f=K<sub>2</sub>+2+2+2 V, 3+3 G 2+2 V, 3+3 G1, 時= B<sub>3</sub>~4(るるゑふほたん属), 葯ハ2瓣開。

(11) いかりさう(淫羊藿・放牧草・葉状草・陰陽藿・漢草)及其諸変種 Epimedium macranthum Morr. et Decaisne (1)か

りさう・しろいかりさう・らじろいかりさう・しろ-うらじいかりさうの諸ビヲ含ム) (分生) 北(南部)本・四・九・朝・琉ノ山野野ノ林下=又半陰地=点生~群生ス。(生薬)淫羊藿 Herba Epimediae ハ 全草(根及莖葉)ヲ米乾(莖葉ハ花後根ハ秋季)ニルモノ也, 気味緩和稍苦シ。(成分)全草中=塩基(試薬反應アリ)及苦味質, 單寧, 澱粉等ヲ含有スルモ未精査也, 又 Epimedin (配糖体)ヲ含ムト云フモ化学界=容認セラレズ, 而テ赤井氏ハ莖葉ヨリ Icarin 根ヨリ Des-O-methyl-Icarin ヲ見出セリト云フ。(薬效) 漢: 生薬ハ催淫<sup>精</sup>藥又補精強壯薬トシ, 特=陰虛・健忘症=有效, 又神經衰弱・ひすくり-症=用フ, 強精<sup>精</sup>氣ヲ養ヒ, 筋骨ヲ丈夫ニシ, 衰弱ヲ恢復シ, 陰虛ヲ治ス藥トシ又四肢痿痺ヲ治ス, 虚勞陰陽虛=内用ス, 1日量 8g, 内外並服ス, 生薬1斤ヲ酒1斗ニ浸スコト3日關後瀝別シ毎日少量宛用フ, 是ヲ仙靈牌酒ト称シ強壯強精藥トス。

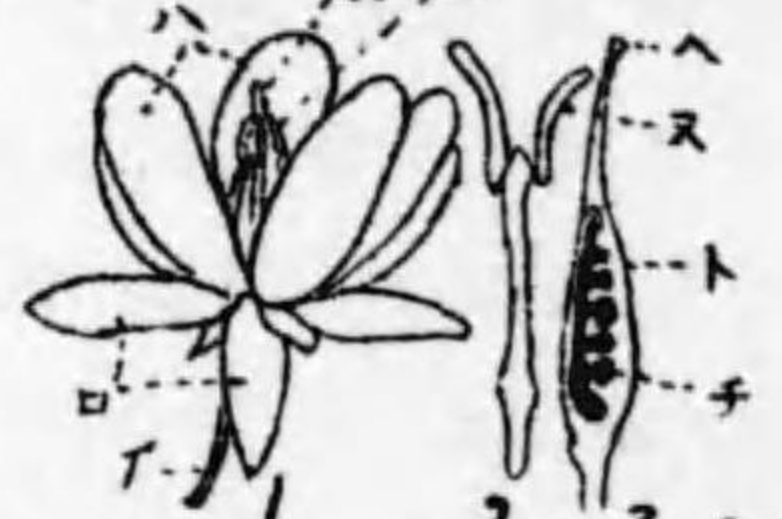
(薬理) 1) 淫羊藿塩基ヲ蛙=注射セバ頁=呼吸ハ淺表性トナリ暫時=恢復ス, 数分後興奮ハ著亢進シ瞳孔散大皮膚分必増強変色ス, 散大ハ10~20<sup>分</sup>後著明以後漸縮小ス, 興奮ハ1~2時持續後恢復ス。2) 鼠=ヲハ随意運動増大頻=床上徘徊ス, 暫時歩行拙劣・呼吸深大疎除次第=歩行蹣跚・沈靜・靜止ス, 此際反射機能亢進シ, 時々間代性寒栗來襲, 暫時=呼吸停止・倒ル速ク=解部心臓ハ微弱搏動ス, 数分後室靜止シ次テ房靜止ス。3) 生薬ノ水浸液幾斯ヲ經口的=哺乳動物=與ル=交尾力ノ亢進ヲ認ム, Epimedin ハ大ノ精液分必ヲ亢進ス, 4) 淫羊藿ノ催

淫作用ハ精液分泌促進作用ニ基キ、精囊ノ充滿ニ因ル知覚  
神經ノ刺激ニ基キ、間接的ニ興奮スト云フ。

〔處方例〕 1) 淫羊藿湯 (陰痿ヲ治シ身體ヲ強壯ニス) 淫羊藿  
8.0 水 100.0 以上ノ1日量煎劑分服。 2) 全一淫羊藿 8.0 生姜  
2.0 甘草 1.0 水 100.0 全上。 3) 全淫羊藿 6.0 夏枯草 3.0 薔薇  
根 2.0 水 200.0 全。

(12) ほさきいかりさう (穗咲礎草淫羊藿) *E. sagittatum*  
Bak. 〔分布〕 支那原産

(124 回) ほさきいかりさう花解剖 (原圖)



日本栽培。〔生薬・成分・薬效〕 前種ニ  
同シ、但是ニ優ルト云フ、元來支那  
人ノ用ル淫羊藿ノ母植物ハ本種也  
ト云フ。〔備考〕 日本ニハ以上ノ外  
淫羊藿屬植物不尠、即ハいづくね(124回)。

〔1. 花 2. 雄蕊 1ヶ、解開ノ回 3. 雌蕊 1ヶ〕  
ホはいづくね、トきはひめほさき  
いかりさう等是也、是等ノ藥學的ニ研究ハ總テ未ダ行。

(13) るるえふぼたん (ぼたんさう) *Caulophyllum robustum*  
Max. 〔寄生〕 樺・北四九朝ノ山地ニ点生ニ粗群生、極稀群生ス、  
〔生薬〕 壯田草根 *Rhizoma Caulophylli* 及北丹草 *Herba*  
*Caulophylli*, 甲ハ根莖ヲ花後又秋季ニ、乙ハ花後全草ヲ  
掘取り陰干セルモノ也。〔成分〕 成分ハ藥學者ノ研究ニ據  
レバ塩基ニシテ數種含有シ全草特ニ根莖ニ多量ス。  
本種ハ未詳(研究中)。〔藥効〕 未詳。

(14) あめりかるみえふぼたん *C. thalictroides* Michx.

〔分布〕 北米合衆國ノ山岳地ニ分布スル。〔備考〕 日鮮産ヲ  
古來本種ノ変種 *C. thalictroides* v. *robustum* Regel  
ト考察セリ、然ルニ近時 Maxim. 氏ノ説ニ據リ別種トスルニ  
至レリ。双方成分藥效共ニ近以スルナリ。

Tribus ③ ぼんてん (南天竹) 族 *Nandineae* ⑤、掌形再ニ  
複葉花序ハ莖頂生、F. f. =  $K_{\infty} K_{3+3} C_{3+3} A_{3+3} G_{1}$ 、葯ハ縱  
裂開。

(15) ぼんてん (南天竹・南天燭) (125 回) *Nandina domestica*  
Frumb. 及しろぼんてん (白南天竹) v. *leucocarpa* M.  
(Fructus albus Ceterum ut in typo.)

(125 回) 〔寄生〕 丸ノ山麓山地ニ点生ニ群生。日本  
ぼんてんノ花果



各地栽培ス。〔生薬〕 南天実。  
*Fructus Nandinae* ハ果実ヲ  
採乾セルモノニシテ特ニ赤実  
ヨリモ白実 (白南天実) ヲ貴ブ。

〔1. 花及蕾ヲ摘ツ花序ノ一部 2. 花ノ縱切面 (但 K. C. 及 B. ヲ除去ス) 3. 果実 (果序ノ一部)〕  
南天皮ハ樹皮ヲ剝離陰干セル  
モノ也。南天葉ハ花後葉ヲ採  
乾セルモノ也。〔成分〕 果実ニハ *Nandinin* 一名 *Domesticin*  
 $C_{20} H_{21} NO_4$  ナル塩基ヲ含ム。之ハ幹皮中ニ含有スル  
*Domesticin* ノめち-3-元-7-er *Domesticin methyläther*  
ニ他ナラズ。樹皮ニハ4種ノ結晶性塩基 (*Nandinin*  $C_{19}$   
 $H_{19} NO_4$  無色。 *Berberin* 黄色。 *Nandazurin* 濃青色。

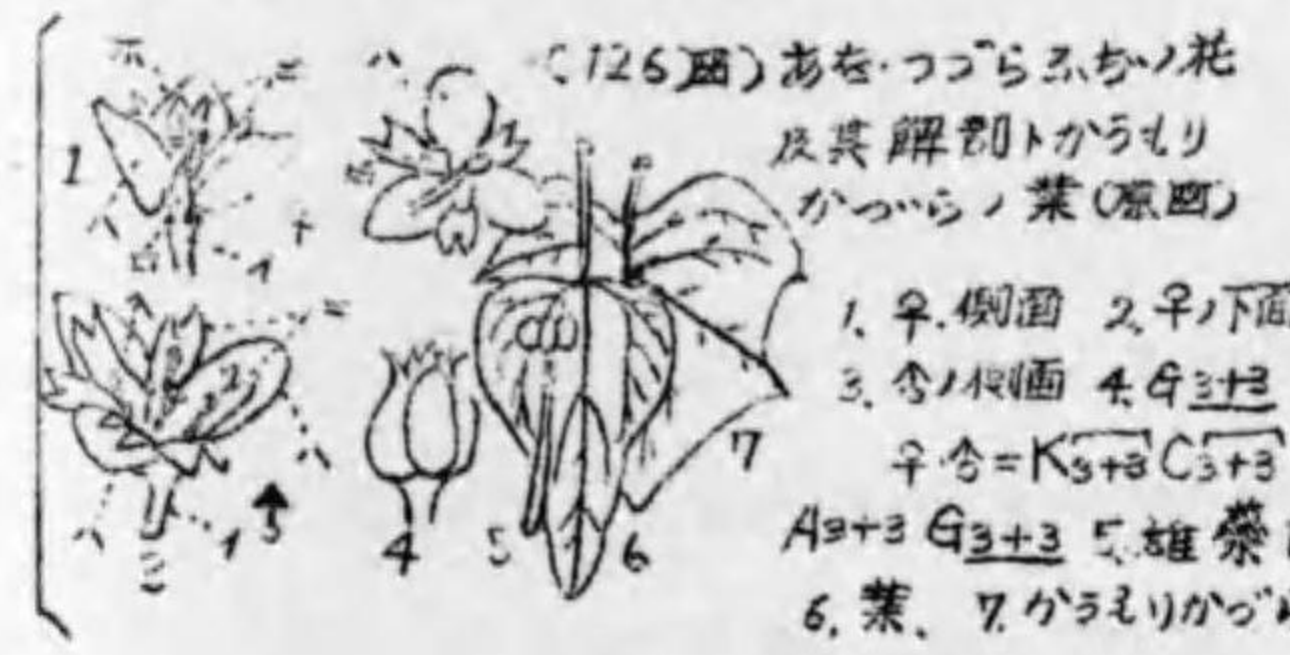
Domesticin  $C_{19}H_{19}NO_4$  無色ヲ含有ス。葉ニ青酸ヲ含有ス(葉ヲ水蒸氣ト共ニ蒸溜セバ青酸ヲ含ム溜液ヲ得)。〔藥效〕  
 漢：果實(特ニ白果良)ヲ鎮咳藥トシテ喘息・百日咳・感冒ニ實用ス。尚解熱劑トナリ、陰萎ヲ治シ強壯藥(老若者・虛弱者・酒中毒者等)トナル。1日1~2g。1日量5~10g。煎服ス。葉ヲ煎服シテ強壯藥トナリ、河豚中毒ヲ解シ、昇糖ヲ鎮メ、止瀉藥トナリ、卒中・痲痺ニ有效、又華丸炎ノ局部療法ニ尚止瀉藥(蜂毒毒虫咬傷ニ搽汁ヲ塗布)トス。根皮ヲ煎服セバ脚氣ヲ治シ淋病消渴ニ有效。甘草ト南天實ヲ配伍シ煎用セバ肺炎・其他解熱劑トナル。此目的ニハ1日10粒果ヲ黑豆10粒・水2合ニテ煎服スルモ可也。枝葉ト共ニ果ヲ煎用セバ腎臟病・強壯強筋ノ效アリ。尚小兒ノ因痰ニ生来ヲ粉末トシ嚥下セバ消痰ス。幹枝ヲ細切煎用セバ吐瀉ヲ止ム。〔藥理〕1) Nandininノ生理的作用ハ Protopin.  $\beta$ -Homo-chelidoniin (以上けし科ノ楡基)等ニ類似ス。即之ヲ温血動物ニ與レバ神經 中枢ニ作用シ、大體ヨリ初ヨリ麻痺ニ隨意運動ノ減少ヲ來シ、呼吸中枢ハト量ニテ初稍興奮シ次テ麻痺ス。最著シキ作用ハすとリニ心臓ニ採率率ニテ其終末極メテ激烈也(延髓ノ延髓中枢ノ興奮ニ依ル癱瘓様麻痺)。知覺神經ハ局所的ニ其末梢ヲ麻痺セラレ痛覺・觸覺ノ鈍麻又消失ヲ來ス。運動神經ハ興奮性ノ著シキ減却ヲ示サズ死ノ轉歸ニ移ル。2) 是ヲ多量ニ靜脈内注射セバ血圧ハ下降シ、脈搏緩徐且不整トナリ、心臓搏動靜止ス。此際血管運動神經中枢ハ勿論、末梢モ相次テ多少麻痺ス。

呼吸系ニ對シテハ初呼吸ハ速率ニ關係ナク疾速、次テ緩慢トナリ、心動靜止ニ先チテ停止ス、是呼吸中枢麻痺ノ爲ナリ。3) 皮下注射ニ依ル南京鼠ノ致死量ハ体重10gニ付1.4g以上也。

〔處方例〕 1) 鎮咳藥... 南天實 3.0 水 100.0 以上 1日量煎劑 3分服  
 2) 小兒百咳藥... 白南天實 3.0 甘草 1.0 水 50.0 以上 1日量煎劑 3分服。

Fam (VI) つづらふち (防己) 科  
 Menispermaceae (126 回参照)

形質-葉又花、皆多年生、稀に葉ハト、單葉無裂掌狀2~5淺~中裂、全縁、無托葉。花器ハ雄蕊8、同被又異被、極細小。花序ハ腋生總狀複總狀。花ハ⑤・⑥又⑦、中、優、3~2數性、F.ナ。(子合併記)  
 $= \overline{K_{2+4-5-6-8} C_{1+2-4-5-6-9-10} A_{4+5-6-7-8-12-24} G_{1+3-4-6-8}}$   
 同商記...  $K_{2-8} C_{1-10} A_{4-24} G_{1-8}$ 、概子 $= \overline{K_{3+2} C_{3+3} A_0} \cup \div 3+3$   
 $G_{3+3} \cup \div 3+3$ 、 $\delta = \overline{K_{3+3} C_{3+3} A_{(3+3)} G_0}$ 、優子 $= \overline{K_{2+2} C_{2+2} G_1}$ 、 $\delta = \overline{K_{2+2} C_{2+2} A_{(2+2)}}$ 、花ニ密接シテ  $B_{1-3}$ アリ  $K$ ヨリ小、花瓣下部ハ鬚雄蕊(Cト對立セル)下部ヲ包圍ス、各心皮ハ1室中ニ半倒生卵子(卵孔上向、2卵膜)1ヶ宛ヲ藏ス。果實ハ核果、種子ハ胚乳有又無、胚ハ概彎曲ス。



成分及效用-Alkaloidハ Cocculus-alkaloidト Columbo-alkaloidトニ 系統ニ屬シ種々アリ、苦味質 亦不顯。即 Alkaloid (Berberin, Coelaurin, Dauricin)。